

MEGANE

車両の取扱説明書





お車をお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、次のことに必要な情報が含まれています。

- 車の知識を高め、最適な状態で使用することにより、この車の持つ性能を最大限にご利用ください。
- メンテナンスに関する簡単かつ確かな知識を得ることにより、車の最良の機能性を維持していただく。
- 技術者の修理の必要ない簡単なトラブルに素早く対処できる知識を身につけていただく。

本書には、車の各機能および新機能をご理解いただくにあたって大いに役立つ情報が記載されています。内容について疑問に思うことがございましたら、お近くの指定サービス工場にお問合せください。特定の点についてまだ不明な点がある場合は、当社のネットワーク技術者が追加の情報を提供いたします。

取扱いに役立つ指針については、次の記号の付いた記載をご覧ください。

 と  車両に記されている場合、車両の装置について、詳細な情報または操作の制限を確認するために、取扱説明書を参照してください。

→ (取扱説明書のいずれかにページの記載)。



(取扱説明書のいずれかに、警告、危険、安全上の注意の記載)。

この注意事項におけるさまざまなモデルの説明は、本書の構想の際に分かっていた技術仕様に基づいて作成されました。「クイック」ガイドには該当モデルの全バージョンの装備がまとめられています(標準装備とオプション装備を含む)。車両の各装備の有無はバージョン、オプションや販売国によって異なる場合があります。

同様に、同年内に導入が予定される新装備につきましても記載される場合がありますのでご了承ください。

取扱説明書の図は、例としてのみ提供されているものです。

満足のいくカーライフをお楽しみください。

フランス語からの翻訳。たとえ部分的であっても、自動車メーカーの許諾書なしに本書の複製または翻訳をすることは、固く禁じられています。

要約

お車をお買い上げいただきありがとうございます。.....4	
外側.....4	
室内コントロールユニット.....6	
ドライビングポジション.....8	
トリップコンピューター.....10	
セーフティオンボード.....12	
車両の識別 - ラベル.....14	
エンジンルーム（日常のメンテナンス）.....16	
車両故障時の対処の仕方.....18	
あなたのお車について知っておきましょう.....20	
カードキー.....20	
キー、リモコン.....28	
ドアと開閉部.....33	
フロントシート.....40	
後席.....46	
シートベルト.....49	
補助の安全装置.....54	
子供を乗車させるとき.....61	
チャイルドシート.....66	
お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除/作動.....76	
ドライビングポジション.....80	
オンボードコンピューター.....82	
警告灯.....98	
ステアリング.....102	
ドア/ルームミラー.....103	
ランプ類.....105	
ホーン/パッシングランプ/ハザードランプ/方向指示 灯.....110	
ワイパー.....111	
燃料タンク.....117	
試薬タンク.....120	

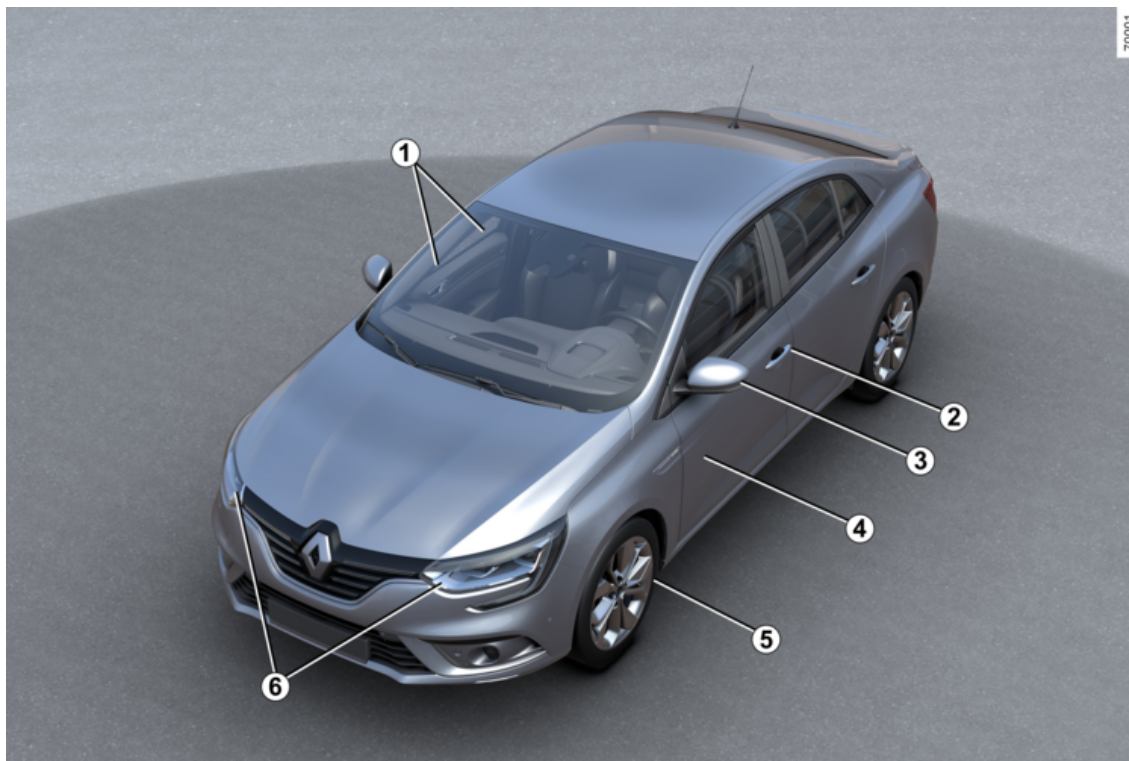
発進する..... 124	
慣らし運転.....124	
エンジン始動と停止.....125	
シフトコントロール.....133	
パーキングブレーキ故障.....136	
ディーゼル車についての注意事項.....142	
ガソリン車についての注意事項.....144	
地球にやさしい車づくり.....146	
メンテナンスと環境に優しい運転のアドバイス.....147	
ドライビングアドバイス、エコドライブ.....148	
タイヤ空気圧モニターシステム.....153	
ドライビングアシストと補正装置.....159	
運転時の補助機能.....162	
スピードリミッター.....202	
クルーズコントロール.....205	
適応クルーズコントロール.....209	
パーキングアシスト.....221	
緊急サービスコール.....241	
快適装備..... 244	
マルチセンス.....244	
エアベンチレータ、ヒーター、エアコン.....246	
マルチメディア装備.....262	
室内装備.....264	
各部の収納スペース.....272	
荷物を積み込む.....276	
点検整備..... 281	
エンジンへのアクセス、レベル.....281	
バッテリー:.....288	
クリーニング.....290	
使用上のアドバイス..... 294	

要約

タイヤ	294
車両故障時の対処の仕方	307
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換	311
ワイパーブレード: 交換	318
ヒューズ	320
アクセサリの取付けと使用	324
作動異常	325
テクニカルスペック	330
車両に関する情報	330
部品および修理	339
整備証明	340
防錆点検	346


外側

1



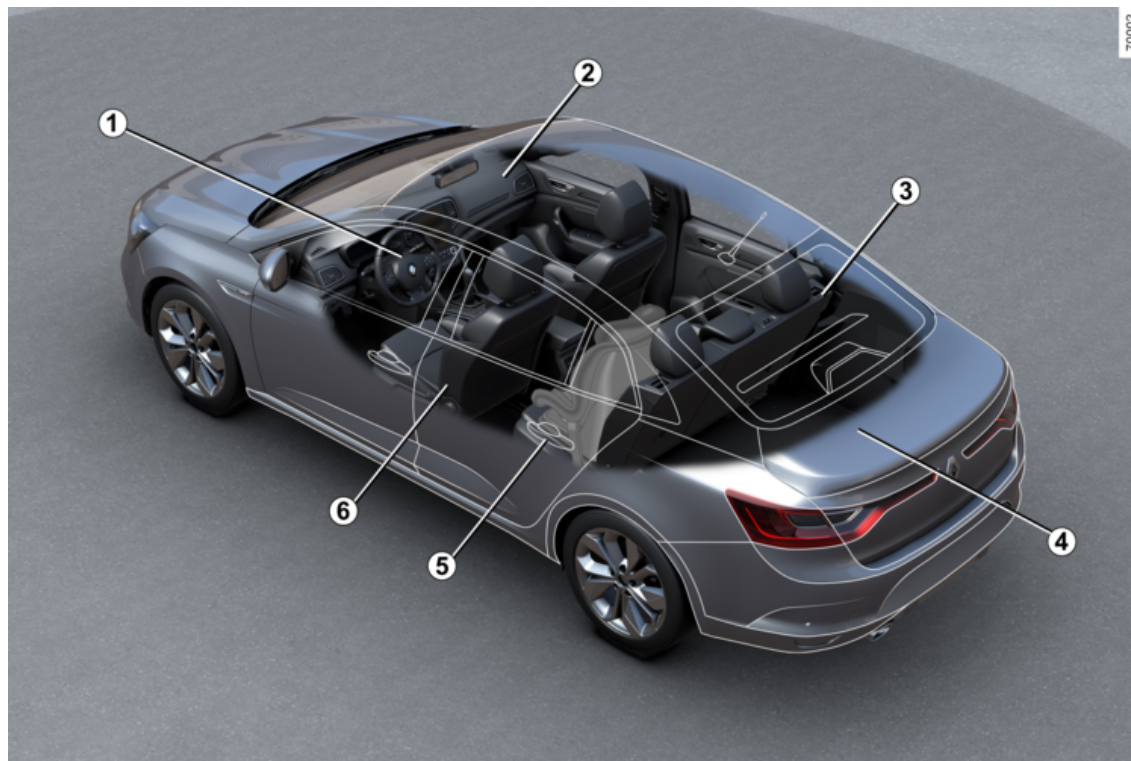
4 - お車をお買い上げいただきありがとうございます。

外側

1. パワーウィンドウ → 264
ウィンドウワイパ/ウォッシャー
→ 111
デミスター → 246
 2. → 20 カード
リモコンキー → 28
ドアのロック、ロック解除 → 33
 3. ルームミラー → 103
 4. 車体保守整備 → 290
 5. タイヤ → 294
 6. 照明: 操作 → 105
照明: 交換 → 311
-  燃料充填 → 117

室内コントロールユニット

1



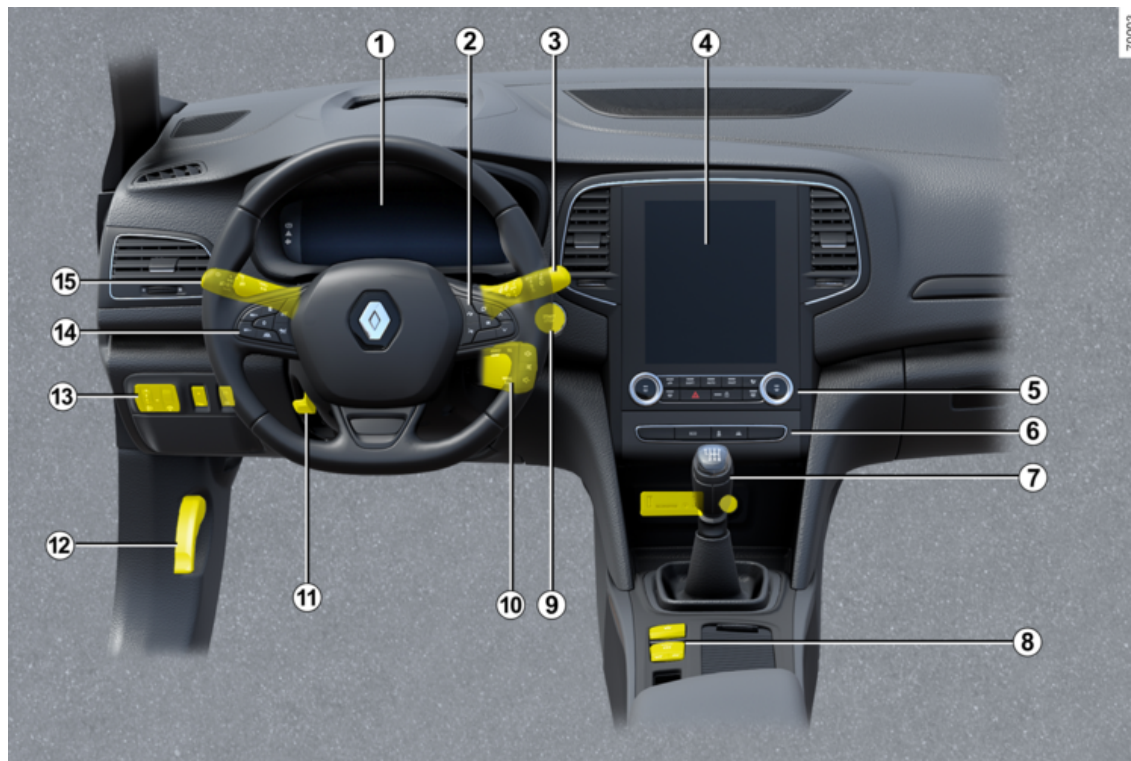
6 - お車をお買い上げいただきありがとうございます。

室内コントロールユニット

1. 運転位置の調整 → 49
2. 車内の収納／装備品 → 272
3. リアシートヘッドレスト → 46
リアベンチシート → 47
4. ラゲッジルームへの収納 → 276
5. お子様の安全確保 → 61
6. フロントシートヘッドレスト → 40
フロントシート → 40

ドライビングポジション

1



8 - お車をお買い上げいただきありがとうございます。

ドライビングポジション

1. インストルメントパネル → 98
2. トリップメーター制御 → 82
3. ウィンドウワイパ/ウォッシャー制御装置 → 111
4. マルチメディア画面 → 262
5. ヒーターシステム/エアコン → 246
6. ヒータ付きシート → 41 または → 43
7. ギアレバー → 133 および → 133
8. パワーアシストパーキングブレーキ → 136
9. エンジン始動/停止ボタン → 126
10. イグニッションスイッチ → 125
11. ステアリングホイール → 102
12. ボンネットオープナー → 281
13. My Safety → 162
ヘッドライトの光軸調整 → 109
テールゲートの開放 → 37
14. 速度リミッター → 202
クルーズコントロール → 205
→ 209 アダプティブクルーズコントロール
15. エクステリアランプ → 105

トリップコンピューター

1

62354



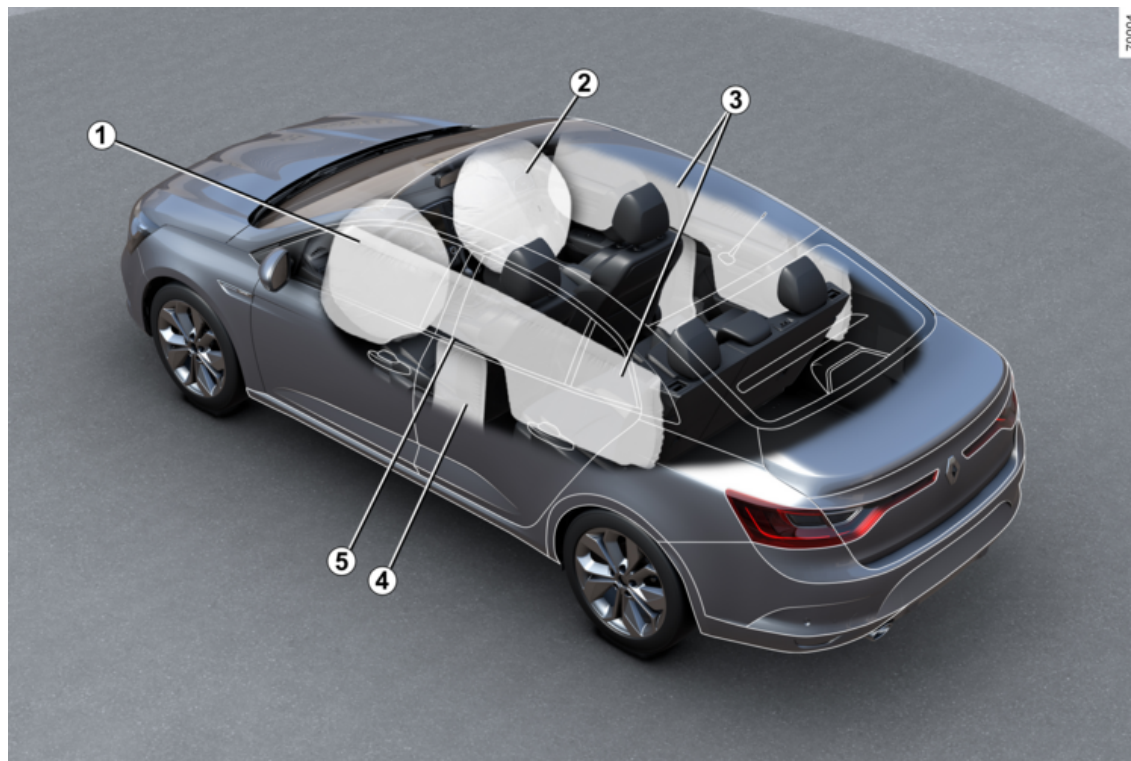
10 - お車をお買い上げいただきありがとうございます。

トリップコンピューター

- 運転補正装置や運転支援 → 159
 - 車線離脱警告 → 163
 - 車線維持機能 → 167
 - 車線離脱防止 → 172
 - エマージェンシーブレーキアシスト
→ 187
 - 死角警告 → 178
 - 駐車可能時間終了警告 → 237
 - タイヤ空気圧低下警告 → 153
 - 速度リミッター → 202
 - クルーズコントロール → 205
 - アダプティブクルーズコントロール
- Stop and Go → 209
- 道路標識検出 → 197
 - パーキングアシスト → 224
 - リアビューカメラ → 221
 - 安全車間距離警告 → 183

セーフティオンボード

1



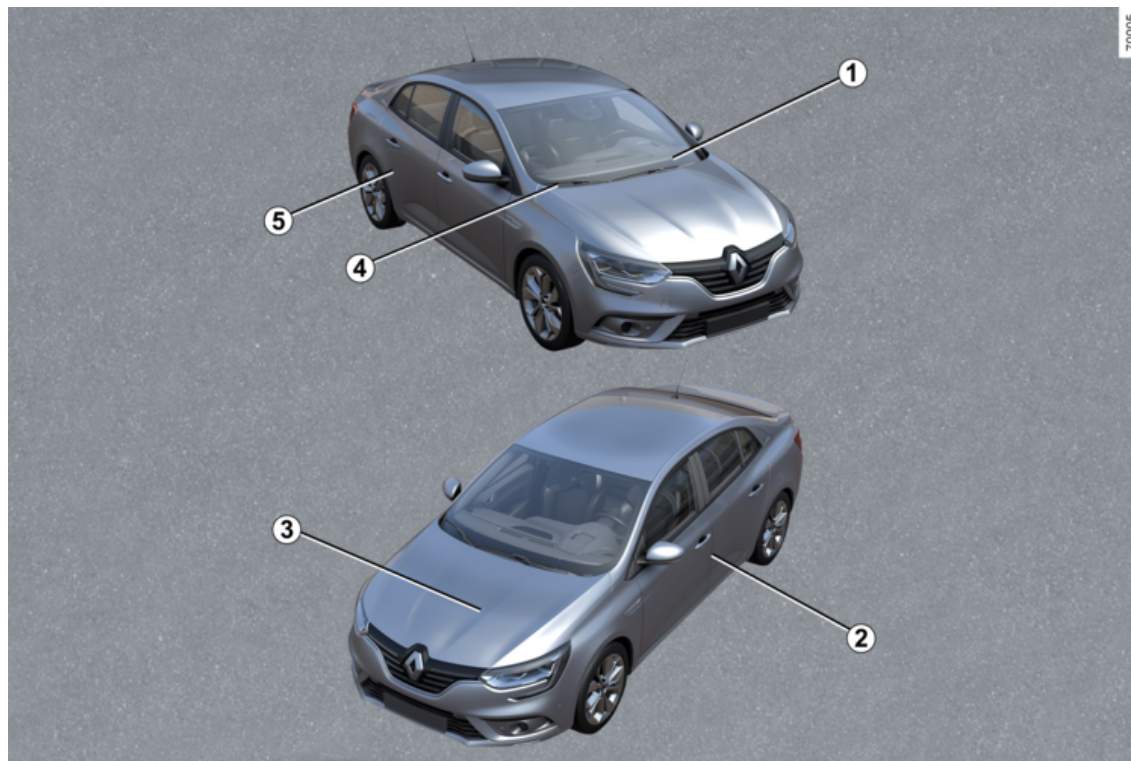
12 - お車をお買い上げいただきありがとうございます。

セーフティオンボード

1. Airbags フロント➔ 54
2. 助手席 airbag 抑制 ➔ 76
3. Airbags カーテン➔ 59
4. Airbags サイド➔ 59
5. シートベルト ➔ 49

車両の識別 - ラベル

1

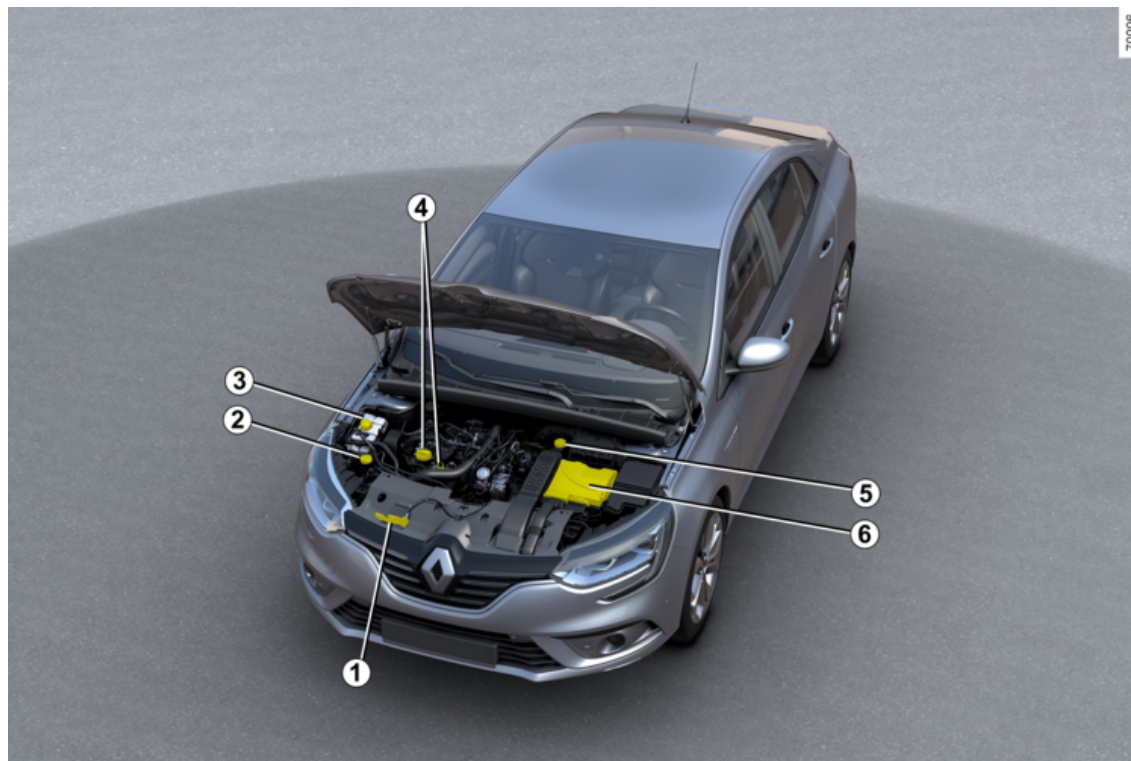


車両の識別 - ラベル

1. 車両識別番号確認 → 330
2. タイヤ空気圧ラベル → 296
3. エンジン識別情報 → 331
4. 緊急時対応サービスに関する技術情報 → 330
5. メーカープレート → 330

エンジンルーム (日常のメンテナンス)

1

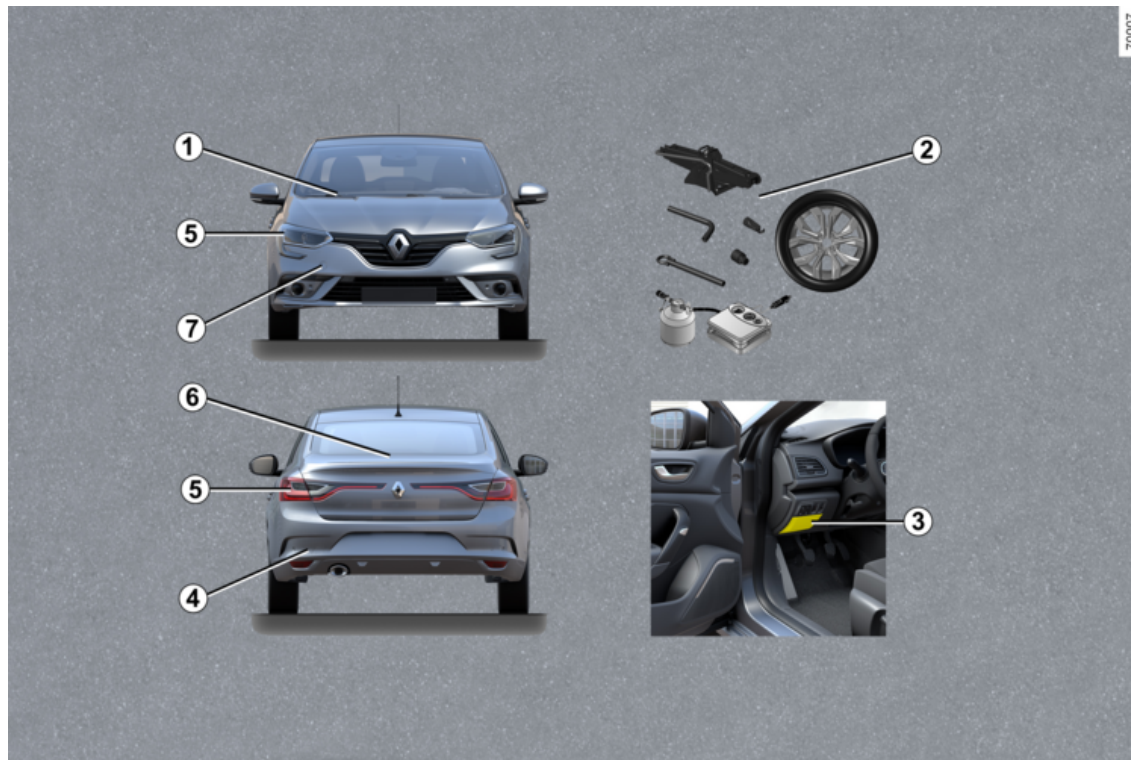


エンジンルーム（日常のメンテナンス）

1. ボンネット開放 → 281
2. ウィンドウウォッシャー液 → 285
3. 冷却水 → 285
4. エンジンオイルフィルターキャップ
→ 282
エンジンオイルレベルゲージ → 282
5. ブレーキ液 → 285
6. バッテリー → 288

車両故障時の対処の仕方

1



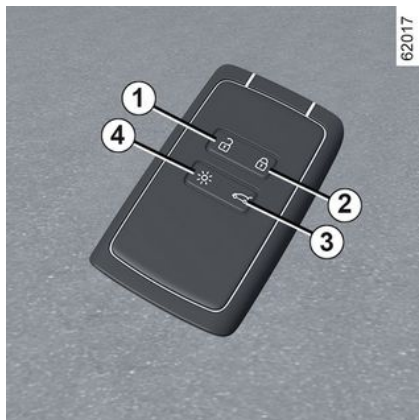
車両故障時の対処の仕方

1. フロントワイパーブレードの交換
➔ 318
2. パンク ➔ 302
ツール ➔ 300
スペアタイヤ ➔ 302
ホイール交換 ➔ 304
3. ヒューズ ➔ 320
4. リア牽引ポイント ➔ 307
5. 方向指示灯の交換 ➔ 311
6. リアワイパーブレード ➔ 318 の交換
7. フロント牽引ポイント ➔ 307

カードキー

「概要」の項を参照してください

2



1. すべてのドア/テールゲートのロック解除
2. すべてのドア/テールゲートのロック。
3. ラゲッジルームのみのロック/ロック解除。
4. リモート操作によるライトの点灯

カードで次のことができます:

- 開閉部（ドア、トランク、燃料充填口フラップ）のロック/ロック解除。
- 車両灯火類の遠隔点灯。

- パワーウィンドウ → 264（車両によってはサンルーフ → 266）の自動遠隔開閉操作。
- エンジンの始動 → 126。

交換時期

電池の状態、タイプ、プラス/マイナスが正常かを確認してください。バッテリーの寿命はほぼ2年です。「カードのバッテリーが少ない」メッセージがインストルメントパネル上に表示されたら交換してください → 26。

カードキーの作動範囲

周囲の条件により異なります。知らずにルノーカードキーの施錠または解錠ボタンを押さないようご注意ください。

注: ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピーターの点滅もありません。

障害物

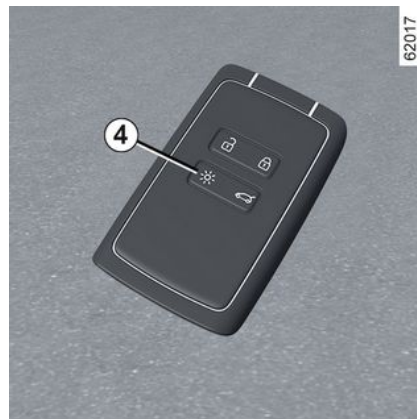
近くにリモコンと干渉する機器（外部設置、またはカードと同じ周波数を使用する機器）がある場合、リモコンは作動しないことがあります。



バッテリー残量がゼロになっても、車両のロック/ロック解除はできません

→ 34 → 126。

「灯火類リモコン」機能



ボタン 4 を 1 回押すと、ロービームと灯火類が約 20 秒間点灯します。この機能は、広い駐車場の中などで自分の車を遠くから見分けるときに便利です。

ボタン 4 を約 2 秒間押し続けると、灯火類が点灯し、音が鳴ります。

注: 4 ボタンをもう 1 回押すと消灯します。

カードキー

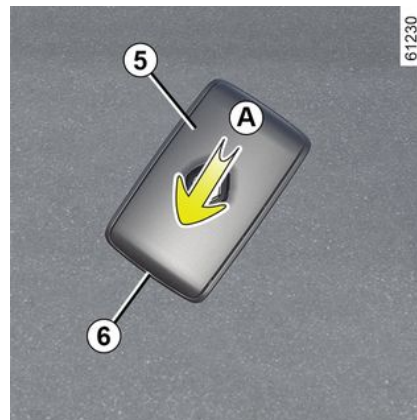
i **アドバイス**
カードを熱気、冷氣および湿気にさらさないでください。
カードを曲がったり、誤って損傷したりする恐れのある場所に入れておかないでください。衣服の後ろポケットなどに入れると、そのまま座ってしまうことがあります。

i **カードの作り替え: 追加カードが必要**
カードを紛失したり、カード交換が必要となったりした場合には、認定ディーラにご連絡ください。
カードを作り替える場合は設定を入れ替えますので、**お持ちのすべてのカード**と車両を正規サービス工場へお持ちください。
1台につきカードは最大4枚までご使用いただけます。



駐車または停車時のドライバーの責任
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
死亡または重傷のおそれ。

ハンドストラップ7の取付け



領域 **A** を押しながらリアケース **5** を下にスライドさせます。



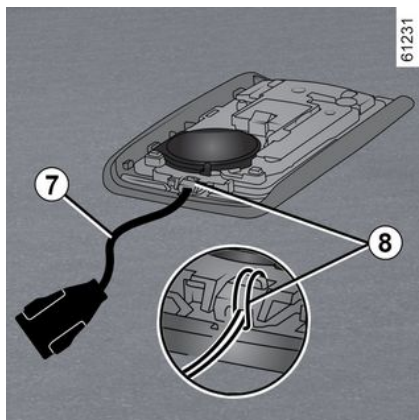
ドライバー類を開口部 **6** に挿入するのは絶対にお止めください。

61230

2

カードキー

2



ストラップを構成部品 8 内に挿入し、ハンドストラップの端部をバックル内に通します。

ストラップを開閉部 6 に配置し、ケースを閉じます。

注: ハンドストラップコード 7 の直径が開口部 6 に合っているかご確認ください。

使用方法



車両を解錠／施錠するには次の3つの方法があります：

- 「ハンズフリー」モードで車両に近づいたり、車両から離れたりする方法。
- フロントドアにあるいずれかのハンドル 1 上のボタン 2 を使用して「ハンズフリー」で行う方法。
- カードをリモコンモードで使用。

i カードを携帯する時、他の電子機器（コンピューター、電話など…）に接触しないようにして下さい。故障の原因となります。

「ハンズフリー」モードを無効／有効にするには

車種によって、無効／有効にできません。

- 車両から離れるときに施錠して、接近するときに解錠します。
- ドアハンドルのボタンを押して施錠と解錠を行います。

また、車両から離れる際のロック時に発せられる警告音を無効化／有効化することもできます → 94。



カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。

カードキー



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

車両に近づくと「ハンズフリー」でロック解除できる機能



70011

カードを持って乗員検出ゾーン **3** 内に移動すると車両のロックが解除されます。解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが **1 回点滅** します。



車両によっては、車両がロック/ロック解除されるとドアミラーが自動的に折り畳まれ/展開します → 103。

車両から離れる際の「ハンズフリー」ロック



70012

カードを持って車両とトランクのドアを閉め、車両から離れると、ロック解除ゾーン **3** 外に出るとすぐに、車両が自動的にロックされます。

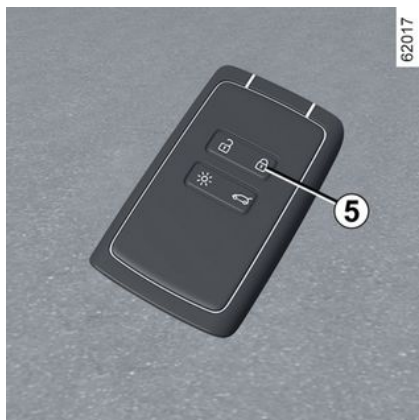
注意: ロックが作動する地点と車との距離は環境によって異なります。

車両がロックされると、その証として、ハザードランプが **2 回点滅** し、約 **4 秒間点灯** したあと、ビーブ音が鳴ります。

2

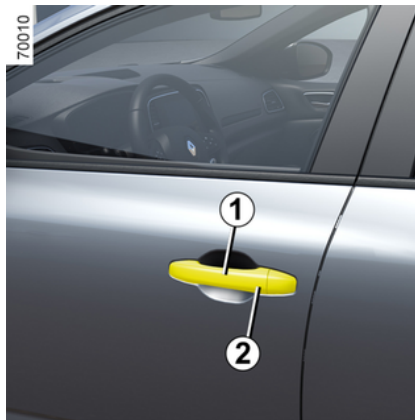
カードキー

2



カードが検出ゾーン 3 内に約 15 分間存在すると、遠隔ロック機能は無効化されます。車両をロックするには、ハンドル 1 上にあるボタン 2 またはカード上にあるボタン 5 を押します。カードがゾーン 4 内にあると、車両を遠隔ロックできません。

ボタン 2 を用いた「ハンズフリー」ロック解除/ロック



カードをエリア 3 に入れ、車両を施錠し、いずれか 1 つのフロントドアのハンドル 1 のボタン 2 を押します。車両が解錠されました。ボタン 2 を押す方法でも、すべてのドアとテールゲートのロックを解除できます。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが 1 回点滅します。

ボタン 2 をもう一度押すと、車両がロックされます。

車両がロックされた証として、ハザードランプが 2 回点滅し、その後約 4 秒間点灯します。

解錠システムの専用機能

特定の状況下では、次の場合に車両に近づくとロック解除が無効化されません。

- 車両が 8 日間使用されていない場合。
- 車両のロックから約 5 分経過後も、カードが車両のゾーン 3 付近にある場合。
- ドアロック解除操作を行うことなく、車両のゾーン 3 付近を数回通過した場合。

車両のロックを解除し、「ハンズフリー」モードを再び有効化するには、テールゲート開ボタン 2（フロントドアまたはラゲッジルームドアハンドル）を押すか、カードのリモコンカードを使用します。

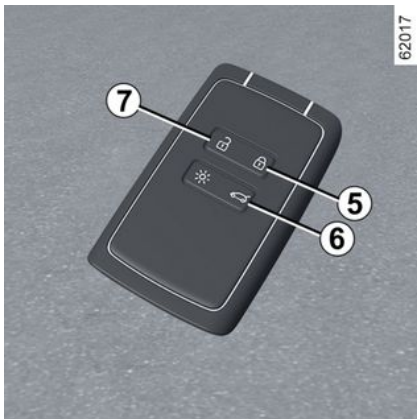
ハンズフリーロックに関する特殊機能

「ハンズフリー」モードで施錠した後で、車両をもう一度解錠するには、約 3 秒間待つ必要があります。この 3 秒間にドアハンドルに触って、車両が正しく施錠されているか確認することができます。

注: ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピータの点滅もありません。

カードキー

カードをリモコンとして使用する



カードを使用した解錠

ボタン 7 を押します。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが 1 回点滅します。



エンジンの作動している場合、カードのボタンは非作動になります。

カードキーを使用して車両を施錠する

ドアとテールゲートを閉じ、ボタン 5 を押すと、車両がロックされます。

車両がロックされた証として、ハザードランプが 2 回点滅し、その後約 4 秒間点灯します。

車両によっては、ボタン 5 を 2 回押すことで、車両がロックされ、フロントおよびリアウィンドウとサンルーフが閉じます。

注：

- 車両の施錠が可能な範囲（車両からの距離）は周辺環境によって異なります。
- ドアまたはトランクが開いているか、正しく閉まっていない場合、施錠されません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピータの点滅もありません。



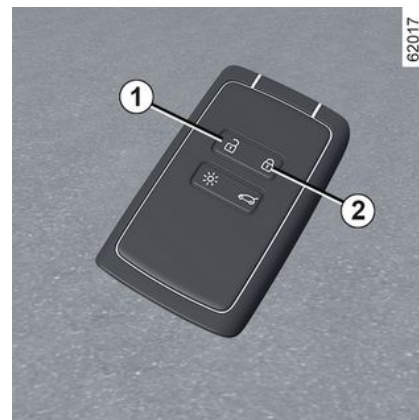
エンジン回転中のドア開閉時にカードがゾーン 4 内に存在しなくなると、車

内にカードがないことを示す「カードキー 検出なし」メッセージが表示されます。これにより、たとえば乗員がカードを持ったまま途中下車するといった偶発的な事故が防止されます。カードが再び検知されると音声アラームは停止します。

トランクだけのロック/ロック解除

ボタン 6 を押すと、トランクだけをロック/ロック解除できます。

スーパーロック機能



スーパーロック装備車の場合、スーパーロック機能で開閉部をロックし、車内からドアを開けられないようにすることができます（ウインドーを割っ

カードキー

て内側からロック解除を試みる場合などに備えて)。

2



車内に人が乗っていると
きは、スーパーロック
機能は絶対に作動させ
ないでください。

スーパーロック機能を作動させるには

ボタン2を2回続けて押します。

ロックされると、ハザードランプとサイドマーカがゆっくり2回点滅し、素早く3回点滅します。

車両によっては、車両のロックと同時にドアミラーが自動的に折り畳まれることがあります→103。

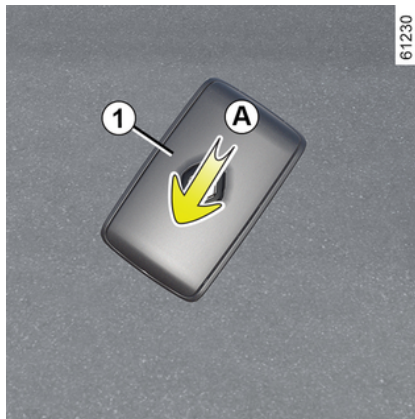
スーパーロック機能を作動解除するには

ボタン1を一回押します。

アンロックされるとハザードランプが1回だけ点滅します。

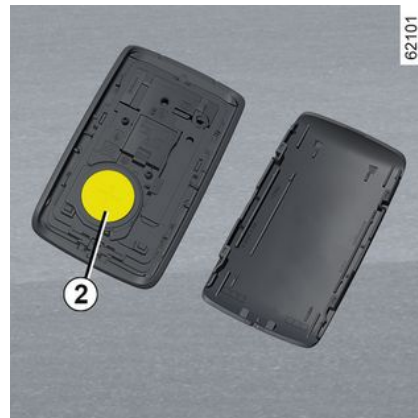
「ハンズフリー」カード: バッテリ

電池の交換



メッセージ「カードの電池低下」がインストルメントパネルに表示されたら、カードの電池を交換してください。

- エリアAを押しながら、リアケース1を下にスライドさせます。
- バッテリーカバー2を外します。
- バッテリーの片側を押しして他方を持ち上げて、取り外します。
- カバー内の指示とテンプレートに従って、バッテリーを交換します。



取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、車両付近でカードのボタンを4回押しして下さい。次にエンジンを始動させたときに、警告メッセージは消えます。

カバーが確実にはまっているか確認してください。

注: 電池交換の際は、カードの電子回路や接点に触れないように気をつけてください。

カードキー

i 電池は指定サービス工場でお求めください。電池の寿命は約2年です。電池の液漏れがないか点検してください（液漏れがあると接触不良になるおそれがあります）。

! 交換が必要な場合は、同じタイプまたは同等のタイプのバッテリーを使用してください（指定サービス工場にお問い合わせください）。

! 交換時：
- バッテリーが正しく挿入されていることを確認してください。

爆発するおそれがあります。

- フラップが正しく閉まらない場合は、使用しないで子供の手の届かないところに置いてください。

作動異常

電池が消耗しすぎてカードが作動しない場合でも、エンジンを始動したり、車両を施錠 / 解錠したりできます
→ 34。

26913



i 使用済みのバッテリーをゴミとして捨てないでください。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。



バッテリーに関する注意事項

- バッテリー（新品または中古）は子供の手の届かないところに保管してください。
- 電池を飲み込まないようにしてください。

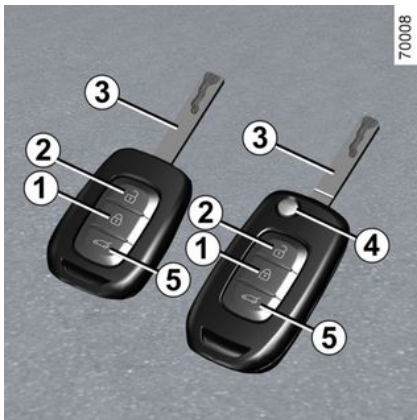
死に至る可能性のある化学的なやけどの危険性があります。

- 身体のいずれかの部分に摂取したり挿入した場合は、できるだけ早く医師に相談してください。

キー、リモコン

「概要」の項を参照してください

2



1. すべてのドア／テールゲートのロック。
2. すべてのドア／テールゲートのロック解除
3. イグニッションとフロントドアキー。
5. ラゲッジルームのみのロック／ロック解除。

インサートキー付きリモコン：

4. インサートキーを使用したロック／ロック解除。挿入キーをハウジングから取り出すには、ボタン 4 を押し、飛び出させます。挿入キーをハウジン

グ内に戻すには、ボタン 4 を押しながら内部に誘導します。

ⓘ アドバイス
リモコンを熱気、冷気および湿気にさらさないでください。

ⓘ 取扱説明書に記載された使用方法以外の目的（ボトルの栓を抜くなど）にキーを使用しないでください。

⚠ 駐車または停車時のドライバーの責任
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

リモートコントロールキーの作動範囲

これは使用環境に応じて変化するため、リモコン上のボタンの誤操作によりドアが不意にロック／ロック解除されないよう注意してください。

注：ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ／サイドリピーターの点滅もありません。

障害物

近くにリモコンと同周波数を使用する機器がある場合、リモコンは作動しないことがあります。

キー、リモコン

i リモコンの交換、追加のキーやリモコンについてのご要望は

ルノー指定サービス工場に必ずお問い合わせください：

– キーを作り替える場合は設定をやり直しますので、お持ちのすべてのキーと車両を指定サービス工場にお持ちください。

– 車種によっては、リモコンは4個まで使用することができます。

リモコンキーの故障

常に、電池の状態、タイプ、プラス/マイナスが正常かを確認してください。電池の寿命は約2年間です。

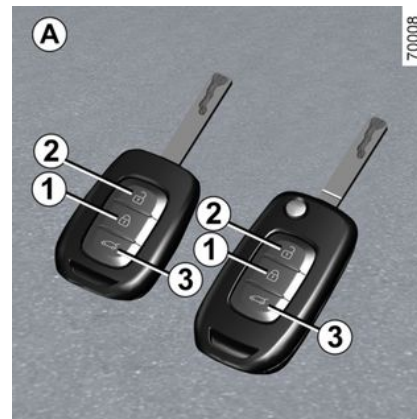
バッテリー → 30 交換方法。

車両によっては、ボタン **1** を2回押すことで、車両がロックされ、フロントおよびリアウィンドウとサンルーフが閉じます。

注: ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピーターの点滅もありません。

i 車両によっては、車両がロック/ロック解除されるとドアミラーが自動的に折り畳まれ/展開します → 103。

トランクだけのロック/ロック解除



ボタン **3** を押すと、トランクだけをロック/ロック解除できます。

使用方法

リモコン **A** は、開閉部のロックまたはロック解除に使用できます。

電源は、交換可能な電池です → 30。

ドアをロックする

ロックボタン **11** を押します。

ロックが解除されると、その証として、ハザードランプとサイド表示灯が **2** 回点滅します。

キー、リモコン



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

アンロック

ボタン2を押すと、開閉部のロックを解除できます。

ロックが解除されると、その証として、ハザードランプとサイド表示灯が**1回点滅**します。

注: エンジンが回転中でイグニッションスイッチがONのとき➔125は、リモコンのボタンが無効になります。

スーパーロック機能



車内に人が乗っているときは、スーパーロック機能は絶対に作動させないでください。

スーパーロック機能を作動させるには

ボタン1を素早く2回押します。

ロックされると、ハザードランプとサイドマーカが**ゆっくり2回点滅し、素早く3回点滅**します。

車両によっては、車両のロックと同時にドアミラーが自動的に折り畳まれることがあります➔103。

スーパーロック機能を作動解除するには

ボタン2を一回押します。

アンロックされるとハザードランプが**1回だけ点滅**します。

電波式リモコンキー: 電池

電池の交換



マイナスドライバーなどのツールをスロットに差し込んでケース1を開け、カバーの裏面に記載されている種類と極性に合った電池2と交換します。

キー、リモコン



交換が必要な場合は、同じタイプまたは同等のタイプのバッテリーを使用してください（指定サービス工場にお問い合わせください）。



注：電池交換の際にキーのカバーにある電子回路に触らないようにしてください。

元に戻す際には、カバーがきちんとはまりボルトが正しく締め付けられていることを確認してください。



電池は指定サービス工場でお求めください。電池の寿命は約2年です。
電池の液漏れがないか点検してください（液漏れがあると接触不良になるおそれがあります）。



交換時:

– バッテリーが正しく挿入されていることを確認してください。

爆発の危険があります。

– フラップが正しく閉まらない場合は、使用しないで子供の手の届かないところに置いてください。

作動異常

電池が消耗しすぎてカードが作動しない場合でも、エンジンを始動したり、車両を施錠 / 解錠したりできます
➔ 34。

26913



使用済みの電池は絶対に廃棄しないでください。認定ディーラーに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

2

キー、リモコン

2



バッテリーに関する注意事項

- バッテリー（新品または中古）は子供の手の届かないところに保管してください。
- 電池を飲み込まないようにしてください。

死に至ることもある化学熱傷を負う危険あり。

- 身体のいずれかの部分に摂取したり挿入した場合は、できるだけ早く医師に相談してください。

ドアと開閉部

ドアの開閉

車外からドアを開く



ドアロック解除中（車両によってはカード携帯中）に、ハンドル **1** を握って手前に引きます。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

車内からドアを開けるとき



ドアハンドル **2** を引きます。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

ドアまたはテールゲートの締め忘れ警告ブザー

停止時に、インストルメントパネルで



警告灯と、ドア／トランクが開いているか半ドアになっていることを知らせる警告灯が点灯します。

車速が約 20 km/h に達すると、ドアまたはトランクが開いているか正しく閉まっていない場合に警告灯が点灯し、「トランク開」または「ドア開」というメッセージが表示され、ドアまたはトランクを閉めるまでピープ音が約 40 秒間鳴ります。

ドアと開閉部

ライト消し忘れ警告アラーム音

運転席側ドアを開けると警告ブザーが鳴り、ランプが点灯していることを知らせます。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

子供を乗車させるとき



リアドアを内側から開かないようにするには、レバー **3** を動かしてドアが安全にロックされていることを内側から確認します。

開閉部およびドアのロック、ロック解除

リモコンまたは車両によって、カードが作動しない場合

場合によっては、電波式リモートコントロールまたはカードが機能しないことがあります：

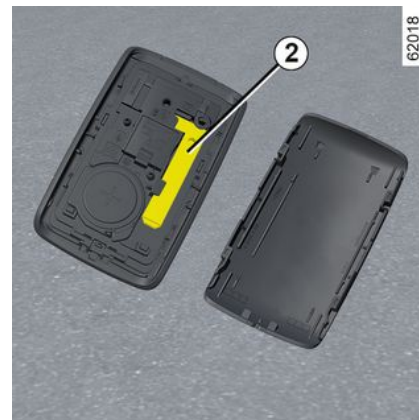
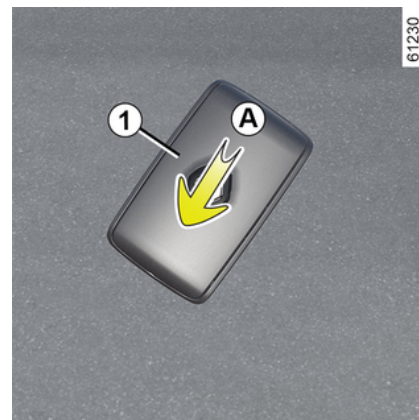
- カードまたは電波式リモコンが電池切れ、車両がバッテリー切れなど。
- カードと同じ周波数で作動する機器を使用する場合（携帯電話など）。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。

このような場合は次のようにします：

- 車種によって、電波式リモートコントロールまたはカードキーに内蔵のスペアキーによる左フロントドアのロック解除。
- 各ドアを手動でロックする
- ドア内側のロック／ロック解除制御装置を使うこと。

カードの内蔵キー

キー 2 によるアクセス

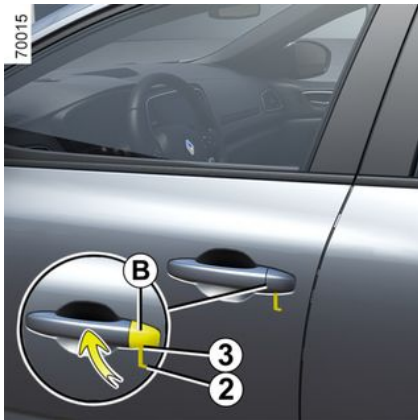


ドアと開閉部

ビルトインキー 2 を使用して、カードが作動していないときに運転席ドアの施錠 / 解錠を行うことができます。

領域 **A** を押しながらリアケース **1** を下にスライドさせます。

カード内蔵キーの使用法



- キー 2 の端部を左側フロントドア上のカバー **B** 最下部にある凹部 **3** 内に挿入します。
 - そのまま上方向に持ち上げてカバー **B** を取り外します。
 - キー 2 を鍵穴に差し込み、左フロントドアを施錠または解錠します。
- 車内に入ったら、キーをカードのケースに戻します。

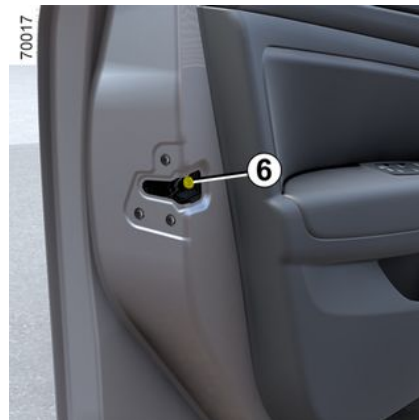
キー、リモコン装備車両

キーの使用法



キー 5 をロック 4 に内に挿入し、左側フロントドアをロックまたはロックを解除します。

手動によるドアのロック



ドアを開けた状態で、ねじ 6 を（キーの先端で）回し、てドアを閉めます。これでドアを車外からロックできます。

この場合、ドアは車内から開けるか、左フロントドアをスペアキーによってのみ開けることができます。

ドアと開閉部

車内のロック／ロック解除スイッチ

2



スイッチ 7 は、ドア、ラゲッジルームドアと燃料給油口のフラップを同時に制御します。

ドアまたはトランクが開いているか、正しく閉まっていない場合、施錠されません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピータの点滅もありません。

テールゲートを開けたまま荷物を運ぶ場合でも、他のドアはロックできません。他のドアをロックするには、**エンジンを停止させた状態で**、スイッチ 7 を 5 秒以上長押しします。

カードまたはキーを使わずにドアを施錠する

電池が消耗したり、カードまたはキーが一時的に作動しなくなったなどの場合。

イグニッションをオフにし、ドアまたはラゲッジルームを開いた状態で、スイッチ 7 を長押しします。

次にドアを閉めると、全ての開口部がロックされます。

アクセスゾーン内にあるカードを使用するか、カードに内蔵のキーを使用しないと外から車両を解錠できません。

ドアのロック状態を告げる警告灯

イグニッションスイッチをオンにすると、スイッチ 7 に内蔵された指示灯により、ドアの施錠状態を知ることができます。

- 警告灯が点灯している場合は、ドアとテールゲートがロックされています。

- 表示灯が消えているとき、ドアはロック解除されています。

車外からドアをロックすると、表示灯はしばらくの間点灯してから消灯します。



車内にお車のキーまたはカードキーを忘れないようにしてください。



ドライバーの責務

ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れがあります。

車速感応式オートドアロック

作動原理



ドアと開閉部

車両の始動後に速度が約 10 km/h になると、ドアは自動的にロックされます。

ロックの解除：

– ドアロック／ロック解除スイッチ **2** を押す方法。

– 停止時に、社内からフロントドアを開ける。

注：ドア開閉後も、車速が約 10 km/h 以上になると、ドアは自動的に再ロックされます。

機能の起動／作動解除

作動させる：車両を停止させてエンジンを始動し、ピープ音が鳴るまでスイッチ **2** を押します。

解除する：車両を停止させてエンジンを始動し、ピープ音が2回鳴るまでスイッチ **2** を押します。

マルチメディア画面のメニュー **1**

➔ **94** から機能を有効化／無効化することもできます。



ドライバーの責務

ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れ

があります。

作動異常

作動不良が疑われる場合（オートロックされない場合や、ドアやテールゲートをロックしてもスイッチ **2** 内蔵の表示灯が点灯しない場合など）は、ロックが誤って無効化されていないかの確認や、ドアやトランクが正しく閉まっているかの確認を行います。ドアがしっかりと閉まっているのにオートドアロックが作動しない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

トランク

使用条件

– 車両が動かない状態にします。
– 凍結や積雪でラゲッジルームドアが開かない場合は、凍結や積雪を除去してからラゲッジルームドアを開けてください。

– バッテリーの放電または交換後には、ラゲッジルームドアを（必要であれば手で）閉じて、ラゲッジルームモータを再始動してください。

車両に応じて異なるテールゲートのロック解除や取扱いの方法は次のとおりです。

– リモコンキーのロック／ロック解除ボタン ➔ **28** を使う方法。
– カードののロック／ロック解除ボタン ➔ **20** を使う方法。

– テールゲートの外側になる制御装置を使う方法。

– 「ハンズフリー」機能を使う方法
– ダッシュボードのスイッチを使用する。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



テールゲート開閉時には、可動部付近に人がいないか確認してください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ドアと開閉部

手動による制御

開け方

2



車両によっては、ダッシュボードの制御装置 **1** またはボタン **2** を押すことで、テールゲートが自動的に開きます。

注: テールゲートは、周囲に十分なスペースがあるか確認してから開けてください。

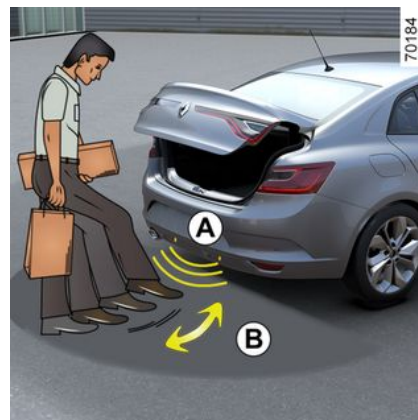
i テールゲート開／閉時には、その軌道に障害物がないか確認してください。

閉めるには

テールゲートを下げる際には、トランク内側のハンドルを持って下げます。

! ラゲッジルームドアを閉じるために、ストラットを使用することは絶対に避けてください。

「ハンズフリー電話」機能



「ハンズフリー」機能を使用すると、手がふさがっているときにトランクにアクセスすることができます。

使用時には、カードが、車両のリアバンパ中央のエリア (エリア **B**) から約 1 m 離れている確認してください。

イグニッションスイッチを OFF にした状態で、車両のリアバンパから約 45 cm 離れて立ち、エリア **A** の前後に移動します。

センサがドライバーの接近を検出すると、テールゲート開閉がトリガされません。

足を上げたままにしないでください。立ち止まったり、リアバンパーに触れたりしないで移動してください。

ドアと開閉部



次のことをする前には、「ハンズフリー」機能を無効にしてください。

- 洗車機に車両を通す。
- 車両を手洗います。
- 牽引装置を取り扱うこと。
- ...

不意にテールゲートが開いて負傷する危険があります。

「ハンズフリ」機能の有効化 / 無効化

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

「ハンズフリー」機能の特徴

- 「ハンズフリー」機能は、車両が、数日間、またはロック解除後約 15 分間使用されないと停止します。再作動させるには、カードの解錠ボタンを使用します。
- 「ハンズフリー」機能は、車両が静止しておりエンジンスイッチが OFF の場合（「Stop and start」を用いたスタンバイ状態ではない場合）に限り使用できます。
- 「ハンズフリー」機能は、車両にけん引バーが装着されている場合、また

は強い電磁波の影響下にある場合は作動しないことがあります。

使用時の注意

- テールゲートは、その作動に十分なスペースが周りにあるか確認してから開けてください。十分なスペースがない場合は、テールゲートが周囲の物に接触しないよう、操作を中断してください。
- リアバンパーに内蔵されているセンサーの 1 つが汚れ、泥、雪、塩の塊などでふさがれている場合は、一時的にシステムに障害が発生する場合があります。センサーを清掃してください。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

注：極寒冷の天候条件化では、テールゲートのシールが凍結している場合、自動開放が機能しない場合があります。



テールゲート上に運搬装置（バイクラック、収納ボックスなど）を取り付けることは禁じられてい

ます。

お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラーにご相談ください。

車内から手で開けるとき



トランクのロックを解除できない場合、ロックは内側から手で解除できます。

- リアシートの背もたれを倒すとトランクにアクセスできます。
- マイナスドライバーなどの工具を機構 3 の上にあるカーペットの下に差し込み、図に示すようにアセンブリをスライドさせます。
- テールゲートを押し開きます。

フロントシート

フロントシートのヘッドレスト

ヘッドレストの取外し



ヘッドレストを上方へ引き上げて好みの高さに調節します。確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストを下げる

ボタン2を押してヘッドレストをお好みの高さまで誘導します。確実にロックされていることを確認してください。

角度の調節

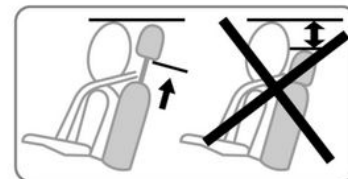
装備車両の場合は、セクションAを、希望位置に達するまで手前に引くか奥へ押しします。

ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストを最高位置まで上げます（必要に応じて背もたれを後方へ倒します）。ボタン2を押してヘッドレストを持ち上げ、解放します。

ヘッドレストの取り付け

ヘッドレスト1がきれいか点検します。凹部のあるロッドを、ロックボタン2のあるスロット3に挿入する必要があります。ロッドをスリーブに差し込みます（必要に応じて背もたれを後方へ倒します）。ボタン2を押してヘッドレストを一番下まで押し込み、希望高さに調整します。各ロッド1が背もたれに確実にロックされているか確認します。



ヘッドレストはセーフティ部品ですから必ず装着し正しい位置で使用してください。ヘッドレストの高さはできるだけ頭のとっぺんに合わせるようにしてください。ご自身の頭とセクションAの間の距離はできる限り小さくしてください。

フロントシート

マニュアル調節式フロントシート

設定

前後方向の調節



ロックを解除するにはハンドル **1** を持ち上げます。選択した位置でハンドルを放し、きちんとロックされたことを確認します。

シートクッションの上下調節

レバー **2** を必要な回数だけ上げ下げします。

背もたれを傾ける

ハンドル **3** を持ち上げて、背もたれを希望する位置に傾けます。選択した位置でハンドルを放し、きちんとロックされたことを確認します。

シートの腰部を調節する



仕様により：

– スイッチ **4** を前後上下に動かします。

または

– ハンドル **5** を下げるとサポートが強くなり、上げると弱くなります。

フロントシート

2



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

背もたれを後方に傾けすぎると、シートベルトの効果がなくなるおそれがありますのでご注意ください。

床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

車両のタイプによっては、助手席シートの背もたれを折りたたんで、テーブルとして使うことができます。

- ヘッドレストを下げる。
- 背もたれを動かします。
- レバー **3** を引き上げ、そのまま背もたれを一番前まで倒します。
- ハンドル **6** を引き、背もたれをいっぱいまで下げます。



シートをタブレットポジションにしたときは、安全のために運搬中の荷物を固定してください。

い。



フロントシートの背もたれが折り畳み位置にある場合は、助手席 airbag → **76** を無効化してください。

折り畳んだ背もたれの上にある物が airbag 作動により飛散し、重傷の原因となる恐れがあります。ラベル（ダッシュボード）およびシンボル記号（サンバイザー）にこれらの注意書きがあります。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

シェルフの位置



背もたれが調節後に正しくロックされることを確認します。

シートベルトをテーブルポジションで使用する場合は、2つのリアシートをすぐ後ろで使用してはなりません。

シートの位置を戻す

シート操作の妨げになる物質がないか確認します、

- ハンドル **6** を引いて背もたれを起こし、定位置にしっかり固定されているか確認します。
- シートの位置を戻します。

フロントシート ヒーティングシート



イグニッションオン:

- 当該シートのスイッチ 7 を初めて押すと、暖房システムが最高出力で作動します。スイッチに内蔵されている両方の警告灯が点灯します。
- 2 回目に押すと、ヒーターシステムが最小出力になります。1 つの一体型警告灯が点灯します。
- 3 回目に押すとヒーターがオフになります。

電動フロントシート



装備車両では、スイッチ 1 を押すことで、マルチメディア画面上の「座席」メニューにアクセスできます。

背もたれの調節

背もたれを傾けるには、スイッチ 2 の上部を前後に動かします。

運転席の腰部の調節

スイッチ 3 を前後上下に動かします。

シートの位置の調節



前後方向の調節

スイッチ 4 を前方または後方に動かします。

シートクッションの上下調節

スイッチ 4 の後部を上または下に動かします。

シートを傾けるには、以下の作業を行います

(車種によります)

スイッチ 4 の前部を上または下に動かします。

フロントシート

ヒーターシート



イグニッションオン:

- 必要なシートのスイッチ **5** を初めて押すと、ヒータシステムが高出力で作動します。両方のスイッチ表示灯が点灯します。
- 2回目にスイッチを押すと、ヒーターが低温に変わります。警告灯が1つだけ点灯します。
- 3回目に押すとヒーターがオフになります。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

背もたれを後方に傾げすぎると、シートベルトの効果がなくなるおそれがありますのでご注意ください。

床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

フロントシート: 機能



車両によっては、マルチファンクション画面から多数のシート機能を利用できます。

装備車両では、スイッチ **1** を押すことで、マルチメディア画面上の「座席」メニューに直接アクセスできます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

マッサージ

運転席側のシートマッサージ機能を作動させることができます。

この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

「ドライバー」メニューを参照:

- マッサージの種類（トニック、リラックスまたは腰）を選択できます。
- 強度を選択します（+または-）。
- スピードを選択します（+または-）。
- ポップアップメニューで選択した設定をリセットします。
- シートマッサージ機能を有効化／無効化（ONまたはOFF）できます。

注:「MULTI-SENSE」メニューで選択したモードは、マッサージ機能の構成 ➔ 244 に影響を与えることがあります。

フロントシート

設定

この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

次の要素を有効または無効にできません：

- 運転席への簡単なアクセス。
- 現在の動きの視覚的なフィードバック。

運転席への簡単なアクセス

この機能を有効化または無効化するには、「ON」または「OFF」を押します。

これらの機能を作動させた場合、運転者が車両を離れるとシートが自動的に後退し、スタートボタンを押すとシートが所定に位置に戻ります。

位置

運転席のドライビングポジションを記憶することができます。

ドライビングポジションは、背もたれと座部の位置の調節を合わせて行います。

ドライビングポジションは、ボタンを押して保存して記憶し、また呼び出すことができます。

- 「ハンズフリー」カードが検出されました。
- 運転席ドアを開けた時。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



ドライビングポジションのメモリー

ボタン 2、3、4 を使用して運転席を調整します。

記憶したドライビングポジションにアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

その後、ドライバーの位置が保存されます。

ドライビングポジションを呼び出す

記憶したドライビングポジションを呼び出す方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

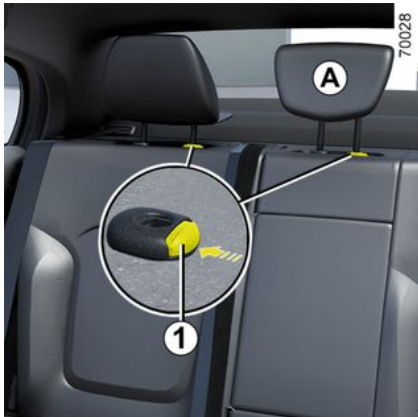
注: 記憶運転位置の呼出し中にいずれかの座席の調整スイッチを押すと、呼出しが中断されます。

走行中は、メモリ呼び出しはできません。

後席

リアシートのヘッドレスト

センターヘッドレストA使用時の位置



ロックされるまで、ヘッドレストを完全に持ち上げます。

確実にロックされていることを確認してください。



ヘッドレストは安全装置のひとつです。必ず取り付けて、適切な高さに調節してください。

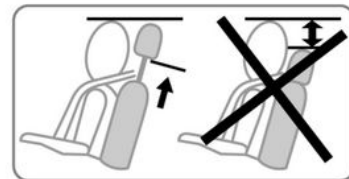
センターヘッドレストBの格納位置



ボタン**1**を押し、ヘッドレストを完全に下げます。

ヘッドレストを一番下まで下げるかが収納する場合のみ前方に傾けた状態：後席に乗員がいるときまたはチャイルドシートが装着されている場合は、この位置にしないでください。

ヘッドレストの取り外し



ヘッドレストを最高位置まで上げ、ボタン**1**を押し、ヘッドレストを取り外します。

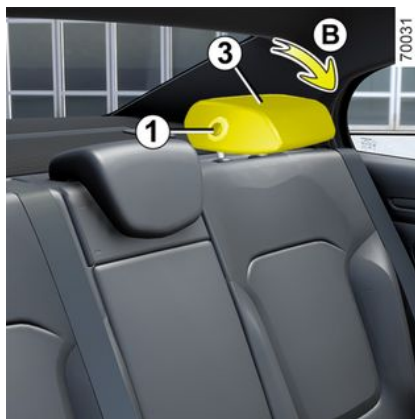
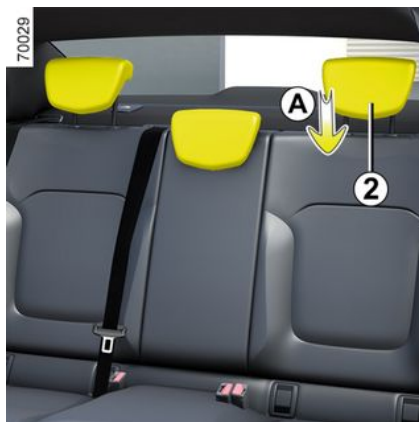
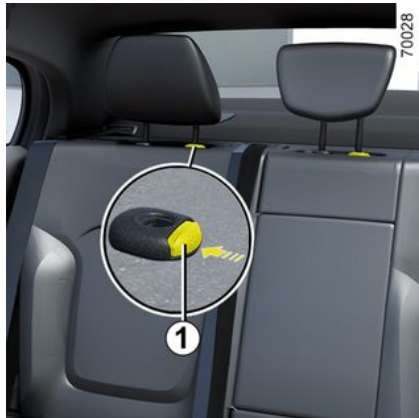
ヘッドレストの取り付け

ロッドを穴の中に挿入し、ボタン**1**を押し、ヘッドレストを下げます。

確実にロックされていることを確認してください。

後席

サイドヘッドレストの収納機能位置



ボタン **1** を押し、車両によっては次のように操作します。

- ヘッドレスト **2** を一番下まで下げ (A のように動か) します。

または

- ヘッドレスト **3** を下げ、一番前まで傾け (B のように動か) します。

リアシート: 機能

背もたれを手動で倒す



フロントシートは十分に前に出しておいてください。

サイドヘッドレストを最高位置まで上げ、センタヘッドレストをいっぱいまで下げます。

すべてのシートベルトのバックルが外れていることを確認し、ガイド **2** に収めてベルトが傷つかないようにします。

2

後席

2



制御装置 **1** を引いて背もたれ **A** を下げます。

背もたれを取付ける際には、取外しと逆の手順で行います。

背もたれを取付けてサポートにはめま
す。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



小さい背もたれ **B** を折り畳んだ2座席ベンチシートの状態ではシートベルトをバックルで固定できない（シートベルトバックルを使用できない）ため、センターシートを使用できません。



背もたれを元の位置に戻すときは、背もたれがしっかりとロックされていることを確かめてください。

シートカバーを使用する場合は、背もたれのロックが妨げられないように気をつけてください。シートベルトが正しい位置にあるか確かめてください。ヘッドレストを元の位置に戻します。



リアシートを操作する際は、シートの固定を妨げる異物が挟まっていないことを確認してから行ってください（体の一部、ペットや動物、小石、布、おもちゃなど）。

シートベルト

安全のため走行時には必ずシートベルトを着用してください。また各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

エンジンを始動させる前にまずはドライビングポジションの調整を行い、次に最大限の安全を確保するべく全乗員のシートベルト位置を調整します。

ドライビングポジションの調節

– シートに深く腰掛けます（コートやジャケットなど脱ぐこと）。必ず、背中が正しい位置になるようにお座りください。

– シートベルトとペダルの位置を調節します。ペダルを深く踏み込める位置を確認し、それより後方にスライドしないようにしてください。背もたれは、ハンドルを握って肘を軽く曲げた状態を保てる角度に調節します。

– ヘッドレストの位置を調節します。安全効果を高めるため、ヘッドレストと頭部はできるだけ近づけてください；

– シートの高さを調節します。この調節を行うことで、運転中の視界が良好に確保できます。

– ステアリングポジションを調節します。



リアシートベルトが正しく作動するよう、リアベンチシート → 47 が定位置に正しくロック定されているか確認します。



シートベルトの調節が正しく行われていなかったり振れたりしていると、事故などが起こった場合に負傷を最小限に抑えられない危険があります。

シートベルトは1人（大人でも子供でも）につき1つご使用ください。

妊娠中の方も必ずシートベルトを着用してください。この場合には、ラップベルトの余分な遊びをなくし下腹部に圧力がかかり過ぎないように注意します。

シートベルトの調節



どの座席のシートベルトについても調整と位置決めを正しく行うには、次のように対応してください。

– シートを調整します（使用可能な場合、シートの位置とシートバック角度）。

– 背もたれに背中が密着するように深く座ります

– 肩部ベルト 1 は、できるだけ首に近づけ、首に触れない位置にします（必要に応じ、可能であればシートベルトの高さを調整します）。胸部ベルト 1 が肩に触れていることも確認します。

– 腰ベルト 2 が腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

シートベルトはできるだけ体に密着するように着用する必要があります。

シートベルト

ロック

ベルトをゆっくりと、勢いをつけずに引き出し、バックル **3** をシートベルトキャッチャー **5** 内にロックします（バックル **3** を引っ張ってロックを確認します）。

ベルトが引っかかった場合は、いったんベルトを大きく戻し、再度引き出してください。

ベルトが完全に動かない場合は、ゆっくり強く引いて、約 3 cm 引き出します。ひとりでに巻き戻されるままにし、次に再び引き出します。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

ロック解除方法

ボタン **4** を押します。すると、シートベルトが慣性リールにより巻き取られるため、手を添えてください。

シートベルト非着用警告灯

この警告灯は、運転席シートベルト（助手席に乗員が存在する場合は助手席シートベルトも）が着用されていない状態で車両のイグニッションスイッチが ON にされると、センターディスプレイ **A** 上に表示されます。



注: 車両によっては、助手席に荷物などが置かれていると、警告灯が作動することがあります。

フロントシートベルト非着用警告灯



シートベルト

ドア閉後に車両のイグニッションスイッチをONにすると、図6（車両によっては7）がインストルメントパネル上に約60秒間表示されます。これは、運転席のシートベルトの状態をドライバーに示し、車両によっては助手席のシートベルトを毎回表示します。

- 走行中に（車速がゼロ超の状態）でドアが開いた場合。
- フロントシートベルトが着用された／外された。

グラフィック6または7の読み方:

- 緑色記号: シートベルト着用状態です。
- 赤色記号: 座席使用者がおりシートベルト未着用の状態です。
- 灰色記号: 座席使用者がいない状態です。

ドア閉後も運転席／助手席のシートベルトが（乗員は存在するにもかかわらず）未着用の場合、車両のイグニッションスイッチをONにすると



警告灯がセンターディスプレイ上に表示されます。

車速が約20 km/h未満の状況で、フロントシートにシートベルト未着用の乗員がいると、



警告灯がセンターディスプレイ上に表示されます。

この場合には、フロントシートベルトのいずれかが着用または未着用の状態

になるたびに図6または7が約60秒間表示されます。

車速が約20 km/hを超えている走行時に、フロントシートベルトのいずれかが非着用状態になると、次のようになります。

- センターディスプレイで 警告灯が点滅します。

と

- ビープ音が約120秒にわたって鳴ります。

と

- 図6または7が約180秒間表示され、該当シートの記号が赤色に変わります。

フロントシートの乗員がシートベルトを正しく着用しているかについては常に確認してください。また、着用シートベルト数とフロントシートにいる乗員の数は常に一致していなければなりません。

注: 助手席に荷物などが置かれていると、警告灯が作動することがあります。

リアシートベルト非着用警告灯

(車種によります)

ドアを閉めて車両のイグニッションをオンにすると、画像6または7が約60秒ほどインストルメントパネルに表示されます。これにより、各リアシ-

ートベルトの固定状態が毎回ドライバーに通知されます。

- 走行中に（車速がゼロ超の状態）でドアが開いた場合。
- リアシートベルトを締めたとき、または外したとき。

グラフィック6または7の読み方:

- 緑色記号: シートベルト着用状態です。
- 赤色記号: 座席使用者がおりシートベルト未着用の状態です。
- 灰色記号: 座席使用者がいない状態です。

車両によっては、ドアが閉まり、イグニッションスイッチがONになってもリアシートにシートベルト非着用の乗員が存在する場合、



警告灯もセンターディスプレイ上で点灯します。

車速が約20 km/h未満で後部座席シートベルト未着用だと、センターディスプレイの




警告灯が点灯します。

この場合には、リアシートベルトのいずれかが着用または未着用の状態になるたびに図6または7が約60秒間表示されます。

車速が約20 km/hを超えている走行時に、後部座席のシートベルトのいずれかを着用するか、または着用を解除した場合:

シートベルト

2 - センターディスプレイで  警告灯が点滅します。

と

- ビープ音が約 30 秒または 120 秒間鳴ります。

と

- 図 6 が 60 秒以上（車両によっては約 180 秒間）表示され、該当シートの記号が赤色に変わります。

後部座席のシートベルトが正しく締められ、また示されているシートベルトの数とリアシートに座っている乗員の数が一致する必要があります。

フロントシートベルトの高さ調節



ボタン 8 を押してシートベルトの高さを調整し、胸部ベルトを上図の位置にします。制御装置 8 を押してシートベルトを上げ下げします。高さ調節後は、ベルト取付け部がしっかりロックされているか確認してください。

リアシートベルト 9



シートベルトの装着、取外し、調節は、フロントシートベルトと同様に行います。



リアシートを操作した場合は、その都度シートベルトの位置と正しく機能するかを確認しま

す。

シートベルト

警告

フロント／リアシートベルトに関する注意事項



– 初めから車両に取り付けられている拘束システム部品（シートベルト、座席、固定具）は絶対に改造しないでください。特別な場合には（たとえば、チャイルドシートの取り付けなど）、指定サービス工場にご相談ください。

- シートベルトをたるませるためにキャッチの中にピンやクリップなどを突っ込んだり取り付けしないでください。緩すぎるシートベルトは万一の事故の際に大変危険です。
- 絶対に胸部ベルトを腕の下や背中に回さないでください。
- 同じシートベルトを複数の人間で使わないでください。乳幼児やお子様を膝の上に乗せてシートベルトを装着しないでください。
- シートベルトを着用するときは、ねじれないように注意してください。
- 車両が事故にあった後は、シートベルトの交換が必要かどうかを指定サービス工場です必ず確認してください。また、明らかに損傷がある場合はシートベルトを交換してください。
- リアベンチシートを元通りにするときは、シートベルトとバックルを挟み込まないように注意して、正しい位置にもどしてください。
- シートベルトのタングプレートは対応するバックルに差し込んでください。
- シートベルトのロック部分に異物が挟まっていないか確認してください。ベルトの機能を妨げる可能性があります。
- 固定ブロックが適切な位置にあることを確認してください。（人や物によって隠れたり、つぶされたり、押さえられたりしてはいけません。）

補助の安全装置

フロントシートベルト補助拘束装置

車両に応じて、次の部品で構成されています：

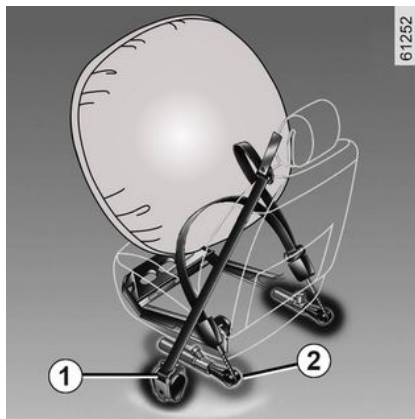
- シートベルトリトラクタプリテンショナー、
- 腹部シートベルトプリテンショナー、
- 胸部フォースリミッター、
- airbags 運転席および助手席フロント。

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

- シートベルトをロックする。
- 慣性リールシートベルトプリテンショナーを作動させ、シートベルトのたるみをなくす。
- 腹部シートベルトプリテンショナーを作動させ、乗員を座席に固定する。
- フロント airbag。

シートベルトプリテンショナー



プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める働きがあります。

この装置はイグニッションスイッチがONのときのみ作動します。車両前面から衝撃を受けると、その衝撃の大きさに応じて、システムが作動します：

- シートベルトを瞬間的に巻き込む慣性リールシートベルトプリテンショナー **1**。
- フロントシートに装備されている慣性リール腹部シートベルトプリテンショナー **2**。



- 万一車両が事故にあった場合は、指定サービス工場 で全拘束装置の

点検を受けてください。

- システムの一切の部品（プリテンショナー、airbags、コントロールユニット、配線）に手を加えないでください。システムの構成部品は同じモデルであるとしても絶対に別の車両で再利用しないでください。

- システムが誤って作動してケガをする恐れがありますので、プリテンショナーとairbagsの修理点検は必ず資格のある作業員が行うようにしてください。

- プリテンショナーの起動装置の電気系統に関する点検修理は、特別にトレーニングを受け、専用の機器を用意している指定サービス工場にお任せください。

- 車両を廃車にする場合は、プリテンショナーのガス発生器およびairbagsの廃棄について指定ディーラーにご連絡ください。

補助の安全装置

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

運転席および助手席フロントエアバッグ。



運転席と助手席の正面に設置されています。

この車両装備の有無は、ステアリングホイール、ダッシュボード（内のairbag A 設置エリア）（車両によっては、フロントウィンドウ下部のラベル）上に「airbag」という表示があるかどうかで確認できます。

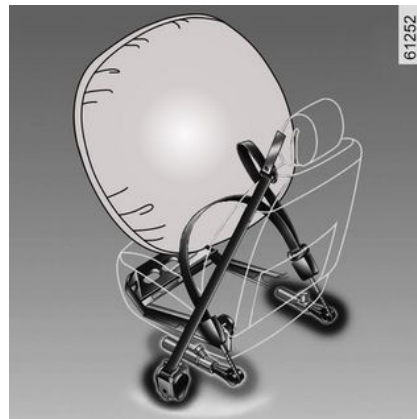
airbag システムは次のコンポーネントで構成されています：

- airbagおよびガス発生器は、運転席のステアリングホイール、助手席のダッシュボードに取り付けられています。
- ガスジェネレーターの電動イグナイター制御システムを制御する電子制御ユニット
- リモートセンサー。

- 制御表示灯  が、インストルメントパネルにひとつだけあります。



airbagシステムは着火の原理で作動します。このため、エアバッグが膨らむと加熱して発煙し（火災が起こるわけではありません）、起爆のような音が鳴りません。airbagの展開が必要な状況下では、瞬時に膨張するため、これにより肌の軽い擦りむきなどが生じることがあります。



作動

このシステムは、イグニッションスイッチがONのときのみ作動します。

airbags は、正面から激しい衝撃を受けるとは瞬時に膨張し、ドライバーおよび助手席乗員の頭部および胸部がステアリングおよびダッシュボードにぶつかるときの衝撃を緩和します。また、膨張したエアバッグは衝撃後にすぐに収縮するため、車両から脱出する際の妨げになりません。

作動異常



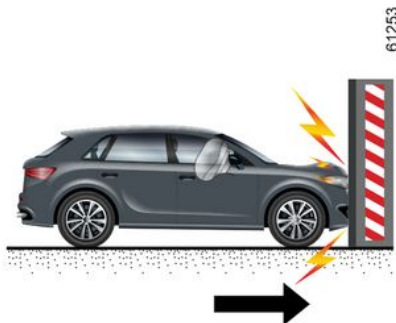
この警告灯が、エンジン始動時に点灯し、約3秒後に消灯します。

補助の安全装置

イグニッションスイッチをONにしても点灯しない、または点灯し続ける場合は、エアバッグシステムに何らかの異常があります。

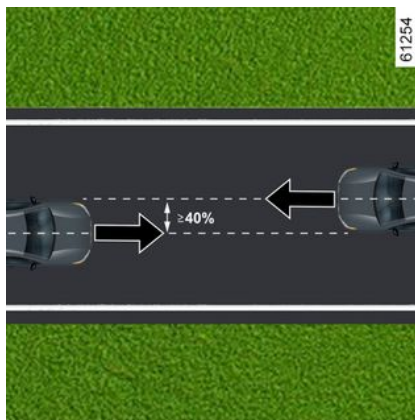
できるだけ早くルノー正規サービス工場での点検をお受けください。

点検整備が遅れると、万一の事故の際に十分な乗員保護効果が得られない恐れがあります。

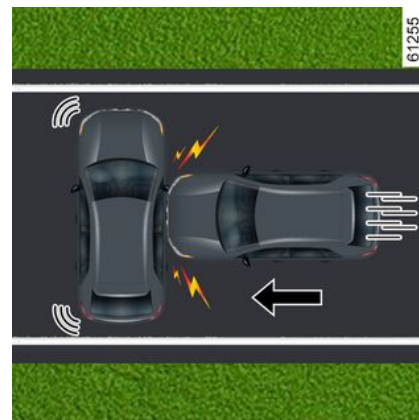


次の場合には、プリテンショナまたはairbagsが作動します。

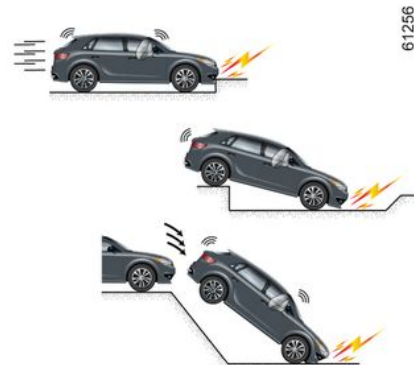
25 km/h以上の衝撃速度での硬質表面（変形していない）に対する正面衝突。



自車両の同等以上のカテゴリーに属する他車両と正面衝突した場合に、衝突面積が40%以上で、両車両の速度が40 km/hを超えている場合。



同等またはそれ以上のカテゴリーの他の車両との側面衝突時に、衝突速度が50 km/hを超える。



補助の安全装置

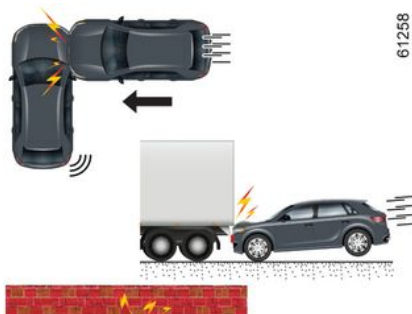
プリテンショナまたはairbagsは、以下のような場合にトリガーされることがあります。

- (舗装縁石に乗り上げたなどにより) 車両底部に衝撃が及んだ場合。
- 穴
- 車両が落下または硬着陸した場合。
- 石
- ...



以下のような場合には、プリテンショナまたはairbagsがトリガーされることがありません。

- 車両後方からの激しい衝突の場合。
- 車両の転倒
- ...



- 車両の前方または後方で側面から衝突された場合。
- ローリーのテール下で前方から衝撃を受けた場合。
- 鋭い角度の障害物に対する前部衝突
- ...

補助の安全装置

警告

airbag 作動の妨げを防止し、作動時の物体飛散による重傷を防ぐため、下記の注意事項は必ず守ってください。



ドライバーのairbag

- ステアリングホイールやボスを絶対に改造しないでください。
- どんな状況においてもステアリングホイールボスに物を被せないでください。
- ステアリングホイールボスには異物（ステッカー、ロゴマーク、時計、スマホホルダーなど）を着けないでください。
- ステアリングホイールを絶対に取り外さないでください（指定サービス工場の技術者以外は絶対に行わないでください）。
- ステアリングには近づき過ぎないようにし、腕を少し曲げた状態になるよう運転席を調整します（詳しくは「運転位置調整」をご覧ください→49）。ステアリングの調節によりエアバッグの十分な展開スペースと正常な効力を得ることができます。

助手席の乗員に関連する警告airbag

- ダッシュボード上またはairbag付近に一切のもの（ステッカー、ロゴ、時計、携帯電話ホルダーなど）を取り付けたり、貼り付けたりしないでください。
- ダッシュボードと乗員の間には何も（ペット、傘、杖、缶、箱など）置かないでください。
- ダッシュボードの上またはシートの上に足を置かないでください。不安定な姿勢をとっていると、万一の事故の際、大ケガをするおそれがあります。また、乗車中はダッシュボードから頭や膝、腕などをできるだけ離してください。
- 衝突時の乗員保護のため、チャイルドシートを取り外したらずぐに、エアバッグと助手席シートベルトを再有効化してください。

チャイルドシートを助手席に後ろ向きに設置するときは、必ずフロントシートベルト補助拘束装置を解除してください
→76。

補助の安全装置

リアシートベルト補助拘束装置

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。



- 万一車両が事故にあった場合は、指定サービス工場 で 全拘束装置の

点検を受けてください。

- システム各部（エアバッグ、電装品コントロールユニット、配線）を対象とする作業は禁じられています。また、システム構成部品を他車両（同一モデルを含みませ）に再使用することも絶対にお止めください。

- 突然作動により負傷する恐れがあるため、エアバッグを対象とする作業は、必ず、Renaultの有資格作業員にお任せください。

サイドプロテクションシステム

サイドエアバッグ

サイドエアバッグは運転席および助手席用にひとつずつ装着されており、側面から強い衝撃があった場合にシート側面（ドア側）からエアバッグが展開して乗員を保護します。

カーテンエアバッグ

前後席の両ドアサイド頭上からカーテンを閉めるように展開するエアバッグで、側面から強い衝撃があった場合に乗員を保護します。



車両によっては、フロントウインドーにマークが貼られている場合は、室内に補助拘束システム（エアバッグ、プリテンション等）が装備されていることを示しています。



サイドエアバッグに関する注意事項

- シートカバーの装着:

エアバッグ装備シートには車両専用のカバーが必要です。販売されているシートカバーの種類については、ルノー正規代理店にお問い合わせ下さい。販売されているシートカバーの種類について

は、ルノー正規代理店にお問い合わせ下さい。専用のシートカバー以外のシートカバーを着用した場合（またはほかのモデルの専用カバーを着用した場合）は、サイドバッグの正しい作動を妨げ、乗員の保護ができなくなるおそれがあります。

- フロントシートでは、アクセサリや物やペットなどを、背もたれ、ドア、インテリアトリムの間に置かないでください。また背もたれには衣類などを掛けしないでください。エアバッグの効果的な作動を妨げ、乗員を負傷させるおそれがあります。

- シートや内装品の手入れや改造は、正規整備工場の有資格作業員に限り実施できます。

補助の安全装置

乗員補助拘束システム

エアバッグの膨張を妨げず、また膨張時の衝撃で負傷しないための注意事項



エアバッグはシートベルトの機能を補完するためのものです。エアバッグとシートベルトは、乗員保護システムに不可欠な部品です。従って、シートベルトは必ず常時着用してください。シートベルトを着用しないと、事故の際に乗員が重傷を負う恐れがあります。擦り傷といった軽微な怪我はエアバッグ作動に付き物ですが、シートベルト非着用だとその危険性が高まる恐れもあります。

転倒や後面衝突の際は、激しくても必ずプリテンショナーやエアバッグが作動するわけではありません。歩道への乗りあげ、車道の穴、石などによる車両の下からの衝撃によってエアバッグが展開してしまうことがあります。

- エアバッグシステム各部（エアバッグ本体、プリテンショナー、コントロールユニット、廃線ハーネスなど）を対象とする**作業や改造は、必ず、認定ディーラーの有資格作業員にお任せください。**
- システムを正常作動状態に保ち、負傷の原因にもなり得るシステムの誤作動を避けるため、エアバッグシステムを対象とする作業は、必ず Renault の有資格作業員にお任せください。
- 安全のため、事故、盗難、破損などの発生後にはエアバッグシステムの点検をお受けください。
- 車両を販売または貸出する際には、この車両ユーザーマニュアルを引き渡す際に、これらの条件を新しい購入者に知らせてください。
- 車両を廃棄処分にする場合、エアバッグやプリテンショナーの起動装置に内蔵されたガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

子供を乗車させるとき

「概要」の項を参照してください

お子様を乗車させるとき

各国の法規を確実に遵守してください。

走行中は（たとえ短距離走行でも）、子供も、大人と同様に正しく着座し、身体を固定する必要があります。お子様を乗車させるときは、お子様の安全が確保されるように気をつけてください。

子供は大人の小型版ではありません。子供の筋肉や骨は成長期にあるため、特殊なケガをする危険にさらされています。お子様を乗車させるときは、シートベルトだけでは十分ではありません。適切なチャイルドシートを正しくご使用ください。



ドアが開かないようにするには、「チャイルドロック」機能を使用します➔33。



通常車速 50 km/h で衝突した場合、乗員は 10 m の高さから落ちたときと同じくらいの衝撃

を受けます。

したがって、子供をチャイルドシートに着座させないで走行することは、地上 4 階の手摺のないベランダでお子様を遊ばせているようなものなのです。

絶対にお子様を抱いて乗車しないでください。

事故の場合、たとえお客様がシートベルトを締めていてもお子様を保護することはできません。

走行中にお車が事故に巻き込まれた場合は、チャイルドシートを交換し、シートベルトと ISOFIX アンカーの点検を受けてください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

チャイルドシートの使い方

チャイルドシートが提供する保護レベルはチャイルドシートがお子様を支える容量と取付け方によって異なります。取付け方が悪いと、急ブレーキをかけたときや衝突時にお子様を保護することができません。

チャイルドシートを購入する前に、国の法規に適合していること、またお車に取付けられることを確認してください。お車に合ったチャイルドシートをお探しの場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

お子様の移動に関する規則は、各国に固有です。移動中のチャイルドシート

子供を乗車させるとき

の使用は、お子様の年数および / またはサイズおよび / または体重によって異なります。

チャイルドシートで移動する必要のないお子さまの場合、シートベルトが正しく調整され、締められていることを確認してください。

あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

チャイルドシートは、取扱説明書を読み、その内容に従って取り付けてください。取付け中に問題が発生した場合は、機器のメーカーまでお問い合わせください。取扱説明書はチャイルドシートと一緒に保管してください。

i シートベルトを締めるところをお子様に見せて、お子様に次のことを教えてください：

- 正しく取り付けること。
- 必ず、車道とは反対の歩道側から乗降すること。

中古のチャイルドシートや取扱説明書がない場合には使用しないでください。

チャイルドシートの中や近くに取付けの邪魔になるものがないか気をつけてください。



お子様を乗車させるときは、絶対にお子様から目を離さないでください。

お子様の身体が常にしっかり固定されていること、またハーネスやベルトが正しく調整されていることを確認してください。衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。ベルトが緩む恐れのある厚手の衣服の着用はお控えください→49。

お子様が窓から頭や手を出さないように気をつけてください。走行中は、お子さまがチャイルドシートに正しく着座していることを常にご確認ください（とくにお子さまが眠っているとき）。

チャイルドシートの選択

後ろ向きに取り付けるチャイルドシート



61260

乳児の頭は大人に比べ身体の割りに重く、首は衝撃に大変弱いので気をつけてください。お子様を乗車させるときは、できるだけ長い期間（少なくとも2歳まで）チャイルドシートを後ろ向きに取り付けてください。この向きだと頭部と首が保護されます。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。また、お子様の頭がチャイルドシートからはみ出さないうちに交換してください。

子供を乗車させるとき

前向きに取り付けるチャイルドシート



61261

体重18 kgまたは4歳までは、お子様を前向きに座らせて走行することができません。お子様のサイズに合わせてシートを選択してください。頭と腹部の保護が最も重要です。前向きに取り付けるチャイルドシートを車両にしっかり固定すれば、頭に衝撃が加えられる危険性が減ります。お子様を乗車させるときは、身長が使用可能な範囲内である限り、ハーネス付きの前向きに取付けるチャイルドシートに座らせてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。

ブースタークッション



61262

体重が15 kg（または4歳）になったら、シートベルトを身体に合わせることでできるブースタークッションが使用できます。シートベルトがお子様の腹部ではなく腿の上に来るようにするガイド付きのブースタークッションを使用してください。シートベルトが肩の中央にくるように、ベルトガイド付きの高さ調整可能な背もたれをお勧めします。シートベルトは絶対に首や腕にかからないようにしてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。

チャイルドシートの取付け方法の選択

チャイルドシートの取付け方法には、シートベルトを使う方法と、ISOFIX システムを使う方法の2種類があります。

シートベルトによる取付け

シートベルトは、急ブレーキをかけたときや衝突時に正常に作動するように、正しく調整してください。

チャイルドシートのメーカーによって指示されたベルトの通し方を守ってください。

チャイルドシートを押しながら、まずシートベルトの上部を引き、次にシートベルトをできるだけぴんと張ってシートベルトがしっかり締まっていることを必ず確認してください。

チャイルドシートを前後左右に動かして正しく取付けられているか確認します：チャイルドシートはしっかり固定されていなければなりません。

チャイルドシートが斜めに取付けられていないか、またウインドウに当たっていないか確認してください。

2

子供を乗車させるとき

2



チャイルドシート拘束用シートベルトが緩む危険がある場合はチャイルドシートを使用せず、設置する場合には、シートクッションがシートベルトのバックル／ストライカーの妨げとならない位置に設置してください。



シートベルトは絶対に緩めたりねじったりしないでください。シートベルトは絶対に腕の下や背中の後ろを通さないでください。シートベルトが鋭角部によって損傷していないか確認してください。シートベルトが正常に機能しないと、お子様を保護することができません。メーカーにお問い合わせください。シートベルトを修理するまでは、この座席は使用しないでください。

ISOFIX システムによる取付け

現行の規制に準ずる認定 ISOFIX チャイルドシートには次の4種類があります。

- ユニバーサル ISOFIX 3 点式（前向き）；
- セミユニバーサル ISOFIX 2 点式；
- 車両限定型チャイルドシート。
- 次のいずれかを備えている i-Size。
 - シートの3つ目のリングに取り付けられているベルト
 - 衝突時にチャイルドシートが動かないよう固定する役割を果たす、i-Size 認定シート対応の、車両フロア設置ストラット。

後者の3種類の場合は、適合する車両のリストを参照して、お手持ちのチャイルドシートがお車に取付けられるか確認してください。

ISOFIX ロック装備車両では、このロックを用いてチャイルドシートを固定します。ISOFIX システムは簡単、迅速で確実な取付けを保証します。

ISOFIX システムは2つのリング（3個の場合もあります）から構成されません。



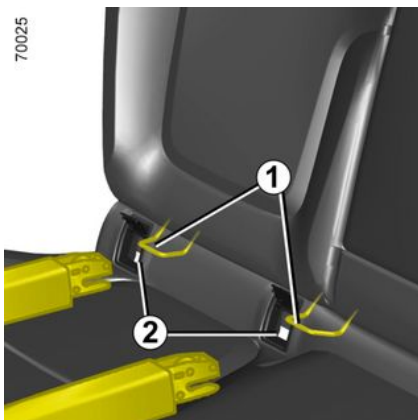
初めから車両に取り付けられている拘束システムコンポーネント（シートベルト、ISOFIX、シートおよび固定具）は絶対に改造しないでください。



他の車両用に購入した ISOFIX 対応チャイルドシートを使用する場合は、事前にお車への取付けが許可されているか確認してください。ISOFIX 対応チャイルドシートの取付けが可能な車両のリストについては、チャイルドシートのメーカーにお問い合わせください。

子供を乗車させるとき

70025



2個のリング **1** は、シートの背もたれとクッションの間にあり、印で識別できます。チャイルドシートをリング **1** 上に配置してロックするには、チャイルドシート固定具をアクセスガイド **2** に挿入します。



ISOFIX アンカーポイントは ISOFIX システム装備チャイルドシート専用です。絶対に他のチャイルドシートやシートベルトなどをこのアンカーに取り付けしないでください。アンカーポイントに邪魔なものがないか確認してください。
走行中にお車事故に巻き込まれた場合は、ISOFIX アンカーの点検を受け、チャイルドシートを交換してください。




前向きに取り付けるチャイルドシートの背もたれが車両のシートの背もたれに当たっていることを確認してください。この場合チャイルドシートは必ずしも車両のシートクッションの上に置かれているわけではありません。



チャイルドシートのベルトは、対応するリングに取り付ける**必要があります**。
それ以外の取り付けポイントは使用しないでください。

3つ目のリング **3** は、一部の ISOFIX チャイルドシートにある上部ストラップの固定に使用します。

リングはリアシートの後ろにあり、記号  で示されます。

ストラップフックを対応するリング **3** に取り付け、シートを希望位置に配置します。

チャイルドシートがシートの背もたれに密着するように、しっかりベルトを締め付けてください。

2

チャイルドシート

チャイルドシートの取り付け、 一般情報

一部の座席にはチャイルドシートを取り付けることができません。次のページの図をご覧になると、どの座席にチャイルドシートを取付けられるかが分かります。



お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

チャイルドシートやお子様
様の足が、フロントシートの正しい
ロックを妨げていないかご確認
ください➔40。

チャイルドシートがしっかり車両
に取り付けられており、外れるお
それがないことを確認してくださ
い。

ヘッドレストを取り外す必要があ
る場合は、正しい位置に収納され
ていることを確認してください。
そうでないと急ブレーキをかけた
ときや衝突時に飛び出すおそれが
あり危険です。

チャイルドシートは、使用しない
ときでも必ず車両に取り付けてく
ださい。固定されていないと、急
ブレーキをかけたときや衝突時に
飛び出すおそれがあり危険です。

言及されたタイプのチャイルドシート
はお求めになれません。他のチャイル
ドシートを使用する場合は、お車に取
り付けられるかどうか事前にメーカ
に問い合わせてください。

フロント

子供を助手席に座らせる場合の規定
は、国によって異なります。現行の法
律を調べて、次のページの図の表示に
従ってください。

チャイルドシートを助手席に取付ける
前に（認可されている場合）：

- シートベルトを一番下まで下げま
す。
- シートを一番後ろまで引きます。
- 背もたれを垂直位置から少し（約
25°）傾けます。
- シートクッションの高さを一番高く
します（高さ調整機能装備車の場
合）。

どのような場合でも、調整可能ヘッド
レスト装備車両の場合は、チャイルド
シートに干渉しないよう、シートヘッ
ドレストを完全に持ち上げます➔40。

チャイルドシートを取り付けた後、可
能であれば、必要に応じて、車両の
シートを前に出すことができます（後
部座席の乗員や他のチャイルドシート
に十分なスペースを与えるために）。
後ろ向きのチャイルドシートについ
ては、ダッシュボードに接触したりシ
ートを最も前に出した位置にしないで
下さい。

チャイルドシートを取り付けた後で、
上記の調整を変更しないでください。

チャイルドシート



死亡または重傷の危険あり: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化 → 76 されているか確認してから助手席に取り付けてください。

後部座席に取付ける場合

ベビーシートは車両に対して横向きに少なくとも2席を使用して置きます。お子様の頭が車両中央側に向くように装着します。

後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートをできるだけ後ろに動かします。

前向きに座っているお子様の安全を確保するために、お子様の前にあるシートは後ろいっぱいには引かないでください。また、背もたれを前に移動させて、シートとお子様の足が接触しないようにしてください。

どのような場合でも、チャイルドシート設置先後部座席のヘッドレストは取り外してください → 40。必要に応じて、シートを最大限後方に引きます。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。

チャイルドシートは、車両のシートの背もたれに押し当てられていることを確認してください。



ブースタシートの取り付け (グループ2またはグループ3)

シートベルト → 49 が正しく作動する (巻き取られる) にご確認ください。

次のようになるようシートベルトを調整します:

- 肩部ベルトの位置は、お子様の肩付近の、首には触れない位置にしてください。
- 腰ベルトが腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

必要に応じてシートベルトの位置を調整してください。



チャイルドシートやお子様の足元が、→ 40 または → 46 の前でシートを定位置にロックする妨げとならないか確認します。



フロアサポート付きのチャイルドシートは、後部中央座席には設置しないでください。
死亡または重傷のおそれ。



お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

このソートに ISOFIX 対応チャイルドシートを取り付けるには、手でセンターベルトを外してからロックを取り付けます。

チャイルドシート


シートベルトによる取付け


2

取付け図



70117

 乗員が着座する前またはチャイルドシートを取り付ける前にairbagの状態を確認してください。

 チャイルドシートの取り付けが禁止されている座席。

チャイルドシートをシートベルトで取付ける場合

チャイルドシート

U 「汎用」認定チャイルドシートをシートベルトで取り付けることができる機能を備えた座席。

B2 「B2」認定取得チャイルドシートをシートベルトで取り付けられる座席。



死亡または重傷の危険あり: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化 → 76 されているか確認してから助手席に取り付けてください。



お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。



お子様の身体が常にしっかり固定されており、使用中の安全ハーネスやベルトが正しく設置および調整されているか確認してください → 49。
必要に応じて、シートの位置を調整します。

チャイルドシート

取付け情報表

下表は、現行の規制に従うために必要な、取付け図上の情報をまとめたものです。

チャイルドシートのタイプ	子供の体重	フロントシート助手席		リアシート 両サイド	リアシート 中央
		airbag が無効化されている状態	airbag が有効化されている状態		
横置き乳児用シート グループ0	< 10 kg 未満	X	X	U (2)	X
後ろ向き乳児用シート グループ0または0+	< 10 kg まで、および < 13 kg まで	U (1) (5)	X	U (3)	U (3)
ベビーシート／後ろ向きチャイルドシート グループ0+および1	13 kg 未満および 9～18 kg	U (1) (5)	X	U (3)	U (3)
前向き取付けチャイルドシート グループ1	9～18 kg	X	U (5)	U (4)	U (4)
シートリフター グループ2および3	15～25 kg および 22～36 kg	X	U / B2 (5)	U / B2 (4)	X



(1) **死亡または重傷の危険あり**: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、助手席 airbag が無効化されている → 76
か確認してからこのシートに取り付けてください。

X = この種類のチャイルドシートを取り付けるのに適さない座席。

U = 「汎用」認定チャイルドシートをシートベルトで取り付けられる座席。取り付けが可能かご確認ください。

B2 = グループ2 および3 (15 kg から 25 kg までおよび 22 kg から 36 kg まで) のブースターシート。

チャイルドシート

(2) キャリコットは、少なくとも2席を使用し、車両に対して横向きにすることで取り付けることができます。お子様の頭が車両中央側に向くように装着します。

(3) 必要であれば、車両のシートをできるだけ後ろに配置します。後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートをできるだけ後ろに動かします。

(4) チャイルドシートを取り付けたリアシートのヘッドレストは必ず取り外してください。これはチャイルドシート → 46 を取り付ける前に行う必要があります。お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないようにします。

(5) 車両のシートを後ろいっぱいにして座面を最高位置にし、背もたれを若干倒します（25°程度）。

チャイルドシート

ISOFIX システムによる取付け

2

取付け図



70119



お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。

チャイルドシート



このタイプのチャイルドシートを取付けることが禁止されている座席。

ISOFIX システムを用いて取り付けるタイプのチャイルドシート



ISOFIX または i-Size チャイルドシートを取り付けることができる機能を備えた座席。



フロントシートおよびシリアシートには、ISOFIX 汎用前向きチャイルドシート取付け用アンカーポイントがあります。アンカーポイントは、前部座席の乗客の背もたれおよび後部座席の座席の背もたれに配置されます。



死亡または重傷のおそれ：

後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付ける際には、必ず airbag が無効化 → 76 されているかご確認ください。



お子様の身体が常にしっかり固定されており、使用中の安全ハーネスやベルトが正しく設置および調整されているか確認してください → 49。

必要に応じて、シートの位置を調整します。

チャイルドシート

取付け情報表

2 下表は、現行の規制に従うために必要な、取付け図上の情報をまとめたものです。

チャイルドシートのタイプ	子供の体重	[Gabarit] シートのサイズ	フロントシート助手席	リアシート 両サイド	リアシート 中央
横置き乳児用シート グループ 0	< 10 kg 未満	L1 [F] L2 [G]	X	X	X
後ろ向き乳児用シート グループ 0 または 0+	< 13 kg	R1 [E]	X	IL (1)	X
後ろ向きチャイルドシート グループ 0+ または 1	13 kg 未満および 9~ 18 kg	R3 [C] R2 [D]	X	IL (1)	X
前向き取付けチャイルドシート グループ 1	9 ~ 18 kg	F3 [A] F2 [B] F2X [B1]	X	IUF - IL (2)	X
シートリフター グループ 2 または 3	15 ~ 25 kg およ び 22 ~ 36 kg	B2	X	IUF - IL (2)	X
i-Size 装備シート	後ろ向きチャイルドシート		X	i-U (1)	X
	前向き取付けチャイルドシート		X	i-UF (2)	X
	シートリフター		X	i-UF (2)	X

X = チャイルドシートの取付けに適さない座席。

IUF = 「汎用または車両限定型」チャイルドシートを ISOFIX システムを用いて取り付けることが認められている座席。この座席の装備車両においては、取り付けが可能かご確認ください。

チャイルドシート

IL = 「準汎用または車両限定型」チャイルドシートを ISOFIX システムを用いて取り付けることが認められている座席。この座席の装備車両においては、取り付けが可能かご確認ください。

i-U = 「汎用」前向きおよび後ろ向き i-Size 拘束装置に適しています。

i-UF = 「汎用」前向きおよび後ろ向き i-Size 拘束装置にのみ適しています。

(1) 必要であれば、車両のシートをできるだけ後ろに配置します。後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートをできるだけ後ろに動かします。

(2) チャイルドシートを取り付けたリアシートのヘッドレストは必ず取り外してください。これはチャイルドシート → 46 を取り付ける前に行う必要があります。お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないようにします。

ISOFIX 対応チャイルドシートのサイズはアルファベット 1 文字で示されます：

- F3、F2、F2X [A, B, B1]: グループ 1 (9 kg から 18 kg) 用の前向きチャイルドシート。
- B2]: グループ 2 および 3 のリフタ (15~25 kg、22~36 kg)。
- R3、R2 [C, D]: グループ 0+ (13 kg 未満) またはグループ 1 (9 kg から 18kg) 用の前向きチャイルドシートまたはシェルシート。
- R1 [E]: グループ 0 (10 kg 未満) またはグループ 0+ (13 kg 未満) 用の後ろ向きシェルシート。
- L1、L2 [F, G]: グループ 0 (10 kg 未満) 用のキャリコット。

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

注意



助手席airbagは、**車両を静止させイグニッションスイッチをOFFにした状態でのみ有効**または無効化できます。

助手席エアバッグ作動解除



チャイルドシートを助手席に取り付けるときは、以下のことに注意してください。


– 該当するシートにチャイルドシートを取り付け可能であることを確認します。

– 後ろ向きのチャイルドシートの場合、エアバッグの**作動を解除**する必要があります。



l'airbag を無効化するには、**車両を静止させ、イグニッションスイッチをOFFにした状態で、ロック1をOFF位置まで押し回します。**

イグニッションスイッチをオンにして

から、ディスプレイ2に  警告灯が点灯することを**必ず確認**します。

この警告灯は点灯したままとなり、助手席へのチャイルドシートの装着が可能であることをドライバーに知らせます。



危険

後ろ向きチャイルドシートは、どの位置でも助手席エアバッグ作動の妨げとなるため、有効な助手席**AIRBAG**で保護されているシートに後ろ向きチャイルドシート拘束装置を取り付けるのは**絶対にお止め**ください。これを怠ると、**お子様が死亡したり、重傷を負ったりする恐れ**があります。



お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動



ダッシュボード上にある各マークや、助手席サンバイザー 3 の各サイドにあるラベル A（詳しくは上記ラベルをご覧ください）は、これらの指示についてお知らせするためのものです。


助手席エアバッグを作動させる




チャイルドシートを助手席から取り外したら、衝撃を受けた際に助手席乗員の安全を確保するため、必ずすぐに助手席airbagを再び作動させてください。



airbag を再始動するには、車両を停止し、イグニッションスイッチを OFF にした状態で、ロック 1 を ON 位置まで押し回します。

イグニッションスイッチを ON にした状態で、 警告灯が消えているこ



と、始動のたびに  警告灯がディスプレイ 2 に約 60 秒間表示されることをご確認ください。

助手席airbagが作動するようになりました。

作動異常

助手席airbag作動停止システムに故障が発生した場合、インストルメントパ

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

2
ネルに   警告灯が表示されます。イグニッションをオフにし、ロック**1**の位置を確認します。

イグニッションを再びオンにします:
警告灯が消灯します。

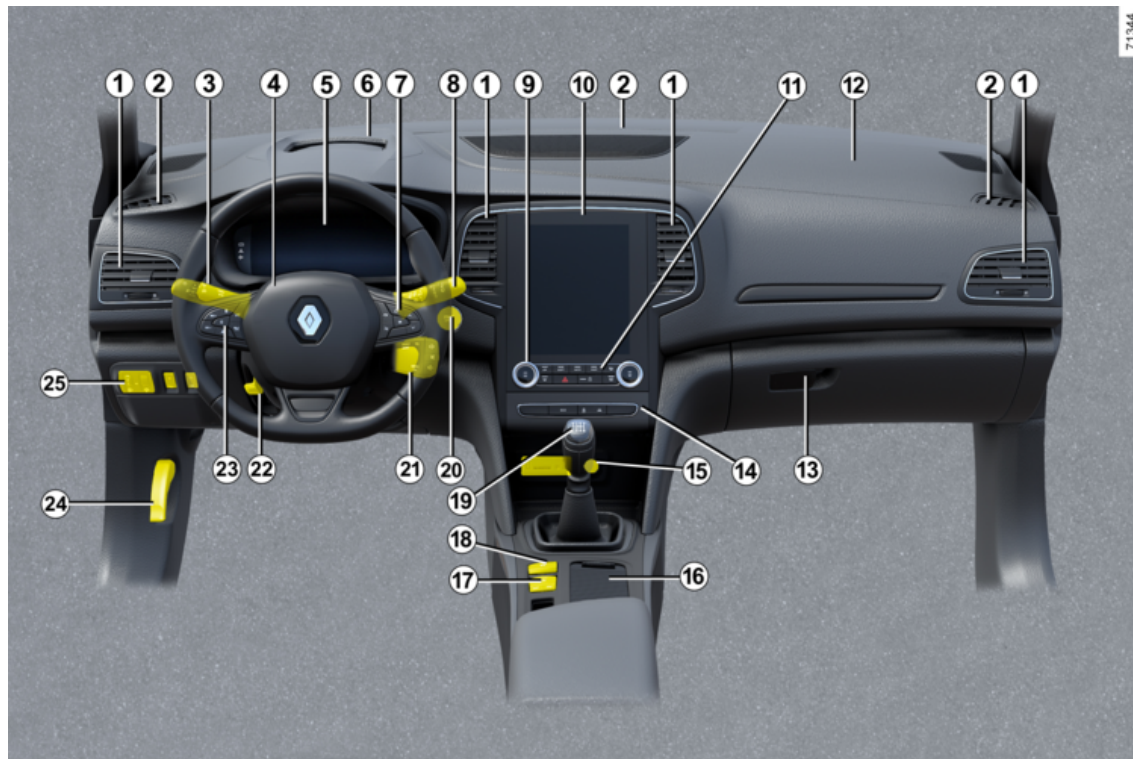
問題が解決しない場合は、システム障害を通知します。この場合、助手席に後ろ向きのチャイルドシートを装着したり、他の乗客が座席を占有したりすることは禁止されています。

できるだけ早くルノー正規サービス工場でお点検をお受けください。

ドライビングポジション

左ハンドル車運転席レイアウト

2



ドライビングポジション

次に記載した装備は車両バージョンおよび国によって異なります

1. 換気装置。

2. デフォッガー。

3. レバー：

- 方向指示灯；
- ヘッドランプ；
- リアフォグランプ。

4. 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。

5. インストルメントパネル。

6. ヘッドアップディスプレイ。

7. スイッチ：

- トリップメーター情報読み上げと車両設定カスタマイズメニュー。
- リモートラジオとナビゲーションシステム。

8. 前後ワイパ／ウインドウウォッシャー操作レバー

9. ヒータ／エアコンコントロール

10. マルチメディア画面。

11. スイッチ：

- ハザードランプ；
- 電動ドアロック。

12. 助手席エアバッグ収納部airbag。

13. グローブボックス

14. スイッチ：

- フロントヒータシート
- ベンチレーテッドフロントシート、
- ECO モード（装備車両のみ）の有効化／無効化。
- パーキングアシストシステムの有効化／無効化。
- Stop and Start機能の作動 / 作動解除。
- 車線離脱警告。

15. アクセサリとマルチメディアソケット。

16. 室内／カップホルダー

17. スイッチ：

- アシストパーキングブレーキを作動させます。
- AUTOHOLD機能の作動 / 作動解除。

18. MULTI-SENSE または RS Drive の制御。

19. シフトレバー

20. エンジンのスタートストップボタン（カード仕様車）。

21. イグニッションスイッチ（キー仕様車）。

22. ステアリングホイール調整レバー

23. クルーズコントロール / スピードリミッター、アダプティブクルーズコントロール、および「レーンセンタリング」機能のメインスイッチおよびコントロール。

24. ボンネットアンロックスイッチ

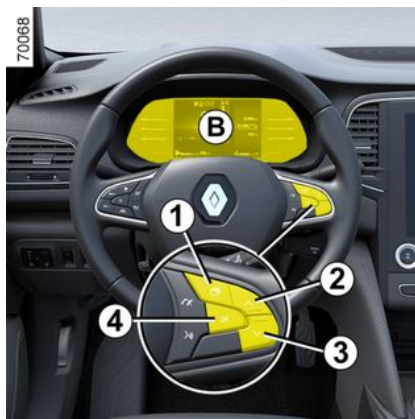
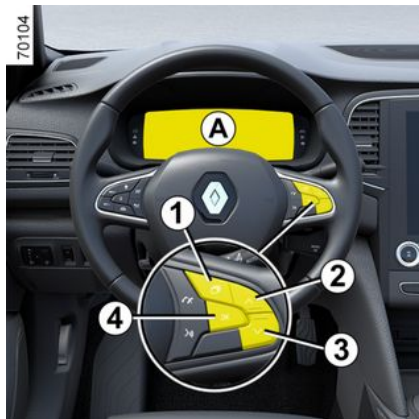
25. スイッチ：

- ヘッドランプの光軸調整
- メーターパネルの照度調節
- 「My Safety」機能。
- テールゲートの開放。
- 燃料タンクカバーのロック解除


オンボードコンピューター

「概要」の項を参照してください

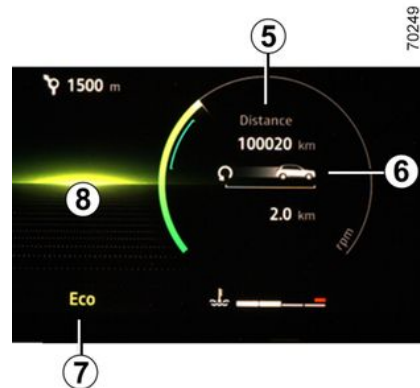
トリップコンピュータ A または B



車種によっては、次の機能が装備されています：

- 走行距離。
 - オンボードコンピューター設定。
 - 情報メッセージ
- ( 警告灯に関する) 作動不良メッセージ。
- (**STOP** 警告灯に関する) 警告メッセージ。
- 車両設定: カスタマイズメニュー
→ 94。

トリップコンピュータ装備車両 A



この機能は、ゾーン 5、6、7 および 8 に分散されています。ゾーンの位置は、選択したスタイルによって異なります。

スイッチ 1 を押してゾーンを選択し、2 または 3 スイッチを繰り返し押して機能を選択したら、必要に応じて、スイッチ 4 「OK」を押して確定します。

オンボードコンピューター

トリップコンピュータ装備車両 B

63473



機能はゾーン **9** とゾーン **10** に分散されています。

スイッチ **1** を押してゾーンを選択し、**2** または **3** スイッチを繰り返し押して機能を選択したら、必要に応じて、スイッチ **4** 「OK」を押して確定します。

選択

(表示される情報は車両の装備レベルと国によって異なります。)

- f) 走行距離ログ、作動不良および情報メッセージの表示。
- b) 現在の燃料消費量および平均燃料消費量。
- c) トリップメータおよび平均速度。
- d) タイヤ空気圧をリセット。

- e) 時刻を設定。
- f) 整備までの航続距離:
 - 整備までの航続距離。
 - オイル交換時期
- g) 残存試薬から見た概算航続距離。

トリップメーターと走行パラメーターのリセット (リセットボタン)

走行パラメーターの1つを選んで表示し、**4** 「OK」スイッチを長押しして表示をゼロにリセットします。

走行パラメーターの自動リセット

各種走行パラメーターのいずれかが容量を超えた場合は、自動的にリセットされます。

リセット後の表示値について

区間平均燃費、予想航続距離、区間平均時速の数値は、リセット後の走行距離が伸びるほど正確に算出されます。

リセットボタンを押してから最初の数キロメートルの間は、表示数値が走行につれて増加することがあります。これは最後のトップスタート後に実行された平均燃料消費がインプットされたためです。ただし、次の場合は平均燃料消費が減少します。





- 車両が加速を終えたとき
- エンジンが作動温度に達した時 (エンジン冷間時にリセット) ;

- 市街地から郊外の幹線道路へ移ったとき


オンボードコンピューター

行程に関する設定

2 上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

メニューの選択	選択された表示内容の説明
記憶メッセージはありません	a) 走行距離ログ。 次のものが順に表示されます： - 情報メッセージ（助手席 airbag OFF など）。 - 作動不良メッセージ（インジェクションシステム要点検など）。
 7.4 L/100	b) 現在の燃料消費量。 走行速度が約 30 km/h に達すると表示される数値。 平均燃費（前回のリセット後） 値はリセット後少なくとも 400 m 走行した後で表示されます。 c) トリップメーター: 直近のリセット以降における走行距離。
 5.8 L/100	
 112,4 km	
 123,4 km/h	
タイヤ空気圧をリセットするには長押ししてください	d) タイヤ空気圧をリセット→ 153。
16:30	e) 時刻を設定→ 96。

オンボードコンピューター

メニューの選択	
「整備までの後続距離」メッセージが表示されている車載コンピュータ	選択された表示内容の説明
あと 25,000km/12 ヶ月で整備	<p>d) 整備およびオイル交換までの航続距離。 オイル交換までの航続可能距離 イグニッションスイッチをオンにして、エンジンを始動せずに、「オイル交換までの航続可能距離」情報にアクセスします。オイル交換距離または時期が近づくと、次のようなシナリオが発生することがあります。</p>
整備まであと 300 km または 24 日未満	<p>– 残りの航続可能距離が1,500 kmまたは1か月未満: 「交換してください」メッセージが最も近い時期（距離または時間）とともに表示されます。 – 航続距離が0 kmに達したか整備日が到来している場合: メッセージ「要整備」が、警告灯  とともに表示されます。</p>
車両点検	<p>車両のオイル交換を出来るだけ早く実行しなければなりません。</p>
<p>リセット: 次回整備までの航続距離をリセットするには、次回整備までの航続距離が表示されるまで、ボタン OK をを約 10 秒間長押しします。</p> <p>注: エンジンオイルを交換しないで点検を行った場合、次の点検までの航続可能距離のみをリセットします。エンジン点検の表示の場合には、同時にオイル交換までの航続距離と点検時期の両方をリセットする必要があります。</p>	
あと 25,000km/24 ヶ月でオイル交換	<p>オイル交換までの航続距離 イグニッションスイッチをオンにして、エンジンを始動せずに、トリップ情報にアクセスして、「点検までの航続可能距離」情報にアクセスします。</p>
<p>車両によっては、オイル交換の航続可能距離は運転方法（頻繁な低速走行、ドアツードア、アイドリングの多用、トレーラーのけん引など）に応じて計算されます。そのため表示されるオイル交換までの走行距離が実際に走行した距離よりも早く減少することがあります。</p> <p>リセット: 次回整備までの航続距離をリセットするには、ディスプレイに、オイル交換までの航続距離が表示されるまでボタン OK を約 10 秒間長押しします。</p> <p>注: エンジンオイルを交換しないで点検を行った場合、次の点検までの航続可能距離のみをリセットします。エンジン点検の表示の場合には、同時にオイル交換までの航続距離と点検時期の両方をリセットする必要があります。</p>	

オンボードコンピューター

2

メニューの選択	選択された表示内容の説明
「整備までの後続距離」メッセージが表示されている車載コンピュータ	
2,400 km に達する前にアドブルー尿素水を使用してください	g) 燃料試薬から見た予想走行可能距離。

オンボードコンピューター

情報メッセージ

車両始動をサポートし、選択や走行状態に関する情報を提供します。


情報メッセージの例は以下のとおりです。


メッセージの例	選択された表示内容の説明
「パーキングブレーキをかけてください」	パーキングブレーキがかかっていることを示しています。
「ハンドルを回す + スタート」	車両のエンジン始動ボタンを押しながらステアリングホイールを少し回転させてステアリングコラムのロックを解除します。
「制御機能の確認」	イグニッションスイッチを ON にした時の車両自動点検時に表示されます。


オンボードコンピューター

故障メッセージ

2

これらのメッセージが  警告灯とともに表示されたら慎重に運転し、できるだけ速やかに認定ディーラにご連絡ください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

この種のメッセージは、ディスプレイの選択ボタンを押すか、または数秒間すると消え、ログブックにメモリーされます。警告灯  は点灯したままになります。システムの故障メッセージの例を以下に示します。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
「ディーゼルフィルタ要清掃」	フューエルフィルターに水が入っていることを示しています。至急指定サービス工場にお問い合わせください。
「要車両点検」	ペダルセンサー、バッテリー管理システムのセンサー、オイルレベルセンサーなどのうちどれか1つが故障していることを示しています。
「要エアバッグ点検」	乗員補助拘束システムに故障があることを示しています。事故の場合に正しく作動しない恐れがあります。
「排出ガスコントロールの確認」	<ul style="list-style-type: none">- エミッションコントロールシステムの不具合を知らせます。- 排出ガス削減システムに不具合があると、 → 120 警告灯も点灯します。

オンボードコンピューター

警告のメッセージ

これらのメッセージが警告灯 **STOP** と共に表示されたら急ブレーキは避けて周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。エンジンを停止し再始動させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

警告メッセージには以下のものがあります。**注意**：メッセージはディスプレイ上に単独で現われるか、または交互に現われます（複数のメッセージがある場合）。警告灯や警報音を伴う場合もあります。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
「エンジン故障のリスク」	インジェクションの故障、エンジン過熱、エンジンに重大な問題があることを示しています。
「ブレーキシステムの不具合」	ブレーキシステムの故障を知らせます。
「危険な電気系統における不具合」	車両のバッテリー充電回路（オルタネータなど）における電気系統の不具合または問題を示します。
「パンク」	少なくとも1本のタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示します。
「ステアリングの不具合」	ステアリングに問題があることを示します。

オンボードコンピューター

ディスプレイとメーター類

インストルメントパネルA

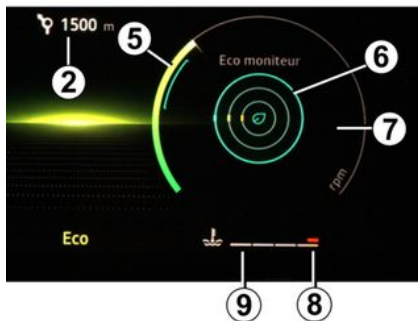


イグニッションスイッチをONにすると明るくなります。一部の警告灯の点灯と同時にメッセージが表示されることがあります。

インストルメントパネルのコンテンツと選択した色でカスタマイズできます。

マルチメディア画面を装備した車両については、装置の説明書を参照してください。


マルチメディア画面非装備車両の場合 → 94。



速度計 1

選択したスタイルに応じて、表示が異なります。

速度超過警告音

車両と国によっては、 警告ランプが表示され、警告音が鳴ります。この警告音は、車両が 120 km/h 以上で走行するとただちに鳴ります。この警告灯は、車速が 120 km/h を超えている限り点灯したままになります。

マルチメディア情報 2

車両によって、タッチ画面（コンパス、電話、ナビゲーションなど）から情報を表示できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

燃料残量に対する予想走行可能距離 3

この値は 400 m 走行後に表示されます → 82。

燃料計 4

燃料レベルが最小になると燃料警告灯



が黄色で点灯し、ブザーが鳴ります。できるだけ早く燃料を補給してください。

タコメータ 5

(目盛り x 1,000)

インストルメントパネルのカスタマイズの方法によって、この表示は異なります。選択したスタイルに応じて、表示されない場合があります。

運転スタイルインジケータ 6 → 148

トリップコンピューター 7 → 82

オンボードコンピューター

水温計 9

通常走行中にはインジケータ 9 がゾーン 8 を越えないよう注意します。「過酷な」走行条件下では、このゾーンに近づくことがあります。警告時には必ず

警告灯 **STOP** が点灯し、同時にメーターパネルにメッセージが表示されてブザーが鳴ります。

インストルメントパネル B



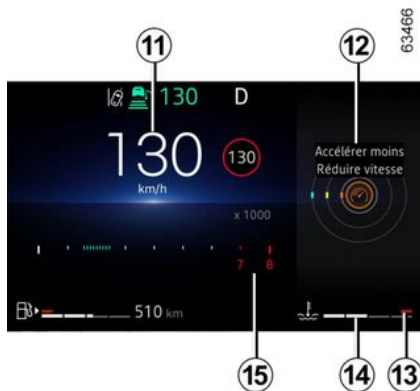
イグニッションスイッチを ON にすると明るくなります。

一部の警告灯の点灯と同時にメッセージが表示されることがあります。


車両によっては、インストルメントパネルを選択した色でカスタマイズできます。

ナビゲーションシステム装備の車両については、装備の取扱説明書を参照してください。

ナビゲーションシステム非装備車両 → 94。



速度超過警告音

車両と国によっては、 警告ランプが表示され、警告音が鳴ります。この警告音は、車両が 120 km/h 以上で走行するとただちに鳴ります。この警告灯は、車速が 120 km/h を超えている限り点灯したままになります。

速度計 11

選択したスタイルに応じて、表示が異なります。

運転スタイルインジケータ 12 → 148。

水温計 14

通常走行中にはインジケータ 14 がゾーン 13 を越えないよう注意します。

「過酷な」走行条件下では、このゾーンに近づくことがあります。

警告時には必ず警告灯 **STOP** が点灯し、同時にメーターパネルにメッセージが表示されてブザーが鳴ります。

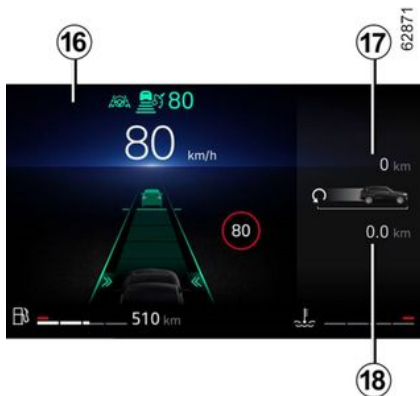
タコメータ 15

(目盛り x 1,000)

インストルメントパネルのカスタマイズの方法によって、この表示は異なります。選択したスタイルに応じて、表示されない場合があります。

オンボードコンピューター

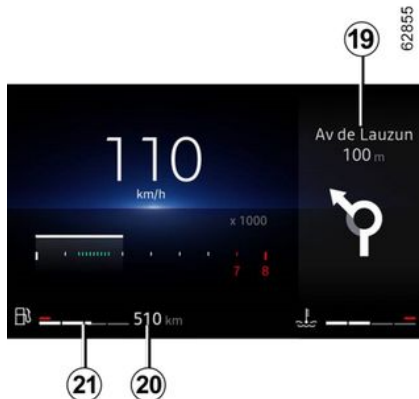
2



選択されている走行モードゾーン 16
→ 244

オドメータ 17 → 82

トリップコンピューターゾーン 18 → 82



マルチメディア情報 19


車両によって、タッチ画面（コンパス、電話、ナビゲーションなど）から情報を表示できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

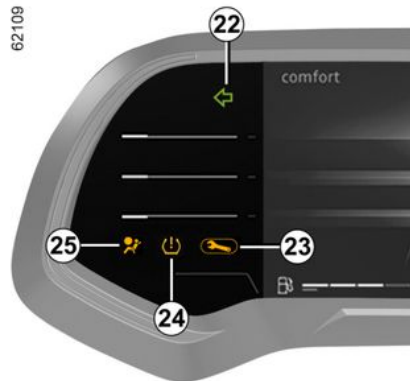
燃料残量に対する予想走行可能距離 20

この値は 400 m 走行後に表示されます
→ 82。

燃料計 21

燃料レベルが最小になると燃料警告灯  が橙色で点灯し、ブザーが鳴ります。

できるだけ早く燃料を補給してください。



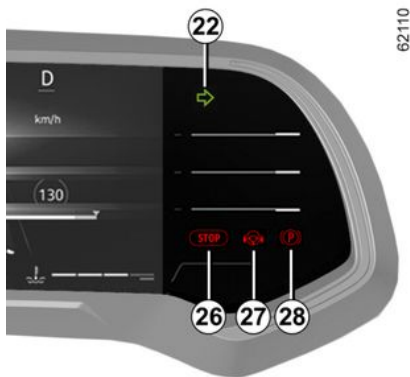
方向指示灯 22

警告灯 23 → 98

タイヤ空気圧低下警告灯 24 → 153

エアバッグ警告灯 25 → 54

オンボードコンピューター



緊急停止警告灯 26 → 98

「ハンズオフステアリングホイール」
検出警告灯 27 → 172 → 167

電動パーキングブレーキ警告灯 28
→ 136

エンジンオイルレベル下限警告表示



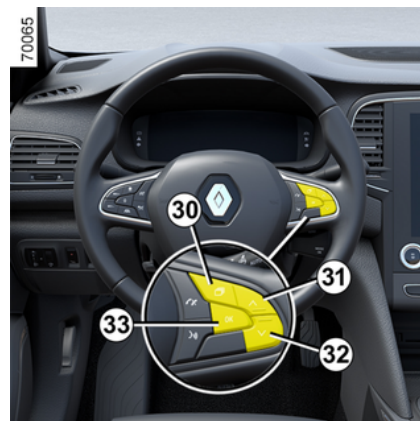
エンジン始動後にエンジンオイル残量が下限に達すると、インストルメントパネルに警告が表示されます → 282。

初回の警告表示は、スイッチ 33
「OK」を押すと消えます。

2回目からは警告は表示されてから約
30秒後に自動的に消えます。

マイル表示のインストルメントパネル

(km/h 表示に切り替え可能)



マルチメディア画面は装備していないがインストルメントパネル A は装備している車両

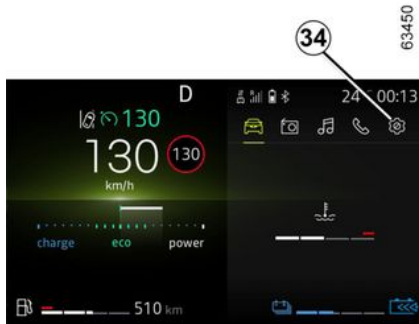
- イグニッションスイッチを OFF にした状態でスイッチ 30 を必要な回数だけ押し、「車両」タブにアクセスします。

- 制御装置 31 または 32 を繰り返し押し、「設定」メニューにアクセスし、スイッチ 33 「OK」を押します。

- 同じ操作を繰り返して「ダッシュボード」にアクセスし、「単位」を開きます。

オンボードコンピューター

マルチメディア画面は装備していないがインストルメントパネル B は装備している車両



- イグニッションスイッチを OFF にし、スイッチ **30** を必要な回数だけ押して「設定」領域 **34** にアクセスします。
- 制御装置 **31** または **32** を繰り返し押して「車両設定」メニューにアクセスし、スイッチ **33** 「OK」を押します。
- 制御装置 **31** または **32** を繰り返し押して「ダッシュボード」メニューにアクセスし、スイッチ **33** 「OK」を押します。
- コマンド **31** または **32** を押して「ユニット：km/h」（または反対側の

「ユニット：mph」）にアクセスし、スイッチ **33** 「OK」を押します。

マルチメディアディスプレイを搭載した車両。

ユニット選択の際には、マルチメディア取扱説明書をご覧ください。

注: 両方のケースで、バッテリーの接続を外すとオンボードコンピューターは自動的に工場出荷時の表示単位に戻ります。

前のモードに戻りたいときは、同じ作業を行ってください。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

車両調整のパーソナライゼーションメニュー

車両の装備に応じて、この機能は車両のいくつかの機能の作動と作動解除および調整を行います。

マルチメディア画面装備車両 1



設定メニューへのアクセス

さまざまな設定にアクセスする方法については、マルチメディアの指示を参照してください。

調整の選択

メニューを選択し、次に変更する機能を選択します（この表示は、車両装置および国に応じて異なります）：

- a) 「走行」：
 - インジケータの音量。
- b) 「アクセス」：
 - 運転席側ドアのロック解除
 - 走行中にドアを施錠します。
 - ハンズフリーモードでの開閉。

オンボードコンピューター

– リモートロック／車両接近時のロック解除。

- リモートロック音。
- サイレントモード。
- オートロック。

c) 「ワイパおよび照明」:

- フォローミーホーム照明。
- リバースでのワイパ。
- 自動フロントワイピング。
- 洗浄後に拭き取ります。

d) 「ようこそ」:

- 外装ウェルカム。
- ドアミラーの自動展開。
- 内装ウェルカム。
- カーテシーランプ自動モード

機能に応じて、次を選択します:

– 機能を有効化または無効化するための「ON」または「OFF」。

または

– ランプ点灯までの時間（「フォローミーホーム照明」機能の作動時間など）を調整するための設定。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

マルチメディア画面を搭載していない車両



インストルメントパネル B 装備車両のディスプレイ 2 上にある設定メニューにアクセスします

車両を静止させ、スイッチ 3 を必要な回数だけ押して「設定」領域にアクセスしたら、スイッチ 6 「OK」を押して確定します。

制御装置 4 または 5 を繰り返し押して「車両設定」メニューにアクセスし、スイッチ 6 「OK」を押して確定します。

調整の選択

制御装置 4 または 5 を用いて、以下に示すような、設定を変更したい機能まで移動し、制御装置 6 「OK」を押

して確定します（表示は、車両の装備や使用国に応じて変わる場合があります）。

a) 「インストルメントパネル」:

- 言語。
- ユニット。
- スタイル。
- 色。

b) 「車両」:

- リバースギアでのリアウィンドウワイパ。
- 自動フロントウィンドウワイピング。
- フロント／リアワイパのドリップワイブ機能。
- 外装ウェルカム。
- ECO モードでのフリーホイール。
- インジケータの音量。

c) 「パーキングアシスト」:

- ビープ音量。
- フロント障害物の検出。
- サイド障害物の検出。
- リア障害物の検出。

d) 「運転支援」:

- 車線離脱警報感度
- 車線離脱警報振動。
- 車線維持機能感度。
- 死角。
- 疲労警告。
- アクティブブレーキ。
- 速度警告。
- 距離の警告。

オンボードコンピューター

e) 「照明」:

- カーテシーランプ自動モード。
- 自動フォローミーホーム機能。
- 「フォローミーホーム」機能: XX秒。

(f) 「アクセス」:

- 走行中にドアを施錠します。
- 「ハンズフリー」モードでの開閉。
- 運転席側ドアの解錠。
- オートリロック。
- サイレントロック。
- 自動開閉。
- ドアミラーの自動展開。

g) 「リセット」:

機能作動

機能作動解除

該当行を選択したら、スイッチ 6 「OK」を押して該当機能の設定を修正します。

「運転支援」>「音量」または「インストルメントパネル」>「言語」の順に選択すると、「パーキングアシストの音量またはインストルメントパネルの表示言語」を選択できます。

この場合、希望設定を選択してスイッチ 6 「OK」を押して確定すると、該当

行の先頭に表示される により選択値が表示されます。

メニューを終了するには、スイッチ 4 または 5 を押して「戻る」にアクセスし、スイッチ 6 「OK」を押して確定します。

この操作を数回行なわなければならないことがあります。

i 車両調整のカスタマイズメニューは走行時には使用できません。

20 km/h 以上では、インストルメントパネルのモニタは自動的にオンボードコンピュータモードに移行します。

時計／外気温度計

マルチメディアディスプレイを搭載した車両。

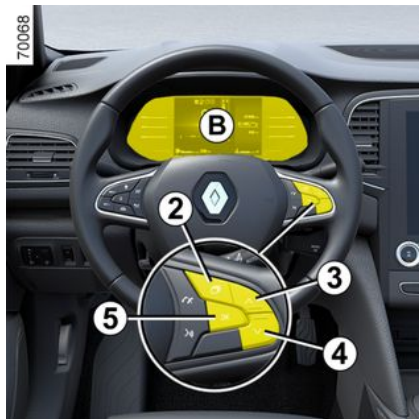


時刻と外気温がマルチメディア画面 1 上に表示されます。

マルチメディアの取扱説明書を参照してください。

オンボードコンピューター

マルチメディア画面は装備されておらず、**インストルメントパネル B** が装備されている車両




スイッチ **2** を必要な回数だけ押して「設定」領域にアクセスします。

制御装置 **3** または **4** を繰り返し押して「時刻設定」メニューにアクセスし、スイッチ **5** 「OK」を押します。

スイッチ **5** 「OK」を、時刻表示が点滅するまで長押しします。

制御装置 **3** または **4** を用いて「時」を設定しスイッチ **5** 「OK」を押して確定したら、制御装置 **3** または **4** を用いて「分」を設定しスイッチ **5** 「OK」を押して確定します。

 車両によっては、（バッテリーの切り離し、電源コードの破損などにより）給電が途切れた場合、システムが GPS 情報を受信可能になると、時計が数分後に自動で正しい時刻に戻ります。

外気温度計

専用装備:

外気温が -3°C から $+3^{\circ}\text{C}$ の範囲になると、 $^{\circ}\text{C}$ の文字が点滅し、路面凍結の危険性を知らせます。



外気温度計

凍結の条件は気候や湿度、温度により異なります。外気温の表示だけで凍結の有無を判断することはできません。



警告灯


2



インストルメントパネル A または B:
これは、運転席ドアを開けると点灯し
ます。

一部の警告灯の点灯と同時にメッセー
ジが表示されることがあります。

 警告灯  が表示さ
れたら慎重に運転しながら
できるだけ速やかに **ルノー正規
サービス工場** で点検を受けてく
ださい。このような推奨事項を遵
守されない場合は、車両が損傷
する恐れがあります。

 警告灯 **STOP** が点灯し
た場合、周囲の交通に注
意しながら直ちに安全な
場所に停車しなくてはなりませ
ん。エンジンを停止し再始動しな
いでください。正規サービス工場
にご連絡ください。



ビジュアルリターンまた
は音声がない場合に
は、インストルメント
パネルが故障していま
す。周囲の交通に注意しながら、
直ちに停車してください。車両が
固定されていることを確認して、
指定工場に連絡してください。

上述の情報のディスプレイは、車両の
装備と国によって異なります。



スモールランプ表示灯



ハイビーム表示灯



ロービーム表示灯



リアフォグランプ表示灯



オートハイビーム警告表示灯

→ 105



左方向指示器表示灯



右方向指示器表示灯



燃料残量警告灯


警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると黄色に点灯し、数秒後に消灯するか白で点灯します（車両による）。走行中に警告音と共に橙色に点灯した場合は、なるべく早く燃料を補充してください。最初に警告灯が点灯してから約 50 km 走行することができます。

警告灯

走行中に赤で点灯し、さらに **STOP** 警告灯が点灯する場合は、安全のために、交通条件が許す限り直ちに停止する必要があります。エンジンを停止し再始動しないでください。

正規サービス工場にご連絡ください。
走行中に黄色で点灯し、さらに

 警告灯が点灯する場合は、できるだけ速やかに正規サービス工場にお立ち寄りください。それまでは、**慎重な運転を心がけてください**。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

STOP 緊急停車警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この警告灯は、他の他の警告灯／メッセージと併せて表示され、ピープ音も伴います。

この警告灯が点灯したら周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車してください。エンジンを停止し再始動しないでください。

正規サービス工場にご連絡ください。

ブレーキ回路の故障警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。ブレーキを掛けたときに点灯し、同時

に警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合、ブレーキ回路のフルードレベルが低下しているか、またはブレーキシステムに異常があると思われる。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

バッテリー充電警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合は、電気系統の過電圧または放電を示しています。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

エンジン油圧警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中にこの警告灯 **STOP** が点灯して警告音が鳴る場合は、必ずただちに停車し、エンジンを切ってください。

走行中に点灯したときは、周囲の交通に注意しながら安全な場所に直ちに停車し、イグニッションスイッチを OFF にして、オイルレベルを点検してください。レベルが正常な場合は、表示灯は別の原因で点灯しています。

正規サービス工場にご連絡ください。

可変式パワーステアリング表示灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に警告灯 **STOP** と共に点灯した場合は、システムの故障です。正規サービス工場にご連絡ください。

警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この警告灯の点灯と同時に他の警告灯も点灯し、

警告灯

メーターパネルにメッセージが表示されることがあります。

この警告灯が点灯したら**慎重に運転しながら**できるだけ速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

ABS 警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に点灯したときは ABS に何らかの異常があることを意味します。

ブレーキシステムの機能は ABS 非装着車と同じになります。できるだけ早く指定サービス工場でお受けください。

横滑り防止装置 (ESC) とトラクションコントロールシステムの警告灯

イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

→ 159 警告灯はいくつかの理由で点灯する場合があります。

エミッションコントロール警告灯

装備車両の場合、エンジンを始動したとき、車種によっては、イグニッ

ションを OFF にしたとき (エンジンがスタンバイ状態にある場合) に点灯し、→ 128 消灯する前に以下のことを確認します。

- この警告灯が常時点灯している場合は、できるだけ早く認定ディーラーにご相談ください。

- 警告灯が点滅する場合は、消灯するまでエンジン回転数を下げてください。できるだけ早く正規代理店にご相談ください → 147。

エンジン冷却水温警告灯

イグニッションスイッチを ON にする、またはエンジンが始動すると赤で点灯します。

赤が点灯した場合は、停車して 1、2 分エンジンをアイドル回転させてください。

水温が下がるはずですが、下がらない場合はエンジンを停止します。水温が下がってからクーラントレベルを点検します。

正規サービス工場にご連絡ください。

次の機能に関する表示灯 airbag

エアバッグシステムが正常であれば、イグニッションスイッチを ON にするかエンジンを始動すると、インストルメントパネルの警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッションスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない、あるいはエンジンが始動しても点灯したままである場合、これはシステムに不具合があることを示しています。

できるだけ早くルノー正規サービス工場でお受けください。

プレヒーター警告灯 (ディーゼル車)

イグニッションスイッチ ON で点灯する筈です。この表示灯は、グロープラグが作動していることを示します。

この表示灯は予熱が完了すると消灯します。エンジンを始動できます。

ギア表示灯

この表示灯は、シフトアップ (上向き矢印) またはシフトダウン (下向き矢印) → 148 についてドライバーに知らせるために点灯します。

「AUTOHOLD」システム警告灯 → 140


ブレーキランプ警告灯


この警告灯は、ブレーキペダルを踏んだときに点灯します → 133。


電動パーキングブレーキ作動警告灯 → 136


警告灯


 ドア閉め忘れ警告灯

 エンジンがスタンバイ状態にならない場合 → 128



 エンジンスタンバイ利用不可警告灯 → 128



 ハンズオフステアリングホイール」検出警告灯 → 167 → 172



 電動パーキングブレーキ故障警告灯 → 232



 タイヤアンダーインフレーション警告灯



イグニッションスイッチまたはエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します → 153。



  車線逸脱監視システム警告灯（装備車両のみ） → 163

  車線逸脱防止または車線維持機能支援（装備車両のみ） → 172 または → 167

  アクティブ非常ブレーキが使用できないかブレーキに不具合が生じたことを示す警告灯（装備車両のみ） → 187


  スピードリミッタ警告灯（装備車両のみ） → 202


  クルーズコントロール警告灯（装備車両のみ） → 205


  アダプティブクルーズコントロール警告灯（車両の装備に応じて） → 209

ECO モード表示灯 ECO

これは、ECO モードが有効化 → 148 されると点灯します。

 フリーホイール表示灯 → 148

 排出ガス削減システムでの試薬レベルおよび不具合に関する警告灯 → 120


 パーティキュレートフィルタシステム警告灯 → 144 または → 142。

ディスプレイ C 上



 助手席エアバッグ ON → 76

 助手席エアバッグ OFF → 76

 運転席と助手席（車両タイプによります）シートベルト締め忘れ警告灯 → 49

ステアリング

ステアリング

2 ステアリングホイールの高さとお後位置の調節



レバー **1** を下げてステアリングホイールをご希望の位置に設定します。

続いてレバーをハードポイントの先まで上げて、ホイールを固定します。

ステアリングが確実にロックされたことを確認します。



安全のために、この調整は必ず停止時に行ってください。

パワーステアリング

バッテリーの充電が不十分なまま走行しないでください。

可変式パワーステアリング

車両には走行速度に応じてステアリングの操作力を自動的に調整する、車速感応式パワーステアリングが装備されています。

このシステムは、駐停車時などの低速走行中には、楽にステアリング操作ができるよう十分なパワーアシストを行い、高速走行中は、速度の上昇にしたがって安定した走行を行うためにパワーアシスト量を抑えます。

ストップアンドスタート機能

車種によっては、エンジンをスタンバイ状態にすると、ステアリングアシスト機能が作動しなくなる場合があります。この場合、エンジンを再始動するか、車速が約 1 km/h（登坂／降坂路など）を超えると、元の状態に戻ります。

注: パワーステアリングは、「MULTI-SENSE」メニュー（➔ 244）で選択した走行モードに応じて作動します。



ステアリングを左右どちらかいっぱい切った状態を長く保たないでください。



エンジン停止時またはシステムが故障した場合でも、ステアリングを回すことができます。ただし、より大きな力が必要です。



下り坂の走行中、および一般に走行中には絶対にエンジンを停止しないでください（パワーステアリングやエマージェンシーブレーキアシストが使用できなくなってしまう）。

ドア／ルームミラー

ドア／ルームミラー



調整

スイッチ **2** を用いてドアミラーを選択し、ボタン **1** で好みの位置に調整します。

ドアミラーデフロスター

ドアミラーのデフロスターはリアウィンドウのデフロスターと同時に作動します → 246。

ドアミラーの格納

車両をロックする（スイッチ **3** を **B** 位置にする）とリアビューミラーは自動的に折り畳まれます。

リアビューミラーはいつでも折り畳み（スイッチ **3** を **C** 位置にする）また

は展開（スイッチ **3** を **A** 位置にする）できます。

このときオートマチックモードはOFFになります。再有効化するには、スイッチ **3** を位置 **B** にします。



ルームミラーに映るものは見た目よりも近くにいます。安全のために、操作する前に距離を正しく認識することを考慮してください。

ウェルカム機能とグッドバイ機能

ウェルカム機能とグッドバイ機能を利用する場合は、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択する方法で機能を有効化または無効化します。

選択した内容によって、ドアミラーが折りたたまれます。

- 次にイグニッションスイッチを ON にする（機能解除）。
- カードが検出された場合、または車両が解錠されている場合（機能が作動している）。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

ルームミラー



レバー付きバックミラー 4

夜間走行中は、後続車両の灯火類による眩惑を防止するため、ルームミラーの裏側にある小さなレバー **4** を手前に引きます。

レバーなしのバックミラー 4

後続車のビームがまぶしいとき、またはランプがまぶしいときは、ルームミラーは自動的に暗くなり防眩します。

ドア／ルームミラー



助手席 airbag の有効化／
無効化情報はディスプレイ
5 ➔ 76 に表示されます。

2

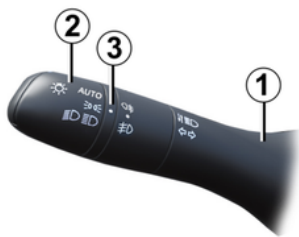
ランプ類


灯火類



スモールランプ

70960



 リング 2 を回してマーク 3 に合わせます。

メーターパネルの警告灯が点灯します。

注:車両によっては、パーキングブレーキがかかっているとき、またはシフトレバーがP位置にあるときのみ、スモールランプを手動で点灯できます。

それ以外の場合は、メッセージ"ポジションランプ点灯不可"がインストールメントパネルに表示され、スモールランプを点灯できないことが示されます。

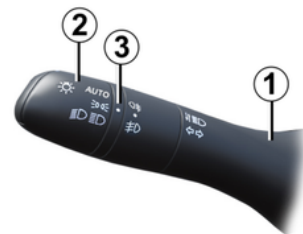
ランニングデイトライトの点灯

日中走行用ライトは、エンジンを始動すると（特にレバー 1 を操作しなくても）自動的に点灯し、エンジンスイッチを OFF にすると自動的に消灯します。

2

ロービーム

70960



手動での作動

リング 2 を回してマーク 3 に合わせます。メーターパネルの警告灯が点灯します。

オートマチック機能

(車種によります)


リング 2 を、AUTO 記号がマーク 3 に合うまで回します。この状態でエンジ

ランプ類

2
ンスイッチを ON にすると、ロービームは、レバー **1** を操作しなくても、灯火類の輝度に応じて自動的に点灯または消灯します。

車両によっては、ロービームの自動作動機能が搭載されています（フロントワイパブレードが数回作動した後、自動的に作動）。


ハイビーム：


 エンジンが回転し、ロービームが点灯しているときに、レバー **1** を押します。メーターパネルの警告灯が点灯します。

ロービームに戻すには、もう一度レバー **1** を手前に引きます。

メインビームヘッドランプの非作動中、ディップビームヘッドランプは元の位置に戻ります。

ハイビームオートライト機能

 車両によって、このシステムは、ハイビームを自動的に点灯または消灯させます。この機能は、ルームミラーの後ろにあるカメラを使い、後続車両や対向車両を認識します。

 このシステムは、何らかの状況によって妨害されることがあります。とりわけ：

- 過酷な気候条件下で（雨、雪、霧…）；
- フロントウィンドウ、またはカメラの視界が遮られているとき；
- 後続車両あるいは対向車両のライトがほとんど見えない、または遮断されているとき；
- ヘッドランプの光軸調整されていない
- システムが反射の影響を受けている場合。
- ...

以下の場合、ハイビームが自動的に点灯します：

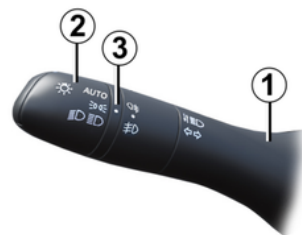
- 灯火類の輝度が低い場合。
- 他の車両やライトが認識されないと
- 車両の時速が約 40 km/h 以上になったとき。

以上の条件のうち1つでもが満たさないものがあれば、このシステムは再びロービームに切り替えます。

注：フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。


ON/OFF

70960



自動ハイビームシステムを作動させるには：

- リング **2** を、AUTO 記号がマーク **3** と合うまで回します。
- レバー **1** を押します。

メーターパネルの表示灯  が点灯します。

自動ハイビームシステムを作動解除するには：

- レバー **1** を手前に引きます。
- または、リング **2** を AUTO 以外の位置に回します。

インストルメントパネルの表示灯

 が消灯します。

ランプ類

注：フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

作動異常

「要自動照明确認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示された場合、システムは無効化されています。

メーカーにお問い合わせください。



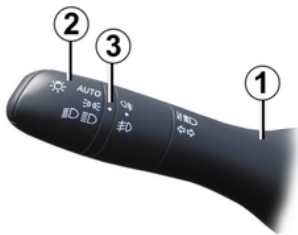
夜間に、カメラの下フロントウィンドウ部分で携帯型ナビゲーションシステムを使用すると、フロントウィンドウへの光反射により、「自動ハイビーム」システムの作動の妨げとなることがあります。



「自動ハイビーム」システムは、ドライバーが行うべき注意を代行するのではなく、車両の照明の操作責任や、周辺の明るさ、見やすさ、道路状況などに応じて車両を操作する責任はドライバーにあります。

ランプの消灯

70960



- エンジンを停止して運転席ドアを開くか車両を施錠するとライトは消えます。この場合、次にエンジンを始動するときのリング 2 の位置に応じてランプが点灯します。

注：この場合、フォグランプは点灯しており、自動的に消灯しません。

ライト消し忘れ警告アラーム音

エンジンを停止した後にランプを点灯した場合、運転席側ドアを開けると警告ブザーが鳴り、ランプが点灯していることを知らせます。

作動異常

照明に不具合があると、その証として、「照明要点検」というメッセージ

が表示され、 警告灯と  警告灯がインストルメントパネル上で点滅します。

正規サービス工場にご連絡ください。

ウェルカム機能とグッドバイ機能

(車種によります)

機能が作動すると、カードが検知されるか車両が解錠されたときに、デイトイランニングランプとリアサイドランプが自動的に点灯します。

照明は以下の場合に自動的に消灯します：

- 点灯してから約 1 分後に。
- エンジンが始動したとき (照明制御レバーの位置に応じて)。

または

- 車両の施錠時。

機能の起動／作動解除

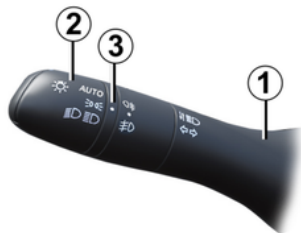
アウターウェルカム機能を有効または無効にするには、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

ランプ類


「フォローミーホーム」機能


70960



この機能によりサイドランプとロービームが一時的に点灯します（玄関口を照らす等）。

エンジンを停止して消灯し、リング 2 が AUTO 位置にある状態でレバー 1 を手前に引きます。すると側灯とロー

ビームが約 30 秒間点灯し、 警

告灯と  警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

この時間を延長するには、レバーを最大 4 回まで手前に引くことができます（最長約 2 分）。

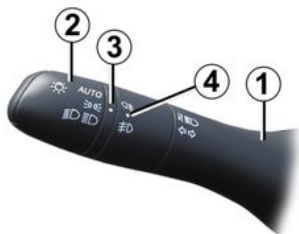
操作の証として、「 中に点灯」というメッセージが、点灯時間とともに


インストルメントパネル上に表示されます。次に、車両を施錠できます。

自動消灯前に照明を消すには、リング 2 を他の任意の位置まで回してから位置 AUTO に戻します。

フロントフォグランプ


70960



 記号がマーク 3 と合うまで、レバー 1 中央のリング 4 を回して、その後解放します。

ランプはスイッチリング上で選択されたとおりに点灯します。選択されたランプが点灯すると同時にメーターパネル上のマークも点灯します。

リアフォグランプ

 レバーの中央リング 4 がマーク 3 に向くまで回してから、放します。


ランプはスイッチリング上で選択されたとおりに点灯します。選択されたランプが点灯すると同時にメーターパネル上のマークも点灯します。

リアフォグランプは点灯の必要がなくなったら直ちに消灯してください。後続車の迷惑になります。

ランプの消灯

中央のリング 4 をもう一度回して、マーク 3 をフォグランプに対応する記号に合わせます。インストルメントパネルの表示灯が消灯します。

ヘッドランプを消灯すると、リアフォグランプも連動して消灯します。

 霧の深いとき、降雪時またはルーフを超える荷物を積載している場合には、ランプは自動点灯しません。フォグランプはドライバーによって制御されます: 点灯/消灯の状態はインストルメントパネルの表示灯 (点灯/消灯) によってわかります。

ランプ類

ヘッドランプ光軸調整



この機能の装備車両では、制御装置 **A** を押すと、積載量に応じてビーム高を調整できます。

制御装置 **A** を下に回すとヘッドライトが下向きになり、上に回すと上向きになります。



制御装置 **A** 非装備車では、車両の積載量に応じてヘッドライトが自動的に調整されます。

	コントロール A を用いて行う乗員数や積載量に応じた調整の一例
ドライバーのみ、またはドライバーと助手席乗員	0
全席乗車の場合	1
ドライバー、同乗者、荷物を合わせた重量が最大許容量に到達	3
同乗者と荷物を含まないドライバーの重量が最大許容量に到達	4

以下の表に例を示します。いずれの場合も、コントロール **A** を用いた乗員数や積載量に応じた調整により、前方の視界を確保でき、対向車のドライバーにとっても眩しくない高さに調整します。

ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯

ホーン



ホーンを鳴らすにはステアリングホイールのボス **A** を押します。

パッシングランプ

パッシングを行うには、レバー **1** を手前に引いてから離します。

方向指示灯

ステアリングホイールを動かしたい方向と同じ方向にレバー **1** を動かします。


ワンタッチモード

レバー **1** を、抵抗がなくなる位置まで短く上下に動かしてから離します。するとレバーは元の位置に戻り、

該当する方向指示灯が3回点滅します。

ハザードフラッシャー



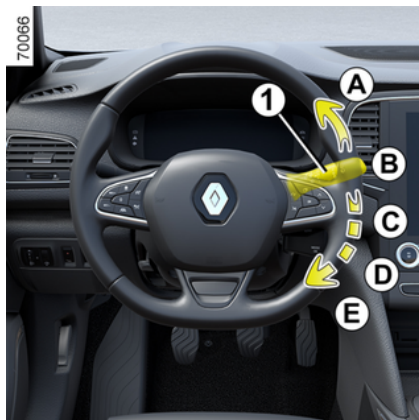
 スイッチ **2** を押します。このスイッチを押すと、前後左右の方向指示灯とサイドマーカーが同時に点滅します。

ハザードランプは、危険な場合、つまり特殊な運転状況や交通状況のために、普段は停車しない場所や駐車禁止区域にやむをえず停車しなくてはならないことを他の運転者に知らせるときにしか使用しないでください。

ワイパー

フロントワイパー、ウォッシュャー

間欠フロントワイパー 装着車



A. ワイパーの1往復作動

短く押すとワイパーが1往復作動します。

B. オフ

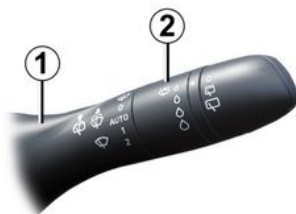
C. 間欠ワイパー

間欠作動では、ワイパーブレードが1往復するごとに数秒間停止します。リング 2 を回してワイパーの作動間隔を変更できます。

D. 低速ワイパー

E. 高速ワイパー

70081



特徴

走行中車両が停止すると、ワイパーの動作速度が遅くなります。

速い連続速度から、遅い連続速度になります。車両が動くと同時に、ワイパーは最初を選択された速度に戻ります。

レバー 1 の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

i A、C および D の位置には、イグニッションスイッチが ON の状態でのみアクセスできます。位置 E には、エンジン回転中に限りアクセスできません。

i **ワイパーブレードの効率**
ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- きれいに保ってください：ワイパーブレード、リアウインドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
- ウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパーをウインドウから離してください。

どの場合でも、機能が低下してきたら（約1年に1度は）交換してください→318。

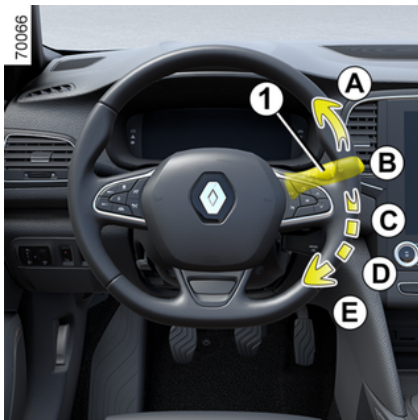
ワイパーをご使用になるときの注意事項

- 凍結または降雪時には、（モーターが過熱する危険を避けるため）ウインドウを清掃してからワイパーを動作させてください。
- ワイパーをご使用になる前に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないことを確認してください。

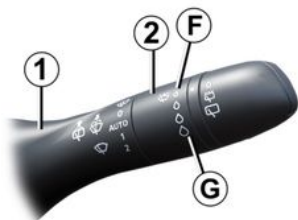
ワイパー

レインセンサー付きフロントワイパー装着車

2



70081



レインセンサーは、フロントウインドウのルームミラー前にあります。

A. ワイパーの1往復作動

短く押すとワイパーが1往復作動します。

B. オフ

C. オートワイパー機能

この位置を選択すると、システムがフロントウインドウの水滴を感知し、ワイパーを適切な速度で作動させます。リング2を回転させると、作動基準値や間欠ワイパーの程度を、次のように変更できます。

- F: 最低感度。
- G: 最高感度。

感度を上げると、ワイパーの反応と動作が速くなります。

自動ワイパーをオンにしたり感度を上げたりすると、ワイパーが1回作動します。

注:

- レインセンサーは運転時の操作を補助するものにすぎません。視界が悪くなった場合、運転者は手動でワイパーを作動してください。霧や降雪がある場合には、自動ワイパー機能は停止し、運転者の意志によって制御されます。

- 温度が0度を下回ると、車両が発進しても自動ワイパーは作動しません。車両が一定の速度(約8 km/h)を超えると、自動的に作動します。

- 乾燥した天気の場合は自動ワイパーを作動させないでください。

- 自動ワイパーを作動させる前に、ウインドウの氷を完全に除去してください。

- ローラータイプの洗車機内で洗車する場合は、レバー1をBに設定して自動ワイパーを無効化してください。

作動異常

自動ワイパーが誤動作する場合、ワイパーが間欠ワイパーに設定されます。

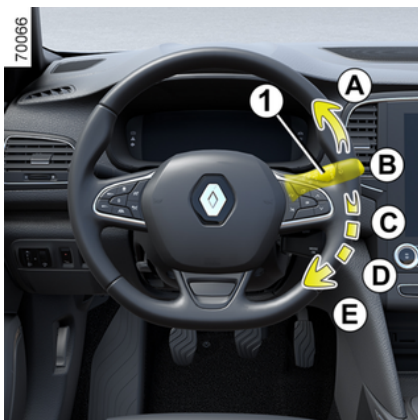
正規ディーラにご連絡ください。

次の場合には、レインセンサーの作動に支障が生じることがあります。

- フロントワイパーが破損している場合: この場合には、センサーの検出ゾーンに残った水滴やブレード痕により、自動ワイパーの反応が遅くなったり、ワイパーの間隔が短くなったりする恐れがあります。

- フロントウインドウのセンサー付近に小片や亀裂がある場合、またはフロントウインドウに汚物、埃、小虫、氷、洗浄ワックス、撥水性の化学物質などが付着している場合、この場合、フロントワイパーの感度が下がったり、無反応状態となったりする恐れがあります。

ワイパー



D. 低速ワイパー

E. 高速ワイパー

i 位置 A および D には、イグニッションスイッチが ON の場合に限りアクセスできます。
位置 C および E には、エンジン回転中に限りアクセスできます。

特徴

走行中車両が停止すると、ワイパの動作速度が遅くなります。

高速モードを選択すると、停車時は遅速モードへ切り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に選択されていたもとの速度に戻りません。

レバー 1 の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

注意

- 凍結時は、拭き取りを開始する前にブレードがウィンドウにくっついていないかどうかを確認してください。ブレードが氷でくっついているときにワイパーを作動させると、ブレードとワイパーモーターの両方が破損するおそれがあります。
- ウィンドウが乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。摩擦が早まったり、ブレードが破損する原因となります。

特定のフロントワイパー位置（整備位置）

この位置では、ブレードを持ち上げてウィンドウから取り外すことができます。

以下の場合に便利です。

- ブレードを清掃する場合。
- 冬季にブレードをウィンドウから離しておく場合。
- ブレードを交換する場合 → 318。

イグニッションスイッチを ON にし、エンジンを停止して、ワイパースイッチレバーを完全に下げます（高速連続

拭き取り）。ワイパーアームがボンネットから外れた位置で停止します。

ブレードを元の位置に戻すには、ブレードがウィンドウ上にあることを確認した後に、イグニッションスイッチを ON にしてレバーを位置 B（停止位置）に移動します。

イグニッションスイッチを ON にする前に、ワイパーをウィンドウに置いてください。ウィンドウ上にないと、スイッチを ON にしたときにボンネットやワイパーが破損するおそれがあります。

注:交換した後、ブレードを正しい位置に戻すには、ブレードがウィンドウ上にあることを確認し、イグニッションスイッチを ON にしてワイパーコントロールを作動させます。

ワイパー

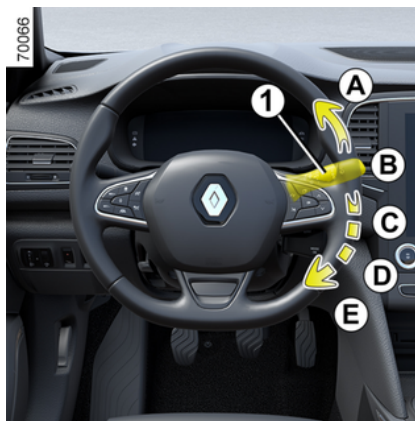
2

i ウィンドウに障害物（ゴミ、雪、氷など）がある場合、ワイパーを作動させる前にフロントウィンドウ（ルームミラーの後ろの中央ゾーンを含む）とウィンドウから障害物を除去します（モータのオーバーヒートの恐れがあります）。ブレードの動作の妨げとなっている物がある場合、動作を停止する可能性があります。障害物を取り除き、ワイパースイッチレバーを使用してワイパーを再作動させてください。



フロントウィンドウが絡む作業（洗車、デフロスターの作動、フロントウィンドウの清掃など）の前には、レバー **1** を **B** 位置（停車位置）に戻してください。
負傷および／または損傷の恐れがあります。

ウィンドウウォッシャー



イグニッションスイッチをオンにした状態で、レバー **1** を手前に引いてから離します。

短めに押すとウィンドウウォッシャーに加えてワイパーが往復作動します。

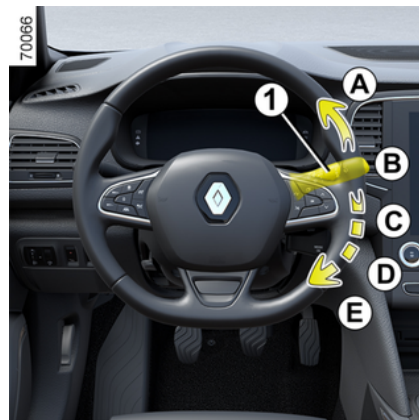
長めに押すとウィンドウウォッシャーに加えてワイパーが3回作動し、数秒後に4回目の作動が実行されます。

注: 温度が氷点下になると、ウォッシャー液がウィンドウで凍結し、視界が悪くなるおそれがあります。清掃前に、デフロスタースイッチを使用してウィンドウを温めてください。



点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーがポジション **B**（停止）の位置にあることを確認してください。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ヘッドランプウォッシャー



ヘッドランプが点灯している場合

この機能を備えた車両では、エンジン回転中にレバー **1** を約2秒間手前に引いたままにすると、ヘッドライトウォッシャーとフロントガラスウォッシャーが同時に作動します。

ワイパー

フロントウインドウウォッシャーが3回作動した後で、ヘッドランプウォッシャーも作動します。

注: 冬期にヘッドランプウォッシャーが正しく動作するようにするため、ジェットトリムから雪を取り除き、エアゾール除氷剤を使用してジェットトリムの氷を除去してください。

ヘッドランプガラスを覆っているよごれを定期的に取り除くことをお勧めします。

ウインドウウォッシャー液が最低レベルになると、ヘッドランプウォッシャー回路はアンブライミングされません。

ウインドーウォッシャー液を充填して、その後起動し、**エンジンを回転させて**再ブライミングします。



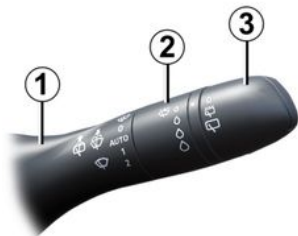
点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーがポジション **B** (停止) の位置にあることを確認してください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

リアワイパー、ウォッシャー

リアウインドーワイパー

70081



イグニッションスイッチを ON にした状態で、記号とマーク **2** の位置が合うまで、レバー **1** 上のリング **3** を回転させます。

- **OFF。**
- **間欠ワイパー**

間欠作動では、ブレードが一往復するごとに数秒間停止します。拭き取り頻度は車速に応じて変動します。

- **低速連続拭き取り。**

作動を止めるには、リング **3** を再び回転させます。

注: ローラータイプの洗車機で洗車する場合は、レバー **1** のリング **3** を停止位置に戻し、自動ワイパーを無効化してください。

アドバイス。



テールゲートの開閉にワイパーアームをつかまないでください。



リアウインドウが絡む作業 (洗車、デフロスターの作動、ウインドウの洗浄など) は、レバー **1** を停止位置に戻してから行ってください。
負傷および/または損傷の恐れがあります。

ワイパー

ワイパブレードの効率

ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- きれいに保ってください：ワイパブレード、リアウインドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
- ウィンドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパをウインドウから離してください。

どの場合でも、機能が低下してきたら（約1年に1度は）交換してください→318。

ワイパをご使用になる時の注意事項

- 凍結時または降雪時には、ワイパを始動する前に、ウインドウをきれいにしてください（モータの加熱の危険性があります）。
- ワイパをご使用になる前に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないことを確認してください。

ウィンドウワイパの作動中に後進ギアを選択すると、ワイパが間欠モードになります。「車両設定カスタマイズメニュー」装備車両の場合は、この機能を有効化または無効化できます→94。

車両に「設定カスタマイズメニュー」がない場合は、認定ディーラにこの機能の無効化を依頼できます。

リアウインドウに汚れや雪などの障害物がある場合、ワイパーはあらゆる障害物を取り除こうとします。障害物によりブレードが動かない場合は、動作が停止します。障害物を取り除き、約30秒待ってから、ワイパースイッチレバーを使用してワイパーを再作動させてください。

注意

- 凍結時は、拭き取りを開始する前にブレードがウインドウにくっついていないことを確認してください。ブレードが氷でくっついているときにワイパーを作動させると、ブレードとワイパーモーターの両方が破損するおそれがあります。
- ウィンドウが乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。摩耗が早まったり、ブレードが破損する原因となります。

リアウインドウウォッシャー



イグニッションスイッチをONにした状態でレバー 1 を長押ししてから離します。

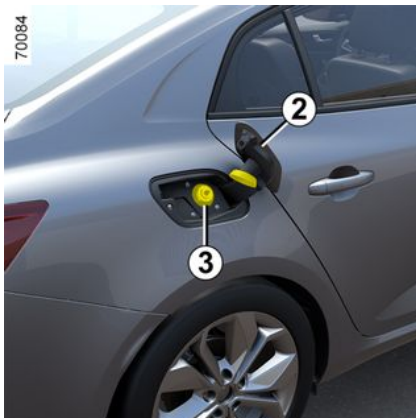
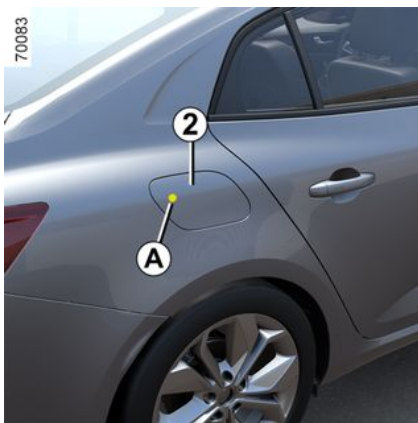
長めに引くとウィンドウウォッシャーに加えてワイパーが3回作動し、数秒後に4回目の作動が実行されます。

リアワイパーの起動／作動解除

燃料タンク

有効タンク容量:

- ガソリンモデルの場合、約 50 L。
- ディーゼルモデルの場合、約 49 L。



車両のロックを解除した状態でカバー 2 を開くには、ゾーン A を押して離し（車両によってはダッシュボード 1 の制御装置を押し）ます。フラップ 2 が少し開きます。

バルブ 3 はフィルタパイプ内に備え付けられています。

締めるには、ストoppaがかかるまでリッドを押してください。



指を使ってバルブ 3 を押さないでください。
高圧洗浄をするときに、給油口を開いたまま給油ゾーンを洗浄しないでください。

燃料の品質について

各国の法規に従い、フラップに貼られているラベルの仕様を満たす良質の燃料を使用して下さい。2 → 331。



欧州で販売された車両のエンジンで、欧州規格に適合する燃料タイプは互換性があります: 表を参照してください → 331。

ディーゼル車

必ず、フラップ 2 内側のラベルに記載されている情報に準ずるディーゼル燃料をお使いください。

ガソリンの給油

必ず無鉛ガソリンを使用してください。オクタン価 (RON) も、フラップ 2 → 331 のラベルに記載されている情報に準ずるものにしてください。

給油

イグニッションをオフにした状態で、ノズルを挿入してバルブ 3 を開き、完全に挿入してからトリガーを押してタンクを満たします（飛散のリスクを防ぐため）。

燃料タンク

給油中はノズルをこの位置に保ち、給油が完了するまで離さないでください。

最初の給油が自動的に完了した後、予備の給油を行うことができます。一定量を足すと再びカチッと止まります。これを最高2度まで繰り返すことができます。

注入の際は、水が侵入しないように注意します。バルブ3およびその周囲は清潔に保つようにしてください。

ガソリンの給油

有鉛ガソリンの使用は触媒装置に損傷を与える恐れがあります。このような場合は保証の対象とはなりませんのでご注意ください。有鉛ガソリンの使用を避けるために、ガソリンエンジン車両の給油導管には、**無鉛ガソリンの給油ポンプのノズルしか通さない安全装置**が取り付けられています。



燃料を充填するには、エンジンスイッチをOFF (Stop and Start 機能装備車両の場合はスタンバイ状態にする必要もあります) にし、イグニッションスイッチをOFF → 125 にする必要があります。
火災の恐れがあります。



どんなに微量であっても絶対に軽油にガソリン (無鉛または E85) を混ぜないでください。

車両がエタノールベースの燃料に対応していない場合は、エタノール燃料を使用しないでください。エンジンを傷めるおそれがありますので、燃料に添加剤を加えないでください → 120。

燃料に添加剤を加える場合は、技術部の承認を得た製品をご利用ください。

メーカーにお問い合わせください。

注意：

車両を約3か月間動かさなかった場合は、**燃料ポンプの損傷を防ぐために燃料を追加する必要があります。**

これを行うには、イグニッションをオフにして、燃料を満タンにするか、少なくとも約2.20ガロン (10リットル) を補充してから、エンジンを始動してポンプを作動させ、回路内の燃料を更新します。

タンク内の燃料レベルのために少なくとも5リットルの燃料を追加することができない場合は、タンクに空き容量ができるまで車両を走行させます。

有鉛ガソリンの使用は触媒装置に損傷を与える恐れがあります。このような場合は保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

有鉛ガソリンの使用を避けるために、ガソリンエンジン車両の給油導管には、**無鉛ガソリンの給油ポンプのノズルしか通さない安全装置**が取り付けられています。

燃料の不具合 (ディーゼル仕様)

キー / リモコン装備車の場合

- イグニッションキーを「ON」位置2 → 125 に回し、燃料回路のプライミングが終わるまで数分待ってから始動します。

- キーを「START」位置3に回します。もしエンジンが始動しなければ、同じ操作を繰り返してください。

- 数回試行してもエンジンが始動しない場合は、正規サービス工場に連絡してください。

カードキー仕様車

燃料タンク



車内にカードを置き、ペダルは踏まずに始動ボタン **4** を押します。数分待ってから再度スイッチを押してください。燃料回路を再始動させます。もしエンジンが始動しなければ、同じ操作を繰り返してください。

数回試行してもエンジンが始動しない場合は、正規サービス工場に連絡してください。



コントロールユニット、配線、ホース/パイプ類、インジェクター、プロテクターを含め燃料供給システムは絶対にご自分で脱着したり分解したりしないでください。大変危険です。点検修理は指定サービス工場におまかせください。



燃料の臭いがするとき
燃料の臭いがする場合は以下のとおり処置してください:

- 周囲の交通に注意しながら停車して、イグニッションスイッチをOFFにします；
- ハザードランプを点滅させ、同乗者を車両から降ろし、走行地帯から離れた安全な場所に避難させてください；
- ルノー指定サービス工場にご連絡ください。

試薬タンク

2 各国の法規を確実に遵守してください。該当する法規に違反した場合、車両の所有者が処罰の対象となる可能性があります。

作動原理

この試薬は、SCR（選択的触媒還元）システム装備ディーゼルエンジン向けです。

この試薬を使用すると、排気ガス中の窒素酸化物の量が減少します。

実際の使用での試薬消費量は車両、機器、ライディングスタイルの条件によって異なります。

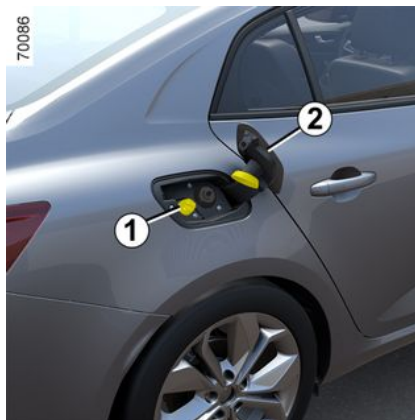
試薬品質

ISO 22241 規格適合試薬のみを、タンクフィラキャップ上の標示に従って使用してください。



試薬が眼や皮膚に付かないようにしてください。万一眼に入ったり皮膚に付いたりした場合には、多量の水で洗い流してください。必要に応じて病院で診察を受けてください。

ブレーキ液の補充



有効燃料タンク容量: 約 16 L。

イグニッションスイッチを OFF にした状態で、カバー **2** を開いてキャップ **1** を外します。

注: タンクの温度が高い場合、水酸化アンモニウムの蒸発ガスがキャップ口から漏れることがあります。



試薬を充填するには、エンジンを停止 (Stop and Start 機能装備車両の場合) はスタンバイ状態にする必要もあり) してイグニッションスイッチを OFF → **125** する必要があります。

タンクはポンプで充填することができます。タンクに燃料を給油し始める前に、イグニッションスイッチを OFF にし、ノズルを入れてバルブを押し開け、十分に奥まで差し込みます。(飛び散る恐れがあります) 給油中はノズルをこの位置に保ち、給油が完了するまで離さないでください。

最初の給油が自動的に完了した後、予備の給油を行うことができます。一定量を足すと再びカチッと止まります。これを最高 2 度まで繰り返すことができます。

他の給油の場合には、試薬容器 (例えば、缶またはボトル) に示された情報を読むことが不可欠です。

試薬タンク



「XXX km に達するとロックアウトするため、アドブルー尿素水を充填してください」というメッセージが表示されたら、充填手順を参考に試薬タンクに充填します。
車両のブレーキングの喪失の危険性。



フィルターキャップ：ルノー車専用のもです。
交換する場合は、元のキャップと同じものであることを確認してください。ルノー指定サービス工場にご連絡ください。高圧洗浄をするときに、給油口を開いたまま給油ゾーンを洗浄しないでください。

使用時の注意


給油時:

- 試薬が衣服、靴、車体などに付着すると痛む恐れがあるため、試薬の取扱いは十分注意してください。
- 燃料タンクに水が侵入しないように注意します。

試薬があふれ出た場合、または塗装が汚れた場合には、十分な冷水と柔らかい布で該当する部分をすばやくクリーニングします。

注: 試薬液が結晶化している場合は、軟らかいスポンジを使用してください。


過酷な寒冷の条件下で（雨、雪、霧など）

寒冷な気候条件下で、  警告灯が点灯し、「1,200 km に達する前にアドブルー尿素液を充填してください」というメッセージが表示されたら、ただちに試薬タンクの再充填を実施してください。

注意:

試薬液は、約 -10 °C を下回ると凍結します。

こうした条件で、試薬液が凍結している場合、充填を試みないでください。タンクに試薬を補充または充填する必

要がある場合には ()、試薬が再度液体化するように、可能であればより暖かい場所に車両を駐車してください。それ以外の場合は、認定を受けた専門技術者に試薬液の補充または充填をお任せください。



試薬タンクへの充填後は、キャップとカバーが閉まっていることを確認し、エンジンを始動して、**車両静止状態でエンジンスイッチを ON にして 10 秒間待機してから、再度エンジンスイッチを OFF にします。**

この作業を実施しない場合、数分間の走行を数十回繰り返すまで、タンクの充填は自動的に考慮されません。

「アドブルー尿素液を充填してください」というメッセージ/警告灯は、システムによる充填登録が終了するまで表示され続けます。




システムのいずれの部分も作動させないでください。損傷を防ぐために、メーカーの認定を受けた専門のメカニックのみがシステムで作業するようにしてください。

試薬タンク

メンテナンス/範囲

インストルメントパネルに表示される情報には、ビープ音が伴うことがあります。







表示灯	メッセージ	方法
-	« AdBlue補充まであと2400 km »	イグニッションオン時にこのメッセージが表示される場合、 残る距離は2,400 km未満です。 タンクに試薬を自身で充填するか、正規代理店で 試薬を充填 してもらいます。
 が点灯する場合。	« AdBlue要補充あと1200 km »	イグニッションオン時にこのメッセージが表示される場合、 残る距離は1,200 ~ 800 kmです。 タンクに試薬を自身で充填するか、正規代理店で 試薬を充填 してもらいます。
 が点灯する場合。	「XXX KM ロックアウト前にアドブルー尿素水を充填してください」	イグニッションスイッチをオンにするとこのメッセージが表示され、繰り返されます。 - 残りの航続距離が800 kmから200 kmまでの間は約100 kmごと。 - 約50 kmごとに、残る距離は200 km未満。 いずれの場合でも、できる限り早くタンクに試薬を自身で充填するか、指定サービス工場で 充填 してもらいます。
 が点滅します。	「0 KM ロックアウト前にアドブルー尿素水を充填してください」	エンジンが始動しない 再始動するには、自身で試薬タンクに充填する必要があります。

試薬タンク

システムの不具合

指示灯が点灯した場合に、ビープ音が伴うことがあります。

2

表示灯	メッセージ	読み取り値
 と  が点灯します。	「汚染防止システム 点検」 「AdBlue 劣化のおそれ 点検してください」 「AdBlue 噴射システム 点検してください」	システムに不具合があることを示しています。できるだけ早くルノー正規代理店にご相談ください。
 と  が点灯します。	「XXX KM 排出ガス制御のロックアウト」	システムの不具合を示し、 800 km 以内に車両の再始動が不可能になることを通知します。 以下の警告が繰り返されます： - 車両の再始動が不能になるまでの 残距離が 800 km から 200 km までの間は 、100 km ごとに警告が繰り返されます。 - 車両の再始動が不可能になるまで 残り約 200 km 未満で 、50 km ごと。 できるだけ早くルノー正規代理店にご相談ください。
 と  が点灯します。	「0 KM 排出ガス制御のロックアウト」	イグニッションをオフにした後、 車両が再始動しないことを示します 。正規ディーラにご連絡ください。

慣らし運転

ガソリン車

最初の**1,000 km**を走行するまでは、最も高いギアで130 km/h以上または3,000~3,500 rpmで走行しないでください。

車が本来の性能を発揮できるようになるのは、走行距離が約**3,000 km**を過ぎてからです。

注: 新車の慣らし運転中場合、冷却水量がタンク上の「MAXI」マークより高いときは、「MINI」マークと「MAXI」マークの間まで下げます。この作業には危険は伴いません。

点検時期: 整備手帳の記載をご覧ください。

ディーゼル車

最初の**1500 km**を走行するまでは、いちばん高いギアポジションを使用したときでも、130 km/h以上の速度で走行なさらないようにしてください。また、エンジン回転数についても2500回転を超えてご使用にならないようにお願いします。

1500 Kmを超えた時点からは特に慎重になる必要はありませんが、車が本来の性能を発揮できるようになるのは、走行距離が6000 kmを過ぎてからであることをご承知おきください。

慣らし運転の間は、冷間時での急加速は避けてください。また、あまりエン

ジンを高回転までご使用にならないようお願いいたします。

注: 新車の慣らし運転中場合、冷却水量がタンク上の「MAXI」マークより高いときは、「MINI」マークと「MAXI」マークの間まで下げます。この作業には危険は伴いません。

点検時期: 整備手帳の記載をご覧ください。

エンジン始動と停止

キー装備車両上のイグニッション-スタータスイッチ

イグニッションスイッチ



位置「LOCK」0

ロックするときは、キーを抜き、ステアリングがロックされるまでハンドルを回してください。

ロックを解除するときは、キーを差し込んで、ハンドルを軽く回してください。

位置「ON」2

イグニッションスイッチを ON にします。

アクセサリ（ラジオなど）を使用できます。

位置「START」3

エンジンが始動しないときは、イグニッションスイッチをいったん戻してから再始動を試みてください。エンジンが始動したら、すぐにキーから手を離してください。

注: ディーゼル車ではエンジンを予熱する必要があるため、キーを回してからエンジンが始動するまでに数秒を要することがあります。

エンジンの始動



ガソリンの給油

- エンジンの始動は絶対に**アクセルを踏み込まず**に行ってください；
- エンジンが始動したら、すぐにキーから手を離してください。



傾斜地でフリーホイールにした状態で車両を発進させないでください。パワーステアリングが作動しない危険性があります。
事故の恐れがあります。

00 ディーゼル車

- イグニッションキーを「ON」2位置に回し、エンジン予熱灯が消えるまでこの位置で保持します。

- キーを、**アクセルペダルは踏まず**に「START」位置3に回します。

- エンジンが始動したら、すぐにキーから手を離してください。

特記事項: 外気温が非常に低い (-10℃未満) ときにエンジンを始動させる場合、エンジンが始動するまでクラッチペダルを踏み続けてください。

エンジン始動と停止



車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションキーを OFF にしないでください。エンジンを停止すると、ブレーキサーボ、パワーステアリングなどや、エアバッグおよびプリテンションといったパッシブセーフティ装置が作動しなくなります。

エンジンの停止

エンジンをアイドリング状態にして、キーを「LOCK」0位置にします。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれ。**

カード装備車両上のイグニッション-スタータスイッチ

エンジン始動の条件



70012

カードを検出ゾーン **1** 内に置いてください。

始動：

- オートマチックトランスミッション装備車両では、シフトレバーをP位置にしてブレーキペダル踏み込み、ボタン **2** を押します。
- マニュアルトランスミッション装備車両では、ブレーキを踏むか、クラッチペダルを踏み込んでボタン **2** を押します。ギアが入った場合は、クラッチペダルも踏み込む必要があります。



注意事項

- エンジン始動条件がひとつでも満たされていないと、「ブレーキペダルを踏んで始動ボタンを押してください」、「クラッチを踏んで始動ボタンを押してください」または「シフトレバーをP位置にしてください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
- 場合によっては、ステアリングコラムのロックを解除するためにスタートボタン **2** を押しながらステアリングホイールを動かす必要があります。この場合、「ステアリングホイールを回す+スタート」メッセージが表示されます。

エンジン始動と停止

トランク開放状態での「ハンズフリー」始動

この場合、カードを紛失しないよう、ラゲッジルームに置いたりしないでください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

アクセサリー機能



(イグニッションスイッチを ON にします)

一部の電装品（ラジオ、ナビゲーションシステム、ワイパーなど）は乗車するとすぐに使用することができます。

他の機能を使用するには、車内にカードを置き、ペダルを踏まずに始動ボタン 2 を押します。

作動異常



次のような場合には、「ハンズフリーカード」が作動しないことがあります。

- カードキーのバッテリー残量がない場合など。
- カードが、同一周波数の機器（ディスプレイ、携帯電話、ゲーム機など）の近くにある場合。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。

「カードをゾーンに置いてください + スタート」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。

ブレーキペダルかクラッチペダルを踏んでから、カード 3（ボタン側）を約 2 秒間、所定のエリア 4 に置きます。

エンジン始動と停止

ボタン 2 を押して車両を始動します。
メッセージが消えます。

エンジン停止の条件



オートマチックトランスミッション仕様車の場合は、セレクトレバーをNまたはP位置にして車両を停止してください。

カードを車両に入れたまま、ボタン 2 を押します: エンジンがオフになります。運転席ドアを開けると、車両をロックすると、ステアリングコラムがロックされます。

カードが車内にないか電池切れの状況で、車両を静止してエンジンスイッチOFFを試行すると、「カードがないため始動ボタンを長押ししてください」というメッセージがインストルメント

パネル上に表示されるため、ボタン 2 を 2 秒以上長押ししてください。カードが室内にない場合は、ボタンを押す前に戻すことができるか確認してください。「ハンズフリー」カードなしでは車両を始動できません。

エンジンが停止しても、その時に使用中だったアクセサリ類（ラジオなど）は約 10 分間作動し続けます。

運転席側のドアを開けると、アクセサリ類の作動は停止します。



車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションキーをOFFにしないでください。エンジ

ンを停止すると、ブレーキサーボ、パワーステアリングなどやパッシブセーフティ装置

(airbagsやプリテンションなど)が無効になります。



車両を離れる場合、とりわけカードを携帯している際には、エンジンが完全に停止していることを

確認してください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に

残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

Stop and Start 機能

このシステムによって、燃料の消費と温室効果ガスの排出を減少させることができます。車両が発進するとシステムは自動的に作動します。走行中、車両に応じて、車両が停止するか低速で移動すると（交通渋滞、信号機など）、システムはエンジンを停止（スタンバイ）します。

スタンバイ状態の環境


車両が、前回の停止以後走行した際。オートマチックトランスミッション装備車両：

エンジン始動と停止

– シフトレバーが **D** 位置、**M** 位置または **N** 位置の場合。

と

– 部歴ペダルが踏み込まれた状態（十分な力で）。

車両を停止しても  警告灯が点滅し、「ブレーキペダルを踏んでください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されている場合、ブレーキペダルの踏み込みが十分ではありません。

と

– アクセルペダルが踏まれていません。


と

– 約 1 秒間車速がゼロの場合、または車両によっては車速が約 5 km/h を下回るとすぐに

P のポジション、または **N** のポジションに入れた場合、パーキングブレーキを締め、共にブレーキペダルを押さない場合に、エンジンのスタンバイ状態が継続されます。

マニュアルトランスミッションの車両：

– ギアボックスが、ニュートラルに入っているとき（死点）；


車両が停止中に  警告灯が点滅し、インストルメントパネルに「ニュートラルにシフトしてください」というメッセージが表示されている場合は、シフトレバーをニュートラルにシフトする必要があります。

と

– クラッチペダルが離れたときと

– 車速が約 5 km/h 以下の場合。

全車種対象：

インストルメントパネルに  の警告灯が点灯しエンジンをスタンバイ状態が起動することを知らせます。

エンジンが停止している間でも、車両の装備は機能します。


エンジンをスタンバイ状態にすると、ステアリングアシスト機能が作動しなくなる場合があります。

この場合は、エンジンのスタンバイ状態を解除するか、車速が 1 km/h ほど（下り坂、傾斜など）を超えると作動します。



エンジンがスタンバイ状態にある時（車種によって）、アシストパーキングブレーキは自動的に作動しません。



エンジンがスタンバイ状態の時に、車両を走行させないでください（インストルメントパネルの表示灯  が点灯します）。



車を離れる前に、エンジンを停止する必要があります（スタンバイ状態ではなく） → 125。

エンジンがスタンバイ状態にならないためには

交差点を走行するなど特定の状況下では、エンジンをオンにしたままで素早く始動するようにすることができます（システム作動状態）。

オートマチックトランスミッション装備車両で、車両が停止したときのみエンジンスタンバイが行われる場合：

ブレーキペダルを軽く踏んで車両が動かないようにしてください。

マニュアルトランスミッションの車両：

クラッチペダルを踏み続けてください。

エンジン始動と停止



燃料を充填するには、エンジンスイッチを OFF (Stop and Start 機能装備車両の場合はスタンバイ状態にする必要もあります) にし、イグニッションスイッチを OFF → 125 にする必要があります。
火災の恐れがあります。

エンジンのスタンバイ状態を解除するためには

オートマチックトランスミッション装備車両:

- 運転席ドアを開けた時

または

- 運転席シートベルトが締まっていない場合

または

- ブレーキペダルを放し、(車両に応じて) DポジションかMポジションに締結します。

または

- ブレーキペダルから足が離れ、シフトレバーが N 位置にあり、パーキングブレーキが解除されている場合。

または

- ブレーキペダルが再び踏まれ、シフトレバーが P 位置または N 位置にさ

れ、パーキングブレーキがかけられた場合。

または

- シフトレバーが R 位置にされた場合。

または

- アクセルペダルを踏み込む。

または

- 車両によっては、マニュアルモード (M) でギア変更パドルを操作します → 133。



「AUTOHOLD」機能を有効化する → 140 と、パーキングブレーキを解除し、エンジンをスタンバイ状態に保つことができます。
アクセルペダルを押して、車両のスタンバイを終了します。

マニュアルトランスミッションの車両:

- 運転席のドアを開けると、ギヤが係合されず、クラッチペダルが解放されます。

または

- 運転席のシートベルトを外すと、ギヤが係合されず、クラッチペダルが解放されます。

または

- トランスミッションをニュートラル位置に入れ、クラッチペダルをゆっくり踏み込みます。

または

- ギアを入れ、クラッチペダルを完全に踏み込みます。

注意:車種によって、エンジンがスタンバイ状態であるときにイグニッションスイッチをオフにすると、インストル

メントパネルに  警告灯が数秒間点灯します。



マニュアルトランスミッション装備車両の場合:
ギアをかけながらクラッチペダルをあまりにも速く離すと、再始動が中断することがあります。

エンジンがスタンバイ状態にならない場合


一部の条件下ではエンジンをスタンバイ状態にする機能が作動しなくなります。特に、


- 運転席ドアが閉まっていない;
- 運転席のシートベルトが着用されていない場合。
- リバースギアが入れられた時:

エンジン始動と停止

- ボンネットがロックされていない；
- 外気温が低すぎるか高すぎる。
- バッテリーが十分に充電されていないとき；
- 車内の温度とオートエアコンディショニングの設定温度との差が大きすぎる場合。
- パークアシスト機能が作動している場合。
- 高度が高すぎる。
- オートマチックトランスミッション車の場合、勾配が急すぎる。
- 「クリアビュー」機能が作動している場合 → 246。
- エンジンの温度が低くすぎます。
- 排ガスシステム点検システムが再生成されました。
- ...

インストルメントパネルに表示される

警告灯  は、エンジンをスタンバイ状態にする機能が作動しないことを知らせます。

 警告灯が点灯し、同時に次のメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

- バッテリーの充電が優先されることを示す「バッテリー充電最適化」。
- エンジン機能が優先されることを示す「エンジン回転優先」。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。


エンジン自動再始動の特徴

何らかの状況で、あなたの安全と快適さを保証するために、エンジンは操作なしに再始動することがあります。

これは、次の場合に発生することがあります。

- 外気温が低すぎるか高すぎる。
- 「クリアビュー」機能が作動している場合 → 246。
- バッテリーが十分に充電されていないとき；
- 車両の時速が 5km/h 以上（下り坂など）；
- ブレーキペダルを繰り返し踏むか、ブレーキシステムが必要である場合。
- ...


インストルメントパネル上の表示灯

 は、エンジンが自動的に再始動されたことを通知します。




車を離れる前に、エンジンを停止する必要があります（スタンバイ状態ではなく） → 125。



 警告灯が点灯し、同時に次のメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

- バッテリーの充電が優先されることを示す「バッテリー充電最適化」。
- エンジン機能が優先されることを示す「エンジン回転優先」。

エンジン始動と停止

 特記事項: エンジンがスタンバイ状態のときにスイッチ **1** を1回押すと、エンジンが自動的に再始動します。

3

機能の起動と解除

機能を解除するには、スイッチ **1** を押します。インストルメントパネルに「ストップ&スタート無効」メッセージが表示され、スイッチ **1** のインジケータライトが点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システムが再び作動します。インストルメントパネルに「ストップ&スタート作動」メッセージが表示され、スイッチ **1** のインジケータライトが消灯します。

スタートボタンを使用して車両を発進させると、システムは自動的に再起動します。

作動異常

インストルメントパネルに「ストップ&スタートシステムを点検」メッセージが表示され、警告灯 **1** が点灯する場合、システムが解除されたことを示しています。

正規サービス工場にご連絡ください。

シフトコントロール

シフトレバー



マニュアルトランスミッション装備車:
シフトレバーノブ 1 のグリッドの記載
を参照してください。

オートマチックトランスミッション装
備車: → 133。

リバース（後退）にシフトするとき

リバースギアにシフトすると、バック
ランプが点灯します（イグニッション
スイッチが ON のとき）。

オートマチックトランスミ ッション

シフトレバー 1



P: 駐車

R: 後進ギア

N: ニュートラル

D: 前進ギヤ

M: マニュアルトランスミッション
モード

+ : シフトアップ

- : シフトダウン

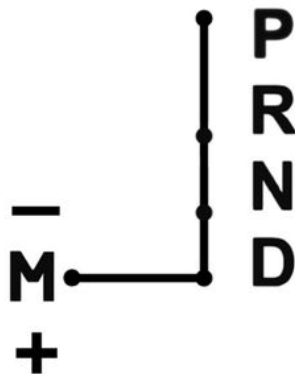
選択ギアは、インストルメントパネル
B 上（車両によってはディスプレイ A
上）に表示されます。

注: ボタン 2 を押すと、Dポジションま
たはNポジションからRポジションま
たはPポジションにチェンジします。

シフトコントロール


作動

40780



シフトレバー **1** を **P** 位置にし、イグニッションスイッチを ON にします。位置 **P** から動かすには、必ずブレーキペダルを踏んでからロック解除ボタン **2** を押してください。

ブレーキペダルに足を乗せた状態（こ

の状態になると  警告灯がディスプレイから消えます）で **P** 位置を終了します。

レバーを **D** 位置または **R** 位置に動かすときは、必ず停車して、アクセルペダルから足を放しブレーキペダルを踏んだ状態で行ってください。

オートマチックモードで走行する

セクターレバー **1** を **D** 位置に入れます。

大半の走行環境下では、自動システムによる、車両の負荷、路面状況、選択運転スタイルを踏まえた制御により、適時に、エンジン回転数に応じた速度段に「自動」変速されるため、シフトレバーの使用は不要です。

経済的に走行するには

通常走行時には **D** 位置で走行します。アクセルペダルをあまり踏み込まずに維持すると、自動的に低速ギアにシフトします。

一気に加速する

アクセルペダルを素早くいっぱい踏み込んでください（アクセルペダルが重くなる位置よりさらに踏み込みます）。

こうすることによりエンジンの性能の範囲内で最適のギアにシフトダウンします。

マニュアルモードで走行する

シフトレバーを **D** 位置に入れ、レバーを左に **M** の位置まで倒します。シフトレバーやパレットに連続してパルスを与えると、マニュアルトランスミッションのようにシフトすることができます。

- シフトダウンするときは、セクターレバーを前方に操作します；

- シフトアップするときは、セクターレバーを後方に操作します。選択されたギアは、メーターパネルのディスプレイに表示されます。

注意：

運転状況によっては（エンジンの保護、ESP ESC の作動など）「オートマチック機能」が自動的に変速を行います。また「誤作動」を防止するために「自動制御システム」によってシフト操作が無効になることがあります。この場合シフトインジケーターが数秒間点滅します。

例外的な状況

路面やカーブによってオートマチックモードを持続できない場合は（山道での走行など）、マニュアルモードに変更することをおすすめします。これにより、登り道を走行中にオートマチックトランスミッションが頻繁に変速することを防ぎ、長い下り道でエンジンブレーキを効かせることができます。



上り坂で、停止の状態であるためには、アクセルペダルの踏み続けしないで下さい。

トランスミッションが過熱する恐れがあります。

シフトコントロール

停止する

車両を静止させ、ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、シフトレバーをP位置に動かします。するとギアボックスがニュートラルになり、駆動輪がドライブシャフトにより機械的にロックされます。

アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。



P位置へのシフトは、車両が完全に静止している場合にのみ行ってください。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンス期間

オートマチックトランスミッションの定期保守要否については、車両の保守

資料を参照するか、認定ディーラにご確認ください。

メンテナンスの必要がない場合は、オイルを補充する必要はありません。

作動異常

- 走行中に「ギアボックス要点検」メッセージがインストルメントパネル上に表示された場合、不具合が生じています。できるだけ早く正規ディーラにご連絡ください。

- 走行中に、メッセージ「ギアボックス過熱」が表示された場合は、できるだけ早く停車してギアボックスを冷やし、メッセージが消えるまで待機してください。

- オートマチックトランスミッション
装備車両故障時の対処 → 307。



安全上の理由から、車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションスイッチをOFFにしないでください。



走行中に、ブレーキペダルを踏み込んでもセレクターレバーがPポジションから動かないときは手動でレバーのロックを解除できます。これを行うには、レバーベースのクリップを外してツール（丈夫な棒）をスロット4差し込むと同時に、ボタン2を押してレバーのロックを解除します。できるだけ早くルノー正規サービス工場点検をお受けください。

パーキングブレーキ故障

電動パーキングブレーキ

アシスト操作

アシストパーキングブレーキの作動



車両が静止した状態であれば、次の場合に電動パーキングブレーキを使用して車両を固定できます。

– エンジン始動/停止ボタン **1** を押すか、車両によってはイグニッションキー **2** を（「ON」位置 **2** に）回した場合。

または

– 運転席シートベルトが締まっていない場合

または

– 運転席ドアを開けた時

または

– オートマチックトランスミッション装備車両においては、シフトレバーが **P** 位置にある場合。

上記以外の場合（engine stalls or goes on standby due to the Stop and Start → 128 機能によりエンジンが停止状態またはスタンバイ状態にされている場合など）に電動パーキングブレーキが自動的にかかることはありません。

このような場合は手動機能を使用してください。

電動パーキングブレーキ機能は、一部の国では作動しません。「手動機能」の項を参照してください。



電動パーキングブレーキがかかると、その証として、メッセージ「パーキングブレーキがかかりました」と警告灯

(P) がインストルメントパネル上に表示され、スイッチ **3** 上の警告灯 **4** が点灯します。


エンジンをオフにすると、アシストパーキングブレーキをかけた数分後に表示灯 **4** が消え、車両の施錠時に

(P) 警告灯が消えます。

パーキングブレーキ故障



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。ドアがロックされた時点で、パーキングブレーキはかかっているもののスイッチはOFFになっている場合、その証として、スイッチ **3** 上の警告灯 **4** と警告

灯  がインストルメントパネル上で点灯します。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

注: 場合によっては（パワーアシストパーキングブレーキの故障、パーキングブレーキの手動解除など）、ピープ音が鳴り、「パーキングブレーキ作動」メッセージが表示され、電子パーキングブレーキの作動を知らせます。

- エンジンがONの状態状態で運転席側のドアが開いた場合。
- エンジンオフ状態（エンジンスターリング時など）：フロントドアが開いている場合。

この場合に電動パーキングブレーキをかけるには、スイッチ **3** を引いて離します。


アシストパーキングブレーキを解除する場合

パーキングブレーキが解除されている：
- 車両が加速し始めると、
または
- オートマチックトランスミッション装備車両では、Pポジションからシフトした場合。

手動での作動

手動でアシストパーキングブレーキを作動させることができます。


手動でアシストパーキングブレーキを作動させる

スイッチ **3** を引きます。すると、スイッチ上の警告灯 **4** とインストルメントパネル上の  の警告灯が点灯します。



手動でアシストパーキングブレーキを解除する

ペダルは踏まずにスイッチ **1** を押し（車両によっては、キー **2** を「ON」位置 **2** に回し）て車両のイグニッションスイッチをONにします。

ブレーキペダルを踏みスイッチ **3** を押します。すると、スイッチ上の表示灯 **4** とインストルメントパネル上の表示灯  が消灯します。

パーキングブレーキ故障

一時停止



(赤信号で停車した際、エンジンの回転が止まった際などに) 電動パーキングブレーキを手動でかけるには、スイッチ **3** を引いて離します。

車両を再発進させるとすぐに、パーキングブレーキは自動的に解除されます。

注意：

坂道駐車

斜面に駐車したり、トレーラー牽引中に駐車したりする場合には、スイッチ **3** を数秒間引いて制動力を最大化します。



電動パーキングブレーキ解除状態での駐車



パーキングブレーキを解除する場合は、その前に車両が安定しているかご確認ください。

(凍結の恐れなどにより) 電動パーキングブレーキを解除して駐車する場合:

– シフトレバーをいずれかのギヤまたは **P** 位置にします。これにより、ドライブシャフトが駆動輪を機械的にロックします。

- エンジン始動/停止ボタン **1** を押すか、イグニッションキー **2** を回す方法でエンジンスイッチを OFF にします。
- 運転席シートベルトを外します。
- 運転席側ドアを開けます
- 手動で電動パーキングブレーキを解除します (詳しくは、「電動パーキングブレーキの手動解除」と題された段落をご覧ください)。車両が安定しているか確認します。
- 運転席ドアを閉めます。必要であれば車両をロックします。



車両の完全停止前に運転席シートベルトを外す場合は、パーキングブレーキが正しく作動しているか確認してください。正しく作動している場合、その証として、警告灯



がインストルメントパネル上で点灯します。

ブレーキング喪失のリスクがあります。

パーキングブレーキ故障



「危険な電気系統における不具合」、「バッテリー要点検」または「ブレーキシステムにおける不具合」というメッセージが表示された場合は、1速ギア（マニュアルトランスミッション装備車両の場合）またはP位置（オートマチックトランスミッション装備車両の場合）にする方法か、約10秒間スイッチ3を引く方法により、車両を不動化しなければなりません。

条件と傾斜によって必要である場合は、車両に車輪止めを使用してください。

車両のブレーキングの喪失の危険性があります。

正規サービス工場にご連絡ください。



車から離れるときは必ず、シフトレバーをPポジションに入れ、エンジンをオフにしてください。車両が停止していても、ギアの入っている状態でエンジンがかかっていると、車両が動き出す場合があります。

事故の恐れがあります。

オートマチックトランスミッション車


運転席ドアが開いている、または半ドアで、エンジン回転時には、安全性への配慮から、自動解除は作動禁止になります（運転者なしで車両がひとりで動き出さないようにするため）。

ドライバーがアクセルペダルを踏むと、「パーキングブレーキを手動で解除してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。



ビジュアルリターンまたは音声がない場合には、インストルメントパネルが故障しています。周囲の交通に注意しながら、直ちに停車してください。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。


作動異常

– 不具合がある場合は、 警告灯がインストルメントパネル上で点灯し、「パーキングブレーキ要点検」というメッセージが表示されるほか、場

合によっては  警告灯が点灯します。

できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

– 電動パーキングブレーキに不具合が

生じると、警告灯  が点灯し、「パーキングブレーキにおける不具合」というメッセージが表示され、ピープ音が鳴るほか、場合によっては

警告灯  が表示されます。

その場合、周囲の交通に注意しながら直ちに停車します。

パーキングブレーキ故障



このため、必ずギアを1速（マニュアルトランスミッション装備車両の場合）またはP位置（オートマチックトランスミッション装備車両の場合）にして車両を不動化してください。傾斜した路面では、タイヤに木片等を当て固定してください。

「Autohold」機能

車両が停止した場合（たとえば、赤信号、交差点、渋滞など）、運転者がブレーキペダルを離しても制動力が確保されます。

制動力は、ギヤが噛み合った状態で運転者が十分に加速するとすぐに解除されます。

作動



スイッチ **1** を押します。

この機能が有効化されると、その証として、スイッチ **1** 上の表示灯 **2** が点灯します。

作動解除

ブレーキペダルを踏む操作とスイッチ **1** を押す操作を同時に行います。

機能が無効化されると、その証として、スイッチ **1** 上の警告灯 **2** が消えます。

制動力が維持されている場合、パーキングブレーキは次の場合に自動的に作動します。

- ドライバーが車両を出る。
- または

- 車両を約3分間以上停止する。

制動力を維持するための条件

次の条件を満たす必要があります。

- 運転席シートベルトが締まっている。


と

- アシストパーキングブレーキが解除されている

と

- 非常に急な斜面に車両を停車していない。

制動力が維持されていることは、イン

ストルメントパネルの  警告灯によって確認されます。

制動力を中断するための条件


次の条件を満たす必要があります。

- ドライバーが、ギヤが係合した状態で十分に加速する

または

- ドライバーが機能を無効にするインストルメントパネルの表示灯

 が消灯します。


 始動するたびに、機能はエンジンが最後にオフになったときに設定されていたモードを継続します。

パーキングブレーキ故障



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前

に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。ドアがロックされた時点で、パーキングブレーキはかかっているもののスイッチは OFF になっている場合、その証として、スイッチ **3** 上の警告灯 **2** と警告



灯  がインストルメントパネル上で点灯します。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

ディーゼル車についての注意事項

エンジン回転数

走行中は、エンジンの損傷を防ぐため、選択ギヤにかかわらず、エンジン回転数は 4,500rpm 以下に保ってください。

メッセージ「排出ガス制御機能要点検」がインストルメントパネル上に表

示され、警告灯  および  が点灯した場合は、ただちに正規ディーラーにご相談ください。

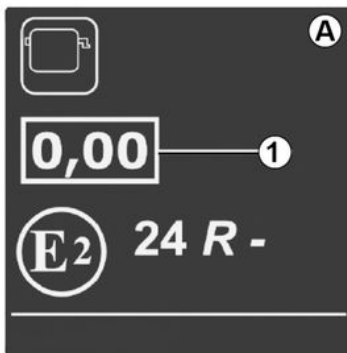
使用燃料の品質によっては、走行中まれに白煙を生じることがあります。

これはパーティキュレートフィルタの自動再生によるもので、車両の異常ではありません。

給油時の注意事項

ガス欠後のタンク充填後には、燃料系統 → 117 からプライミングした後にエンジンを始動してください。

43218



エンジンの煙不透明ラベル

この情報 1 は、エンジンルーム（車両によっては車両識別プレート → 330）に貼り付けられたラベル A で確認できます。

1. ディーゼルエンジン排出ガス

冬場における注意事項

凍結による故障を防止するために、次の事柄を守ってください：

- バッテリ電圧（充電状態）を確認してください。
- タンク内での水蒸気凝結や凝結物の堆積を防止するため、ディーゼル燃料タンクは比較的満量に近い状態に保ってください。



枯れ葉や草、紙屑など燃えやすいものの近くで停車したままエンジンを作動し続けしないでください。高温となっている排気システムのコンポーネントに、これらのものが接触して火災になる恐れがあります。


パーティキュレートフィルタ

パーティキュレートフィルタは、ディーゼルエンジンからの排ガスの処理に用いられます。

インストルメントパネルの警告灯




が点灯した場合は、パーティキュレートフィルタが飽和状態になっていて、清掃が必要であることを示します。


これを行うには、 警告灯が表示されたら、交通状況に応じて運転を続け、警告灯が消えるまで速度制限を守ってください。可能な場合は、エンジン回転数を 2000RPM 以下に下げないようにしてください。



警告灯は約 10 分から 20 分で消えるはずですが → 90。


ディーゼル車についての注意事項


インストルメントパネルの  の表示には、パーティクルフィルタを清掃するために、エンジン回転数の上昇と冷却回路の作動が伴う場合があります。

注: フィルタのクリーニングに関する運転条件が完全に満たされていない場合は、警告灯が再び表示されることがあります。車両が停止している場合、または警告灯が消灯する前にエンジン回転数が2000 RPMを下回ると、作業を繰り返す必要があります。


 パーティクルフィルタの再生を容易にするために、200 km ごとに主要道路で長い走行フェーズ (20 分以上) を実施します。

フィルタが過度に飽和した状態になると、 警告灯 (車両によっては  警告灯) がインストルメントパネル上に表示され、「イグニッション要点検」というメッセージもに表示されます。この場合は、正規代理店に連絡してください。

 警告灯 (車両によっては

 警告灯) と「エンジン不具合の危険」というメッセージが表示されたら、車両を停止させ、エンジンスイッチを OFF にし、正規ディーラにご連絡ください。



警告灯  が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

ガソリン車についての注意事項

次のような場合、触媒装置が過熱することがあります：

- 燃料残量警告灯が点灯したまま長時間走行したとき。
- 燃料に有鉛ガソリンを使用したとき。
- 潤滑油や燃料に指定外の添加剤などを加えたとき。

または次のような場合でも、キャタライザーが過熱することがあります：

- イグニッションシステムの故障、燃料切れ、スパークプラグの外れなど、走行時に失火や振動などの症状が表れたとき。
- エンジン出力が低下。

触媒装置が過熱すると、排気ガス浄化性能が低下するだけでなく**触媒装置本体の損傷や熱により重大な車両の損傷を引き起こすことがあります。**

上記のような異常が発生したら、無理に走行を続けず、ただちに指定サービス工場で点検修理を受けてください。

メンテナンスブックに記載されている点検整備を指定サービス工場で定期的に受けることにより、異常の発生を未然に防ぐことができます。

エンジン始動時の注意事項

キャタライザーまたはスタータの損傷を防ぎ、またバッテリーの早期の消耗を避けるために、**始動時のエンジンエラーの原因を特定して修正せずに、何**

度も始動操作を繰り返さないでください（スターターボタンを使用したり、車両を押したり、けん引したりしないこと）。

原因がわからない場合はそれ以上無理に始動操作を続けず、指定サービス工場にご連絡ください。



枯れ葉や草、紙屑など燃えやすいものの近くで停車したままエンジンを作動し続けしないでください。高温となっている排気系統のコンポーネントに、これらのものが接触して火災になる恐れがあります。


パーティキュレートフィルタ

パーティキュレートフィルタは、ガソリンエンジンからの排ガスの処理に用いられます。

インストルメントパネルの警告灯



が点灯した場合は、パーティキュレートフィルタが飽和状態になっていて、清掃が必要であることを示します。パーティキュレートフィルタを

清掃するには、 警告灯が表示されてから 50 km から 110 km/h の範囲で、交通状況に注意しながら制限速度


を遵守し、警告灯が消灯するまで走行します。

約 5 ～ 20 分後に警告灯が消灯します。

注意: フィルター清掃に必要な走行条件が完全に満たされていない場合、警告灯が20分後に消灯することがあります。


警告灯が消える前に運転を止めると、作業をやり直すことになります。

フィルタが過度に飽和した状態になる

と、 警告灯（車両によっては



警告灯）がインストルメントパネル上に表示され、「イグニッション要点検」というメッセージもに表示されます。この場合は、正規代理店に連絡してください。

 警告灯（車両によっては



警告灯）と「エンジン不具合の危険」というメッセージが表示されたら、車両を停止させ、エンジンスイッチを OFF にし、正規ディーラにご連絡ください。

ガソリン車についての注意事項



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規ディーラにご連絡ください。

地球にやさしい車づくり

お使いの車両は、その生産から走行を経て廃車へと至るライフサイクルを全うできるよう、環境に配慮して設計されています。

製造

本車両は（水やエネルギーの消費を節約し、視覚的、聴覚的侵害を抑え、大気や水への汚染物質の排出を抑え、廃棄物の選別と再生を実施し）自然環境への影響を除去する過程を経た製造場で製作されました。

排気ガス

お使いの車両は、使用中に排出される温室効果ガス（CO₂）の量や使用中の燃料消費量がより少なくなるように設計されています（ディーゼル車両では、5.3L/100km相当の140g/kmを実現しています）。

さらに（燃料タンクからの燃料蒸発ガスの大気中への放出を防ぐ）触媒コンバータ、O₂センサー、ガソリン蒸気フィルタなどの排気ガス浄化装置を装備しています。

いくつかのディーゼル車では、このシステムに煤塵の排出を抑えるパティキュレートフィルターが装備されています。

お客様ご自身も、環境保護に参加しているという意識を持ってお取り扱いください。

- 部品や車両の寿命が終了した場合は、部品を捨てないでください。環境基準に適合する法的存在に渡す必要があります。
- タイヤやオイル（空または充填済みのタンク）のような、車両の定期保守中に交換する消耗部品や構成部品は、専用の回収場所で処分しなければなりません。
- 交換した摩耗した電気および電子部品（バッテリーなど）をゴミとして捨てることはできません。認定ディーラーに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

26913



- 車両のリサイクルを寿命の最後に最適化するために、指定サービス工場に連絡するか、メーカーのウェブサイト参照して、地域の法律に準拠した環境を尊重するための回収ポイントに指示することができます。

リサイクル

お使いの車両は、少なくとも85%はリサイクル可能で、少なくとも95%は回収可能な素材で作られています。

そのため多数の部品がリサイクルできるように設計されています。

素材と構造は次の目的で慎重に設計されています：

- これらの部品を簡単に取外して専門会社で再処理することができます。
- 循環エコノミーの促進（再使用、リサイクル、回収など）

これは、特に電気自動車のバッテリーに該当します。

車両には、リサイクルされたプラスチックまたは再生素材から作られた部品が多く含まれています。

メンテナンスと環境に優しい運転のアドバイス

あなたのお車は 2015 年に施行されるリサイクル基準および使用済み車両の価格設定基準を満たしています。

あなたのお車のいくつかの部品は将来のリサイクルを考慮して設計されています。

これらの部品は容易に分解でき、リサイクルの過程においても処理し易くなっています。

さらに、お車は、設計、初期調整、低燃費などにおいて、排出ガス浄化装置に関する現行法規に適合しています。ルノーでは、地球環境を保護するという企業姿勢により有害排出ガスの削減および省エネルギーに積極的に取り組んでいます。お車を使用するにあたっては、ドライバーや乗員を含めた交通を利用するものすべての責任において、排気ガスや環境汚染物質などの有害排出物の発生を抑え、少しでも燃料の消費を抑えるなどの努力が必要です。メンテナンスをこまめに行って、お車を正しくお使いください。

点検整備

環境保護に関する法規に違反した場合、車両の所有者が処罰の対象となる可能性があります。

エンジンや吸排気システムの部品をメーカー指定品以外の部品に交換したり改造した場合、お車が排出ガス規制やその他の環境保護に関する法規に適合しなくなる恐れがあります。

メーカーが指定するサービス工場にて、整備手帳の指示に従ってお車の調整と点検を受けてください：ルノー指定サービス工場では、お車を新車時の調整にするために必要なすべての設備が整っています。

エンジンの調整

– **スパークプラグ**：消費、作動効率、性能の最適条件は、メーカー社の研究所が定めた仕様に厳格に従わなくてはなりません。

点火プラグを交換するときは、必ず同一メーカーの製品で、お車のエンジンに指定されているものをセットでご使用ください。メーカーにお問い合わせください。

– **イグニッションとアイドル速度**：調整の必要はありません。

– **エアクリナー、燃料フィルタ**：目詰まりしたフィルタを使用するとエンジンの作動効率が低下します。定期的に交換してください。

排気ガス浄化装置のチェックシステム

このシステムはお車の排気ガス浄化装置の異常を検出します。

排気ガス浄化装置に異常が発生した場合、有害物質の排出が多くなるだけでなく車両の損傷を引き起こすことがあります。



この表示灯は、システムに不具合がある可能性を示しています。

イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

– この警告灯が常時点灯している場合は、できるだけ速やかに正規ディーラーにご相談ください。

– 警告灯が点滅する場合は、消灯するまでエンジン回転数を下げてください。できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

エコドライブ

燃料消費量は標準的な規制方法に基づいて認証されています。

すべてのメーカーで同一され、車両間が比較できます。

実際の使用での消費量は車両、機器、ライディングスタイルの条件によって異なります。

消費を最適化するため以下をご参照ください。

車両に応じて、燃料消費量を減らすために利用できるさまざまな機能が用意されていることがあります。

- タコメータ；
- ギア表示灯；
- 「フリーホイール」機能。
- ドライビングスタイルのインジケータ；
- 加速インジケータ Eco。
- マルチメディアディスプレイを經由して、行程のまとめとエコドライブのアドバイスが表示されます；
- 「」モード ECO；
- Stop and Start → 128 機能。

フリーホイール機能

車両によっては、オートマチックトランスミッション装備車の減速時に（アクセルペダルから足を完全に離れた状態）、フリーホイール（オートマチックニュートラル）に切り替えるとエン

ジンプレーキの効きが弱くなり、加速することなくさらに燃料を節約できません。



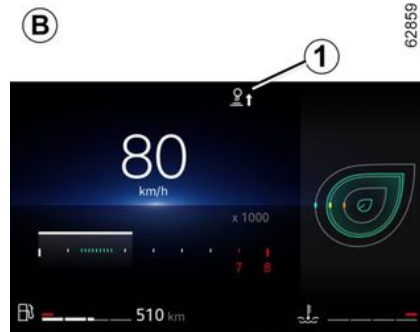
警告灯が、次のように、インストルメントパネル上に表示されます。

- 車両がフリーホイールモードでない場合は灰色で点灯します。
- 車両がフリーホイールモード（自動ニュートラル）の場合は、車両に応じて、緑または白で点灯します。

インストルメントパネル A または B 上

車種によって、マルチメディアから選択したインストルメントパネルカスタムスタイルに基づいて、情報パネルを整理しカスタマイズすることができます。


変速インジケータ 1




車両によっては、燃料消費を最適化するためインストルメントパネルの表示

ドライビングアドバイス、エコドライブ

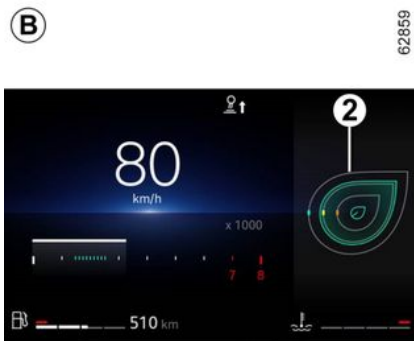
灯がシフトアップ／シフトダウンの最適なタイミングを知らせます：

 シフトアップしてください。

 シフトダウンしてください。

常にこのインジケータに従うようにすると、車両の燃料消費量を削減できます。

運転スタイルインジケータ 2



採用されたドライビングスタイルについて、リアルタイムに知らせます。この情報は、インジケータ 2 を用いてドライバーに通知されます。

インジケータ 2 に表示される花びらが多いほど、より柔軟で経済的な運転です。

常にこのインジケータに従うようにすると、車両の燃料消費量を削減できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

加速インジケータ Eco 3



これは、中程度かまたは強く加速しているかどうかをリアルタイムで通知します。

この情報は、次のようなインジケータ 3 によりドライバーに通知されます。

- 緑: 加速は中程度で適切
- 白: 加速が強すぎる
- 緑: 加速が強い

注: 運転スタイルインジケータ 2 と Eco 加速インジケータ 3 を同時に表示することはできません。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

マルチメディア画面で:



行程のまとめ

エンジンスイッチを OFF にすると、マルチメディア画面 4 上に「行程記録」が表示され、直近の行程に関する情報が提供されます。

次の表示を行います：

- 全体スコア、
- スコアの展開、
- 燃料消費なしの距離。

エコドライバーとしてのパフォーマンスの総合評価を行うために、0~100の全体的な点数で表示されます。

点数が高いほど、燃料表費用が少なくなっています。

エコアドバイスは、あなたのパフォーマンスを向上する目的で与えられるものです。

お気に入りの行程を保存して、自分の走行と車両の他のユーザーの走行を比較することができます。

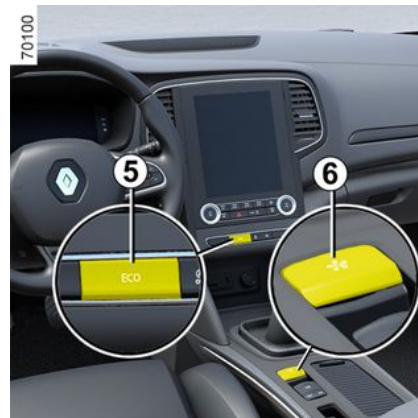
詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

ECOモード

ECOモードは、燃料消費量を最適化する機能です。

これは、特定の走行操作（加速、シフトギア、クルーズコントロール、減速など）に作用します。

加速を制限することで、都市部および郊外での燃料消費量を抑えることができます。



機能の作動

以下の方で機能を作動させることができます。

- スイッチ 5 を押す方法。
- 中央の制御装置 6 ➔ 244 を使う方法。
- マルチ機能画面のナビゲーションメニューから（マルチ機能の指示を参照）。

作動を確認するために、表示灯 **ECO** がインストルメントパネルに点灯します。

運転中にエンジン性能を取り戻すには、一時的にECOモードを停止することができます。

これには、アクセルペダルを思い切りいっぱい踏み込んでください。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

アクセルペダルの踏み込みを緩めるとECOモードが再び作動します。

機能の作動解除

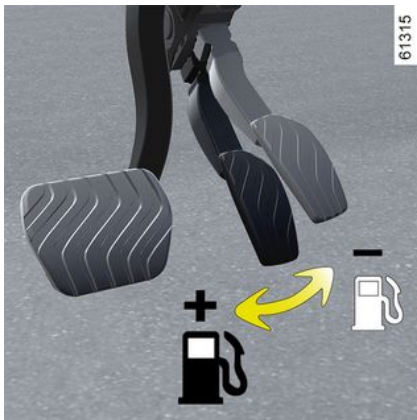
車両によっては、次のいずれかによって機能が無効になります。

- スイッチ **5** を押す方法。
- 中央の制御装置 **6** → **244** を使う方法。

インストルメントパネルの表示灯

ECO が消え、解除が確認されます。

ドライビングアドバイス、エコドライブ



暖房レベル

通常、暖房（特に外気温が0°C未満の状況での暖房使用）またはエアコンを使用すると、車両の燃料消費量が増加します。

行動

- 停車した状態で暖機運転をするより、エンジンを始動したらずに発進するようにしてください。ただし、エンジン温度が通常温度になるまでは、ゆっくりと走行するようにしてください。
- 高速走行は車両の燃料消費量に大きく影響します。

例（定速走行時）：

- およそ時速 130 km/h から時速 110 km/h に減速すると、約 20% の燃料を節約することができます。
- およそ時速 90 km/h から時速 80 km/h に減速すると、約 10% の燃料を節約することができます。
- 急な加速やブレーキングを多用するダイナミックな走行では、時間を節約できる代わりに燃費が悪化します。
- 中間ギアでエンジン回転数を上げ過ぎないようにしましょう。常に出来る限り高めのレンジを使用して走行してください。
- 急加速はやめましょう。
- ブレーキ操作は可能な限り少なめにします。障害物やカーブを早めに察知

することにより、アクセルペダルから足を放すだけですみます。

- 坂道では一定の速度を維持しようとせず、平地の場合以上に加速しないでください。アクセルペダルの踏み込み量を変えないようにしましょう。
- ダブルクラッチや停止前のエンジンの空ぶかしは現代の車では無用です。
- 悪天候、浸水した道路：



水溜りの深さがホイールリムの下端に達する道路の通行はお止めください。



運転の妨げになるもの

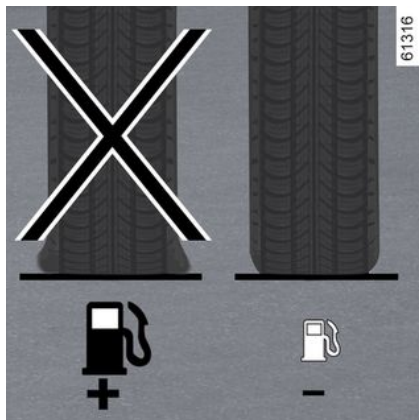
運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ

装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてははいけません。

ペダルの動作を妨げる危険があります。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

タイヤ



- タイヤ空気圧が低すぎると燃費を悪くします。
- 燃料消費を最適化するには、運転席ドアの端に示されている高速走行用のタイヤ空気圧または推奨圧力を設定します➔296。
- 非推奨タイヤを使うと燃料消費量が増加します。

エアコンの上手な使い方



- 可能であればECOモードを選択しなす。
- 電気は車両の燃料でもあるため、不要な電装品のスイッチはOFFしてください。ただし安全のため、視界不良のときにはヘッドランプを点灯するようにしてください。
- なるべくベンチレーション機能を使いましょう。窓を開けたまま100 km/hで走行した場合、窓を閉じているときに比べて約4%燃費が悪くなります。
- タンクから燃料が溢れる恐れがあるため、満杯まで給油しないでください。

- マニュアルエアコン装備車両では、不要時にはエアコンを手動でお切りください。

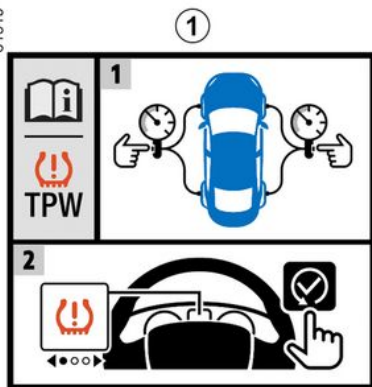
燃料の消費を最小限に抑え、環境を守るためのアドバイス:

炎天下に駐車していたときは、走り出す前にドアやウィンドウを開けて熱気を車内から逃すようにしてください。

- 荷物を積まないのにルーフキャリアを付けたままにしないでください。
- かさばる物を運ぶ際にはできるだけトレーラーをお使いください。
- トレーラーをけん引走行する場合は推奨のデフレクタを使用してください。また、調整を忘れずに行ってください。
- エンジンが最適な作動温度に達しないため、「近場」への走行（長時間の停車が多発する短距離走行）はできる限り避けてください。

タイヤ空気圧モニターシステム

61319



このシステムが装備されている車両は、タイヤ空気圧が低下するとこのシステムによって警告されます。


このシステムの有無は、車両に貼付されている 1 ラベルで分かります。


作動原理



このシステムは、走行中に車輪速度を測定しながら、その中の1本のタイヤの圧力損失を検出します。

空気圧が不十分である場合（タイヤの空気圧減少、パンクなど）には、警告

灯  2 が点灯したままになり、ドライバーに警告します。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。したがって運転される時は、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。毎月1回、スペアタイヤも含めてタイヤの空気圧を点検してください。

作動環境

空気圧低下が生じた場合に行われる警告の信頼性を高めるには、タイヤの空気圧ラベルに表示されているいずれかの空気圧（基準値）→ 296 に等しいタイヤ空気圧情報を用いてシステムをリセットする必要があります。

システムのリセットは、冷間時に 4 本のタイヤの空気圧を確認してから行ってください。

次のような状況では、システムが反応遅れで作動したり、または正しく動作しません。

- タイヤの空気を入れなおした後、または操作後、システムはリセットされません。
- システムのリセットが不適切: 推奨圧力とは異なるタイヤ空気圧。

3

タイヤ空気圧モニターシステム

- 車両負荷の大きな変化または車両の側面に負荷がかかります。
- 高加速でスポーティなドライビング。
- 滑りやすいまたは雪の積もった路上の通行。
- スノーチェーンでの通行。
- 新しいタイヤを一本のみ取り付け。
- メーカーの店舗が認可していないタイヤを使用している。

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。規定空気圧を遵守してください（スペアタイヤも同様）。最低でも1ヶ月に一度か、長距離走行の前には、必ず空気圧を点検をしてください（運転席側ドアに貼付されているラベルをご覧ください → 296）。

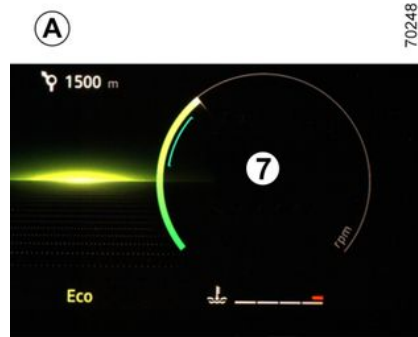
i リセット手順は、タイヤの空気圧を確認してから開始してください。圧力が推奨圧力に達しないと、システムは警告を発生しません。

i 突発的なタイヤの空気圧喪失（タイヤのパンクなど）は、システムでも検出できません。



タイヤ空気圧基準値のリセット手順

- 次の場合には、リセットが必要です；
- 各タイヤの空気注入またはタイヤ空気圧のリセット後。
 - タイヤ交換の後；
 - タイヤのローテーションの後。



タイヤ空気圧モニターシステム

マルチメディア画面を搭載していない車両

イグニッションオン、車両停止:

- タイプ **A** のインストルメントパネルを備えている車両においては、スイッチ **6** をタップして、インストルメントパネルのゾーン **7** にアクセスします。
- タイプ **B** のインストルメントパネルを備えている車両においては、スイッチ **6** を必要な回数だけ押して「設定」



タブにアクセスします。

- スイッチ **3** または **4** を短く押して、「タイヤ空気圧をリセットするには長押ししてください」メッセージにアクセスできます。
- スイッチ **5** OK を長押ししてリセットを開始します。

5 スイッチは、「処理が完了しました」というメッセージが表示されるまで押し続けます。これで走行できるようになりました。

マルチメディアディスプレイを搭載した車両

リセット手順は、**車両を静止させイグニッションスイッチを ON にした状態**で行う必要があります。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

タイヤ空気圧モニターシステム

メッセージ表示

この表は、タイヤリセット手順に関連して表示され得るメッセージを示したものです。

手順	メッセージ	読み取り値
-	タイヤ空気圧 イニシャル停止	このメッセージは走行中に表示されます。4本のタイヤの空気圧をリセットする場合は、車両を停止します。
1	タイヤ空気圧設定 長押し	4本のタイヤの空気圧をリセットするには、車両を停止した状態で、5 OK スイッチを、「プレッシャーOK ホールドオン」メッセージが表示されるまで押し続けます。
2	プレッシャーOK ホールドオン	このメッセージは、空気圧を、タイヤ空気圧ラベル → 296 に記載されている推奨基準圧に調整する必要がある場合に点滅します。リセット要求確認スイッチ 5OK を、「オペレーション完了」メッセージが表示されるまで長押しします。
3	オペレーション完了	リセット手順は正常に完了しました。これで走行できるようになりました。

タイヤ空気圧モニターシステム

タイヤ空気圧の調整

4本のタイヤの空気圧は、冷間時に設定してください（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照してください）。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、**推奨空気圧より0.2から0.3 bar（3 PSI）高めに調整してください。**

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

毎回タイヤの空気を入れなおす、または空気圧の調整の後、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始してください。

ホイール／タイヤの交換

販売網の各社が認定している正規品に限りお使いいただけます。それ以外の者を使うと、システムの有効化遅延や誤作動が生じるリスクがあります
→ 294。

毎回ホイールまたはタイヤを交換した後、タイヤの空気圧を調整し、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始します。

スペアタイヤ

車両に装備され、搭載されている場合、タイヤの空気圧を調整し、タイ

ヤの空気圧の基準値をリセット開始します。

タイヤパンク修理剤と空気入れキット

唯一メーカーの店舗が認可している備品を使用してください。それ以外の場合、システムが反応遅れで作動したり、正しく動作しない恐れがあります
→ 297。タイヤ空気注入キットの使用後、タイヤの空気圧を調整し、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始します。

タイヤ空気圧の不具合








表には、タイヤ空気圧の不具合が検出されたときに、インストルメントパネ

ル 8 上に表示される警告メッセージが列挙されています。

インストルメントパネルの情報により、タイヤ空気圧の不具合が発生している可能性を把握できます（タイヤの空気圧減少、パンクなど）。

タイヤ空気圧モニターシステム

不具合メッセージ表

表示灯	メッセージ	読み取り値
 点灯	タイヤ空気圧 イニシャル	これは、タイヤの空気圧不足またはパンクが検出されたことを示しています。冷間時に4本のタイヤの空気圧を点検 / 調整し、システムをリセットします。
 点滅後点灯	タイヤ空気圧 イニシャル確認	これは、リセットが失敗したことを示しています。再度リセットする前に、タイヤ空気圧を点検し、再調整します。
 点滅後に常時点灯し、警告灯  も表示	TPWを チェック	これは、システムに不具合があることを示しています。正規サービス工場にご連絡ください。
 点滅後点灯	TPW 使用できません	これは、他の4つのタイヤと異なるサイズのスペアタイヤが車両に取り付けられていることを示しています。他のタイヤと同じサイズのタイヤが取り付けられ、リセット手順が実行されるまで、システムは使用できません。

ドライビングアシストと補正装置

車両に応じて、次の部品で構成されています：

- ABS（アンチロックブレーキシステム）。
- ESC（エレクトロニクススタビリティプログラム、アンダーステアコントロールおよびトラクションコントロール付き）。
- エマージェンシーブレーキアシスト；
- 坂道発進アシスト



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートで

す。
この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。**車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。**運転される時は、お客さまの責任において慎重に運転しなければならぬことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

点検

急制動時、ABSはホイールのロックを防止し、制動距離を制御して、車両の

コントロールを可能のまま保持します。

これらの条件により、ブレーキをかけながらの障害物回避操作が可能となります。さらに、このシステムにより接地性の悪い路面（濡れた路面など）での制動距離が最適化されます。



ABS作動中は、制動中のブレーキペダルに小刻みに振動を感じます。ABSは、タイヤの、路面や路面保持に関する「物理的な」性能を向上させるものではありません。走行速度に応じた適切な車間距離を保つなど、**必ず**基本的な注意や気配りを怠らないでください。





緊急制動が必要なときには、ブレーキペダルを**強く踏み続けてください**。ブレーキを断続的に操作するポンピングブレーキの必要はありません。ABSがブレーキシステムに掛けられた力を加減します。

作動不良：

- ABS、ESC および非常ブレーキアシストが無効化されると、その証とし

て、 および  がインストールメントパネル上にて点灯し、車両によっては、「ABS 要点検」、「ブレー

キシステム要点検」および「ESC 要点検」メッセージも表示されます。**制動力は保たれます。**

- ブレーキシステムにおける不具合の証として、、、 お

よび **STOP** がインストールメントパネル上で点灯し、「ブレーキシステムにおける不具合」というメッセージが表示されます。

いずれの場合も、認定ディーラにご相談ください。



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規ディーラにご連絡ください。

ドライビングアシストと補正装置



この場合でも、ブレーキシステムは部分的に作動します。ただし、**急ブレーキは避けて**、周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。正規ディーラにご連絡ください。

アンダーステアコントロールとトラクションコントロールシステム付き横滑り防止装置 (ESC)

横滑り防止装置 ESC


このシステムによって、緊急時に（障害物の回避、カーブでのグリップの欠如など）車両コントロールを保持することができます。

作動原理

ステアリングホイールセンサーは、ドライバーの望んでいる運転経路を感知します。

その他のセンサーは車両の各部に配置され、実際の運転経路を測定します。

システムはドライバーの操作と車両の実際の経路と比較し、必要に応じて特定のホイールの制動やエンジン出力に作用して経路を修正します。システム

が作動すると、インストルメントパネルの表示灯  が点滅します。

アンダーステア制御

このシステムは、アンダーステア（フロントアクスルの路面保持性能の欠如）が生じた際に ESC の作動を最適化します。

トラクションコントロール

このシステムは発進または減加速時のホイールスピン（空転）を抑え、車をコントロールする働きをサポートします。

作動原理


ホイールセンサーにより、システムは常に駆動輪の速度を測定比較し、オーバーレブを検知します。1輪が空転し始めると、空転しなくなるまでそのホイールにブレーキをかけます。


同時にエンジン回転数もアクセルペダルの踏み込み量とは関係なく制御され、ホイールスピンを抑えます。

トラクションコントロールは路面状況に応じて（雪道、ぬかるみ、またはタイヤチェーンを装着しなければ走行できないなど、非常に軟弱な路面の場合）、ホイールスピンを抑えるために作動しますが、このときエンジンの出力も絞られます。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、

メッセージ「ESC 要点検」と 

および  警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

この場合、ESC とトラクションコントロールが無効化されます。正規サービス工場にご連絡ください。

緊急時ブレーキアシスト

ABS を補助して、車両の制動距離を短くするシステムです。

作動原理

このシステムは急ブレーキを検知することができます。急ブレーキをかける時、ブレーキアシストが瞬時に最大性能を発揮し、ABS 制御を作動します。ブレーキペダルから足を放さない限りブレーキ ABS は維持されます。

ブレーキライトが点灯

車両によっては、急激な減速を検知するとハザードランプを点灯させます。

ブレーキアンティシペーション

車両によっては、アクセルペダルから急に足を放すと、システムがブレーキ操作を先取りし、制動距離を短くします。

注意：

クルーズコントロール使用時：

ドライビングアシストと補正装置

- アクセルペダルを使用する場合、ペダルから足を離すとシステムが起動することがあります。
- アクセラレータを使用しない場合、システムは起動されません。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、「ブレーキシステム要点検」というメッセージがインストルメントパネル

上に表示され、 警告灯が表示されます。

正規サービス工場にご連絡ください。



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートで

す。
この機能は、ドライバーの代わりにするものではありません。**車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。**運転される時は、お客さまの責任において慎重に運転しなければならぬことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

ヒルスタートアシスト

勾配の角度によっては、このシステムは坂道発進の際にアシストします。ドライバーがアクセルを踏むためにブレーキペダルから足を上げたときに、ブレーキが自動的にかかって、車両が後退するのを防ぎます。

エアサスペンションの作動

この機能はギアがニュートラル以外（オートマチックトランスミッション車のNまたはP以外）で車両が完全に停止（ブレーキペダルを踏み込んだ状態）しているときのみ作動します。

このシステムは約**2秒**間車両を保持します。その後ブレーキは解除されず（勾配に応じて車両は走行します）



坂道発進アシストシステムは、急な勾配などでは車の後退を完全に防ぐことができるわけではあり

ません。

ドライバーはどんな場合でもブレーキペダルを踏んで、車両の後退を防ぐことができます。

長時間の停車には坂道発進アシスト機能を使用せず、代わりにブレーキペダルを使用してください。

この機能は常時車両を停止させるために使用するものではありません。

必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。運転者は滑りやすい路面やグリップの弱い路面では特に慎重に運転してください。

大ケガを負う危険があります。

運転時の補助機能

My Safety

「My Safety」機能を使うと、一連の運転支援機能を同時に無効化または有効化できます。

車両によっては、運転支援機能の一括OFFを選択することで、マルチメディア画面から「My Safety」機能を構成できます。

作動



「すべて ON」モード

車両に応じて変動する、運転支援と関係のある機能や構成は次のとおりです。

- 車線離脱防止機能 → 172。

- 速度超過警告音 → 197。
- 道路標識検出 → 197。
- ドライバー警戒警告 → 195。

「ALL ON」モードが作動すると、インストルメントパネルに「My Safety All ON を実行」メッセージが表示され、車両によってはボタン 1 のインジケータライトが点灯します。またこの場合、このモードで使用できる運転支援機能も有効化されます。

「カスタム」モード

このモードを使うと、「MY SAFETY PERSONO」設定を用いて構成済みの「すべて ON」モードで使用できる特定の運転支援機能を無効化または有効化できます。

イグニッションスイッチを ON にした状態で、スイッチ 1 を 2 回連続で素早く押します。初回押下時には「もう一度押す My Safety Perso」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。押下の 2 回目には、スイッチ 1 上の警告灯が消灯します。「カスタム」モードが有効化されます。「My Safety Perso を実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

「すべて ON」モードに戻すには、ボタン 1 上を一度だけ押します。ボタン 1 上の表示灯が点灯します。



直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に警告が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。
- または
- ドアが開けられた場合。
- または
- エンジンが再始動された場合。

「カスタム」モードの構成

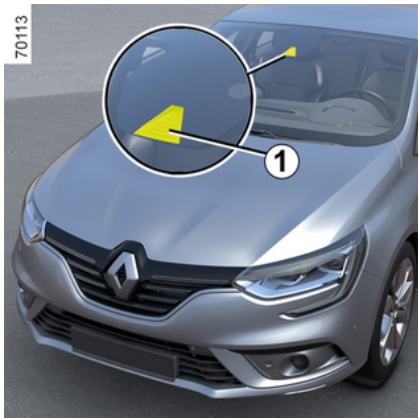
マルチメディア画面 2 から



運転時の補助機能

この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

車線離脱警報



カメラ **1** からの情報を用いて作動するこの機能は、車両が、実線車線または破線車線から逸脱するか、路肩／路側帯（分離帯、ガードレール、歩道、堤防など）に近づいており、方向指示灯が未作動の場合に、ドライバーに対して警告します。

注：フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。




このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。
車線逸脱警告は車両の軌道を修正しません。

ON/OFF




この機能を有効化するには、スイッチ **2** を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上で「車線逸脱警告」を選択します。「車線逸脱警告有効化」

というメッセージと  警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

この機能を無効化するには、スイッチ **2** を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上で「車線逸脱警告無効化」または「車線維持機能無効化」を選択します。インストルメントパネル

の表示灯  が消灯します。


作動

この機能が有効化されると、 警告灯と左右両側の車線インジケータ **3** がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

以下の場合、機能は作動する準備ができています：

– 車速が約 70 km/h から 180 km/h の場合。

と

–  警告灯と左右両側の車線インジケータ **3** が白色表示の場合。

警告機能は、車両が車線を逸脱した場合、または方向表示灯が作動していない状態で車両が路側（仕切り、バリア、舗装、舗装など）に接近した場合に警告します。


運転時の補助機能



以下の方法で、この機能がドライバーに警告します。

- ステアリングホイールの振動により。

と


-  警告灯と車線逸脱インジケータ **3** を赤色に変える方法。



エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。


一時的に使用できない


- 瞬間的に車線を逸脱したとき；
- ライン上を走行し続けているとき。
- 車線を変更してから約4秒後。
- きついカーブ
- 視界不良
- いずれかの方向指示器が作動中の場合。
- 加速
- ...

機能が使用できない場合、インストールメントパネルで  警告灯と左右のインジケータがグレーで表示されます。

システムの無効化条件

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- リバースギアが入れられた時；
- カメラの視界が妨げられている
-  **STOP** 警告灯が表示されます。

インストールメントパネルで  警告灯と右 / 左インジケータがグレーで表示されます。

設定

マルチメディアディスプレイを搭載した車両。



マルチメディア画面にある次の機能設定 **4** にアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従います。

- 「振動」：ステアリングホイール振動の程度を調整できます。
- 「警告」：車線検出の感度を調整できます。調整するには、以下から選択します。
 - 「事後」：車線を逸脱したら検出。
 - 「標準」：車線に近づくと検出。
 - 「事前」：車両付近に車線があると検出。

運転時の補助機能

マルチメディア画面を搭載していない車両




- 車両を停車した状態で **5**、スイッチを必要な回数だけ押して、「設定」タブ（車種に応じては「車両」タブ）にアクセスします。
- 制御装置 **6** または **7** を繰り返し押し、「設定」メニュー（車両装備によっては、「車両設定」メニュー）にアクセスします。スイッチ **8** OK を押します。
- 「運転支援」メニューに達するまで、制御装置 **6** または **7** を繰り返し押し、スイッチ **8** OK を押します。
- 制御装置 **6** または **7** を繰り返し押し、スクロールし、「車線逸脱警告振動 または 車線逸脱警告感度」メ

ニューにアクセスします。スイッチ **8** OK を押します。
- 制御装置 **6** または **7** を繰り返し押し、設定を調整します。スイッチ **8** OK を押します。

作動異常

誤動作が発生した場合、左右の車線インジケータ（および表示スタイルに応

じて、 警告灯）が消灯したり、インストルメントパネルにグレーで表示されたりします。

場合によっては、インストルメントパネルに「フロントカメラを点検してください」メッセージが表示されるか、

または  警告灯が点灯する場合もあります。

メーカーにお問い合わせください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はカメラのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

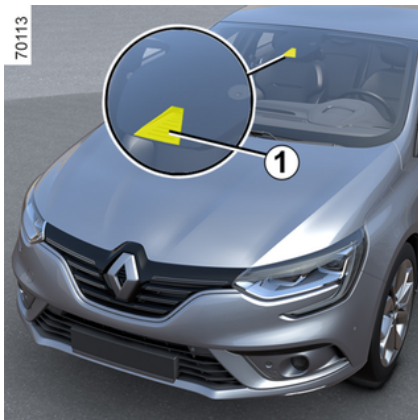
以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウィンドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- 複雑な環境（トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 不規則なまたは識別困難な路面標示（部分的に消えている、間隔が広すぎる、路面の凹凸により視認しづらいなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 狭い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
- 同車線の後続車両との車間がわずかなとき。

誤アラームまたは警告なしのリスク

運転時の補助機能

車線維持機能



カメラ 1 からの情報を用いて作動するこの機能は、車両が、実線車線または破線車線から逸脱するか、路肩／路側帯（分離帯、ガードレール、歩道、堤防など）に近づいており、方向指示灯が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

i ステアリングホイールを操作すると、いつでも**車両のコントロールを取り戻す**ことができます。

注：フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。




このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

ON/OFF

(車種によります)



この機能を有効化するには、スイッチ 2 を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上で「車線維持機能」を選択します。

「車線維持機能」メッセージと  警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

車線維持機能が有効化されると、「車線逸脱警告」機能も自動的に有効化 → 163 されます。

この機能を無効化するには、スイッチ 2 を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上で「車線維持機能無効化」を選択します。

インストルメントパネルの表示灯



が消灯します。

注：「車線維持機能」を無効化すると、「車線離脱警告」機能も無効化されます。




エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。


運転時の補助機能

作動



この機能が有効化されると、 と左右両側の車線インジケータ **3** がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

この機能は、車速が約 70 km/h から

180 km/h の状態で  警告灯と要軌道修正表示灯 **3** が白色点灯する状況になると介入するよう設定されています。

この機能は、車両が車線を逸脱した場合、または車両が方向表示灯が作動していない状態で路側（仕切り、バリア、舗装、舗装など）に接近した場合に作動します。

以下の場合に作動:

- この機能は、車両のステアリングシステムが車両の軌道を修正するための動作をトリガーします。


- インストルメントパネル上の、



警告灯と逸脱車線側のインジケータ **3** が黄色に変わります。


注: カーブでは、わずかに車線を離脱しても警報は作動しません。

ステアリングシステムに対する事故回避操作が不十分だと、インストルメン

トパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 **3** が赤色に変わり、ステアリングホイールが振動します。

注意:

この機能を使用する場合:

- システムがドライバーによるステアリングホイール操作を検出できなくなると、 警告灯がインストルメントパネル上にオレンジ色表示され、「ステアリングホイールを握ってください」というメッセージが現れるほか、ピープ音も鳴ります。

このピープ音と警告灯およびメッセージの表示は、ドライバーがステアリングホイール操作を行うまで続きます。

- システムの作動時間が長すぎると、ドライバーが車両制御を再開するまで、警告音が鳴り、該当車線側のインジケータ **3** が点滅します。




ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

一時的に使用できない


- 瞬間的に車線を逸脱したとき;
- ライン上を走行し続けているとき。
- 車線を変更してから約4秒後。
- きついカーブ
- 視界不良
- いずれかの方向指示器が作動中の場合。
- 加速
- エマージェンシーブレーキ
- ...

この機能が使用不能になると、インス


トルメントパネル上の  警告灯と左右両側の起動補正インジケータ **3** が灰色に変わります。

システムの無効化条件

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- リバースギアが入れられた時;
- カメラの視界が妨げられている
-  警告灯が表示されます。

運転時の補助機能

インストルメントパネルで  警告灯と右 / 左の車線警告灯がグレーで表示されます。

設定

マルチメディアディスプレイを搭載した車両。



マルチメディア画面にある次の機能設定 4 にアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従います。

- 「振動」：ステアリングホイール振動の程度を調整できます。
- 「警告」：車線検出の感度を調整できます。調整するには、以下から選択します。

- 「事後」：車線を逸脱したら検出。
- 「標準」：車線に近づくと検出。
- 「事前」：車両付近に車線があると検出。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

マルチメディア画面を搭載していない車両



- 車両を停車した状態で 5、スイッチを必要な回数だけ押して、「設定」タブ（車種に応じては「車両」タブ）にアクセスします。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押し、「設定」メニュー（車両装備によっては、「車両設定」メニュー）に

アクセスします。スイッチ 8 OK を押します。


- 「運転支援」メニューに達するまで、制御装置 6 または 7 を繰り返し押しします。スイッチ 8 OK を押し

ます。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押しして「車線維持機能感度」メニューにアクセスします。スイッチ 8 OK を押し

ます。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押し、設定を調整します。スイッチ 8 OK を押し

作動異常

システムが作動不良を検出すると、

 警告灯と「フロントカメラを点検してください」メッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

メーカーにお問い合わせください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はカメラのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウィンドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- 複雑な環境（トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 不規則なまたは識別困難な路面標示（部分的に消えている、間隔が広すぎる、路面の凹凸により視認しづらいなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 狭い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
- 同車線の後続車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線維持機能」が誤反応を起こしたり、全く反応しなかったりすることがあります。

不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

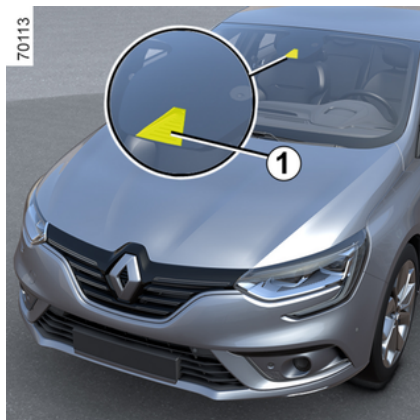
- カメラ領域が損傷しています（フロントガラス側またはルームミラー側）。
- 道路が滑りやすい（積雪、路面凍結、水貯まり、砂利などがある）場合。
- フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。

運転時の補助機能

- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両が、いくつかの路面マーキング（道路工事のある区域等）を有する区域に進入している。

運転時の補助機能

車線離脱防止



カメラ **1** からの情報を用いて作動するこの機能は、車両が、実線車線または破線車線から逸脱するか、路側帯（仕切り、障壁、舗道、堤防など）に近づいており、方向指示器が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

設定によっては、車両が破線車線から逸脱し、方向指示器も未作動の場合、この機能は、

– ステアリングシステムに対する事故回避操作介入は行わずドライバーへの警告のみ行います。

または

– ステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

カメラの位置 **1**

フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するのではなく、補助的に注意喚起するものです。



ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両のコントロールを取り戻すことができます。

ON/OFF

「My Safety」ボタン **2** を用いた警告の有効化および無効化



警告は、「My Safety」機能 **▶ 162** の「カスタム」モードを用いることで無効化または有効化できます。

過去に「カスタム」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

- 警告を無効化するには、ボタン **2** を2回押します。
- 警告を再び有効化するには、ボタン **2** を1回押します。

運転時の補助機能

マルチメディア画面 3 からの有効化／無効化




警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。


「ON」または「OFF」を選択します。

作動



この機能が有効化されると、警告灯


(車両によっては  警告灯と左右両側の車線インジケータ 4) がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

この機能が有効化されると、 警告灯と左右両側の車線インジケータ 4 がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

この機能は、次の場合に通知または反応します。

- 車速が約 65 km/h から 170 km/h の場合。

と

-  警告灯と左右両側の車線インジケータ 4 が白色表示の場合。

この機能が警告準備になるか、警告を行うのは、方向表示灯が作動していない状態で車両が車線から逸脱したり、路肩／路側帯（分離帯、ガードレール、歩道、堤防など）に接近したりした場合です。

- 車両が、方向指示灯未作動の状態でも路肩／路側帯に近づいている場合。


- 車両が、方向指示器未作動の状態でも実線車線から逸脱した場合。

- 「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されている状況で、車両が、方向指示灯未作動の状態でも破線車線から逸脱した場合。


以下の場合に作動:

- この機能は、車両のステアリングシステムが車両の軌道を修正するための動作をトリガーします。

と

- インストルメントパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 4 が黄色に変わります。

ステアリングシステムに対する事故回避操作が不十分だと、インストルメン

トパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 4 が赤色に変わり、ステアリングホイールが振動します。


運転時の補助機能

「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されていない場合、この機能は、車両が、方向指示灯未作動の状態
で破線車線から逸脱し、車線から十分近い場所に路肩／路側帯がない場合に警告音を発します。

この場合、この機能は、次の方法でドライバーに警告します。

－ ステアリングホイールの振動により。

と

－ インストルメントパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 **4** が赤色に変わります。

注: カーブでは、わずかに車線を離脱しても警報は作動しません。

注意：

「正しく運転してください」警告

－ システムは作動しているものの、ドライバーによるステアリングホイール操作を検出できない状態になると、ドライバーが車両制御を再開するまで、「正しく運転してください」メッセージがインストルメントパネル上に表示され、ピープ音が鳴ります。また車両

によっては、 警告灯が黄色表示されます。

または

－ システムの作動時間が長すぎると、ドライバーが車両の制御を再開するまで、「正しく運転してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、信号音が鳴るほか、



警告灯が黄色表示され、該当車線側の表示灯 **4** も表示されます。



ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

設定

マルチメディア画面 3 からの設定調整



マルチメディア画面にある次の機能設定 **3** にアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従います。

－ 「破線車線からの逸脱時に作動」：この設定を使うと、車両が、方向指示器未作動の状態
で破線車線から逸脱した場合における、この機能による対応を次の中から選択できます。

－ この機能による操作介入を選択：

この機能が車両ステアリングシステムの操作に直接介入して車両の軌道を修正します。

－ この機能による操作介入を非選択：この機能は、車両軌道修正操作介入

運転時の補助機能

ではなく、ステアリングホイールを振動させる方法でドライバーに警告します。

- 「振動の強さ」:ステアリングホイール振動の程度を調整できます。
- 車両によっては選択できる「車線逸脱予測」または「警告」:車線逸脱予測機能の感度を調整できます。調整するには、以下から選択します。
 - 「遅め」:車線逸脱時検出機能です。
 - 「スタンダード」:車線接近検出機能機能です。
 - 「早め」近接車線検出機能です。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

機能の一時的な使用不能／抑制

この機能は、次の場合に一時的に使用できないか、無効になります。


- 瞬間的に車線を逸脱したとき；
- ライン上を走行し続けているとき。
- 車線を変更してから約4秒後。
- きついカーブ
- 視界不良
- いずれかの方向指示器が作動中の場合。
- ハザードランプが有効化されている場合。
- 加速
- 車線幅の変更。
- 横滑り防止装置（ESC）が作動している場合


- アンチロックブレーキシステムが作動している場合。
- アクティブ緊急ブレーキシステムが作動した場合。

フロントカメラの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントカメラ映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

自動無効化


この機能は、次の場合に自動で無効化されます。

- 横滑り防止装置（ESC）が無効になっているか、誤動作しています。
- アンチロックブレーキシステムに機能不良が生じた場合。
- 牽引バーがトレーラーヒッチソケットに電気的に接続されている場合。
-  警告灯が表示されます。

この機能が有効化されると、 警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、「

」警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。

場合によっては、以下のメッセージが表示されます。

- « ドライブアシスト 操作不可 »；
- または
- « ドライブアシスト 要確認 »；
- または
- « フロントカメラを点検してください »。

いずれの場合も、正規ディーラにご相談ください。

運転時の補助機能

注意：



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はカメラのアライメントが変わる可能性があります、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

条件によっては、システムの動作に以下のような障害または損傷が発生する場合があります。

- フロントウィンドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- 不安定な天候条件（雪、雨、あられ、薄氷など）、
- 視界不良（夜間、霧など）、
- （部分的に消えた、過剰なスペース、ひずんだ路面）を識別することができる。
- 眩惑（日光、反対車線を走行する車両のランプなど）、
- 道路が狭い、曲がりくねっている、うねっている（急カーブなど）、
- 同車線の後続車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線逸脱防止」機能が正しく作動していないか、全く作動していない可能性があります。

不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

機能の作動解除

以下の場合には機能を解除する必要があります。

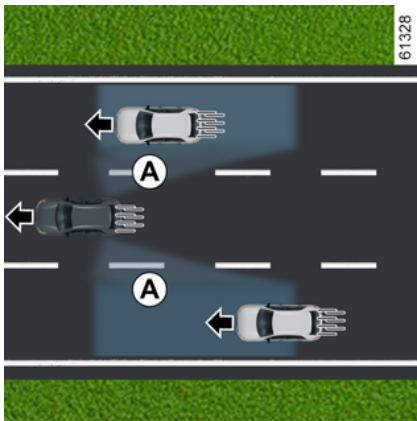
- カメラ領域が損傷しています（フロントガラス側またはルームミラー側）。
- 道路が滑りやすい（雪、黒い氷、水上飛行、砂利など）。
- 視界不良（夜間、霧など）、
- フロントガラスにひびが入ったり歪んだり（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。

運転時の補助機能

- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両が、いくつかの路面マーキング（道路工事のある区域等）を有する区域に進入している。

運転時の補助機能

死角の警告



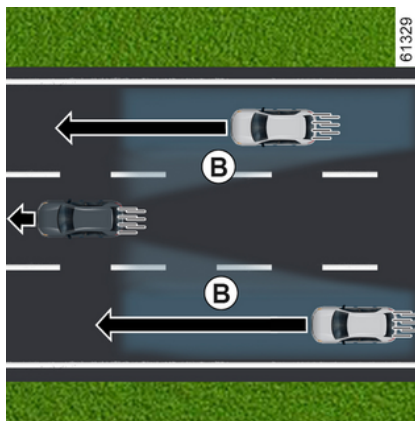
リアバンパー（領域 **C**）の両側に設置されているセンサからの情報を用いて作動するこの機能は、次の場合に、ドライバーに警告します。

– 他車両が検出ゾーン **A** 内に存在する場合。

と

– ゾーン **B** 内に存在し、自車両より高速で走行している他車両と衝突する危険がある場合。

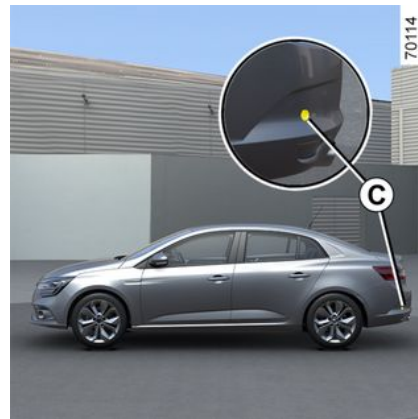
この機能は、車速が約 15 km/h 以上になると警告を発します。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

特徴



レーダの検出領域 **C** に障害物（ステッカー、泥、雪など）がないか確認します。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

運転時の補助機能

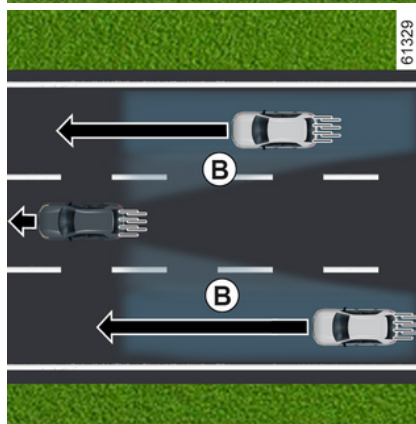
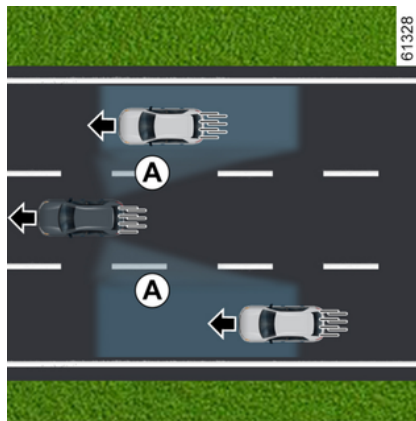
警告灯 7



警告灯 1 は、各ドアミラー 2 上にあります。

注: ドアミラー 2 は定期的に清掃し、警告灯 1 を視認できる状態に保ってください。


作動



この機能は、車速が約 15 km/h を超えている状態で次の状況になると警告します。

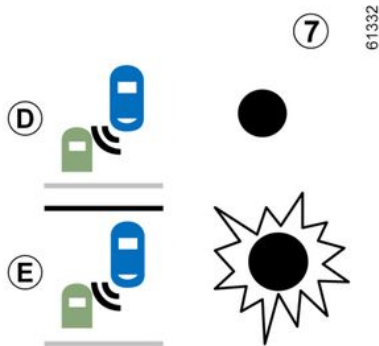
- 死角 A に他車両が入り、自車と同じ方向に走行している場合。
- 他車両が、検出ゾーン B 内の隣接車線後方から自車両に急接近している場合。

他の車両を追い越す場合、警告灯 1 は、自車両の死角 A に十分な長さの他車両が存在する場合に限り点灯します。

 他の車両が動いていない場合、この機能は運転者に通知しません。

運転時の補助機能

ディスプレイ D



最初の警告: 方向指示灯が作動していない場合、死角内で他車両が検出されるか、隣接車線の他車両が後方から自車両に急接近していると、警告灯 7 が点灯します。

i エンジンを始動すると、イグニッションスイッチが OFF になったときの最後の位置が呼び出されます。

ディスプレイ E

方向指示器の作動中に、死角警告領域内で他車両が検出されるか、他車両が、自車両の旋回方向に向かって後方

から自車両に急接近していると、1 警告灯が点滅します。方向指示灯を停止すると、この機能は、初期警告状態 (表示 D) に戻ります。

作動しない場合

- きつい曲がり角の道路を走行中の場合
- リバース。

システム認識済みの牽引バー装備車両の場合、この機能が作動していないと、その旨をドライバーに知らせるための、「トレーラ: 死角警告 OFF」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

作動異常

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダー要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。正規サービス工場にご連絡ください。

i バンパーの後ろにセンサがあるため、バンパーの作業 (修理、交換、塗装など) は資格を持つ専門スタッフに任せられることをお勧めします。

運転時の補助機能

警告



- システムの検知範囲は、標準の車線幅に基づいて作動します。狭い車線の走行中に、最も近い車線よりも遠くで車両が検出されると、このシステムがその旨をドライバーに対し警告することがあります。
- システムの検知範囲は、標準の車線幅に基づいて作動します。幅広い車線を運転する場合、システムは死角内を走行する車両を検出できない可能性があります。
- 非常に悪天候（大雨、雪など）の場合、システムが一時的に中断する場合があります。走行条件を常に認識してください。

事故の恐れがあります。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて车速を調整する必要があります。いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はレーダーのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。正規サービス工場にご連絡ください。
- レーダーのある場所の作業（修理、交換）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（金属橋、トンネル、端に障壁がある道路など）。
- 不安定な天候条件（雪、雨、薄氷など）、
- 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

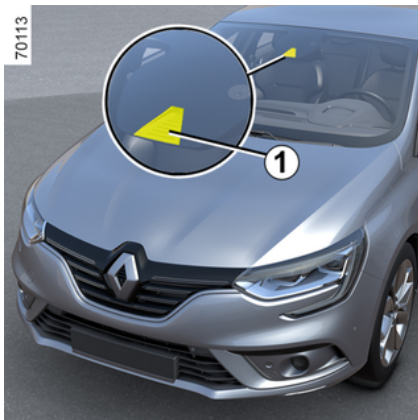


システム作動時間の制限

- システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
- 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
- カーブに差しかかると、レーダーは、隣接車線の他車両を一時的に検出しなくなる場合があります。
- 隣接する車線（3車線の道路を走行中）で他の2台の車両が後方から並んで接近しているときに、自車よりもはるかに高速であると、この機能は遅れて警告することがあります。
- 他の車両が著しく異なる速度で走行している場合、システムが警告を表示しないことがあります。
- 車両が、車長の長い車両（たとえば、重い車両が車両と同様の速度で追い越す）に追い越される場合、システムは操縦の終了前に警告を中断することがあります。
- 車両が風の強い道路を走行する場合。

運転時の補助機能

適切な車間距離アラート



カメラ **1** からの情報を用いて作動するこの機能は、自車両と前方車両の時間間隔をドライバーに知らせ、両車両が安全に停止できる距離を保てるよう支援します。

この機能は、車速が約 30 km/h から 200 km/h の場合に有効化されます。

カメラの位置 **1**

フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するのではなく、補助的に注意喚起するものです。

ON/OFF

マルチメディア画面 **2** 装備車両

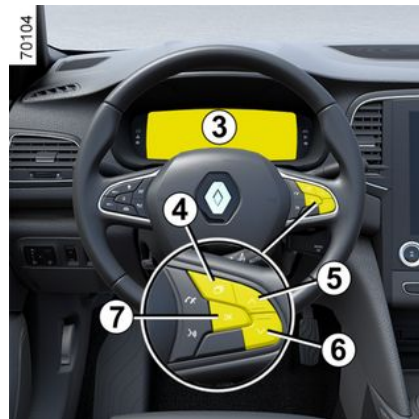


マルチメディア画面 **2** の「車両」ワールドから、「ドライブアシスト」メニューを押します。

「フロントの距離」機能を有効化または無効化します。

マルチメディア画面を搭載していない車両

インストルメントパネル **3** から

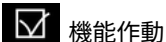


- 車両を静止させ、スイッチ **4** を必要な回数だけ押して、「設定」領域にアクセスします。
- スイッチ **5** または **6** を繰り返し押して「車両設定」メニューにアクセスします。 **7** OK スイッチを押します。
- スイッチ **5** または **6** を繰り返し押して「ドライブアシスト」メニューにアクセスします。 **7** OK スイッチを押します。

運転時の補助機能

- 制御装置 **5** または **6** を繰り返し押し、「車間警告」設定にアクセスします。
- スイッチ **7 OK** を押して機能を作動または作動解除します:

3



機能作動

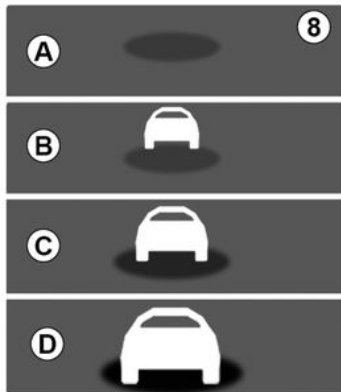


機能作動解除



エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。

作動



39301

この機能が有効化されると、**8** インジケータがインストルメントパネル上に表示され、自車両と前方車両の車間距離をドライバーに知らせます。

- **A** (灰色) : 機能が作動していない状態。
- **A** (緑色) : 他の車両が検出されていない状態。
- **B** (緑色) : 時間差が約 2 秒以上の (2 台の車間距離が車速に照らして適切な) な状態。
- **C** (オレンジ色) : 時間差が約 1 秒から 2 秒 (2 台の車間距離が不十分) な状態
- **D** (赤色) : 時間差が約 1 秒以下の (2 台の車間距離がきわめて不十分) な状態。

2 台の車両の間隔が約 0.5 秒未満の場合、表示灯 **8** とディスプレイ **D** がインストルメントパネル上で「-. 秒間」赤色点滅します。

特定の条件化では、時間差が表示されません。

- 旋回時、
- 車線の変更時、
- 前方の車両がレーダーまたはカメラの範囲から十分に遠いか範囲外にある場合。

運転時の補助機能

注意：



測定結果の表示：車両でシステムは操作を実行しません。

この機能では、郊外またはダイナミックな走行スタイル（突然の旋回、加速、ブレーキングなど）での使用は想定されていません。安定的な走行条件を前提としています。

この機能はブレーキングシステムとは連動していません。

システムを正常に作動させるため、カメラは清潔に保ち、カメラの改造は避けてください。

カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

運転時の補助機能



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わるとカメラのアライメントが変わり、その後の作動に影響が出る恐れがあります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

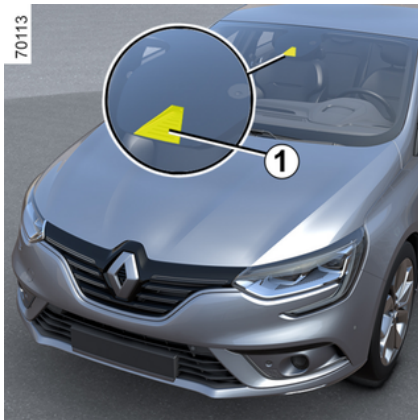
システムの障害

- フロントウィンドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- 複雑な作業を伴う環境（建設現場、道路工事など）。
- 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭い、曲がりくねっている、うねっている（急カーブなど）

誤警報のリスク。

運転時の補助機能

エマージェンシーブレーキアシスト



システムは、レーダーとカメラ **1** からの情報を使用して、車両からの距離を決定します。

- 同じ車線の前方の車両から。

または

- 方向を変える操縦の状況で任意の対向車から。

または

- 自車両の前後を横切る他車両。

または

- 静止車両。

- 周囲の歩行者やサイクリスト。

システムは、正面衝突の危険性があるかどうかを運転手に通知して、適切な緊急操作（ブレーキペダルの踏みおよび/またはハンドルの回し）を可能にします。

運転者の反応度に応じて、システムは、損傷を制限するためまたは衝突を防止するために制動を支援することができます。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するのではなく、補助的に注意喚起するものです。



このシステムは、必要に応じて完全に停止するまで、車両に最大制動を加えることができます。

安全上の理由から、車両に乗るときは常にシートベルトを着用し、荷物が前方に投げられて乗員に当たらないように荷物が積載されていることを確認してください。

カメラの位置 1

フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。


作動

走行中に衝突の危険が生じると、システムは次のように作動します。

- **衝突の危険についてドライバーに警告する**:「障害物検出」というメッセージをインストルメントパネル上に表示しビーブ音を鳴らします。

注: ドライバーがブレーキペダルを踏んでいるにもかかわらずシステムが衝突の危険を検出する条件が整っている場合、ドライバーの操作だけでは衝突を防ぐのに十分な制動力に達していない状況であれば、システムにより制動力が高められることがあります。

- **状況によってはブレーキを掛ける**: 警告に対するドライバーの反応がなく、衝突の危険が差し迫っている場

合、赤色の  警告灯と「危険ブレーキ」というメッセージをインストルメントパネル上に表示し、ビーブ音を鳴らします。

注:

- ドライバーによる車両制御装置（ステアリングホイール、ペダルなど）の使用中には、システムの反応に遅れが生じたり、システムが作動しなかったりすることがあります。

運転時の補助機能

- 非常ブレーキの作動により車両が停止すると、一定の短い時間が経過するまでは車両が静止状態に保たれます。この時間を超えて車両を静止させておくには、ドライバーがブレーキペダルを踏み続ける必要があります。
- システムがブレーキを作動させると、「アドバンストセーフティ機能作動」というメッセージが表示されます。

i 緊急時には、次の操作によりいつでもブレーキを停止できます。

- アクセルペダルのタップ
または
- 衝突回避操作としてステアリングホイールを回します。

i **注意事項**
速度に応じて、警告とブレーキが同時に作動することがあります。

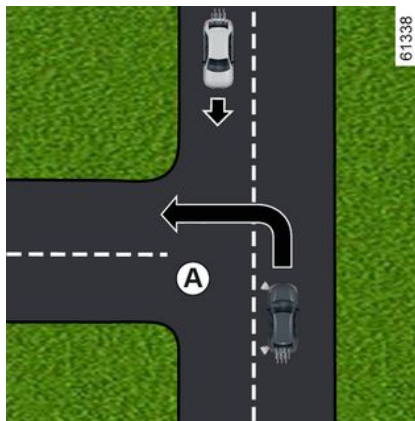
車両検出

同一車線を走行している車両の検出

システムは、次の場合に、同一車線の前方を走行している他車両と衝突する危険があると検出します。

- 車両が約 8 km/h を超える速度で走行している。

進行方向変更中の対向車検出



方向転換中 (A など) には、次の場合に、システムが対向車を検出します。

- 自車両が約 7 km/h から 30 km/h の速度で走行している場合。
- 方向指示灯を作動させた。

車線を横切る車両の検出

システムは、次の場合に、車線を横切る車両を検出します。

- 自車両が約 5 km/h から 85 km/h の速度で走行している場合。

静止車両の検出

システムは、次の場合に、静止車両を検出します。

- 車両が約 5 km/h を超える速度で走行している。

歩行者および自転車の検出

同一車線上の歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

- 自車両が約 5 km/h から 85 km/h の速度で走行している場合。

進行方向変更時における歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

- 自車両が約 7 km/h から 30 km/h の速度で走行している場合。

運転時の補助機能

有効化、無効化

i 車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に機能が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。
- または
- ドアが開けられた場合。
- または
- エンジンが再始動された場合。

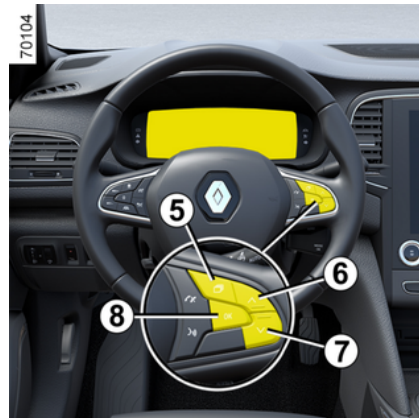
マルチメディア画面 4 からのシステムの有効化/無効化



機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

オンボードコンピューターからシステムをアクティブ化、非アクティブ化する





- 車両を停止させ、5 スイッチを必要回数だけ押して「車両」タブに移動します。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押し、「設定」メニューにアクセスします。スイッチ 8 OK を押します。
- 「運転支援」メニューに達するまで、制御装置 6 または 7 を繰り返し押します。スイッチ 8 OK を押します。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押し「アクティブブレーキ」メニューにアクセスし、スイッチ 8 OK を押します。

運転時の補助機能

この機能を有効化または無効化して次の状態にするには、スイッチ 8 OK をもう一度押します。

機能作動

機能作動解除

システムを作動解除すると、 警告灯が点灯したり、車両によっては、インストルメントパネルの  警告灯が点灯します。システムがアクティブになると、警告灯が消えます。

設定



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

マルチメディア画面 4 からの設定調整

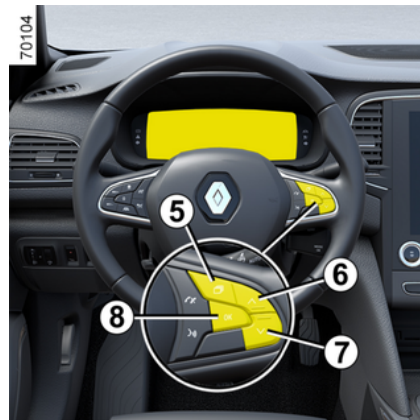


車両を静止させた状態で下記の機能に関する設定にマルチメディア画面 4 からアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

- 「警告」：アラートの感度を調整できます。調整するには、以下から選択します。
 - « 遅め »;
 - « スタンダード »;
 - « 早め »。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

インストルメントパネルからの設定調整




- 車両を停止させ、スイッチ 5 を必要な回数だけ押して、「車両」タブにアクセスします。
- スイッチ 6 または 7 を繰り返し押して「設定」メニューにアクセスします。スイッチ 8 OK を押します。
- スイッチ 6 または 7 を繰り返し押して「ドライブアシスト」メニューにアクセスします。スイッチ 8 OK を押します。
- 制御装置 6 または 7 を繰り返し押し、「アクティブブレーキ感度」メニューにアクセスします。スイッチ 8 OK を押します。

運転時の補助機能

– 制御装置 **6** または **7** を繰り返し押し、設定を調整します。スイッチ **8** OK を押します。

一時的に使用できない

システムが一時的な故障を検知した場合、

 警告灯が点灯するか、または車両によっては、インストルメント

パネルの  警告灯が点灯します。

考えられる原因:

– システムは一時的に機能しなくなります（太陽からのグレア、ディーブビームヘッドライト、悪天候など）。可視性条件が良好な場合、システムは再び動作可能になります。


– システムは一時的に中断されます（たとえば、フロントウィンドウまたはフロントバンパーまたはリアバンパーが汚れ、泥、雪、凝結物などによって覆い隠される）。この場合は、車両を停止させてエンジンを止めてください。フロントウィンドウとフロントバンパーを清掃してください。次にエンジンを始動すると、警告灯とメッセージが消えます。

センサーがふさがれていない場合は、他の原因が考えられます。指定サービス工場にお問い合わせください。

作動異常

この機能が作動不良を検出すると、



警告灯（車両によっては  警告灯）がインストルメントパネル上に表示され、「フロントカメラを点検してください」メッセージまたは「カメラ要点検」メッセージが表示されません。

正規サービス工場にご連絡ください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのものです。この機能の起動は、システムがドライバーによる車両の制御の明確な兆候（ハンドル、ペダルなどに対するアクション）を検出したときに遅延または防止される可能性があります。

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- シフトレバーがニュートラル位置にある場合。
- 横滑り防止装置（ESC）が始動した場合。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダー / カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。



システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（金属製の橋梁、トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 物体（車両、歩行者など）とその周辺のコントラストが小さい（白色の衣服を着た歩行者が積雪場所にいるなど）場合。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- フロントウィンドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- ...

このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。

システム作動時間の制限

- このシステムは、車両始動のたびに、車両周辺の状況に適応するためのキャリブレーションを実行するため、約2分から5分の間は無効になることがあります。
- レーダやカメラの設置／検出エリアは、「方向変更時の対向車両に対する反応に関する特記事項」と題された説明に記載の条件が満たされていればシステムが適切に機能するよう、清潔に保ち、改造を避ける必要があります。
- システムは、バイクなどの小型車両に対しては、他の車両の場合のように効果的に機能することができない場合があります。
- 路面が滑りやすい状況（降雨時、降雪時、路面凍結時など）では、システムが正常に作動しないことがあります。
- システムは、障害物とそれ以外の要素を完全に区別できないと正しく作動しません。したがって、システムは以下を検出できません。
 - 暗闇または明るさが不十分な場所の歩行者／自転車走行者。
 - 一部分しか視認できない歩行者／自転車走行者。
 - 身長が約80 cm未満の歩行者。
 - 大きな物を運ぶ歩行者
 - ...

運転時の補助機能

このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。

3



機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- カメラエリアが損傷している（例: フロントウィンドウの内側または外側）。
- 車両のフロント部に損傷（衝突痕、レーダの傷など）がある場合。
- 車両の牽引（分解）。
- フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
- 舗装道路で運転していない。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

機能の一時停止

アクセルペダルを軽く踏むか、衝突回避操作でステアリングホイールを回すことで、ブレーキング機能をいつでも一時停止することができます。

運転時の補助機能

ドライバー警戒警告

ドライバーに対する覚醒警告は、ドライバーの挙動（運転スタイル、車両のステアリングなど）を分析し、居眠り運転のリスクがある場合に警告する機能です。

以下のようなインジケータを考慮します：

- ステアリングホイールの動き
- 他のシステム（インジケータ、ブレーキペダルなど）におけるドライバーの操作。



この機能は、疲労のリスクがある場合に運転時の安全性を補助するものです。この機能が車両を操舵することはありません。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。ドライバーは、システムからの指示にかかわらず、常に周囲の状況を踏まえて運転しなければなりません。

作動



以下の場合、機能は作動する準備ができています：

- 車両が最後に停止してから数分が経過した場合。
- 車速が約 70 km/h を超えた場合。

疲労や注意散漫の危険が生じている場合は、「ふらつき警告 休憩を入れてください」というメッセージがインストルメントパネル 1 上に表示され、ピープ音が鳴ります。警告を消去するにはスイッチ 2 OK を押します。なるべく早く停車して休息してください。

メッセージ削除後も、システムは、ドライバーの注意状況監視を継続し、必要に応じて新たな警告を行います。



ドライバーの警戒警告は常にドライバーの注意を監視し、各行程ごといくつかの警告を表示することができません。エンジンを始動すると、システムはリセットされます。

ON/OFF



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に警告が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。

または

- ドアが開けられた場合。

または

- エンジンが再始動された場合。

運転時の補助機能



警告の無効化中も、システムは、ドライバーの疲労状態を評価し続けます。

3

「My Safety」 ボタン 3 を用いた警告の有効化および無効化



警告は、「My Safety」機能 ▶ 162 の「カスタム」モードを用いることで無効化または有効化できます。

過去に「カスタム」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

- 警告を無効化するには、ボタン 3 を 2 回押します。
- 警告を有効化するには、ボタン 3 を 1 回押します。

マルチメディア画面 4 からの有効化/無効化



警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

インストルメントパネルからの有効化/無効化

マルチメディアシステム非装備車両の場合



- 車両を静止させ、スイッチ 2 OK を長押しして設定メニューにアクセスします。

- 制御装置 3 を、「運転支援」メニューが表示されるまで上下方向に繰り返し押しします。スイッチ 2 OK を押します。

- 「疲労検出警告」メニューが表示されるまでスイッチ 3 を上または下方向に繰り返し押してから、スイッチ 2 OK を押します。

- この機能を作動または作動解除するには、スイッチ 2 OK をもう一度押しします。


運転時の補助機能

システム作動時間の制限

条件によっては、システムの動作に以下のような障害または損傷が発生する場合があります。

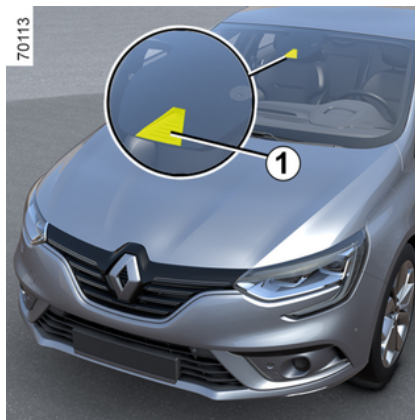
- 独特の運転スタイル（誤った運転方法など）。
- 悪路走行。
- 強風。
- 時計の誤設定（時計設定が可能な車両のみ）。
- 曲がりくねった道。
- トレーラー牽引。

作動異常

システムが不具合を検出すると、「アテンションモニター要点検」メッセージと警告灯  がインストルメントパネル上に表示されます。正規ディーラーにシステムをチェックしてもらいます。

システムは、検出した、道路脇にある制限速度標識の内容に従ってインストルメントパネル上に制限速度を表示します。

道路標識の検出



この機能は、バックミラー背後のフロントウィンドウに設置されたカメラ **1** からの情報を主に使います。国により、システムは、地図サブスクリプション契約の対象地図から得られる情報も併用して、特定の標識（市街地の入口を示す標識など）を解釈します。

システムが道路標識を検出すると、インストルメントパネル上に表示される標識も変化します。

スピードリミッタまたはアダプティブクルーズコントロールを有効化すると、制限速度設定値を、システムが用

いる値としてインストルメントパネル上に表示される制限速度（→202 および →209）に調整できます。

設定制限速度を超過すると、その旨をドライバーに知らせるため、インストルメントパネルに表示される道路標識が変わります。

カメラの位置 1

フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

注意事項

地図サブスクリプション契約のある車両の場合:

- 走行国と車両の速度単位が異なる場合、システムは、走行国の速度単位で制限速度標識を表示し、車両のインストルメントパネルには、走行国の単位に変換された制限速度を表示します。
- 路面状況の変化を理由に雨天時には制限速度が低くなる国を走行する場合、システムは、フロントウィンドウワイパーの作動から数秒後に検出制限速度表示を変更する場合があります。

地図サブスクリプション契約のない車両の場合: 走行国と車両の速度単位が異なる場合、正確な情報 →90 が表示されるよう、インストルメントパネル上に表示される速度単位を手動選択（速度単位をマイルから km に変更するなど）ができます。

運転時の補助機能

注: このシステムは、大気汚染ピーク時の例外的な制限速度を考慮しません。

作動 警告灯



この機能は、次の警告灯を表示します。

2. 追加の道路標識（「追い越し禁止」ゾーンの開始または終了、滑りやすい路面の速度制限、キャラバンの場合の速度、適用距離制限付き速度など）
3. 速度制限等に関する標識（追い越し禁止区間開始を示す標識など）。制限速度を超えると、ドライバーへの警告のため、道路標識円周部が点滅

し、車両によっては警告音が鳴りません。

ⓘ 地図サブスクリプション契約

道路標識検出機能は、地図サブスクリプション契約対象の地図と連動します。

車両装備によっては、地図の定期更新が必要です。

地図更新を怠ると、（速度制限情報が不正確になるなどの理由で）システムパフォーマンスが低下します。

注: 特定国の地図がない場合、その事実と、該当国と関係のある地図情報のダウンロードをすすめるメッセージがマルチメディア画面に表示されます。

サブスクリプションを管理するには、マルチメディアの説明書を参照してください。

サブスクリプションがない場合、システムは、カメラによって検出された制限速度標識を考慮して制限されます。

この場合システムは、地図に関する情報を考慮しません。速度制限の可用性が影響を受ける可能性があります。

システムの作動／解除



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に警告音が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。

または

- ドアが開けられた場合。

または

- エンジンが再始動された場合。

運転時の補助機能

「My Safety」ボタン4を使用した速度超過警告音の有効化、無効化



この警告音は、「My Safety」機能
➔162の「カスタム」モードを用いる
ことで無効化または有効化できます。

過去に「カスタム」モードを用いて警
告音を無効化したことがある場合:

- 警告音を無効化するには、ボタン4
を2回連続で押します。ボタン4上
の表示灯が消灯します。
- 警告音を再び有効化するには、ボタ
ン4を1回押します。ボタン4上の表
示灯が点灯します。

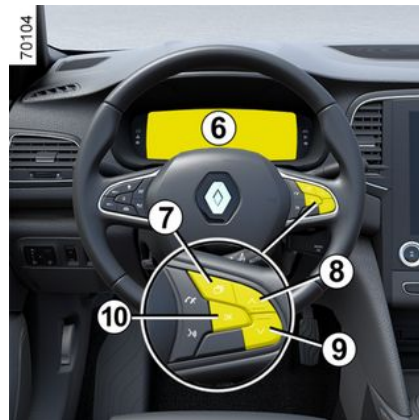
マルチメディア画面5からの速度
超過警告音の有効化、無効化



警告を有効化または無効化にするに
は、マルチメディア画面の取扱説明書
に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

トリップコンピュータ6が発する
速度超過警告音の有効化、無効化



- 車両を停止させ、7スイッチを必要
回数だけ押して「車両」タブに移動し
ます。

- スイッチ8または9を繰り返し押し
て「設定」メニューにアクセスし、ス
イッチ10 OKを押します。
- スイッチ8または9を繰り返し押し
て「運転支援」メニューにアクセス
し、スイッチ10 OKを押します。
- スイッチ8または9を繰り返し押し
て「速度警告」メニューにアクセス
し、スイッチ10 OKを押します。
- スイッチ10 OKを押して音声アラ
ートを作動または作動解除します:



警告有効化状態

運転時の補助機能


警告無効化状態

制限速度または設定速度の変動



検出した速度制限にスピードリミッタ、クルーズコントロール、アダプティブクルーズコントロールを合わせるには、スイッチ**11**または**12**を押します。

一時的に使用不可

カメラや地図データに関する理由でシステムを使用できない場合、 記

号（車両によっては  記号）がインストルメントパネル上に表示されます。不具合が直らない場合は、ルノー

指定サービス工場にお問い合わせください。

以下の場合にシステムは制限速度を検知できません。


- フロントウィンドウが汚れている
- カメラが日射で機能しなくなっている
- 視界が不十分（霧発生時など）な場合。
- 標識を判読できない（雪など）または隠れている（別の車両または樹木などによって）
- 地図情報が最新でない場合。

注: フロントカメラの視界を妨げるがあると、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合は、カメラ前方のフロントガラス部分を清掃してください。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、



（車両によっては  記号）

がインストルメントパネル上に表示されます。

運転時の補助機能

注意：



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するのではなく、補助的に注意喚起するのみです。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。

システムは、最高速度制限標識を検出するものの、他の標識（市街地の出入口を示す標識など）は検出しません。

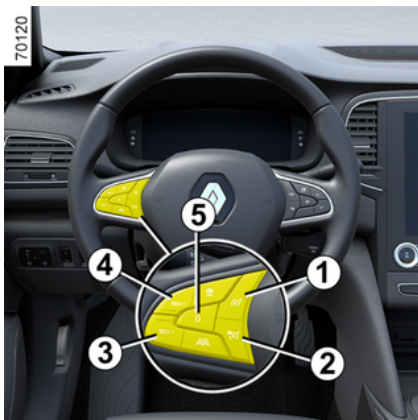
システムは、すべての制限速度標識を検出しないか、誤って解釈することがあります。

ドライバーはシステムで検知されなかった標識を無視してはなりません。交通標識と道路規制に優先的に従う必要があります。

視界が悪い場合（霧、雪、霜など）は、システムが正しい車速をドライバーに通知できない場合があります。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。

スピードリミッター



スピードリミッターは選択した走行速度（設定速度と呼びます）を超えないようにする機能です。

車両に応じて、スピードリミッターは、降坂の速度制限を最適化するために制御システムを使用する「降坂コントロール」機能とリンクされています。

「降坂時制御」機能の作動状況は、ボタン 6 の有無で確認できます。

制御



1. スピードリミッターのオン/オフスイッチ。
2. クルーズコントロールのオン/オフスイッチ
3. 制限速度機能を有効化し制限速度を下げるためのスイッチ（SET/-）。
4. 制限速度機能を有効化し、制限速度を上げるか記憶制限速度を設定するためのスイッチ（RES/+）。
5. 機能をスタンバイ状態にし、制限速度を記憶できます（0）。




スピードリミッターを「道路標識検出」機能 → 197 と連動させることができます。

発進する

制限速度が設定されているがまだ到達していないときは、速度制限機能を持たない車両を運転することと同様です。

記憶速度に達すると、緊急時以外は、アクセルペダルを踏んでもプログラミングされた速度を超えない状態になります（詳しくは、「制限速度の超過」にある情報をご覧ください）。

作動

スイッチ 1 を押します。  警告灯が灰色で表示されます。スピードリミッターが有効化され、制限速度の記憶待ち状態になると、その証として、「リミッタ ON」メッセージがインストルメントパネル上に表示され、破線表示も表れます。

現在の速度を記憶するには、スイッチ 4（RES/+）またはスイッチ 3（SET/-）を押します。すると、制限速度表示がダッシュに置き換わり、車

両によっては、  警告灯が白色表示されます。

スピードリミッター

保存できる最低速度は30 km/hです。

設定速度の変更



ステアリング上の次のスイッチを押すと（連続して押すか、または押し続ける）、設定速度を変更することができます：

- 巡航速度を上げるためのスイッチ **4** (RES/+)
- 巡航速度を下げるためのスイッチ **3** (SET/-)

設定速度を超えて加速させる

次の操作を行うといつでも設定速度を超えることができます：これを行うには、アクセルペダルを抵抗点を超えて**完全に底まで踏み込み**ます。

設定速度を超えている間は、メーターパネルの設定速度が赤く点滅します。次に、アクセルペダルを放します。走行速度がメモリーされている制限速度以下の速度になると、スピードリミッターの機能と表示は元の状態に戻ります。



（何度有効化を試しても）速度リミッターを使用できない場合は、正規ディーラーにご連絡ください。

設定速度を維持できない場合

急な下り坂の走行中にはシステムが制限速度を維持できないことがあります。この場合には、その旨をドライバーに知らせるため、インストルメントパネル上の設定速度が赤色点滅し、ピーブ音が一定間隔で鳴ります。



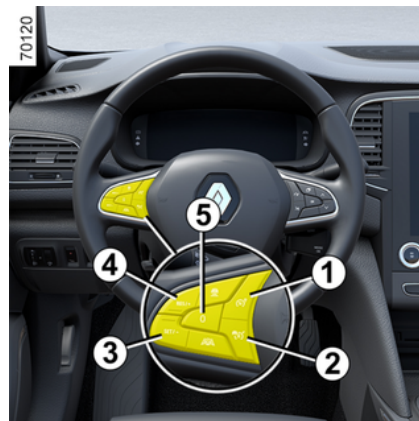
クルーズコントロール/スピードリミッター、降坂コントロール付き：

この機能はブレーキングシステムと連動させることができます。

クルーズコントロール/スピードリミッター、降坂コントロールなし：この機能はブレーキングシステムとは連動しません。


緊急事態に備え足を常にペダルの側に置く必要があります。

機能のスタンバイ




スピードリミッター

スイッチ**5**を押すと、スピードリミッター機能が一時停止します(0)。限界速度はインストルメントパネルに灰色で表示されて保存されます。

警告灯  がインストルメントパネルから消え、機能が作動しなくなったことを確認できます。

設定速度の呼び出し

速度が記憶されている場合、スイッチ**4**を押すとその速度を呼び出すことができます。

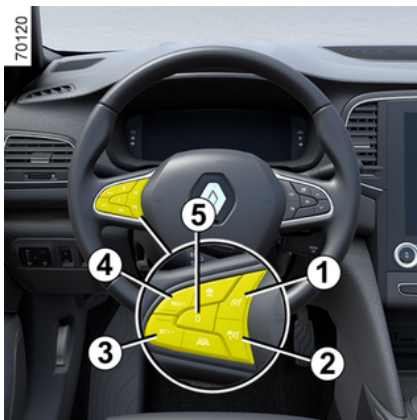
 スピードリミッターがスタンバイに設定されている場合、スイッチ**3**を押すと、スピードリミッターは、記憶速度とは無関係に再作動します。この場合、再作動時点での走行速度が設定速度になります。

クルーズコントロールの停止

スピードリミッターの作動を解除することができます。

- **1** スイッチを押した場合。この場合、先ほどのメモリースピードはすでに消去されています。
- **2** スイッチを押した場合。この場合、クルーズコントロールが選択され、メモリースピードはありません。

クルーズコントロール



クルーズコントロールは、**制御速度**と呼ばれる選択した一定値に走行中の速度を保つのをアシストする機能です。常用速度は任意に設定することができます (30 km/h以上)。

車両に応じて、クルーズコントロールは、降坂のクルーズコントロールを最適化するために制動システムを使用する「降坂コントロール」機能とリンクされています。



「降坂時制御」機能の作動状況は、ボタン **6** の有無で確認できます。

制御

1. スピードリミッタのオン/オフスイッチ。
2. クルーズコントロールのオン/オフスイッチ
3. 機能を有効化し巡航速度を下げるためのスイッチ (SET/-)。
4. 機能を有効化して巡航速度を上げるか、記憶巡航速度を呼び出すためのスイッチ (RES/+)。
5. (巡航速度が記憶された状態で) 機能をスタンバイ状態にできます (0)。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

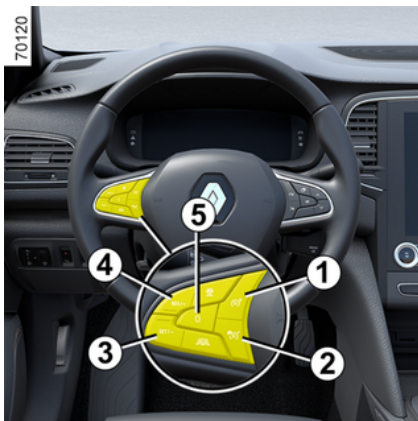
いかなる場合でも、ドライバーには、制限速度を守り、速度内で走行する責任があります。運転者は常に車両を制御する必要があります。

交通渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面 (凍結、ハイドロプレーニング、砂利)、天候不良時 (霧、雨、横なぐりの雨など) にはクルーズコントロールを使用しないでください。

事故の恐れがあります。

クルーズコントロール

作動



スイッチ 2 を押します。



警告灯が灰色で表示されます。

クルーズコントロール機能が作動し、巡航速度記憶待機状態になると、その証として、「クルーズコントロール ON」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、破線も表示されます。

設定速度の設定

車両が（約 30 km/h 以上での）安定走行時に 3 (SET/-) スイッチまたは 4 (RES/+) スイッチを押すと、機能が有効化され、現在の速度が考慮されません。

ダッシュがクルージング速度に置き換わります。クルーズコントロールは、記憶された速度および警告灯が緑色の



で表示されたときに確認されません。

車速が 30 km/h 未満の状態で機能を有効化しようとする、「速度が無効」というメッセージが表示され、機能は作動しません。

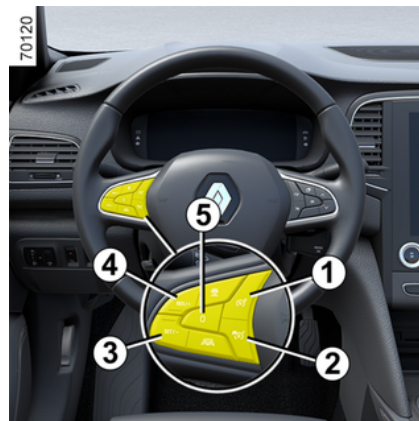
発進する

設定速度が登録され、システムが作動しているとき、足をアクセルペダルから放すことができます。



緊急事態に備え足をペダルの側に置く必要があります。

設定速度を変更する



次のスイッチを連続して押すと巡航速度を変更できます。

- 巡航速度を下げるためのスイッチ 3 (SET/-)。
- 巡航速度を上げるためのスイッチ 4 (RES/+)。

注: スイッチの 1 つを押し続けて、連続的に速度を上げていきます。

設定速度を超えて加速させる

アクセルペダルを踏めば、いつでも加速することができます。

設定速度を超えている間インストルメントパネルのクルーズコントロールの表示灯が赤く点滅します。

クルーズコントロール

またアクセルペダルを放すと数秒後に自動的に最初の設定速度に戻ります。

設定速度を維持できない場合

急な下り坂では、システムが巡航速度を維持できない場合があります。その場合には、その旨をドライバーに通知するため、記憶速度がインストルメントパネル上で赤色点滅し、一定の間隔でピープ音が鳴ります。



クルーズコントロールが使用できない場合（いくつかのアクティベーションを試みた後に）、正規サービス工場に連絡してください。



ギアチェンジ時に航続速度を維持するクルーズコントロール:

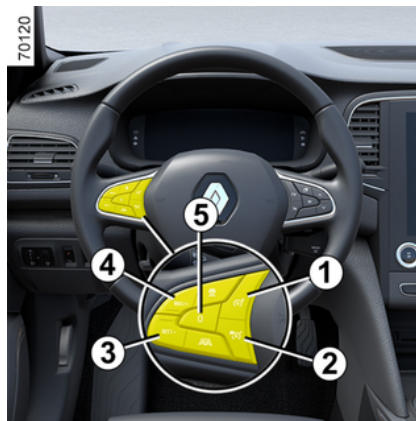
この機能では、ギアチェンジ前後のクルーズコントロール速度を維持し、運転者からの操作は必要ありません。



クルーズコントロール/スピードリミッタ:この機能はブレーキシステムを作動させる場合があります。

クルーズコントロール/スピードリミスター（降坂時スピードコントロールなし）:この機能はブレーキシステムに影響を与えません。
緊急事態に備え足を常にペダルの側に置く必要があります。

機能のスタンバイ



以下を行うと機能が一時停止します:

- スイッチ**5** (0)。
- ブレーキペダルを踏む
- マニュアルトランスミッション装備車両で、クラッチペダルを長時間踏み続けるか、長時間ニュートラル位置を維持する。
- オートマチックトランスミッション装備車のニュートラルポジションへのシフト。


クルージング速度はインストルメントパネルに灰色で表示されて保存されません。

設定速度の呼び出し

設定速度がメモリーされている場合は、交通条件（交通量、車道の状態、気象条件など）が適切であることを確認してから設定速度を呼び出すことができます。

車速が30 km/hになったらスイッチ**3** (RES/+) を押します。

設定速度が保存されると、クルーズコントロールの作動が緑のクルージング

速度表示と、車種により  警告灯が点灯することで確認されます。

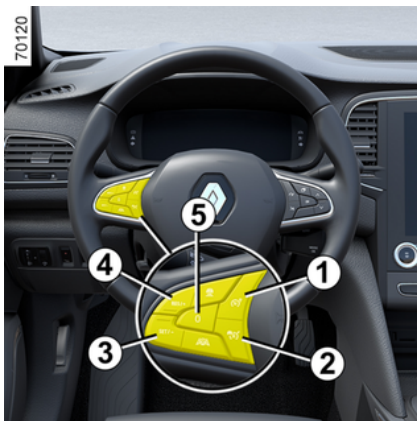
注意:メモリーされている設定速度が現在の走行速度よりもはるかに高い場合は、車両はその設定速度に達するまで急な加速を続けます。

クルーズコントロールがスタンバイに設定されているときに、スイッチ**3** (SET/-) を押すと、クルーズコントロール機能は、記憶速度とは無関係に

クルーズコントロール


再作動します。この場合、その時点での走行速度が設定速度になります。

クルーズコントロールの停止



クルーズコントロールの作動を解除することができます。

- **2** スイッチを押した場合。この場合、先ほどのメモリースピードはすでに消去されています。
- **1** スイッチを押した場合。この場合、速度リミッタが選択され、記憶速度はありません。

警告灯  がインストルメントパネルから消え、機能が作動しなくなったことを確認できます。



クルーズコントロール機能をスタンバイ状態またはOFFにしても急減速はしないため、原則するにはブレーキペダルを踏んでください。

適応クルーズコントロール

レーダーまたはカメラからの情報に基づき作動するアダプティブクルーズコントロール機能（またはオートマチックトランスミッション搭載車両の Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能）を使うと、同一車線を走行している前方車両との車間距離を保ちながら選択速度（巡航速度と呼ばれる）を維持できます。

車両によっては、「道路標識検出」機能が有効化 → 197 されている場合、システムは、カメラが認識する制限速度標識に応じて車速を調整できます。

オートマチックトランスミッション搭載車両では、前方車両が停止した場合、自車両の前進も抑制できるよう、Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能が自車両にブレーキをかけて完全に停止させることがあります。



システムは、エンジンとブレーキシステムを使用して、車両の加速および減速を制御します。

システムの最大カバー距離は約 150 メートルです。

これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。

アダプティブクルーズコントロール機能は、道路の状況（交通量、天候など）に応じ、次の場合に有効化できます。

- 毎時 0 km/h から 170 km/h（オートマチックトランスミッション搭載車の場合）。
- 30 km/h から 170 km/h（マニュアルトランスミッション搭載車の場合）。

この機能のステータスは、 または  いずれかのシンボルマークを用いて表示されます。

注：

- ドライバーは、運転国の速度制限と安全車間距離を守らねばなりません。
- 適応クルーズコントロールでは、ブレーキ能力の最大 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。状況によっては、ドライバーはより強くブレーキをかける必要があります。



アダプティブクルーズコントロールは、緊急停止をトリガーせず、ブレーキ機能が制限されています。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

運転者は、周囲および交通状況に応じて常に速度を調整する必要があります。

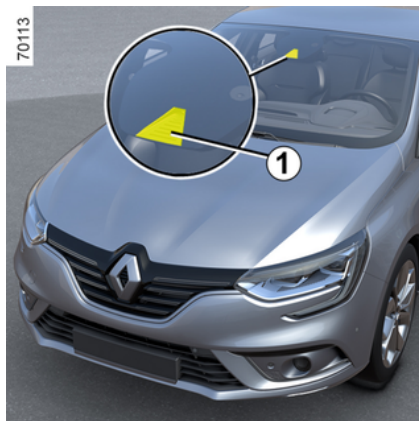
アダプティブクルーズコントロールは、高速道路または複数車線道路でのみ使用してください（センタバリアで複数車線が区切られています）。

交通渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロプレーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横なぐりの雨など）にはクルーズコントロールを使用しないでください。

事故の恐れがあります。

適応クルーズコントロール



カメラの位置 1



フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

制御

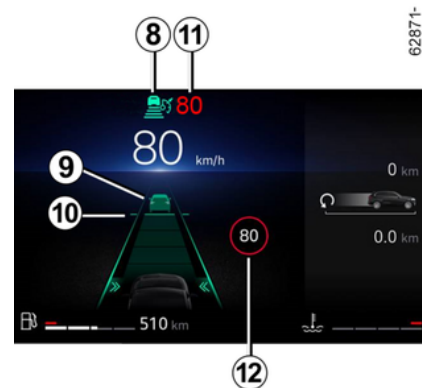


3. 安全車間距離の設定
4. (巡航速度が記憶された状態で) 機能をスタンバイ状態にできます (0)。
5. アダプティブクルーズコントロールのメイン ON / OFF スイッチ  または 。
6. 機能を有効化し巡航速度を記憶および引下げ (SET/-)。
7. 機能を有効化して巡航速度を上げるか、記憶巡航速度を呼び出すためのスイッチ (RES/+)。



システムを正常に作動させるため、カメラは清潔に保ち、カメラの改造は避けてください。

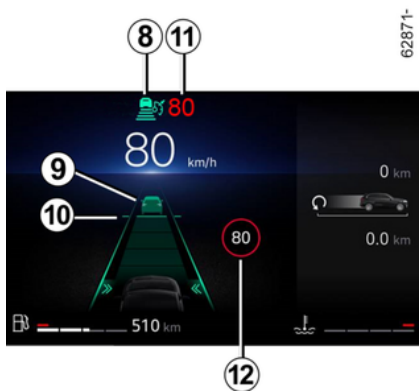
表示



8. クルーズコントロール警告灯。
9. 前方の車両。
10. 保存された安全車間距離
11. 保存された設定速度。
12. 速度制限の道路標識。

適応クルーズコントロール

速度制限検出機能の有効化





車両によっては、「道路標識検出」機能を有効にした状態でスイッチ **6** (SET/-) または **7** (RES/+) を押し、車速 **12** を、カメラが検出した速度制限に合わせることができます。該当標識を通過すると、巡航速度 **11** が、検出速度 **12** になります。

作動

スイッチ **5** を押します。

機能が有効化され、巡航速度記憶待機状態となった場合、その証として、

 または  警告灯が灰色点灯し、「アダプティブクルーズコントロール ON」というメッセージがイン

ストルメントパネル上に表示され、破線も表示されます。

以下の場合、この機能を有効にすることはできません:

- パーキングブレーキがかかっている
- パーキングアシスト機能はすでに作動しています → 232。



インストルメントパネルに「アダプティブクルーズコントロール利用不可」というメッセージが表示されず。

設定速度の設定

車両の静止中（オートマチックトランスミッション装備車両）または安定速度での走行中は（全車両）にスイッチ **6** (SET/-) または **7** (RES/+) を押し、機能を有効化すると、現在の速度を保存できます。

設定の最低速度は 30 km/h です。

クルーズコントロール機能が作動すると、その証として、巡航速度 **11** が

ダッシュに置き換わるか、 または  警告灯と巡航速度が緑色表示になります。

マニュアルトランスミッション装備車両の場合、車速が 160 km 超または 30 km/h 未満の状態では、機能を有効化しても「無効な速度です」というメッセージが表示され、機能は有効化されません。

設定速度がメモリーされ、システムが作動しているとき、足をアクセルペダルから放すことができます。

オートマチックトランスミッション装備車の特別機能: 車速が約 30 km/h 以下の場合、巡航速度は自動的に 30 km/h に設定されます。車両は、保存された設定速度に達するまで加速します。



重要: すべてのイベントに備えて、常にペダルの近くに足を近づけておいてください。

安全車間距離制御の作動

クルーズコントロールが有効化されるとすぐに、既定の安全車間距離 **10** がインストルメントパネル上に緑色表示されます。

以下の車間距離設定は、アダプティブクルーズコントロール起動から、次回の車両始動サイクルまで、システムにより記憶されます。

システムが、自車線内で他車両を検出すると、その車両 **9** の概要が、インストルメントパネル上の距離計 **10** 上に表示されます。

車両は、前方の車両の速度に合わせて、インストルメントパネルに表示されている距離を維持するために、必要

適応クルーズコントロール

に応じてブレーキをかけます（ブレーキランプが点灯します）。

注:外形 9 のサイズは、自車両と前方車両の距離に応じて変動します。外形が大きいほど、前方の車両が近い。

3 設定速度を設定する



速度は、スイッチ 6 または 7 繰り返し押し（少しずつ変更）か長押しする（大幅に変更）ことで次のように変更できます。

- 巡航速度を下げるためのスイッチ (SET/-) 6。
- 巡航速度を上げるためのスイッチ (RES/+) 7。

車間距離の調整



車両前方の安全車間距離は、スイッチ 3 を繰り返し押すことでいつでも変更できます。

インストルメントパネルの水平距離ゲージは、さまざまな安全車間距離を示しています。

- 距離計 A: 長距離（約 2.4 秒に相当）。
- 距離計 B: 中間距離 2（約 2 秒に相当）。
- 距離計 C: 中間距離 1（約 1.6 秒に相当）。
- 距離計 D: 短距離（約 1.2 秒に相当）。

選択した距離ゲージは、インストルメントパネルに緑で表示されます。

他のゲージはグレーのままです。

注:車間距離は、交通レベル、ローカル規制、気象条件に応じて設定する必要があります。

i 以下の車間距離設定は、アダプティブクルーズコントロール起動から、次回の車両始動サイクルまで、システムにより記憶されます。

設定速度を超えて加速させる



アクセルペダルを踏めば、いつでも加速することができます。

適応クルーズコントロール

超過した場合は、クルージング速度 **11** が赤で表示されます。

自車両と前方車両の距離が、選択されている安全距離より短い場合には、距離計が点滅します。この場合、「安全距離制御」機能は無効化されます。

次に、アクセルペダルを放します。クルーズコントロールと安全車間距離制御は、以前に選択した速度と距離の指示を自動的に再開します。

追い越し操作

車両を前方に追い越したい場合は、インジケータを作動させて一時的に安全距離制御を解除し、追い越しを完了するのに十分な加速速度を可能にします。

ストップアンドスタート



オートマチックトランスミッション装備車両では、前方の車両が減速すると、システムが速度を調整し、必要に応じて（交通量が多い場合など）完全に停止します。車両は前方の車両の数メートル前で停車します。Stop and Start 機能でエンジンをスタンバイ状態にすることができます → 128。

フロントで車両を再びオフにした場合:

- 停止が約 3 秒を超えない場合、車両は運転者の操作なしに自動的に発進します。
- ストップが約 3 秒を超えている場合は、アクセルペダルを踏むか、または

ボタン 7 (RES/+) を押して車両を再度オフにします。インストルメントパネル上に、この事実を伝えるメッセージ「RES/+ を押すまたは加速してください」が表示されます。

停止時間が約 3 分を超えると、電動パーキングブレーキが自動的にかかり、アダプティブクルーズコントロール機能が無効化されます。この機能が

無効化されると、 または  警告灯が消えます。

機能のスタンバイ



以下を行うと機能が一時停止します:

- スイッチ 4 4 (0) ;
- 車両が動いているときにブレーキペダルを踏む。

この機能は、次の場合にシステムによって作動解除されます。

- オートマチックトランスミッションを **P** または **N** に設定します。
- リバースギアに係合します。
- 運転席のシートベルトを外す。
- 開閉部の 1 つを開く
- エンジン始動/停止ボタンを押す
- 勾配が急すぎる
- 車速が約 170 km/h を超えた場合。
- 特定の運転支援および運転補正装置（アクティブ非常ブレーキ、ABS、ESC など）が作動している場合。



アダプティブクルーズコントロールをスタンバイにしたりオフにしたりしても、スピードが急激に低下することはありません。必要に応じてブレーキペダルを踏んでブレーキをかける必要があります。

- クラッチペダルを長時間押す、またはマニュアルトランスミッション装備車で長時間ニュートラルポジションに維持、

どの場合でも、警告灯が灰色表示され、「アダプティブクルーズコントロール切断」というメッセージがインストルメントパネル上に表示された

適応クルーズコントロール

ら、スタンバイ状態であることを確認できます。

スタンバイの解除

- パーキングブレーキがかけられた場合。
- アクティブ非常ブレーキ (AEB) 機能が制動を開始した場合。
- ハンズフリーパーキング (HFP) システムが有効化された場合。
- センサを遮るものがある (カメラ遮断が検出された) 場合。
- エンジン回転数が最低回転数未満または最高回転数超の状態にある場合 (最低/最高の基準値はエンジンに応じて異なります)。

保存されているクルージング速度に基づいて

設定速度がメモリーされている場合は、交通条件 (交通量、車道の状態、気象条件など) が適切であることを確認してから設定速度を呼び出すことができます。

有効速度範囲内でスイッチ 7 (RES/+) を押します。

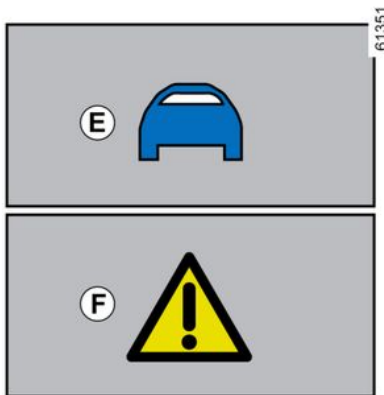
メモリーされた速度の呼び出し中には設定速度が緑で点灯し、クルーズコントロールの作動を確認することができます。

注意: メモリーされている速度が現在の走行速度よりもはるかに高い場合は、車両はその速度に達するまで急な加速を続けます。

現在の速度に基づいて

クルーズコントロールがスタンバイに設定されているときに、スイッチ 6 (SET/-) を押すと、クルーズコントロール機能は、記憶速度とは無関係に再作動します。この場合、その時点での走行速度が設定速度になります。

「車両の制御を取る」警告



状況 (極端に速度の遅い車両に遭遇した、前方車両が急に車線変更したなど) によっては、システムが反応時間を確保できない場合があります。

状況に応じて、システムは以下に関連するピーブ音を鳴らします。

- 状況に照らしてドライバーへの注意喚起が必要だと考えられる場合にはオレンジ色の警告 E。

または


- 状況に照らしてドライバーの緊急の対処が必要だと考えられる場合には赤色の警告 F と「ブレーキ」というメッセージ。


あらゆる状況に対応し、適切な操作を実行してください。

クルーズコントロールの停止



スイッチ 6 を押すと「アダプティブクルーズコントロール」機能が無効になります。



この機能が無効化されると、 または

または  警告灯がインストルメントパネルから消えます。

適応クルーズコントロール

一時的に使用不可

この機能が自動的に無効化されると、

緑色の  または  警告灯が消えます。

カメラの周辺に障害物（汚れ、泥、雪など）や衝撃痕がないか確認します。

特定の地域の条件では、次のような機能が妨げになることがあります。

- 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
- 軍用または空港ゾーン。

機能を作動させるには、このようなエリアを残しておく必要があります。

すべてのケースで、エンジンを再始動した後にメッセージが消去されない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

作動異常

「アダプティブクルーズコントロール」機能の作動不良が検出されると、「ACC 要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、「アダプティブクルーズコントロール」機能の作動が中断します。


システムの1つ以上のコンポーネントで作動不良が検出されると、「アダプティブクルーズコントロール」機能が一時停止します。

故障のタイプに応じて、インストルメントパネルにメッセージが表示されます。

- 車両によっては、「フロントカメラを点検してください」と表示され、「

」警告灯が点灯します。

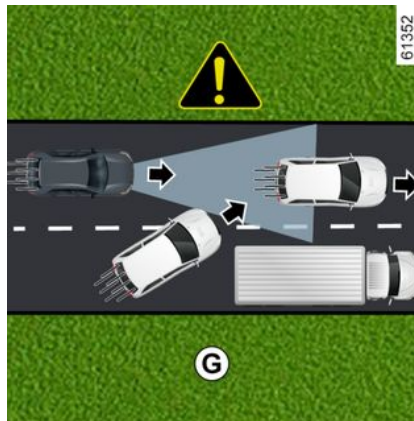
- 「車両点検」。車両によっては

 警告灯も表示されます。

- «カメラとレーダーを点検してください»。

メーカーにお問い合わせください。

システム作動時間の制限



車両検出

システムは、車両と同じ方向に移動する車両（車両、トラック、バイク）のみを検出します。

同一車線（G など）への流入車両は、その車両がカメラの検出領域内に入った時点でシステムにより検出されます。

システムが急制動または遅延制動を引き起こすことがあります。



システムは以下を検出できません。

- 交差点に到着する車両: 滑りやすい路面状況の場合（H など）。
- 道路の反対側を運転している、またはこちらに向かって後退している車両。

適応クルーズコントロール

i アダプティブクルーズコントロールは、高速道路またはマルチ車線道路でのみ使用してください（バリアで区切られています）。



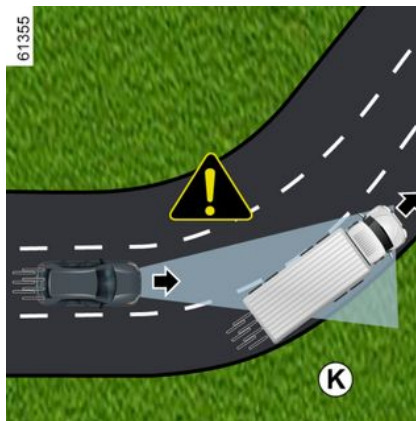
コーナリング時の検出

コーナーや曲がり角を検出すると、カメラは一時的に前方車両（Jなど）を検出できなくなることがあります。

システムが加速を引き起こす可能性があります。

カーブがある場合、前方の車両の検知が中断したり、遅れたりする場合があります。

システムが急制動または遅延制動を引き起こすことがあります。

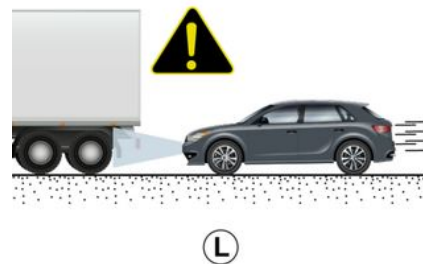


隣接車線の車両の検出

システムは、次の場合に、隣接する車線を走行する車両を検出することがあります。

- カーブに差し掛かる（例：K）。
- 細い車線の道路を走行
- 隣接する車線上の車の速度が遅く、これらの車のうちの1台が他の車線に近すぎる場合。

システムが車両を減速させたり、ブレーキを誤作動させることがあります。

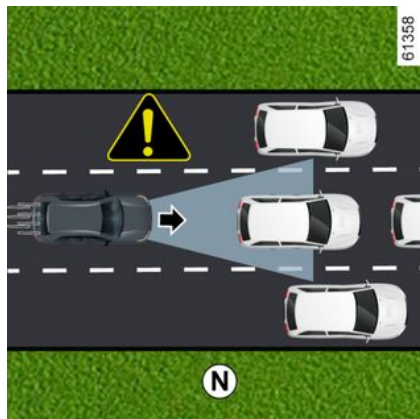
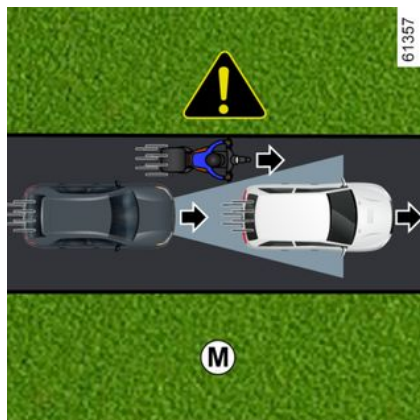


地面の起伏の変化による車両の非表示

上り坂や下り坂を走行中の車両については、地形の影に隠れて見えない場合や、カメラの検出ゾーン外に存在する場合、システムは該当車両を検出できません。

カメラの検出ゾーン外に存在する車両
検出車両がカメラの検出ゾーン外に存在する場合、該当車両が次のような車両である場合には特に、**システム反応の遅れやシステム無反応が生じます。**

適応クルーズコントロール



- ラインを超える長尺物を輸送する車両
- 車線の中心から外れている車両

- 自車両から非常に近い場所に位置する細長い車両 (M など)。

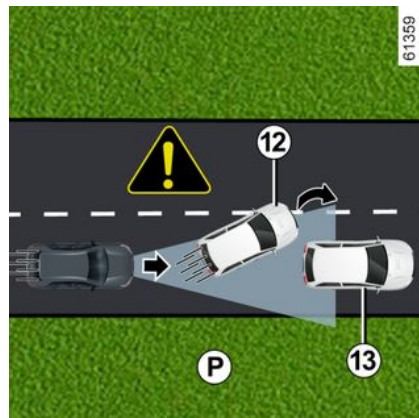
静止／低速で移動している車両

速度が約 50 km/h を超えると、システムは検出しません。

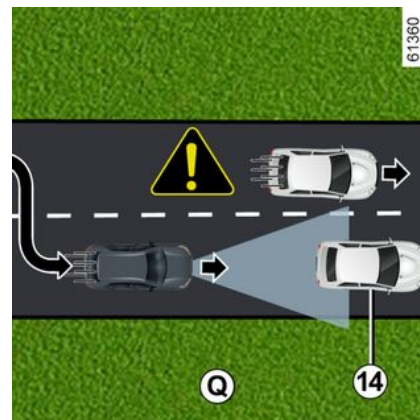
- 静止車両 (N など)。
- 非常に低速で走行している車両。

速度が時速約 50 km/h 未満の場合、システムが反応しない、または非常に遅く反応する可能性があります。

- 静止車両 (N など)。
- 非常に低速で走行している車両



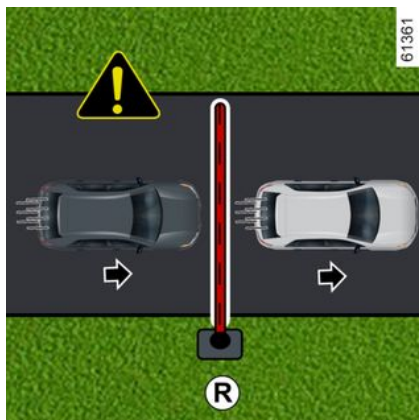
- 車線変更した前方車両 12 が発見した静止車両 13 (P など)。
- 自車両の車線変更後により注意すべき車両となった、低速走行中のまたは静止中の他車両 14 (Q など)。



i 静止中のまたは低速走行中の他車両 (N など) が存在する場合は、いつでも自車両を制御できる状態にしてください。
アダプティブクルーズコントロールは、緊急停止をトリガーせず、ブレーキ機能が制限されています。

適応クルーズコントロール

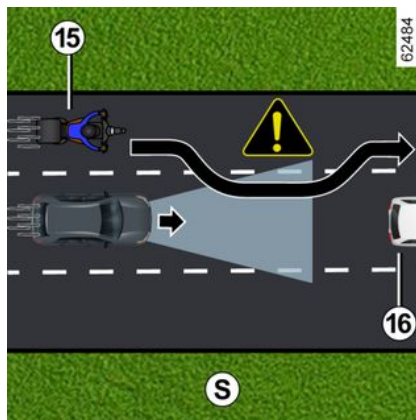
3



小さな障害物や小さな障害物の不検出システムは以下を検出できません。

- 歩行者、バイク、スクーターなど。
- 動物
- 固定物（料金所、壁など）（Q など）。

システムはこれらを考慮しません。システムによる警告や反応は発生しません。



高速で車線変更する車両の検出

高速走行中の他車両 15（自動二輪、乗用車など）が自車両を追い越し、自車両と前方車両 16 の間に一時的に割り込んだ場合、システムは、急加速、急減速または急制動を行うことがあります。

適応クルーズコントロール

注意：



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に周囲の状況と走行条件に応じて車速を調整する必要があります。車線を区切るラインを除き、交通標識（交通灯、看板、歩道など）はシステムによって認識されません。システムによる警告や反応は発生しません。

いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

アダプティブクルーズコントロールは、高速道路またはマルチ車線道路でのみ使用してください（バリアで区切られています）。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わるとカメラのアライメントが変わり、その後の作動に影響が出る恐れがあります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- 車両が風の強い道路を走行する場合。
- 車両の牽引（分解）。
- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両が料金所、道路工事区域、または狭い車線に到達している。
- 車両が急斜面を上り下りしている。
- 視認性が悪い（眩しい太陽、霧など）。
- 車両が滑りやすい路面（雨、雪、砂嵐など）を走行している。
- 気象条件が悪い（雨、雪、砂嵐など）。
- カメラエリアが損傷している（例: フロントウィンドウの内側または外側）。
- フロントウィンドウの亀裂または変形。

適応クルーズコントロール

システムの動作が異常な場合は、システムを作動解除して指定サービス工場にお問い合わせください。

3



システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウィンドウ上の障害物（泥、氷、雪など）。
- 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
- 速度に著しい差がある低速車両、
- 車両に適合していないマットの使用。運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

この場合、システムが誤って介入することがあります。

不必要なブレーキングまたは加速の危険性があります。

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラの検出ゾーンに現れた特定の物体または車両が、システムにより誤解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

運転中に起こる可能性のある突然の出来事には常に注意を払う必要があります。どのような場合でも行動できるように、常に足をペダルの近くに置いて、車両を制御し続けてください。

パーキングアシスト

リアビューカメラ



リアビューカメラ **1** はテールゲート上にあります。



この機能は補助的機能です。
したがって運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。
ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください。
車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいないことを確認します。

特徴

カメラ **1** のレンズに、視界を妨げるもの（埃、泥、雪、霜など）が付着していないか確認します。

作動

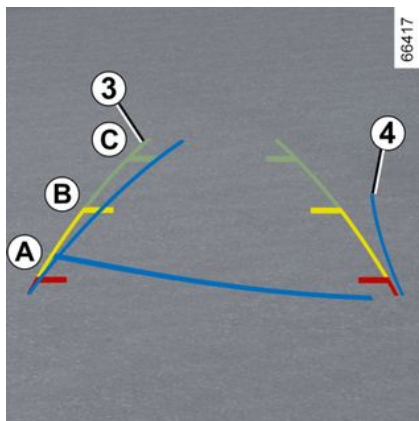


後進時には、カメラが、車両後方周辺の模様を画面 **2** に送信し、1つまたは2つの（可動および固定）クリアランスゲージ **3** および **4** を表示します。

このシステムはひとつ、または複数のゲージ（軌道は可動式、距離は固定ゲージ）をもとにしています。

赤の部分に達したら、バンパーのイメージを参照して、正確に停車してください。

パーキングアシスト



固定ガイド線 3

固定ガイド線には、次のような、車両の後方における距離を示す色付きのマーカー **A**、**B**、**C** が含まれています。

- 車両からの距離が約 30 cm であることを示す **A** (赤色)。
- 車両からの距離が約 70 cm であることを示す **B** (黄色)。
- 車両からの距離が約 150 cm であることを示す **C** (緑色)。

このガバリは固定したままで、車輪が車両と平行していれば車両の軌道を示します。

可動ガイド線 4

この線は、マルチメディア画面 **2** 上に青色表示されます。ハンドルの切れ角に応じて、車両の軌道を示します。

i スクリーン上には、反転した映像が映ります。

ガイドは平坦な地面の上に投影された映像であり、地上にある物体を無視し、ガイドがその上に重なった状態で映し出されます。

スクリーン上に、物体がゆがめられた状態で映ることがあります。光度が強すぎる場合（雪、車両に直射日光が当たっているなど）、カメラの視覚が妨害されることがあります。

トランクが開いているか、正しく閉まっていないと、メッセージ「トランクルームが開いています」が表示され、カメラの表示が消えます。

後方カメラの作動と停止



マルチメディア画面 **2** から機能を有効化または無効化するには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

後方カメラの作動/停止や各選択ができます。

カメラ画像の明るさ、コントラストなどの設定も調整できます。

作動異常

シフトレバーが「後進」位置の状態ですシステムが作動不良を検出すると、マルチメディア画面 **2** が一時的に暗転します。

これは、カメラまたは画面に影響を与える故障（クリア、固定画像、通信の

パーキングアシスト

遅れなど) によって引き起こされる可能性があります。

黒い画面の一時的な表示が続く場合は、指定サービス代理店にお問い合わせください。



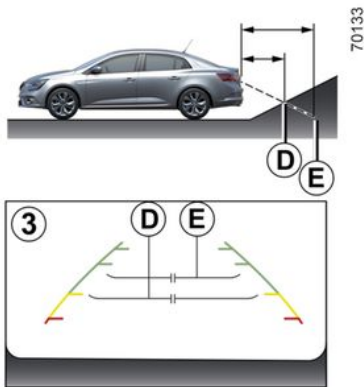
この機能は補助的機能です。

したがって運転されるときは、お客さまの責任

において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください: 車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがないことを確認します。

推定される距離と実際の距離の相違

きつい上り勾配での後退

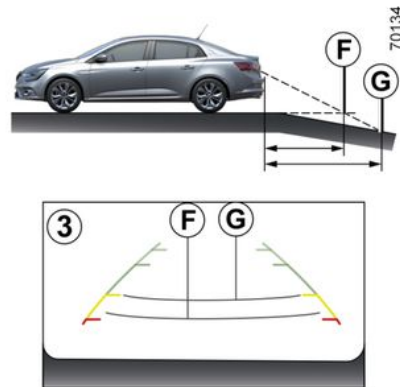


固定ガイド線 **3** の示す距離が実際よりも近くなります。

画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより遠くにあります。

具体例を挙げると、画面の **D** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **E** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。

きつい下り勾配での後退



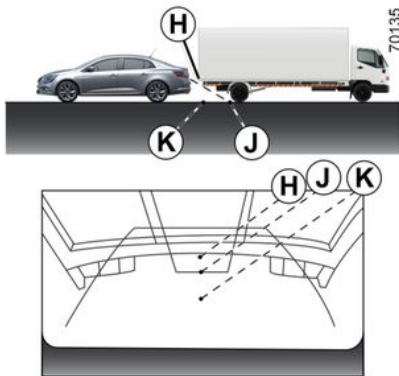
固定ガイドライン **3** の示す距離が実際よりも遠くなります。

したがって、画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより近くにありますが。

具体例を挙げると、画面の **G** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **F** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。

パーキングアシスト

突き出た対象物に向かう後退



画面上では、位置 **H** が位置 **J** より遠くに見えますが、

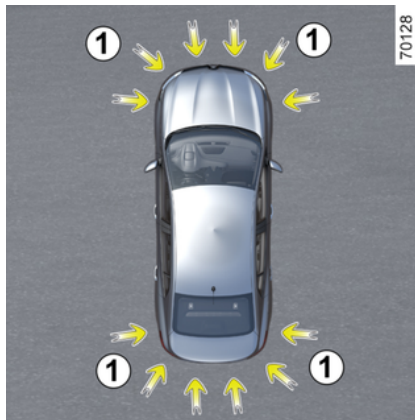
実際には、位置 **H** と位置 **K** と同じ距離にあります。

固定ガイドラインおよび移動ガイドラインによって示される行跡では、対象物の高さは考慮されていません。

位置 **K** に向かって後進すると、車両が対象物に衝突する危険もあります。

パーキングアシスト

作動原理



車両付近の障害物を検出できるよう、車両のバンパーには、矢印 **1** が示すような超音波センサーが取り付けられています。

この機能は、信号音と表示により、障害物検出箇所である旨をドライバーに警告します。

車両装備に応じて、このシステムは、車両の前方、後方および側面にある障害物を検出します。

パーキングアシストシステムは、車速約 10 km/h 未満での走行中以外は作動しません。

この機能では、システムによって認識されない運搬システムは考慮されません。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなければならないことを忘れないでください。

ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいないことを確認します。

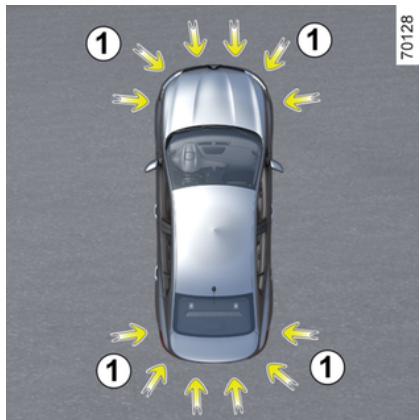


操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）

車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングアシスト

超音波センサの位置 1



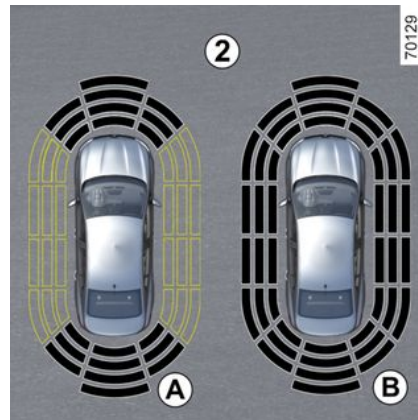
矢印 **1** が示す超音波センサについて、その作動を妨げるもの（汚物、泥、雪、取付け不良ナンバープレートなど）の有無、その作動に影響を及ぼす要素の有無、改造（塗装など）の有無、車両の後部（車両によってはその前部または側部）に取り付けられているアクセサリによる作動妨害の有無を確認します。



パーキングアシストは、後退時、車両から障害物までの距離を信号音で知らせる補助システムで

す。
したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなければならぬことを忘れないでください。
ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいないことを確認します。

作動



ディスプレイ **2** が車両周辺の状況を表示しビープ音を鳴らします。

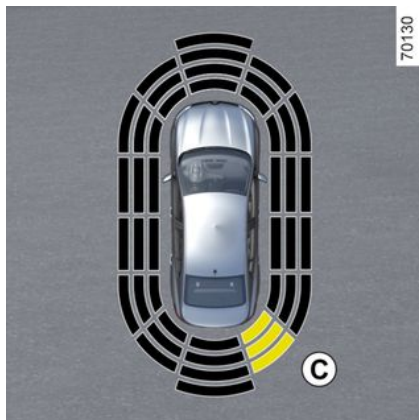
車両の装備によっては、数メートル走行しないと側面障害物検出機能が有効化されないことがあります。

すべての領域がグレーの背景である場合、車両周囲の全体が監視されます。

- **A**: 車両周囲の様態を分析中の状態。
- **B**: 車両周囲の様態の分析が完了した状態。

パーキングアシスト

障害物の検出



このシステムは、車両の後部付近にある大半の障害物を検出できるほか、装備によっては、車両の前方と側方付近にある障害物も検出できます。

信号音の周波数は、車両が障害物に近づくほど高くなり、側面にて障害物が検出された場合には、車両と障害物の距離が約 20 cm になると連続ピーブ音となり、前方または後方でにて障害物が検出された場合には、車両と障害物の距離が約 30 cm になると連続ピーブ音となります。

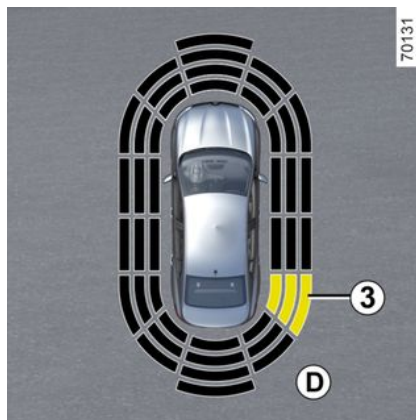
障害物検出箇所が（表示 C）のように表示されます。

車両によっては、検出障害物までの近さに応じて、検出箇所が緑色、オレンジ

シ色（車両によっては黄色）または赤色で表示されます。

i 操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

側面での障害物検出に関する特殊なケース



このシステムは、ホイールの向きに応じて車両の軌道を判断し、車両側面において障害物 3 と衝突する危険がある場合にその旨をドライバーに通知します。

側面に障害物が検知された場合:

- 障害物に接近するにつれて、警告音が高速になり連続して鳴ります。障害物検出箇所 3 が（表示 D のように）表示されます。
- 衝突のリスクがない場合は、障害物に近づいても警告音は鳴りません。車両によっては、障害物検出箇所 3 が分散表示されます。

i 操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

パーキングアシスト

ON/OFF

マルチメディア画面 4 からの有効化/無効化



マルチメディア画面 4 の「車両」ワールドから、「パーキングアシスト」メニューを押します。

超音波センサでカバーされている領域を有効または無効にします。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

注: 車両によっては、車両後方の検出ゾーンを無効化できません。

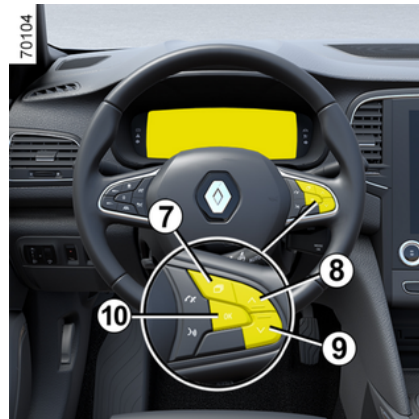
スイッチ 6 を介した有効化/無効化

(車種によります)



車両を停止させた状態でスイッチ 5 を押し、パーキングディスタンスコントロールが無効化されます。スイッチに内蔵されている警告灯 6 が点灯します。スイッチ 5 をもう一度押し、機能が有効化されます。スイッチに内蔵されている表示灯 6 が消えます。

トリップコンピュータからのシステムの有効化/無効化



- 車両を静止させ、スイッチ 7 を必要な回数だけ押し、「車両」タブにアクセスします。

- スイッチ 8 または 9 を繰り返し押し、「ドライブアシスト」メニューにアクセスします。スイッチ 10 OK を押します。

- スイッチ 8 または 9 を繰り返し押し、「駐車場」メニューにアクセスします。スイッチ 10 OK を押します。

- スイッチ 10 OK を押して機能を作動または作動解除します。

- 機能作動

- 機能作動解除

パーキングアシスト

注: 車両によっては、車両後方の検出ゾーンを無効化できません。

パーキングディスタンスコントロールの自動無効化

次のときにシステムは自動的に解除されます：

- 車速が約 10km/h 以上になったとき。
- 車両によっては、車両が 3 秒を超えて静止し、車両前方で走行の妨げとなる事象（交通渋滞など）が生じた場合。
- シフトレバーを **N** または **P** 位置にした場合。
- 作動不良が検出された場合。

注: 車両によっては、車両に、システムが認識済みの牽引バーが装備されている場合、リアパーキングアシスト機能だけが無効化されます。

設定



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



この機能は、車両始動のたびに、直前のエンジン停止の際に記憶された作動状態に復帰します

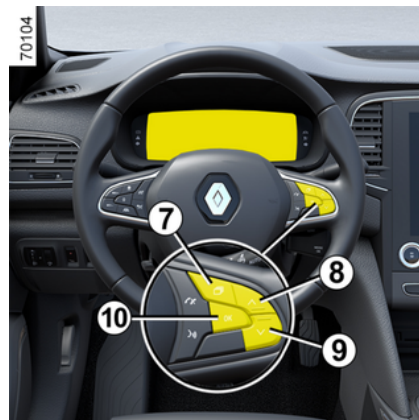
マルチメディア画面 4 からの設定調整



車両を静止させた状態で、マルチメディア画面 **4** 上の「車両」領域から「パーキングアシスト」メニューを押します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

トリップコンピュータからの設定



- 車両を静止させ、スイッチ **7** を必要な回数だけ押して、「車両」タブにアクセスします。
- スイッチ **8** または **9** を繰り返し押して「ドライブアシスト」メニューにアクセスします。スイッチ **10** OK を押します。
- スイッチ **8** または **9** を繰り返し押して「駐車場」メニューにアクセスします。スイッチ **10** OK を押します。

システムサウンドの解除

(車種によります)

パーキングアシストサウンド ON/OFF スイッチ

パーキングアシスト

注: 消音設定にすると、障害物接近時には表示警告のみになります。

パーキングアシストオーディオ音量スイッチ

音量バーを使ってパーキングアシストの音量を調整できます。



エンジンを始動する度に、この機能は、エンジンが最後に停止した時点で記憶された作動状態に復帰します。

注意：

次の場合、警告音（車両によっては関係する検出ゾーン）は手動で無効化できます。

- システムによって認識されないけん引、運搬、またはトレーラー機器が超音波センサーの前にある場合。
- 超音波センサーが損傷している。

注: 警告音を無効化すると、ディスプレイが不規則に警告を継続します。

パーキングアシスト

作動異常

システムが不具合を検出した場合: 後進ギアにした場合に、ドライバーに警告するための信号音が約3秒間鳴り、「パーキングセンサー点検」メッセージがインストルメントパネル上に表示される状態になるか、後進ギアにしてもシステムによる警告音や警告表示は生じない状態のいずれかになります。

超音波センサがきれいか確認します。不具合が続く場合は、正規ディーラーにご相談ください。



システムサービス / 修理

- 衝突した際はセンサーのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- センサのある場所の作業（修理、交換）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 不安定な天候条件（雨、雪、あられ、薄氷など）、
- 車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音。
- 互換性がないけん引ボールまたはフックの取付け。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

システム作動時間の制限

- システムの正常な作動を確保するために、センサの周囲は清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
- 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
- 車両に近すぎる障害物はシステムにより検出できない場合があります。
- 他車両または障害物と自車両の走行速度が大きく異なる場合、システムは警告を表示しないことがあります。
- 操縦中に軌道に変化がある場合、システムは障害物の報告が遅くなる場合があります。
- 車両がトレーラを牽引している場合は、リアパーキングアシストシステムを停止する必要があります

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- センサの周囲が損傷しています（リアバンパー）。
- 車両には、システムによって認識されない引き上げ装置（ボール、フック、アダプタなど）が装備されています。

パーキングアシスト

アシストパーキング



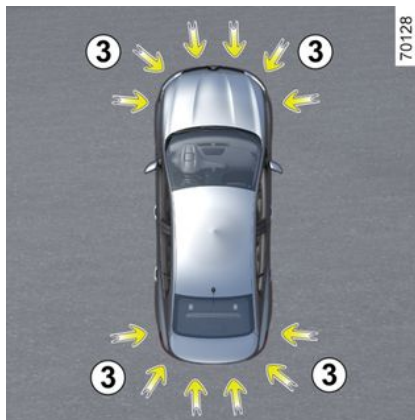
この機能は、車両のバンパーに取り付けられた矢印 **3** で示される超音波センサーを使用して、アクセス可能な駐車スペースを見つけ出し、駐車操作を支援するのに役立ちます。

ステアリングホイールから手を離せば、ドライバーだけがコントロールできます。

- アクセルペダル
- ブレーキペダルを踏む
- シフトレバー。

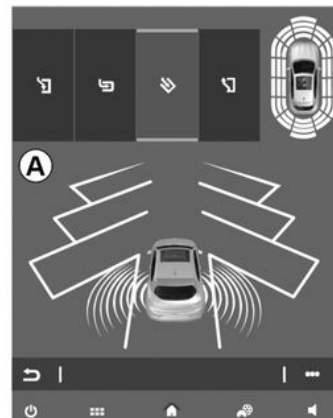
いつでも、ステアリングホイールを操作すると、コントロールを取り戻すことができます。

注意事項



矢印 **3** が示す超音波センサーについて、その作動を妨げるもの（汚物、泥、雪、取付け不良ナンバープレート）の有無、その作動に影響を及ぼす要素の有無、改造（塗装など）の有無、車両の前部または後部に取り付けられているアクセサリによる作動妨害の有無を確認します。

作動



停止中または約 30 km/h 以下で走行中の車両で：

- スイッチ **2** を押します。スイッチの表示灯 **2** が点灯し、マルチメディア画面 **1** に **A** が表示されます。
- 駐車する側に方向指示器を出します。

パーキングアシスト

操作の選択




システムは4つの操作を実行できません。

- 並列パーキング、
- 縦パーキング、
- 角度パーキング、
- 並列パーキングのスペースから出る。

マルチメディア画面**1**から、実行する操作を選択します。

注: 車両を発進させた後、またはシステムを使用した並列パーキングが正常に完了した後で、システムが要求するデフォルトの操作は、並列パーキングスペースから出る操作の支援です。その他のケースでは、マルチメディア画面**1**からデフォルトの操作を選択します。詳細については、マルチメディア

機器の取扱説明書を参照してください。

 このシステムは、パーキングアシスト（バックカメラ装備車両ではバックカメラ）が作動すると起動し、ドライバーの運転操作 → 224、→ 221 視覚的に補助します。

作動

停止する

車両の速度が 30 km/h 以下の場合、システムは車両のドライバーが選択した側で利用可能なパーキングスペースを探します。


注: 車両の反対側に駐車スペースがある場合は、方向指示灯をその方向に設定、システムによるそのスペースの検索を可能にします。

駐車スペースが見つかったら、マルチメディア画面上に、小文字「P」で表示されます。「停止」というメッセージが表示され、ピープ音が鳴るまで、スペースが存在する側の方向指示灯を作動させ、ゆっくり走行します。

その後は、駐車スペースが、マルチメディア画面上に大文字「P」で表示されます。

- 車両を止めます。


- リバースギアを選択します。

インジケータランプ  がインストルメントパネルに表示され、ピープ音が鳴ります。

- ステアリングホイールから手を離します。
- マルチメディア画面 **1** に表示される指示に従ってください。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

インストルメントパネルの警告灯

 が消灯してピープ音が鳴ると、操作は完了です。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、


したがって、どのような場合でも速度制限に注意し、細心の注意を払う（突然の事態にもブレーキを踏めるように常に備える）必要があり、操作中の責任はドライバーにあります。

パーキングアシスト



並列パーキングのスペースから出る。


- 2 スイッチを短く押します。
- 「縦列駐車スペースからの発進」モードを選択します。
- 車両から降りたい側の方向指示燈を点灯させます。
- スイッチ 2 を長押しします（約 2 秒）。

インジケータランプ  がインストルメントパネルに表示され、ビーブ音が鳴ります。

- ステアリングホイールから手を離します。
- マルチメディア画面 1 に表示される指示に従い、パーキングアシストシステムによる警告を考慮して、前後進の操作を行います。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

車両が駐車可能スペースの出口に達す

ると、警告灯  がインストルメントパネルから消え、ビーブ音が鳴り、機能による誘導の完了を示すメッセージがマルチメディア画面 1 上に表示されます。



操作中にはステアリングホイールが急回転するため、中に手は入れず、中に障害物がないことを確認してください。


操作の一時停止／再開



次の場合、操縦は一時停止されます。

- ホイールをコントロールする。
- 車両が長時間停止している。
- 移動の方向に障害物があると、操作が完了しません。
- エンジンが停止している。
- ドアまたはトランクルームが開いています。

2 スイッチの警告灯とインストルメン

トパネルの  警告灯が消えて、ビーブサウンド信号によって操作が一時停止されたことが確認されます。この場合、操作の一時停止の理由がマルチメディア画面 1 に表示されます。

確認内容:

パーキングアシスト

– ステアリングホイールから手を離している。

と

– すべてのドアとトランクルームを閉まっている。

と

– 移動する方向に障害物がない。

と

– エンジンが始動している。

2 スイッチの警告灯が点滅している状態は、システムが作動を再開できる状態です。

操作を再開するには、**2** スイッチを押したままにします。スイッチ **2** 上の表

示灯が点灯し、 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

マルチメディア画面 **1** に表示される指示に従ってください。

操作のキャンセル

以下の状況で、操作をキャンセルすることができます。

– 車両の時速が 7 km/h 以上。

– スイッチ **2** を押す方法。


– 1回の操作で、10回以上の前進 / 後進を実行した場合。

– パーキングアシストコントロールセンサが汚れているか、何かに覆われている。

– 車輪がスリップしている。

– 操作が長時間停止されている。

2 スイッチの表示灯とインストルメン

トパネルの  警告灯が消えて、ビーブ音によるサウンド信号によって操作がキャンセルされたことが確認されます。この場合、操作のキャンセルの理由がマルチメディア画面 **1** に表示されます。

パーキングアシスト

注意:



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

操作が、現地で適用される交通規制に準拠したものであることを確認してください。

ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください: 車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱、けん引装置などがいないことを確認します。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はセンサーのアライメントが変わる可能性があります、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- センサーのある場所の作業（修理、交換、外装トリムの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

特定の状態は、天候の悪化（雪、雹、氷など）など、システムの動作を混乱させるか、または悪化させる可能性があります。

システムの動作が異常な場合は、システムを作動解除して指定サービス工場にお問い合わせください。

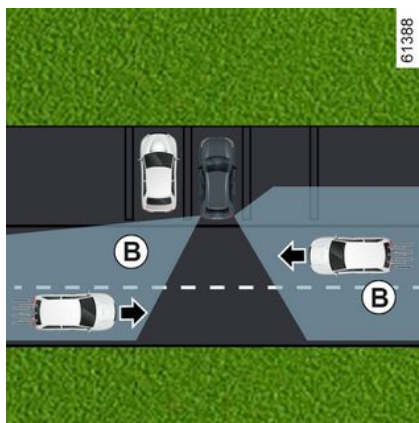
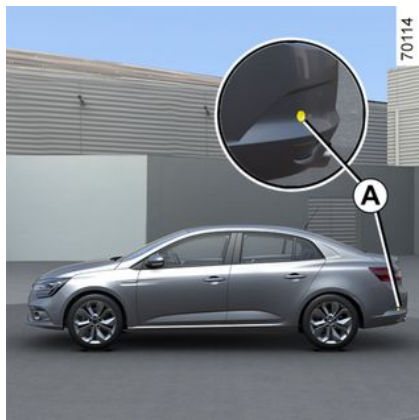
誤警報のリスク。

システム作動時間の制限

- システムは、センサの死角にある対象物を検出できません。
- システムが提案するパーキングスペースが利用可能であり、障害物がないことを常に目視で確認します。
- トレーラー牽引時や、車両またはその周辺の車両に牽引／運搬システムが装備されている状況では、このシステムを使用しないでください。

パーキングアシスト

駐車終了警告



リアバンパー（ゾーン A）の両側に設置されているレーダーからの情報を用いて作動するこのシステムは、他車両が検出ゾーン B に存在する場合にその旨をドライバーに通知します。

次の場合にシステムが作動します。

– シフトレバーを「後進」位置にした場合。

と

– 車両が停止しているか、低速で走行しているとき。

i システムの検出機能は、車両の周囲（静電気物など）、バンパーの状態などによって異なります。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

特徴

レーダー領域 A に障害物（ステッカー、泥、雪など）がないか確認してください。

いずれかのレーダーを妨げるものがあると、「サイドレーダー視界喪失」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

パーキングアシスト

マルチメディア画面1からの有効化/無効化



機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

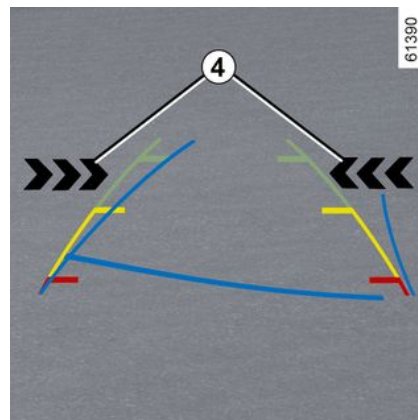
作動



この機能は、領域 **B** にいる任意の車両が自車両に接近している場合に警告します。

インジケータ **2** が両側のドアミラー **3** に表示されます。

注: ドアミラー **3** は定期的に清掃し、警告灯 **2** を視認できる状態に保ってください。



マルチメディア画面上的警告灯 **4** は、側部から自車両に接近する他車両が検出された場合に表示されます。


注: カメラを定期的に清掃して、不鮮明にならないようにします。

シフトレバーが「後進」位置で車両が動いている場合には、警告灯 **2** および **4** とともに警告音が鳴ります。

作動異常

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダー要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。正規サービス工場にご連絡ください。

パーキングアシスト

 バンパーの後ろにセンサがあるため、バンパーの作業（修理、交換、塗装など）は資格を持つ専門スタッフに任せることをお勧めします。

パーキングアシスト

警告



システム作動時間の制限

- システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
- 車両に近づいてくる小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- レーダー領域 **A**（リアバンパー）に損傷がある場合。
- 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのものです。

いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

システムサービス / 修理

- 衝撃を受けた場合は、レーダーの位置が変わり、機能に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダーのある場所の作業（修理、交換、ボディー修理）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（地下駐車場、鉄骨構造など）の場合。
- 不安定な天候条件（雪、豪雨、あられ、薄氷など）。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの動作が異常な場合は、システムを作動解除して指定サービス工場にお問い合わせください。

緊急サービスコール

車両に装備されている場合、エマージェンシーコール機能を使用することで、事故時または疾病時に、自動または手動で（課金なしで）救急サービスに電話し、救急サービスの現場到着までの時間を縮小することができます。

注意: エマージェンシーコールは次の場合に作動します。

- 2Gおよび3G通信インフラストラクチャが整い、システムと互換性のある関連するテレマティック緊急サービスの対象になっている国にいるとき。
- 車両が走行中の地域のネットワークの通信範囲に応じて異なります。

目撃した事故を報告するためにエマージェンシーコール機能を使用する場合、救急サービスが車両の位置つまり報告する事故の位置を特定できるように、交通の状態に応じて、停車することになります。

国や地方自治体の規則に従って処理してください。

i 事故を目撃した場合、または気分が悪くなった場合、緊急事態に巻き込まれた場合にのみ、エマージェンシーコールを使用してください。



1. システム作動警告灯:

- 緑色: 作動中（ネットワーク利用可能）。

- OFF: 停止中（ネットワーク利用不可）。
- 赤: 作動に不具合あり。
- 緑点滅: コール中。

2. 自動モード警告灯。

3. SOS ボタン。

4. マイク

5. スピーカー。

コールは常に次の方法で実行されます。

- エマージェンシーサービスへのコールが開始されます。
- 事故に関連するデータ（メーカー情報、コール時間、最終所在地、車両の方向など）が送信されます。
- エマージェンシーサービス担当者との音声通信が行われます。
- 必要であれば、緊急サポートに電話が掛けられます。

エマージェンシーコールには次の2つのモードがあります。

- 自動コールモード。
- 手動モード。

自動コールモード

システムが起動すると、自動モードが作動します。

安全保護装置（シートベルトプリテンショナ、airbagなど）の作動を引きこす事故が発生すると、エマージェンシーコールが自動的に開始します。

緊急サービスコール



事故の発生時には、場所と交通の状態が許せば、必要に応じてコールセンターにすぐに応答できるように、できる限り車両に近い場所に留まってください。

手動コールモード



このエマージェンシーコールは次の方法で開始できます。

– ボタン **3** を、少なくとも 3 秒間長押しします。

または

– ボタン **3** を 10 秒以内に 5 回押しします。

誤ってボタンを押してしまった場合は、コールセンターにつながる前であれば、ボタン **3** を約 2 秒間長押しすることでコールをキャンセルできます。通話の確立後は、コールセンターのみの通話を終了できます。

作動異常

状況（バッテリー不足など）によっては、緊急通報が実行されない場合があります。

システムが作動不良を検出すると、警告灯 **1** が、30 分を超える時間にわたり赤色点灯します。できるだけ早くディーラー正規サービス工場でご点検をお受けください。



システムは、専用バッテリーで駆動します。バッテリーの寿命は約 4 年間です（消耗時には警告灯 **1** の点灯によりドライバーに対し警告されます）。メーカーにお問い合わせください。



システムの安全および適切な動作を確認するために、バッテリーに対するどのような作業（取り外し、接続の解除など）も適格な技能者が実施する必要があります。**重大なやけどまたは感電の危険性があります。**メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。バッテリーは専用タイプです。同型のバッテリーと交換してください。正規サービス工場にご連絡ください。

緊急サービスコール

i エマージェンシーコール機能を使用しない場合、システムは追跡できず、持続的な監視下に置かれません。データは、自動的かつ継続的に削除され、システムでは車両の最後の3位置のみが保存されます。地域の法律に従って、データは緊急通報の際にのみ送信されます。コールセンターに送信されるデータは、所在国で適用される個人データ保護法に従って扱われます。システムでは、アクティビティ履歴データが13時間のみ保存されます。車両のオーナーは、データに対するアクセス権を持ち、データの修正、削除、ロックを要求できます。

マルチセンス

MULTI-SENSE システムを使うと、車両に応じて、次のような走行方法、ムードランプおよび快適機能の制御に使用できる4つの走行モードの中からいずれか1つを選択できます。

– Eco モード、Sport モードおよび Comfort は事前構成モードで、一部分（ムードランプ設定など）のみカスタマイズできます。
– My Sense モードは完全にカスタマイズできます。

走行モードは以下に影響します。

– パワーステアリング法則。
– 横滑り防止装置。
– エンジンとトランスミッションのレスポンス。

以下にも影響します。

– 助手席照明やインストルメントパネル照明。
– インストルメントパネルとマルチメディア画面の情報。

スポーツモード

このモードでは、エンジンとトランスミッションのレスポンスが向上します。ステアリングはシャープになります。

Eco モード

Eco モードではエネルギー節約が重視されます。ステアリングがスムーズになり、エンジンやギアボックスの管理

により燃料消費量が低減されます
➔ 148。

My Sense モード

このモードを使用すると、標準的なデフォルトの車両設定を用いて、走行方法、ムードランプおよび快適機能を手動で構成できます。

「コンフォート」モード

このモードではスムーズなステアリングが志向されます。車内環境が柔らかいものになります。車両によっては、運転席のシートマッサージ機能が作動します。

i どのモードでも、周囲の照明とマルチセンスモードのインストルメントパネルとマルチメディア画面に表示される情報のフォーマットの色を変更できます。
デフォルトの設定にリセットすることもできます。

メニューにアクセスする



MULTI-SENSE には（車両により）次の方法でアクセスできます。

– マルチメディア画面 **1** からアクセスする方法。
– スイッチ **2** を使用する方法。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

i エンジン設定は各運転モードに固有であり、カスタマイズすることはできません。

マルチセンス

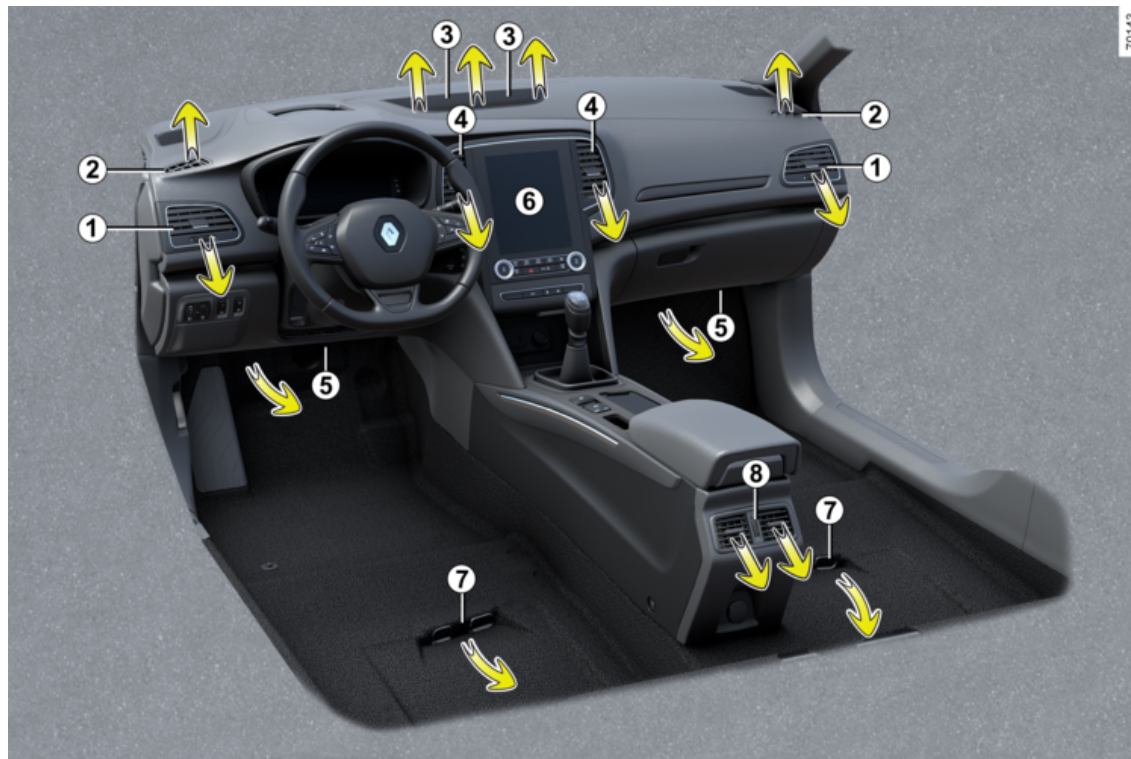


エンジンスイッチを OFF にすると、車両は、常に My Sense モードで再始動します。

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

ベンチレーター: エアアウト
レット

吹き出し口



エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

1. サイドベンチレーター
2. サイドウィンドウデフロスター吹き出し口
3. フロントウィンドウデフロスター吹き出し口
4. センターベンチレーター
5. 前席足元用ヒーター吹き出し口
6. マルチメディア画面
7. 後部座席足元用ヒーター吹き出し口
8. センターコンソールエアベント

フロントシート



風向きの調節

右／左方向

カーソル **10** を移動します。

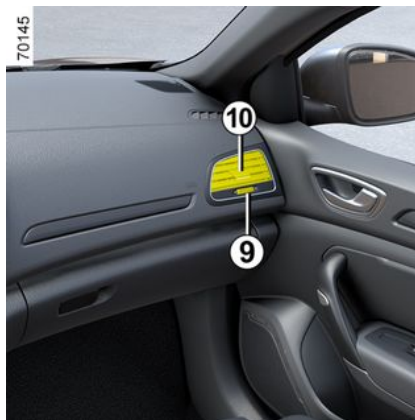
上／下向き

カーソル **10** を移動します。



悪臭が入ってくる場合などに車両のフロアに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。



風量の調節

コントロールノブ **9** を回します。



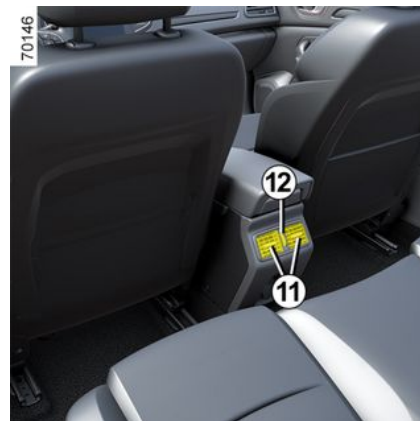
方向：上げるほど開きます



方向：下げるほど閉まります。

車内の悪臭には専用のシステムのみをご利用ください。メーカーにお問い合わせください。

後席



右／左方向

カーソル **11** を移動します。

上／下向き

カーソル **11** を移動します。

風量の調節

コントロールノブ **12** を回します。

上向き: 最大流量。

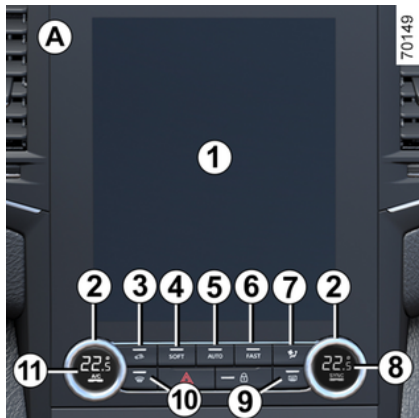
下向き: 閉。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

オートエアコン

制御装置 A

スイッチ類

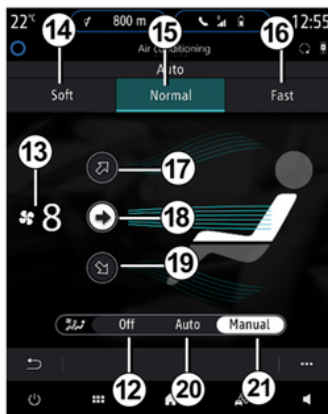


マルチメディア画面 **1** からオートエアコン設定にアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従います。


以下に記載されているスイッチの有無は、車両および国によります。

2. 左右の設定温度調整。
3. 内気循環。
4. システムが停止するまで、ファンの速度を下げます。
5. ファン速度の加速。
- 6., 14., 15., 16. 自動モード。

7. エアコンページへのショートカット。
8. SYNC「同期」機能。
9. リアウインドウのデフロスター/デミスターと、仕様によってはドアミラー
10. 「シーククリアー」機能。
11. エアコンディショナー



12. 補助エアコン OFF モード。
13. ファンの速度表示。
- 17., 18., 19. 室内ベンチレーター。
20. 補助エアコン Auto モード。
21. 補助エアコンマニュアルモード

 いくつかのボタンには作動状態を示す警告灯がありません。

風量の変更

オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

ファン回転速度は、スイッチ **4** または **5** を押す方法でも調整できます。

注: エアコンの設定は、「MULTI-SENSE」メニュー→ **244** で選択したモードに応じて異なります。

温度調節



エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

設定には次の2つのタイプがあります:

- 独自設定。
- 機能設定SYNC

SYNC 機能

客室を同期させるには、ボタン **8** を押してアクティブにします。ボタンの表示灯 **8** が点灯します。点灯したら制御装置 **11** を使用します。

機能を無効にするには、**8** ボタンをもう一度押すか、または **2** コントロールを使用して、左側とは別に右側を調整します。

2 ボタン警告灯が消灯します。

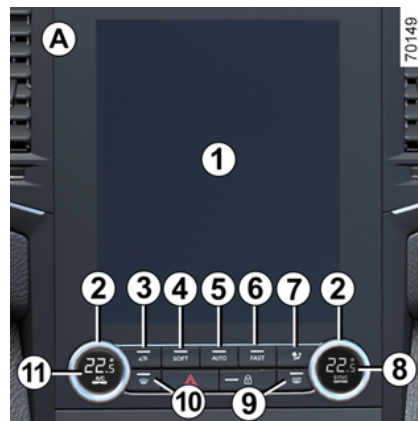
注: エアコンの構成は、「Multi-Sense」メニュー→**244**で選択したモードに応じて変動します。

i ディスプレイには設定温度が表示されます。

車両を発進させると、表示される値の大小は、温度が快適なレベルに素早く達することを意味しなくなります。システムによって温度の上昇/下降が最適化されます（風量はすぐに最大速度に達するのではなく、徐々に上昇します）。この状態は数秒から数分続くことがあります。

一般に、特に不快でない場合は、ダッシュボードの吹き出し口は、常に開けておいてください。

「クリアビュー」機能



この機能により、（車両によって）フロントウィンドウ、リアウィンドウ、フロントサイドウィンドウ、ドアミラーの急速なデミスター機能およびデフロスターが作動します。この機能は、エアコンとリアウィンドウデフロスタ（車両によってはフロントウィンドウ電動デフロスタ）を自動的に作動させます。

スイッチ **10** を押します。スイッチの表示灯が点灯します。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン



リアウィンドウヒータ機能のスイッチをOFFにするには、ボタン9を押します。内蔵表示灯が消えます。

ファン回転速度を変更するには、スイッチ4または5を押します。

この機能を停止させるには、

次のいずれかを押します:

- スイッチ6。
- スイッチ10（再度押し）。
- ボタン14、15または16。

自動コールモード

オートマチックエアコンディショナーは、車内の快適性と良好な視界を確保するシステムで、燃費にも最大限配慮しています（最低温度または最高温度使用時を除きます）。システムはファ

ンの回転速度、吹き出し口切替え、内気循環、エアコンの作動または停止およびエア温度を制御します。

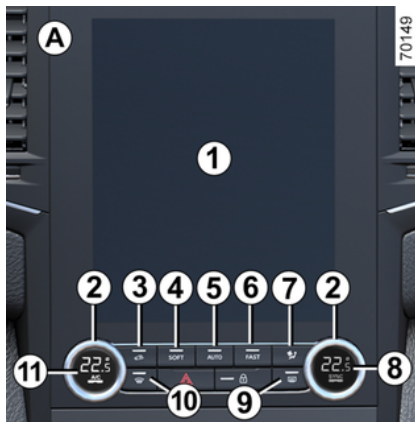
3つのプログラムからモードを選択できます:

NORMAL: 選択中の快適機能レベルを車外状況に応じて最適化できます。スイッチ6またはボタン15を押します。

SOFT: より円滑かつ静かに希望温度にできます。ボタン14を押します。

FAST: 車内の風量を強くできます。このモードは、後部座席の快適性を最適化するのにお勧めです。ボタン16を押します。

エアコンディショナーの始動または停止



オートモードでは、システムは外気的气候条件に応じてエアコンの作動または停止を制御します。

次の操作を行うにはスイッチ11を押します。

- エアコンを手動で有効化する（制御装置11の表示灯が点灯します）。
- エアコンを手動で無効化する（制御装置11の表示灯が消灯します）。

強制内気循環機能の停止



システムの停止に必要な回数だけスイッチ4を繰り返し押します。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

i NORMAL、SOFT または FAST 自動プログラム のいずれかを使うのがおすすめです。

自動モード（スイッチ上の表示灯 6 が点灯）では、すべてのエアコン機能がシステムにより制御されます。

システムの選択を変更することもできます。この場合、スイッチ上の表示灯 6 が消えます。

自動モードに戻すには、プログラム（NORMAL 15、SOFT 14 もしくは FAST 16）のいずれか、またはスイッチ 6 を押します。

リアウインドウデフロスターおよび曇り止め

スイッチ 9 を押します。スイッチの表示灯が点灯します。この機能により、熱線式リアウインドウの急速な曇り止め、および熱線式ドアミラーデフロスターが作動します（装備車の場合）。

この機能を終了するには、もう一度スイッチ 9 を押します。スイッチを押さなかった場合でも、曇り止めは自動的に停止します。

吹出し口の切替え

ボタン 17、18 および 19 を押して希望する送風モード（選択した送風方法が表示されます）を選択します。

17. フロントウインドウとフロントサイドウインドウの霜取り用通気口から送風されます。

18. 主に、ダッシュボードの送風口から送風されます。

19. 主に、乗員の足元にある送風口から送風されます。

内気循環の作動（車内を外気から遮断）



この機能は自動制御されますが、手動でも起動できます。

注：

– 内気循環中は、車内の空気が循環され、車外から外気は取り込まれません。

– 内気循環により外気は遮断されるので、室内の温度は急速に下がります（渋滞などで大気が汚染されている道路などにも使用できます）。

手動でのご使用

スイッチ 3 を押すと、スイッチ 3 に対応する表示灯が点灯します。

長い時間、内気循環モードのまま作動すると、車内の空気が汚れたりウインドーが曇ることがあります。

このため、内気循環が不要になったらすぐにスイッチ 3 を押して、自動モードに戻すことをおすすめします。

この機能を終了するには、もう一度スイッチ 3 を押します。

i デフロスター／デミスターは常に内気循環に優先して作動します。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

制御装置 B


スイッチ類



(車種によります)

1. 運転席側の温度調整。
2. エアコン起動スイッチ。
3. 「シークリアー」機能。
4. 風量調節
5. 吹き出し口の切り替え
6. 外気品質。
7. SYNC「同期」機能。
8. 助手席側の温度調整。
9. 内気循環。
10. 「FAST」自動モード。

11. 「AUTO」自動モード。
12. 「SOFT」自動モード。
13. リアウインドーのデフロスター／デミスターと、仕様によってはドアミラー

 AUTO ボタン以外のボタンを押すと自動モードが無効化されます。

自動クールモード

オートマチックエアコンディショナーは、車内の快適性と良好な視界を確保するシステムで、燃費にも最大限配慮しています（最低温度または最高温度使用時を除きます）。システムはファンの回転速度、吹き出し口切替え、内気循環、エアコンの作動または停止およびエア温度を制御します。

3つのプログラムからモードを選択できます：

AUTO: 選択中の快適機能レベルを車外の状況に応じて最適化できます。ボタン **11** を押します。

SOFT: より円滑かつ静かに希望温度にできます。ボタン **12** を押します。

FAST: 車内の風量を強くできます。このモードは、後部座席の快適性を最適化するのにオススメです。ボタン **10** を押します。

風量調整

オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

ただし、スイッチ **4** を回して送風速度を調整し、送風速度を上昇 / 下降することもできます。

温度調節

スイッチ **1** または **8** を回して、好みの温度に設定します。

ボタンを右にずらすと温度が上昇します。

SYNC 機能



エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

客室を同期させるには、ボタン 7 を押してアクティブにします。ボタンの表示灯 7 が点灯します。

機能を無効にするには、7 ボタンをもう一度押すか、または 8 コントロールを使用して、左側とは別に右側を調整します。

7 ボタン警告灯が消灯します。

注: エアコンの構成は、「Multi-Sense」メニュー→244で選択したモードに応じて変動します。

「クリアビュー」機能

ボタン 3 を押すと、内蔵警告灯が点灯します。

この機能により、(車両によって)フロントウィンドウ、リアウィンドウ、フロントサイドウィンドウ、ドアミラーの急速なデミスター機能およびデフロスターが作動します。エアコンおよびリアウィンドウのデフロスター機能が自動的に作動します。


ボタン 13 を押すと、リアウィンドーデフロスターが停止し、ボタン上の警告灯が消灯します。


この機能を終了させるには、ボタン 3 または 11 を押します。


吹出し口の切替え




コントロール 5 を必要な回数だけ押して、車室内の空気分配モードを選択します。コントロール 5 の表示により、選択された分配モードが確定します。


 フロントウィンドウとフロントサイドウィンドウの霜取り用通気口から送風されます。


 空気流は前方の側面のガラスやフロントガラスのくもり除け、乗員の足元に分散されます。

 ダッシュボードの吹出口やフロントシートの足下から送風され、車両

によっては、2列目シートの足下から送風されます。

 主に、ダッシュボードの送風口から送風されます。

 主に、乗員の足元にある送風口から送風されます。

 いくつかのボタンには、作動状態表示灯が内蔵されています。

リアウィンドウデフロスターおよび曇り止め



エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

ボタン **13** を押し、内蔵警告灯が点灯します。この機能により、熱線式リアウインドウの急速な曇り止め、および熱線式ドアミラーデフロスターが作動します（装備車の場合）。

この機能を終了するには、もう一度ボタン **13** を押し、スイッチを押さなかった場合でも、曇り止めは自動的に停止します。

エアコンディショナーの始動または停止

オートモードでは、システムは外気の気候条件に応じてエアコンの作動または停止を制御します。

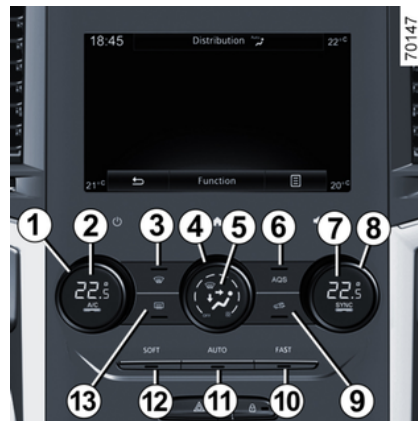
ボタン **2** を押し、エアコンを強制的に停止します。ボタンの警告灯が消灯します。

i エアコンの使用中は、燃料消費量がやや増加しますが、これは異常ではありません。必要がないときはエアコンを切ってください。



i ECOモード装備車両では（スイッチ**14**、また車両によってはマルチメディア画面から選択）、ECOを有効にするとオートエアコンの機能が低下することがあります→ **148**、→ **244**。

内気循環の作動（車内を外気から遮断）



この機能は自動制御されますが、手動でも起動できます。この場合、ボタン **9** の表示灯の点灯により操作が確認されます。

手動でのご使用

ボタン **9** を押し、内蔵警告灯が点灯します。

長い時間、内気循環モードのまま作動すると、車内の空気が汚れたりウインドーが曇ることがあります。

このため外気遮断が不要になったら、ボタン **9** を押し、自動モードに戻すことをおすすめします。

強制内気循環機能の停止

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

スイッチ**4**を「OFF」に回すと、システムが停止します。システムを作動させるには、もう一度スイッチ**4**を回し、風量を調節するには、スイッチ**11**を押します。

i デフロスター／デミスターは常に内気循環に優先して作動します。

制御装置 C

スイッチ類



5., 11. 左右の設定温度調整。

6. リアウインドーのデフロスター／デミスターと、仕様によってはドアミラー
7. 室内ベンチレーター。
8. 「自動内気循環」機能。
9. 内気循環。
10. 「シーククリアー」機能。
- 12., 18. 風量。
13. SYNC「同期」機能。
- 14., 15., 16. 自動モード。
17. エアコンディショナー

インジケータ

以下のインジケータが画面**3**に表示されます。

1. アクティブモード、室内の温度、風量、吹き出し口（関連スイッチを押した後で一時的に表示）。
2. 外気温。
4. 気温、左右。

i いくつかのボタンには作動状態を示す警告灯があります。

自動コールモード

オートマチックエアコンディショナーは、車内の快適性と良好な視界を確保

するシステムで、燃費にも最大限配慮しています（最低温度または最高温度使用時を除きます）。システムはファンの回転速度、吹き出し口切替え、内気循環、エアコンの作動または停止およびエア温度を制御します。

3つのプログラムからモードを選択できます：

AUTO: 選択中の快適機能レベルを車外状況に応じて最適化できます。ボタン**15**を押します。

SOFT: より円滑かつ静かに希望温度にできます。ボタン**14**を押します。

FAST: 車内の風量を強くできます。このモードは、後部座席の快適性を最適化するのにおすすめです。ボタン**16**を押します。

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

風量の変更



オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

ファン回転速度は、ボタン **12** または **18** を押す方法で調整できます。

温度調節

設定には次の2つのタイプがあります：

- 室内の独立した調整。
- 助手席側と運転席側の設定を同期させる SYNC モードでの調整。

室内の調整

スイッチ **11** を使用します。

機能SYNC

有効化するにはボタン **13** を押しします。ボタン **13** 上の警告灯が点灯します。

機能を無効にするには、**13** ボタンをもう一度押すか、または **5** コントロールを使用して、左側とは別に右側を調整します。

13 ボタン警告灯が消灯します。

注：エアコンの構成は、「Multi-Sense」メニュー→**244**で選択したモードに応じて変動します。

機能を無効にするには、**13** ボタンをもう一度押すか、または **5** コントロールを使用して、左側とは別に右側を調整します。

注：エアコンの構成は、「Multi-Sense」メニュー→**244**で選択したモードに応じて変動します。

i ディスプレイには設定温度が表示されます。

車両を発進させると、表示される値の大小は、温度が快適なレベルに素早く達することを意味しなくなります。システムによって温度の上昇/下降が最適化されます（風量はすぐに最大速度に達するのではなく、徐々に上昇します）。この状態は数秒から数分続くことがあります。一般に、特に不快でない場合は、ダッシュボードの吹き出し口は、常に開けておいてください。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

「クリアビュー」機能



この機能により、(車両によって)フロントウィンドウ、リアウィンドウ、フロントサイドウィンドウ、ドアミラーの急速なデミスター機能およびデフロスターが作動します。この機能は、エアコンとリアウィンドウデフロスタ(車両によってはフロントウィンドウ電動デフロスタ)を自動的に作動させます。

スイッチ **10** を押すと、内蔵表示灯が点灯します。

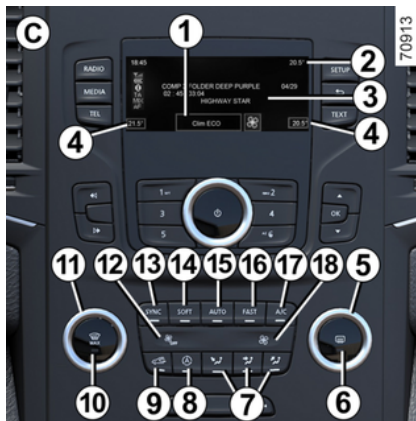
スイッチ **6** を押すと、リアウィンドウヒータの作動が停止し、内蔵表示灯が消えます。

ファン回転速度を変更するには、ボタン **12** または **18** を押します。

この機能を停止させるには、次のいずれかのスイッチを押してください：

- ボタン **10** (再度押し)。
- ボタン **14**、**15** または **16** のいずれか。

エアコンディショナーの始動または停止



オートモードでは、システムは外気的气候条件に応じてエアコンの作動または停止を制御します。

以下を行うには、ボタン **17** を押しします。

- エアコンを有効化する (ゾーン **1** の警告灯が点灯します)。
- エアコンを無効化する (ゾーン **1** の警告灯が消灯します)。

強制内気循環機能の停止

システムのスイッチを OFF にするには、メッセージ OFF がゾーン **1** 内に表示されるまで、ボタン **12** を繰り返し押しします。

i **AUTO**、**SOFT** または **FAST** 自動プログラムのいずれかを使うのがおすすめです。

自動モード (ボタン **14**、**15** または **16** 上の表示灯が点灯) では、すべてのエアコン機能がシステムにより制御されます。

システムが選択した設定を変更することもできます。この場合、ボタン **14**、**15** または **16** 上の表示灯が消えます。

自動モードに戻すには、プログラム **AUTO 15**、**SOFT 14** または **FAST 16** のいずれかを押しします。

リアウィンドウデフロスターおよび曇り止め

スイッチ **6** を押すと、内蔵表示灯が点灯します。この機能により、熱線式リアウィンドウの急速な曇り止め、および熱線式ドアミラーデフロスターが作動します (装備車の場合)。


エアベンチレーター、ヒーター、エアコン


この機能を終了するには、もう一度ボタン **6** を押します。スイッチを押さなかった場合でも、曇り止めは自動的に停止します。


吹き出し口の切替え



ボタン **7** を押して、次の中からお好みの風量を選択します（警告灯がゾーン **1** 内で点灯します）。

 主に、フロントウィンドウとフロントサイドウィンドウの霜取り用通気口から送風されます。

 主に、ダッシュボードの送風口から送風されます。

 主に、乗員の足元にある送風口から送風されます。

内気循環の作動（車内を外気から遮断）


この機能は自動制御されますが、手動でも起動できます。

注：

- 内気循環中は、車内の空気が循環され、車外から外気は取り込まれません。
- 内気循環により外気は遮断されるので、室内の温度は急速に下がります（渋滞などで大気が汚染されている道路などにも使用できます）。

オートマチックモード

ボタン **8** を押します（警告灯がゾーン **1** 内に点灯します）。

 デフロスター／デミスターは常に内気循環に優先して作動します。

手動でのご使用

ボタン **9** を押して内気循環を強制作動します。

長い時間、内気循環モードのまま作動すると、車内の空気が汚れたりウィンドーが曇ることがあります。

このため内気循環が不要になったら、ボタン **8** またはボタン **9** をもう一度押して自動モードに戻すことをおすすめします。


この機能を終了するにはボタン **8** またはボタン **9** をもう一度押します。

エアコン：情報と使用に際してのアドバイス

エアコンの上手な使い方

場合によっては（エアコンの停止、内気循環モードの作動、風量調節スイッチが **0** または弱になっているなど）、ウィンドーガラスが水蒸気で曇ることがあります。

そのような場合には、「クリアビュー」機能を使用して水蒸気を除去してから、エアコンをオートモードでご使用になると水蒸気が発生しません。

 **ECO モード** 装備車両
ECO モードを有効化すると、エアコンの性能 → **148** が低下する恐れがあります。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン



悪臭が入ってくる場合などに車両のプロアに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。

燃費

エアコンを使用すると燃費が悪くなります（特に市街地）。

マニュアルエアコンディショナー装備車の場合、必要ないときにはエアコンディショナーを停止するようにしてください。

燃料の消費を最小限に抑え、環境を守るためのアドバイス:

換気口は開け、ウィンドーは閉めて走行してください。炎天下に駐車していたときは、走り出す前にドアやウィンドウを開けて熱気を車内から逃すようにしてください。

点検整備

点検時期については整備手帳を参照してください。



寒冷時にも少なくとも月に一度、約5分間、エアコンを定期的にご使用してください。

作動異常

作動不良の場合は、指定サービス工場でご点検をお受けください。

– **デフロスター、デフォグガー、またはエアコンの効きの低下。**

室内フィルタのカートリッジの詰まりが原因かもしれません。

– **冷気が出てこない。**

各スイッチが適切な位置にあるか、ヒューズが切れていないか点検してください。これらに問題がない場合には作動を停止します。

車両の下に水が溜まる場合

エアコンディショナーを長時間使用すると車両の下に水が溜まることがありますが、これは室内の湿気が凝縮し、排出されたものです。これは結露が原因です。



絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。目や皮膚に思わぬ怪我を負うことあがり非常に危険です。



絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。目や皮膚に思わぬ怪我を負うことあがり非常に危険です。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

冷媒

59952




冷媒流体回路（一部の成分は密閉されています）には、フッ素化された温室効果ガスが含まれている可能性があります。

車種によっては、エンジンルーム内に貼付されたラベルAに次の情報が記載されています。

ラベルAの情報の有無と設置場所は、車種によって異なります。

 **冷媒の種類**

 **エアコンディショナ回路のオイルの種類**

 **可燃物**

 **車両の取扱説明書を参照してください**

 **点検整備**

x.xxx kg	(1) 車両内の冷媒流体量。
GWP xxxxx	(2) 地球温暖化係数（CO2換算）。
CO2 eq x.xxx	(3) CO2換算重量。

追加情報

ラベルや冷媒の種類に応じて次のようになります。

冷媒R-1234yf

- (1) 0.480 kg
- (2) GWP 0,501
- (3) 0.0002t



絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。目や皮膚に思わぬ

怪我を負うことがあり非常に危険です。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

外気品質および消臭機能



マルチメディア画面 **1** からこの機能にアクセスするには、マルチメディア画面上の指示に従ってください。

外気品質

車両内の空気の質は、説明文とマルチメディアスクリーン上のアニメーションを通じて示されます。

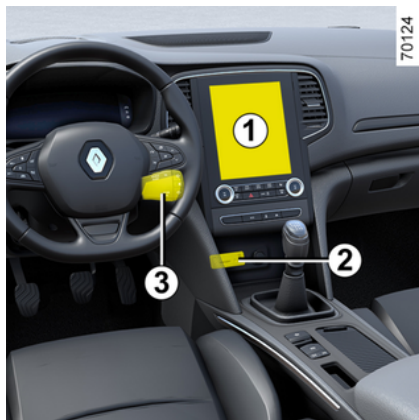
エアベンチレーター、ヒーター、エアコン




詳細については、マルチメディア機器の指示を参照してください。

マルチメディア装備

マルチメディア設定



1. マルチメディア画面;
2. ルチメディア差し込み口
3. ステアリングコラムコントロール、
4. ステアリングコラムコントロール、
5. マイク

 この装置の機能については、説明書をご覧ください。

ハンズフリー電話の内蔵スイッチ

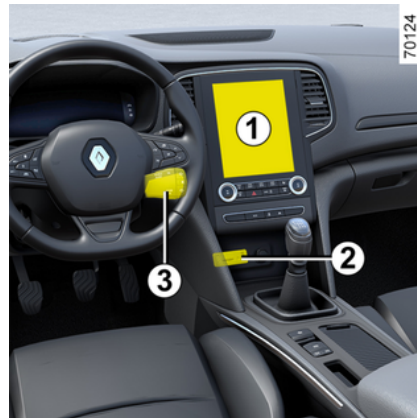
装備車両では、ステアリングホイール上の制御装置 **4** を使用します。



電話の使用方法

これらの機器の使用に際しては、現行法規を順守してください。

マルチメディア差し込み口2



USB ポート（車両によっては SD カードリーダー）を使うと、アクセサリのマルチメディアコンテンツやシステム更新機能にアクセスできます（詳しくは、該当車両装備の取扱説明書をご覧ください）。

マルチメディア画面とステアリングコラムスイッチから、さまざまなソースを選択できます。

マルチメディア装備



USB ポートは、アクセサリ充電にも使用でき、充電時の最大電力は、ソケット当たり 12 W (5 V) です。

JACK ポートを使うと、補助ケーブルでラジオを使用できます。



電力が 12 W を超えるアクセサリは接続しないでください。
火災の恐れがあります。

i アクセサリからUSBポートにケーブル (smartphone 充電ケーブルなど) を接続した場合、不要になったらケーブルを外してください。

ケーブルの端部を金属製の物体 (シガレットライターなど) に触れさせると、ショートが生じ、USBポートに損傷が及ぶ危険があります。

i 運転の際には、中身が飛び出ないように、カップホルダに収めた容器を正しく閉じてください。

中の液体がこぼれると、周りの電気装置 / 電子機器が故障する恐れがあります。

室内装備

パワーウィンドウ

パワーウィンドウ

このシステムは次の条件で作動します：

- エンジンを始動させます：
- イグニッションスイッチを OFF にしてからフロントドアを開けるまでの間（ただし約 12 分間が限度）。
- スタートボタンを押した後で、エンジンを停止してドアを閉めます。

所定のスイッチを押すとウィンドウをお好みの高さまで上げ下げできますが、リアウィンドウは全開にできません。

乗員の安全

ドライバーはスイッチ **4** を押してパワーウィンドウの操作をロックすることができます。メーターパネルにメッセージが表示されます。



ドライバーの責務

たとえ短い時間でも絶対に、お子様、支援が必要な大人、またはペットを車内に残して、カードまたはキーを車内に置いたまま、お車から離れないでください。お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。体の一部をはさみ込まれた場合は、該当スイッチを押してすぐにウィンドウを下ろしてください。

大ケガを負う危険があります。



運転席からスイッチを操作します。

1. 運転席側
2. 助手席側
3. および5後部座席用。

助手席からスイッチ **6** を押します。



少し開いたウィンドウに物を挟まないように注意してください：ウィンドウレギュレーターが損傷する恐れがあります。

ワンタッチモード

室内装備

このモードは、これまでに述べたパワーウィンドーに加わる新たな機能です。

ウィンドウのスイッチを短く押すか、いっぱいまで引いて、ウィンドウを完全に上げるか下げるかします。作動中にパワーウィンドウスイッチに触れると作動が停止します。

ワンタッチパワーウィンドウを作動できない

ワンタッチパワーウィンドウには、熱保護が装備されています。ウィンドウのスイッチを1回連続して押すと、保護モードに入ります（ウィンドウがロックします）。

次のようなことができます：

- パワーウィンドウスイッチを短く、約 30 秒間隔で使用します。
- エンジンが作動している状態で、パワーウィンドウスイッチの約 20 分後にウィンドウがロック解除されます。

注: ウィンドウは、閉作動中に異物（木の枝など）を検出した場合、作動を停止し数センチ下がります。

リモコンによるウィンドー操作

（4 ワンタッチパワーウィンドウ装備車）

車外から施錠時に、カードのロックボタン（またはハンズフリーモードで運転席側ドアのボタン、車種によりサンルーフのボタン）を 2 回連続押すと、

すべてのウィンドウが自動的に閉じま

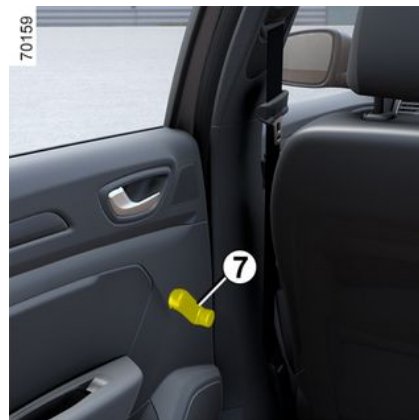
す。運転者がつねに人が車内にいないことを十分確認するとしても、このシステムを作動させておくことを推奨いたします。

作動異常

ウィンドウ閉作動中に不具合が生じると、システムは、通常モードに戻ります。この場合には、関連スイッチを必要な回数だけ引いてウィンドウを完全に閉め、（閉めた側の）スイッチを約 1 秒間長押ししてから、ウィンドウを完全に下げ上げる方法でシステムを初期化します。

必要に応じて、指定サービス工場にお問い合わせください。

手動式ウィンドーレギュレータ



ハンドル 7 を回します。



ウィンドーを閉めたときは、体の一部（腕、手など）が車両から突き出ていないことを確認しま

す。

大ケガを負う危険があります。

室内装備

電動サンルーフ

カーテン1のスライド方法



- 開けるには、ハンドル **2** を後方に押し、ブラインドを希望位置まで動かします。
- 閉じるには、ハンドル **2** を前方に押し、ブラインドを希望位置まで移動します。

スライディング操作



- 傾けるには、マークのある位置 **3** を位置 **A** まで動かします。
- 開けるには、マークのある位置 **3** を、開けたいサンルーフの種類に応じて、位置 **B**、**C** または **D** のいずれかまで動かします。
- 閉じるには、マーク **3** を位置 **O** に合わせます。



ドライバーの責務

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。

お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

物が挟まった場合は、すぐにボタン **4** を一番右（位置 **D**）まで回し、サンルーフを逆転します。
大ケガを負う危険があります。

リモコンによるサンルーフ閉操作

車外からのドアロック時に、カードのロックボタン（またはハンズフリーモードで運転席側ドアのボタン）を **2** 回連続押すと、すべてのウィンドウが自動的に閉じます。

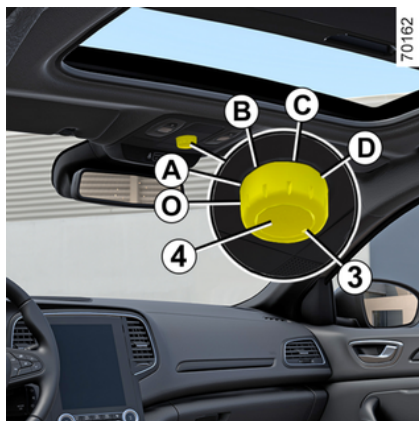
運転者がつねに人が車内にいないことを十分確認するとしても、このシステムを作動させておくことを推奨いたします。

室内装備



この機能を備えた車両では、この操作によりデッドロック → 25 または → 30 が有効化されます。

車内に誰もいないことを確認してください。



注意事項

お使いの車両は挟み込み防止機能を備えており、サンルーフの開作動中に異物（指や枝葉など）が挟まると停止し、数センチほど逆転します。

サンルーフをリモコンで閉めた後にボタン 4 を押すと、サンルーフは、閉操作直前の位置までに戻ります。

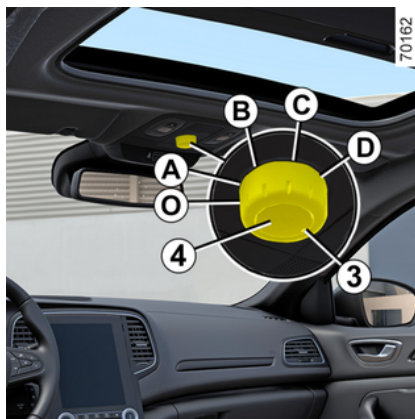
外気温が -20℃ 以下になると、サンルーフが開かなくなります。ただし、閉じることはできます。



サンルーフを閉めたときは、体の一部（腕、手など）が車両から突き出していないことを確認します。

大ケガを負う危険があります。

作動異常



サンルーフが閉まらない場合は、マーク 3 を位置 O まで移動し、サンルーフが完全に閉まるまでボタン 4 を押し

ます。その後は、認定ディーラにご相談ください。



この操作の最中、サンルーフのフォースリミッター機能は作動しません。この場合は、できるだけ早く認定ディーラにご連絡ください。

使用時の注意

– ルーフバー装備車。

ルーフに荷物を積んでいるときには、サンルーフをできるだけ操作しないでください。

サンルーフは、ルーフバーに取り付けてある部品／アクセサリ（バイクホルダ、ルーフボックスなど）などが、適切に取り付けおよび固定されており、サンルーフ作動を妨げない状態であるか確認してからお使いください。

詳しくは正規ディーラにお問い合わせください。

– お車を離れる前には、サンルーフが正しく閉まっているか**ご確認ください**

。 – 3ヶ月に1度は、Renault 技術部門指定品でシール部を**掃除してください**

。 – 降雨または洗車のあとには、**すぐにサンルーフを開けないでください**。

室内装備



ドライバーの責務

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間

でも絶対にお車から離れないでください。

お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

物が挟まった場合は、すぐにボタン**4**を一番右（位置**D**）まで回し、サンルーフを逆転します。
大ケガを負う危険があります。

ルームランプ

マップランプ



次のものを有効化するにはスイッチ**1**を押します。

- 常時点灯、
- すぐに消灯します。



ドアまたはテールゲートのロックを解除して開けると、ルームランプとフロアーランプが一時的に点灯します。

カーテシーランプ



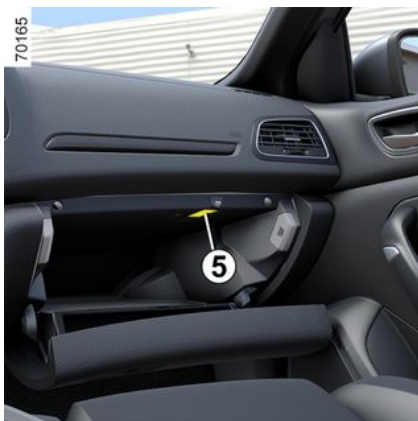
次のものを有効化するにはスイッチ**3**を押します。

- 常時点灯、
- いずれかのドアが開くと点灯する照明。この場合、該当するドアを閉じた後、しばらくしてから消灯します。
- すぐに消灯します。

マップランプ

スイッチ**2**と**4**を押します。

室内装備



注: マルチメディアシステム装備車両では、マルチメディア画面 (➔ 94) を介して次のように操作することで行えます。

- ラゲッジルームのドアの開閉時に、ルームランプの点灯を解除 / 作動させます。
- 車両によっては、アンビエントランプの色を変更します (8つの選択肢)。

グローブボックスランプ 5

グローブボックスドアを開けると点灯します。

ラゲッジルームランプ 6



トランクを開けると点灯します。

ⓘ ドアが正しく閉じるか、ロックするまたはエンジンを始動すると、室内灯とランプが消えます。

サンバイザ、ミラー

フロントサンバイザー



サンバイザ **1** を、フロントウィンドウ上に下げるか、クリップを外してサイドウィンドウ上に上げます。

カーテシミラー

カバー **3** を持ち上げます。照明 **2** は自動です。

室内装備

チケットホルダ 4



高速道路チケット、地図などにご利用ください。



走行中は、カーテシミラーのカバーをかけてください。場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

アクセサリースOCKET、灰皿、ライター

灰皿 1



位置 2 のいずれにも取り付けことができます。

カバーを開けてご使用ください。灰を捨てるには、灰皿を手前に引いてハウジング 2 から取り外します。



電力が 120 W (12 V) を超えるアクセサリは接続しないでください。

複数のアクセサリソケットを同時に使用する場合、接続されたアクセサリの合計電力が 180 W を超えないようにする必要があります。
火災の恐れがあります。

シガーライター 3

イグニッションスイッチを ON にしてシガーライター 3 を押し込みます。白熱するとカチッという音がして元の位置に戻ります。引き出してご使用ください。ライター使用後は奥まで押し込まないようにして、軽く差し込んでください。



お使いの車両にシガーライターや灰皿が装備されていない場合は、認定ディーラで後付けできます。

室内装備

アクセサリソケット 4



ソケット4を使用できます。これはアクセサリ接続用です。



電力が 120 W (12 V) を超えるアクセサリは接続しないでください。

複数のアクセサリソケットを同時に使用する場合、接続されたアクセサリの合計電力が 180 W を超えないようにする必要があります。

火災の恐れがあります。

各部の収納スペース

ドアポケット 1



ボトルをホールドします。

助手席側グローブボックス



ハンドル 2 を引くと開きます。
グローブボックスには、A4 サイズの書類やボトルなどを収納できます。



堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりした時や、事故の時に、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

サンバイザ収納 3



高速道路チケット、地図などを挟むことができます。



床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

各部の収納スペース

センターグローブボックス 4





センターグローブボックス 5


スライド機構 6 のホルダにはカップを置けます。

カップホルダー 7



 運転の際には、中身が飛び出ないように、カップホルダーに収めた容器を正しく閉じてください。
中の液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。

 ペットボトルやコップはカップホルダーに入れ、カーブを切ったり、加速したり、ブレーキをかけたときに中身がこぼれないように気をつけてください。
熱いものがこぼれると、火傷をするおそれがあります。

 堅くて重いものや先のがったものは絶対に蓋のない収納部に入れしないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりした時や、事故の時に、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

各部の収納スペース

センターコンソールのグローブボックス 9



スライディングアームレスト 8 を最後部位置で持ち上げます。



床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要ときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

グリップ 10



走行時に使用してください。
車の乗り降りの際に、取っ手として使用しないでください。

ハンガーフック 11

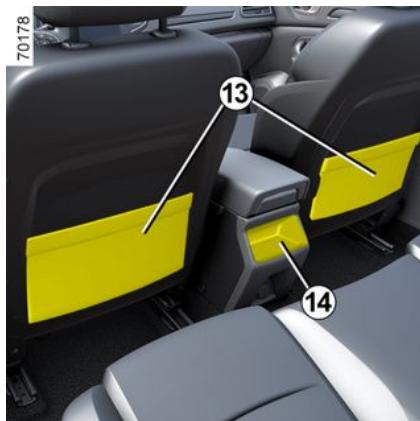
リアドアポケット 12



堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけた時や、事故の時に、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

各部の収納スペース

フロントシートポケット 13



リアセンターコンソールグローブボックス 14

カップホルダー付リアアームレスト



アームレスト **15** を下ろします。



ペットボトルやコップは
カップホルダーに入れ、
カーブを切ったり、加速
したり、ブレーキをかけ
たときに中身がこぼれないように
気をつけてください。
**熱いものがこぼれると、火傷をす
るおそれがあります。**

荷物を積み込む

トランクルーム内の収納

フロアマット下の収納ボックス

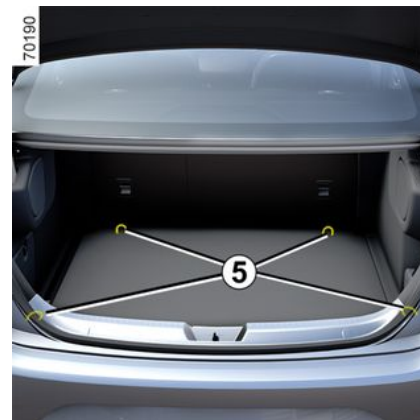


これにアクセスするには、タブ 2 を使用してトランクフロアマット 1 を持ち上げます。

二重フロアは、フック 3 を用いて定位置 4 に取り付けることができます。

i 荷物を積み込む際にはいつも、荷物の最も重い部分がリアシートの背もたれの後ろに当たるように置いてください。

積載フック



固定ポイント 5。

荷物を積み込む



必ず重い荷物が一番下になるように積み込んでください。ラゲッジルームフロアにフック5が装着されている車両では、これを使用します。急ブレーキのときに荷物が前方に飛び出して乗員にけがを負わせないように、荷物はしっかりと固定して積んでください。リアシートに乗員がいなくても、ラゲッジルームに荷物を積むときは、シートベルトのバックルを締めておいてください。



車両に積載フックが装備されていない場合は、ルノー指定サービス工場でお求めになります。



荷物を積み込む際にはいつも、荷物の最も重い部分がリアシートの背もたれの後ろに当たるように置いてください。

ラゲッジルームへの荷物の積み込み

ラゲッジルームに荷物を積み込むときは、次のようにしてください：



70191



70192

4

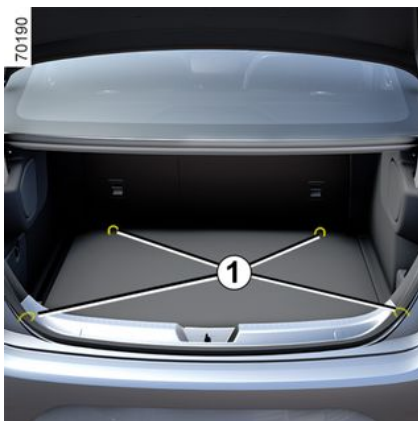
– 積載量を最大化するためにリアシートの背もたれを折り畳む場合は、フロントシートの背に接するようにする（例B）。

輸送する物が積載エリア全体に均等に分散されている必要があります。

折りたたんだ背もたれの上に荷物を置く場合は、背もたれを折りたたむ前に必ずヘッドレストを収納し、できるだけぴったりと背もたれを座面に押し付けてください。

注：緊急スペアホイールまたはタイヤインフレーションキットがない場合は、ラゲッジルームの底部に荷物を積まないでください。

荷物を積み込む



必ず重い荷物が一番下になるように積み込んでください。

ラゲッジルームフロアにフック**1**が装着されている車両では、これを使用します。

急ブレーキのときに荷物が前方に飛び出して乗員にけがを負わせないように、荷物はしっかりと固定して積んでください。

リアシートに乗員がいない場合でも、ラゲッジルームに荷物を積むときは、シートベルトのバックルを締めておいてください。

カーゴネット

パーテーションネットは、ベツトや荷物を運ぶとき、それらを乗員スペースから切り離すのに便利です（装備車の場合）。

これはフロントシートの後ろに配置できます。



パーテーションネットは最大10 kgまでの荷重に耐えることができます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

パーテーションネットをフロントシートの後ろに設置する場合



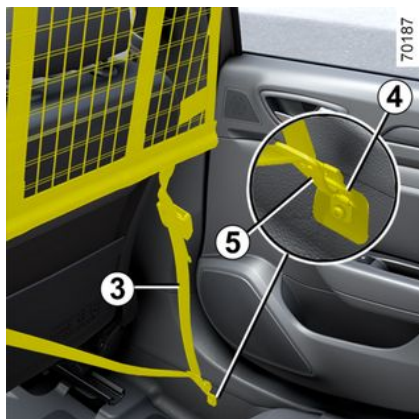
車内の両側について以下の作業を行います：

- カバー**1**を起し、ネットの最上部を固定するために使用するアンカーポイントにアクセスします。
- ネット**2**のアップロッドをアンカーポイントに挿入します。



リアシートに乗員がいるときにこの位置でパーテーションネットを使用しないでください。

荷物を積み込む



- ネットを初めて使用する際には、フロアマット下にあるアンカーポイント **4** へのアクセスが必要となりますので、認定ディーラにご相談ください。
- ネットストラップ **3** のフック **5** を二本、アンカーポイント **4** に取り付けます。
- ネットストラップ **3** をぴんと張るよう調整します。

連結

i 連結装置の許容重量、ブレーキ付きまたはブレーキなしトレーラーの最大牽引重量: → 338。

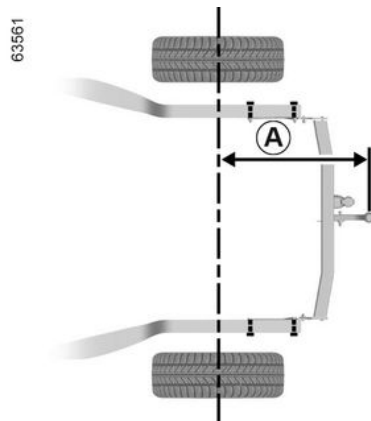
連結部品の選択と取り付け

後付け牽引バー（クロスメンバーとヒッチ）：牽引バーと固定具の総重量は 37 kg 以下でなければなりません。

いかなる牽引装置も使用しない場合は、照明部品やナンバープレートを妨げてはなりません。

あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

取付け方法と使用方法は、製品付属の説明書を参照してください。説明書はその他の書類と一緒に常時携帯することをお奨めします。



A: 最大 1,127 mm。



エグゾーストシステムには触れないでください。やけどをするおそれがあります。

運搬機器

使用時の注意

テールゲートの操作

テールゲートを操作する前に、ルーフバーに取付けられている物やアクセサリ（自転車ラック、ルーフボックスなど）を確認してください。これらが正しく配置および固定されていて、

荷物を積み込む

テールゲートの正しい動作を妨げないようにする必要があります。



テールゲート上へのルーフキャリア（バイクラック、ラゲッジボックスなど）は禁じられています。

お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラにご相談ください。

ルーフ取付け型の運搬装置



お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

さい。

バーの取付け方法と使用条件は、装置の取付け説明書を参照してください。

説明書はその他の書類と一緒に常時携帯することをお奨めします。

クロスルーフバー非装備車



ドアを開けて、固定ポイント1にアクセスします。

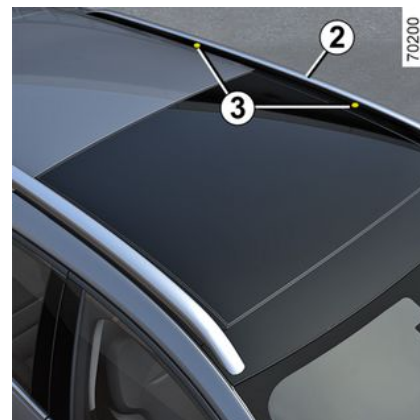
ルーフの許容重量: 80 kg（積載器具を含む）。



ルノーのテクニカルサービスが認可している純正ルーフバーには、専用ボルトが付いています。車両にルーフバーを取り付ける際

は、必ずこの専用ボルトをお使いください。

クロスルーフバー装備車



車両の次の場所に取り付けると、追加の荷物（バイク運搬用ラックやスキー板運搬用ラックなど）を載せて運搬できます。

- ルーフラックの上。
- 縦長に取り付けるルーフバー1と十字になるように取り付けるべき横長ルーフバーの上。
- 縦長ルーフバー1の上。

固定インサート3は、縦方向のクロスルーフバー2にあります。

ルーフの許容重量: 80 kg（積載器具を含む）。

エンジンへのアクセス、レベル

ボンネット



開けるには、ダッシュボード左手にあるハンドル **1** を引きます。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

ボンネット安全ロックの解除



解錠するには、ボンネットを開きながらタブ **3** を押します。

ボンネットの開き方

ボンネットを持ち上げて2本のストラット **2** の位置まで誘導し、ストラットで支えます。



エンジンボンネットに圧力をかけるのはお止めください。誤ってボンネットが閉まる危険があります。



点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーが停止のポジションにあることを確認してください。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルー



ム内の警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ボンネットの閉じ方

エンジンルーム内に物を置き忘れていないか確認してください。

ボンネットを閉めるには、中央部を手で支え、ロック位置から 30 cm ほど上から手を放します。ボンネットは自重で閉まり施錠されます。

エンジンへのアクセス、レベル



エンジンルームの点検後は、中に布や工具等を置き忘れないようご注意ください。

さもないと、エンジンを傷めたり、火災が発生する恐れがあります。



ボンネットが確実にロックされていることを確認します。

小石や布などが挟まってロックの妨げになっていないか確認してください。



衝突した場合は、グリルやボンネットに軽く当たただけであっても、できるだけ早くルノー指定サービス工場

でボンネットのロックシステムの点検を受けてください。

エンジンオイル

「概要」の項を参照してください

通常エンジンは、エンジン内部の可動部品を潤滑したり冷却する目的のため、少しずつオイルを消費します。したがって定期的なオイル交換時期の間であってもこまめにオイルを点検し、必要に応じて補充する必要があります。

ただし、慣らし運転後にオイル消費量が1,000 km走行あたり0.5リットルを越える場合は、指定サービス工場にご相談ください。

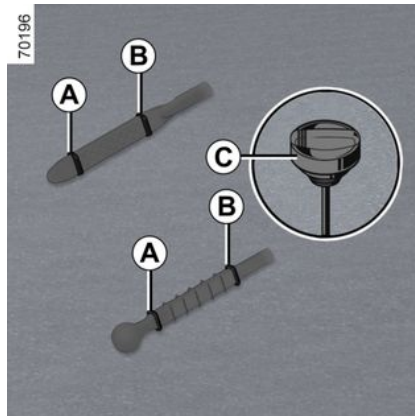
オイルの点検：定期的にオイルレベルを点検してください。また、エンジンの劣化を防ぐために長距離ドライブの前には必ずオイルレベルを点検してください。

オイルレベルの読み取り

読み取りは水平な場所で、エンジンを停めてから十分な時間が経ってから行う必要があります。

必ずゲージを使用してオイルレベルを正確に測定し、上限を超えていないことを確認してください（上限を超えるとエンジンが破損する恐れがあります）。

車両によっては、メーターパネルの警告は、オイルレベルが下限になったときだけしか表示されません。



- ゲージを取り出し、毛羽立っていない清潔な布で拭き取ります；
- オイルレベルゲージを一番奥まで押し込みます。（「キャップ付きオイルレベルゲージ」C 装備車両の場合は、キャップを完全にねじ込みます）。
- ゲージを再度取り外します。
- オイルレベルを読み取ります。オイルレベルは「MINI」レベル A 以上「MAXI」レベル B 以下でなければなりません。

レベル確認ができたなら、ゲージを突き当たるまで差込むか、「ゲージキャップ」を完全に締め付けてください。

エンジンへのアクセス、レベル



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。



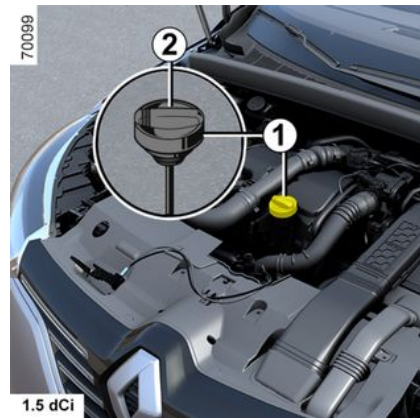
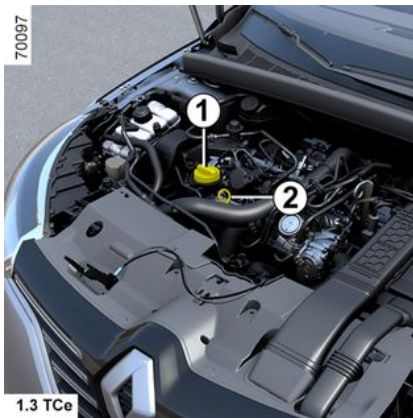
エンジンオイルの追加
エンジンルームの高温部分や敏感な部品（電装部品など）にエンジンオイルが逃げないように、漏斗を使用するか、充填ネック部分を保護してください。
火災の恐れがあります。



オイルレベル上限オーバー
いかなる場合にも最大充填レベル**B**を超えないようにします。エンジンと排ガスシステムを破損する恐れがあります。
オイルレベルが MAXI マークを超えているときは、**エンジンをかけず**、ルノー正規サービス工場にご連絡ください。

補充、注入、オイル交換

オイル補充/注入



水平な場所に停車し、エンジンが止っていてエンジンが冷えた状態（例えばその日最初にエンジンを始動する前）で実施します。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

- キャップ**1**を緩めます。
- 必要量を補充します（レベルが、レベルゲージ**2**の「MINI」と「maxiMAXI」の間になる容量の目安は、車両により、0.33 gal (1.5 L) から 0.44 gal (2 L) の間です）。

エンジンへのアクセス、レベル

– オイルを行き渡らせるために20分程待ちます。

– オイルレベルゲージ2でオイル残量を確認します（前述のように）。

レベル確認ができたなら、ゲージを突き当たるまで差込むか、「ゲージキャップ」を完全に締め付けてください。



「MAXI」レベルを超えないようにして、プラグ1とゲージ2を忘れずに戻してください。



エンジンオイルの追加
エンジンルームの高温部分や敏感な部品（電装部品など）にエンジンオイルが逃げないように、漏斗を使用するか、充填ネック部分を保護してください。
火災の恐れがあります。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換時期：整備手帳を参照してください。

オイル交換容量

整備手帳を参照するか、ルノー指定サービス工場にお問合せください。

先に説明したように、ゲージを使用してエンジンオイルレベルを常に確認してください（オイルレベルはゲージの最大値より多くても少なくともいけません）。



オイルレベル上限オーバー

いかなる場合にも最大充填レベルを超えないようにします。エンジンと排ガスシステムを破損する恐れがあります。オイルレベルがMAXIマークを超えているときは、**エンジンをかけず**、ルノー正規サービス工場にご連絡ください。

エンジンオイルグレード

整備手帳を参照してください。




オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、指定サービス工場にご相談ください。



点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーが停止のポジションにあることを確認してください。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム内の  警告灯により、通知されます。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

エンジンへのアクセス、レベル



オイル補充および/またはオイルレベルの点検:
オイル補充またはオイルレベルの点検時には、オイルがエンジン部品に漏れ落ちないようにしてください。
高温のエンジン部品へのオイルの飛散を防ぐために、必ずキャップをしっかりと締め、ゲージを忘れずに戻してください。
火災の恐れがあります。



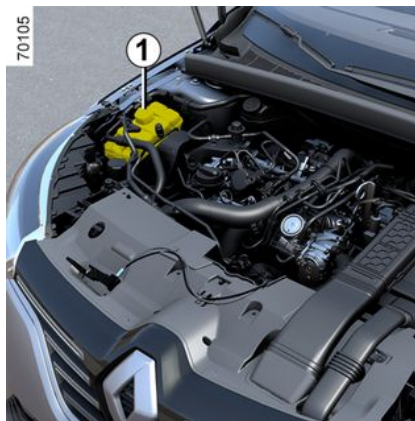
閉めきった場所でエンジンを作動させないでください。身体に有害な排気ガスがこもって非常に危険です。



エンジンオイル交換: エンジンが暖まった状態でエンジンオイルを交換する場合は、排出されるエンジンオイルでやけどをしないように注意してください。

レベル、フィルター

エンジン冷却水



エンジンスイッチを OFF にして車両を水平な場所に駐車した状態での冷間時残量は、冷却水タンク **1** 上にある「MINI」マークと「MAXI」マークの間でなければなりません。

冷間時には、レベルが「MINI」標示に達する前に補充してください。

冷却水レベルの点検時期

定期的に冷却水レベルを点検してください（冷却水が不足するとエンジンが重大な損傷を受ける可能性があります）。

補充には必ずメーカー推奨クーラントをご使用ください。メーカー推奨クーラントは以下の成分を含んでいます：

- 冷却回路の凍結防止
- 冷却水系統の錆止め



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。



エンジンが熱いうちは、冷却水回路には絶対に手をふれないでください。
やけどをするおそれがあります。


交換時期

整備手帳を参照してください。

エンジンへのアクセス、レベル



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルー

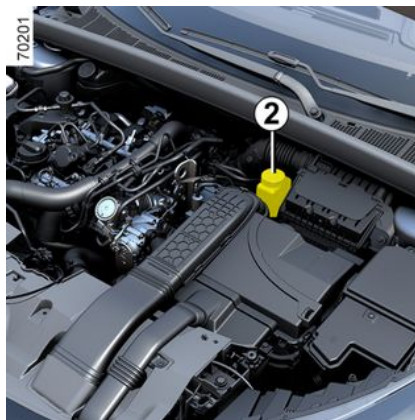
ム内の  警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

ブレーキ液



ブレーキ液はできるだけこまめに点検してください。またブレーキの効き具合に少しでも異常を感じたら必ず点検してください。

エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。

レベル2

通常は、ブレーキシューが摩耗すると残量も低下しますが、「MINI」警告線を下回る状態は絶対に避けてください。

ご自分でディスクやドラムの摩耗状態を点検する場合は、ルノー指定サービス工場またはメーカーのインターネッ


トサイトで入手可能な、点検手順書を入手してください。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルー

ム内の  警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ブレーキ液の補充

ブレーキ油圧システムに何らかの整備を実施したら、必ず専門家にブレーキ液を交換してもらってください。

補充するときは、必ず（シールされたボトルの）メーカー推奨ブレーキ液をご使用ください。

交換時期

整備手帳を参照してください。

エンジンへのアクセス、レベル



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。

ウインドウウォッシャータンク



ブレーキ液の補充



イグニッションスイッチを OFF にした状態でキャップ 3 を開け、液面が見えるまで充填してからキャップを再度取り付けます。

注: タンクのウォッシャー液量を定期的に点検して、走行前に補充してください。

ウォッシャー液

必ず、不凍液含有のフロントウインドウウォッシャー液をお使いください。

正規ディーラーか適格専門スタッフへのご相談をおすすめします。

注: (ポンプやノズルに石灰が堆積し、プライミングポンプに損傷を及ぼす恐れがあるため) 硬水は使用しないでください。

ウォッシャーノズル

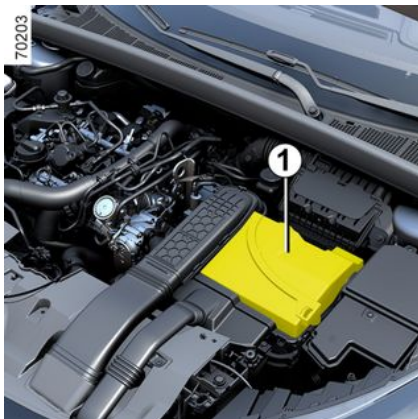
フロントウインドウウォッシャー液噴射ノズルの調整は、認定ディーラーにご相談ください。

フィルター

フィルターの交換 (エアフィルター、キャビンフィルター、ディーゼルフィルターなど) は、車両の定期点検の項目に定められています。

フィルターの交換時期: 車両の整備手帳を参照してください。

バッテリー：



バッテリー **1** はメンテナンス不要です。バッテリーを開いたり、液を追加したりしないでください。

車両のタイプによっては、システムが常時バッテリーの充電状態を点検しています。充電レベルが低下すると、メーターパネルに「バッテリー充電不足 エンジンスタート」というメッセージが表示されます。この場合には、エンジンを始動します。メッセージが消えます。

バッテリーの充電残量は、特に車両を次のような用途に使用すると少なくなる傾向にあります。

- 短距離走行。
- 市街地走行。
- 気温が低い場所での走行。


- イグニッションスイッチを OFF にした状態での電装品（ラジオなど）の長時間使用。



エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。



エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンル

ム内の  警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ラベル A

A



バッテリーに記載されている次の注意事項を守ってください：

- **2** バッテリー付近での火気や喫煙は禁じられています。
- **3** 必ず目を保護してください。
- **4** 子供を近づけないでください。
- **5** 爆発性物質。
- **6** マニュアルを参照してください。
- **7** 腐食性物質。

61476

バッテリー：

電池の交換



お客様の安全および車両の電装品（ライト、ワイパ、ABS など）の適切な作動のために、バッテリー

のすべての操作（取外し、ディスコネクションなど）は、必ず専門スタッフが行う必要があります。

重大なやけどまたは感電の危険性があります。

メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。

バッテリーは専用になっています。必ず同じバッテリーと交換してください。

正規ディーラにご連絡ください。

クリーニング

ボディのメンテナンス

お手入れを欠かさないことで、お車を長持ちさせることができます。

日頃からのボディのお手入れをおすすめします。

車両には高性能の防錆塗装が施されています。しかしながら、さまざまな要因によって影響を受けることがあります。

5 大気中の腐食物質

- 大気汚染物質（人口密集地域や工業地帯）、
- 海岸沿いの地域（特に夏季）の大気中の塩分、
- 凍結防止剤の散布や路面清掃の散水などの季節的条件や高湿度の天候条件

接触事故

研磨剤

大気中の埃、砂、泥や他車による飛び石など

これらのリスクから守るために、最低限の予防策を講じてください。

ボディのお手入れ

洗車時はエンジンを停止し、テクニカルサービス推奨のシャンプーをお使いの上こまめに洗車を行ってください。（研磨剤入りの洗剤は使わないでください。）前もってジェットウォッシュャーを使用して十分に洗い流してください。

- 樹木の樹脂や産業による汚染物質。
- 泥が付着していると水分を吸収し、錆が発生しやすくなります。ホイールハウス内側やボディ下側など泥が付きやすいところをよく洗ってください。
- **鳥の糞（塗料と化学反応を起こして塗装の変色を促進し、最終的には塗装が剥がれます）。**

こうした跡を見つけたら直ちに洗い流してください。放置すると研磨しても取り除けないようになります

- 凍結防止剤が散布された道路を走行したあとは、ホイールハウス内側やボディ下側を特によく洗ってください。車両から落ち葉（樹液、樹膜など）を定期的に除去します。

砂利道を走行するときは、塗装面を傷つけないようにするため、前車との車間距離を十分にとってください。

塗装面が傷ついたら、できるだけ早く修理を受けるか、タッチアップペイントなどで補修してください。錆が広がるのをくい止めることができます。

防錆保証対象車の場合、忘れずに定期点検を受けてください。整備手帳を参照してください。

洗車をする場合には、現地の規制に従ってください（公道での洗車禁止等）。

高圧洗浄装置で車両を洗浄する場合は、次の注意事項を踏まえて行ってください。

- 車両の塗装、洗浄箇所または洗浄コンポーネントが、高圧洗浄装置で洗浄可能なものか確認してください。
- 高圧洗浄装置の圧力は100 bar未満でなければなりません。
- 洗浄時には、噴射ノズルを、車両から15cm以上離して使用し、水量も、1分あたり15L未満にしてください。
- （塗装に傷が付いたりシールが剥がれたりする危険があるため）同じ箇所、衝突痕のある箇所、またはシールの連続洗浄はお止めください。

機械部品やヒンジ部などを洗浄した場合は、必ずテクニカルサービス認可のケア製品をスプレーして性能を維持するようにしてください。



ルノー販売店で求められる専用のケア製品を選びました。

ボディのお手入れに関する注意

日差しが強い日や凍える日に洗車しないでください。

泥や汚れを液体などで軟化せずに削り落とす。

汚れやごみを付着したままで放置しないでください。

傷から発生する錆を放置しないでください。

クリーニング

メーカーが推奨するもの以外の溶剤を用いて汚れを取り除こうとしないでください。塗装面を傷めるおそれがあります。

雪や泥の中を走行後、特にホイールアーチやボディの下回りなどを洗わずに放置する。



高圧洗浄や、メーカーが推奨するスプレー洗浄液以外などで脱脂や洗浄をしないでください:

- 機会部品（エンジンルーム内の機械部品など）。
- 車輪（ブレーキキャリパーなどのブレーキシステムコンポーネントなど）。
- ボディ下側。
- ヒンジ付き部品類（例: ドアの内側）。
- 塗装したバンパーなど樹脂製の外装部品

これらは、錆の発生や故障を招くおそれがあります。

マット塗装の車両の特性

このタイプの塗装には一定の注意が必要です。

ボディのお手入れ

やわらかい布やスポンジなどを使用して、十分な水で車両を手洗いしてください。

ボディのお手入れに関する注意

ワックス（艶出し）を原料とした製品の使用。

強い摩擦を与える。

洗車機に車両を通す。

塗装にステッカー類を貼り付ける（跡が残るおそれがあります）。



高圧洗浄装置を使用した洗車

洗車機使用の場合

ワイパーレバーをパーキング位置に戻します → 111。

車両の外装、追加ランプ、ドアミラーの取付けを確認し、ワイパーブレードをテープで固定してください。

ラジオアンテナが付いている場合は、アンテナを取外してください。

洗浄を終えたら、必ず、接着剤を取り除き、アンテナを完全にねじ込んで取り付け直してください。

ヘッドランプ、センサ、カメラのクリーニング

必ず柔らかい布で拭いてください。

十分でない場合は、石鹼水で布を湿らせ、柔らかい布または綿毛で洗い流してください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールベースの洗浄剤やスクレーパなどの工具は使用しないでください。

クリーニングステッカー、装飾フィルムなど

ボディのお手入れ

必ず柔らかい布で拭いてください。

石鹼水で少し湿らせてから、いつも柔らかい布やコットンできれいに拭いてください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

ボディのお手入れに関する注意

アルコール系洗浄剤を使用してください。

工具（スクレーパーなど）を使用しません。

強い摩擦を与える。

クリーニング



高压洗浄装置を使用した洗車

内装のお手入れ

お手入れを欠かさないと、お車を長持ちさせることができます。日頃からの内装のお手入れをおすすめします。

汚れは直ちに取除いてください。

清掃には、汚れの種類にかかわらず、必ず**天然石鹼と冷水（またはぬるま湯）**で作った**石鹼水**をお使いください。

食器用洗剤、粉末洗剤、アルコールを含んだ溶剤は使用しないでください。

必ず柔らかい布で拭いてください。
すすぎ、余分な水を拭き取ります。

マルチメディア画面

画面のメンテナンスは、マルチメディア機器のタイプによって異なる場合があります。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

計器類の透明カバー

（例：インストルメントパネル、時計、外気温計など）

必ず柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちないときは、石けん水を少量含ませた布で拭き、その後水で濡らした別の柔らかい布で拭き取ってください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールを含む製品やスプレーはこのエリアに使用しないでください。

シートベルト

シートベルトは常に清潔にしておきましょう。

ルノー認定製品（ルノーショップ）または石鹼水（ぬるま湯）をスポンジにつけて拭き、乾いた布で拭き取ります。

溶剤や染料は絶対に使用しないでください。

布地（シート、ドアトリムなど）

定期的に埃を取り除くようにしてください。

液体の汚れ

石けん水を使用してください。

液体を柔らかい布に含ませるか（こすらずに）軽く叩いて拭き取ってから、水拭きをし、最後に余分な水分を拭き取ってください。

固形の汚れや粘着質の汚れ

ヘラを使って、直ちに固形の汚れや粘着質の汚れを慎重に落とします（汚れ

が広がらないように外側から内側に向かってヘラを動かします）。

液体汚れの場合は、指示に従って清掃します。

飴やチューインガムについての注意事項

汚れの上に氷を当てて固まらせます。その後は固形の汚れと同じ手順です。

i 内装のお手入れについてアドバイスをお受けになりたい場合、または満足の行くようお手入れできなかった場合は、ルノー代理店までご相談ください。

取り外し可能な車内装備の取り付け/取り外し

汚れを取り除くために、取り外し可能な装備（フロアマットなど）を取り外した場合は、装備を正しい側に（例えば運転席側フロアマットは運転席側に）正確に取り付け、所定のパーツでしっかりと固定（例：必ずももから付いていた固定具を使って運転席フロアマットを固定）してください。

必ず停車した状態で、運転の妨げになるものがないか確認してください（ペダルの下に障害物がないか、足がフロアマットに引っかからないかなど）。

クリーニング

ボディのお手入れに関する注意

防臭剤や香水などを吹き出し口の付近に置くこと。ダッシュボードのトリムを傷める恐れがあります。



車内で高圧洗浄機やスプレーを使用すること。

車内の電気系統またはコンピューターの機能を低下させたり、故障の原因となったりする可能性があります。

タイヤ

タイヤ

タイヤは車と地面とを結ぶ唯一の接点です。したがって安全な走行のためにはタイヤを常に良好な状態に維持することが大切です。

それぞれの国、地方の道路交通法規を遵守してください。

タイヤのメンテナンス



タイヤは、良好な状態で、タイヤ接地面（トレッド）の溝にも十分な深さがなければなりません。ルノー技術部門認定タイヤは、**タイヤの摩耗状態を示すためにトレッドの数カ所に設けられている摩耗警告ストラップ 1**も備えています。

トレッドが磨耗すると、摩耗インジケータが現われ、**タイヤ交換が必要だと一目でわかります 2**。摩耗インジケータが現れた状態では、**トレッドの溝の深さが最大でも約 1.6 mm しかない状態に達しており、滑りやすく濡れた路面などでは十分な排水ができず正常なグリップ力を発揮できない状態にあるため、必ずタイヤを交換してください。**

また荷物の積み過ぎや夏期の長距離走行、高速走行あるいは悪路の走行などはタイヤの摩耗や劣化を早めます。安全のためタイヤはこまめに点検しましょう。



「歩道にあたる」など運転中のトラブルにより、タイヤやリムが損傷したり、フロントまたはリアアクスルの調整不良を引き起こしたりします。このような場合は、ルノー指定サービス工場にて点検を受けてください。

タイヤ空気圧

規定のタイヤ空気圧を守ってください（スペアタイヤも同様）。少なくとも毎月1回、または長距離走行をする前はタイヤ空気圧を点検してください。

（運転席側のドアに貼ってあるラベルをご覧ください）。



タイヤ空気圧が適正でないと、タイヤが異常に磨耗したり、異常に熱くなったりします。これら

は、安全性に重大な影響を及ぼし、次の原因につながる可能性がある要因です。

- ロードホールディング不良。
- バーストやトレッドのはく離が起こるおそれがあります。

適切なタイヤ空気圧は、積載重量と走行速度によって異なります。車の使用状況に応じて空気圧を調整してください（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照）。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。気温の高いときや高速走行後はタイヤ空気圧が通常よりも高くなっているため、その測定値は無視してください。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar (3 PSI) 高めに調整してください。

タイヤ

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

特徴

車両のタイプによっては、空気を入れる前にバルブに装着するアダプターが使用できます。



注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。
バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

タイヤ空気圧監視システム装備車

(パンクや空気圧不足などにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル → 153 上に表示されます。

スペアタイヤ

→ 302, → 304.

タイヤのローテーション

タイヤのローテーションは、特に必要ではありません。

タイヤの交換



安全性を守り、道路交通法に従うために：
タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。

交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。
これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。
車両制御の喪失の危険性があります。



いずれの場合にも、ルノー指定サービス工場にお問い合わせいただければ、お車に最も合った装備をお選びすることができます。

冬期の使用

「スノー」タイヤまたは「スタッドレス」タイヤ

トラクションを最高水準に保つため、**四輪ともに同一種のタイヤを装着することをおすすめします。**注意:これらのタイヤは回転方向が決まっている場合があり、最高速度指数も、お使いの車両の最高速度より低い場合があります。



チェーンは、お車に標準装備されたタイヤと同じサイズのタイヤにしか装着できません。



17インチ以上のタイヤにチェーンを使用することはできません。
特殊装備を使う場合は、認定ディーラにご相談ください。

スパイクタイヤ

スパイクタイヤはそれぞれの国や地方の法律で定められた期間以外は使用できません。法定制限速度を遵守してください。

スパイクタイヤは最低限フロントホイール両輪に装着してください。

タイヤ

チェーン

安全のため、後輪にはチェーンを装着しないでください。

標準装備のタイヤよりも大きなサイズのタイヤを取り付けると、チェーンが装着できなくなります。



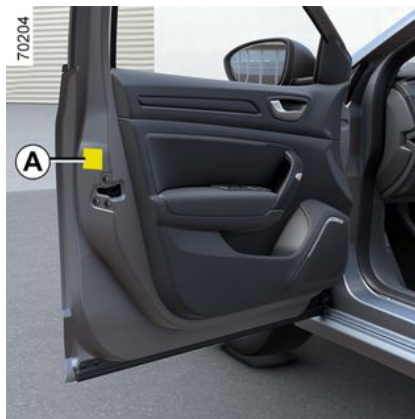
タイヤの交換

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤの位置と空気圧を極力正しく計

算するため、走行によっては数分間かかることがあります。車への作業を行った後は、必ずタイヤの空気圧を点検してください。

タイヤ規定空気圧

ラベル A



数値を読み取るには、運転席ドアを開けてください。

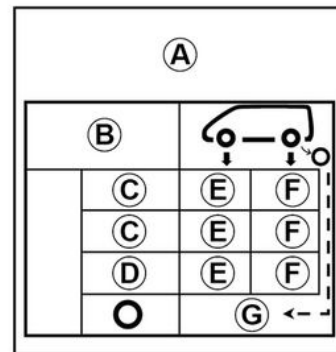
空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar (3 PSI) 高めに調整してください。温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。規定空気圧を遵守してください（スペアタイヤも同様）。タイヤの空気圧は、月に

1 回以上の頻度で点検し、長距離走行前には必ず点検してください。

車両によっては、タイヤへの空気充填またはタイヤ空気圧調整の都度、タイヤ空気圧を基準値 → 153 にリセットする必要があります。



B. : 車両に装着されているタイヤの直径

C. : 意図する走行速度。

D. : 燃料消費を最適化するための推奨圧力。

注: ドライビングコンフォートが変わることがあります。


E. : フロントタイヤの空気圧。

F. : タイヤ規定空気圧

G. : スペアタイヤの空気圧。

タイヤ

タイヤ空気圧監視システム 装備車

(パンクや空気圧不足などにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、 警告灯がインストルメントパネル → 153 上に表示されます。



フルロード(最大許容荷重)でトレーラをけん引する車両

最高速度が100 km/hを超えないようにし、タイヤ空気圧を0.2バール増やします → 338。
タイヤはく離のリスク。

タイヤの安全確保とチェーン取付け:
タイヤの保守に関する定めや、車種別のチェーン使用に関する情報については → 294 をご覧ください。



安全性を守り、道路交通法に従うために：

タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。

交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。

これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。

車両制御の喪失の危険性があります。

タイヤ空気注入キット



このキットを使うと、4 mm未満の物が原因でタイヤのトレッド部分Aに生じた傷を修理できません。

4 mm以上の傷やタイヤの側面Bについた切り傷などにより生じたパンクの修理には、このキットをお使いいただけません。ホイールリムが良好な状態にあることも確認してください。パンクの原因となった異物がタイヤに刺さったままである場合は、それを取り除かないでください。

タイヤ



パンクした状態での走行により損傷したタイヤにはタイヤ空気圧注入キットを使用しないでください。

修理を行う前にはタイヤ側面を入念に点検してください。

また、空気圧の不足したタイヤや、空気が完全に抜けた（またはパンクした）タイヤで走行することは危険であり、タイヤも修理不可能になります。

これは応急修理です。

パンクしたタイヤは、できるだけ速く専門家に点検（可能なら修理）してもらってください。

このキットを使って修理したタイヤを交換する場合は、そのことを作業員に伝えてください。

走行時、タイヤ内に注入された内容物による振動が感じられることがあります。



このキットは、装備車両のタイヤだけを修理するために認定を受けています。

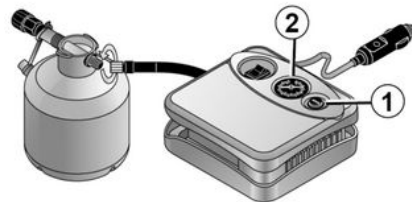
いかなる場合でも、他の車両のタイヤを修理したり、その他の物（救命具やボートなど）を膨らませることに使用しないでください。

パンク修理剤の製品ボトルを扱う際に、液体が皮膚にかからないようにしてください。もし付着した場合は、大量の水で洗い流してください。

修理キットを子供の手の届くところに放置しないでください。

ボトルは絶対に投棄しないでください。指定サービス工場または回収業者までお届けください。

ボトルの使用期限はボトルに貼られたラベルに記載されています。使用期限を点検してください。注入チューブとパンク修理剤ボトルを交換するときは、指定サービス工場においてください。




47426

パンク発生時には、（車両により、）トランク内かトランクフロアマット下にあるキットをお使いください➔276。

タイヤ空気圧監視システム装備車

（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、

 警告灯がインストルメントパネル➔153 上に表示されます。

エンジンを回転させ、パーキングブレーキをかけた状態で次の作業を行います。

– 車両のアクセサリースOCKETに接続されているアクセサリーの接続をすべて外します。

タイヤ

– 車両のトランクにある**空気注入ポンベキットに関する情報を参考に**、取扱説明に従って作業します。

– タイヤを推奨圧力まで膨張させます
→ 296。

– 15分間を上限として空気を注入したら、注入を止め、(圧力計 2 に表示されている) 空気圧を読み取ります。

注: ポンベが空になるまでの間 (約 30 秒間) は、圧力計 2 の表示値が最大で 6 bar に達することもあります。ポンベが空になると表示値は下がります。

– 空気圧の調整: 空気圧を上げるには、キットを使って空気注入を続けます。空気圧を下げるにはボタン 1 を押します。

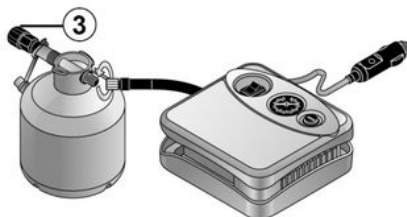
15分かけても推奨空気圧 1.8 bar にならない場合は、修理不能です。車両を走行させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。



キットを使用する前に車両を交通の妨げにならない場所に移動してハザードランプを点灯し、パーキングブレーキをかけ、車両の全乗員を車から下ろして安全な場所に退避させてください。



47426

正しい空気圧になるまで空気を注入したら、キットを取り外します。取り外す際には、ポンベ内の残存空気が飛散しないよう注入アダプタのねじをポンベ 3 からゆっくり緩め、取り外したポンベは、ポンベ内の空気が漏れ出さないようプラスチック容器に入れて保管します。

– 運転時の推奨事項のラベル (ポンベ下にある) を、ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付けます。

– キットを収納してください。

– 一回目に空気注入を行った後は、タイヤからまだ空気が漏れます。穴をふさぐために走行を行うことが必要です。

– ただちに始動して 20 km/h から 60 km/h の速度で走行し、空気をタイヤ全体に行き渡らせます。3 km ほど走行したら停車して、空気圧を点検します。

– 空気圧が 1,3 bar 以上であっても、規定空気圧以下であれば、規定空気圧に調節します (運転席側ドア側面のラベルを参照)。それ以外の場合は、正規代理店にご連絡ください。タイヤは修理できません。



注意: バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

タイヤ

キットの使用上の注意

キットは15分以上連続して使用しないでください。



ドライバーの足元には何も置かないでください。急ブレーキなどが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込みブレーキ操作の妨げとなる恐れがあります。



キットで修理した後、200 km 以上走行しないでください。また、走行速度を抑え、いかなる場合も 80km/h を超えないようにしてください。ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付ける運転時の推奨事項のラベルが注意を促します。

国または地方の法律により、タイヤ空気注入キットで修理したタイヤは交換しなければならない場合があります。

ツール

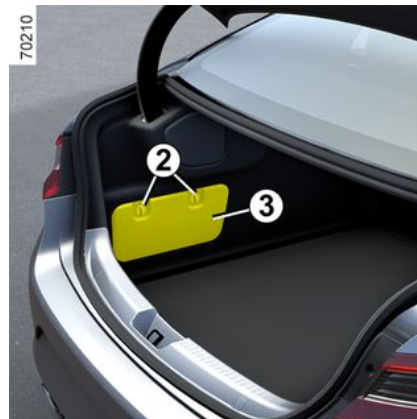
ツールキット



(車種によります)

ツールキット **1** にアクセスするには、トランクフロアマット ➔ **276** を持ち上げます。

ツールボックス



ツールボックスにアクセスするには、固定具 **2** を4分の1回転してロックを解除し、フラップ **3** を取り外します。ツールボックスは、ストラップによって固定されています。

タイヤ



ツールの有無は車両によって異なります。



ジャッキ 5

ツールキット装備車両では、ツールキット上の 4 クリップを車両の前方方向に押し、ジャッキを取り外します。

ジャッキは折り畳んでから（ホイールブレイス 6 を正しい位置に配置してから）ハウジングに再取付けします。

ホイールキャップツール 7

ホイールキャップを取外すのに使用します。

ねじガイド 8

アルミのホイールリムを使用した車両のタイヤボルトの脱着に役立ちます。

牽引リング 9

→ 307

ホイールレンチ 10

ホイールボルトや牽引リング 9 をロックおよびロック解除できます。



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。負傷の危険を減らすため、使用後のツールは、いずれもツールキット内に戻し、キットは所定の場所に格納してください。

ホイールボルト（装備時）はスペアタイヤ専用です。スペアタイヤに貼られているラベルを参照してください。

タイヤ



安全のため、メーカーが推奨しないジャッキの使用は固く禁じられている。

ジャッキはその車両専用となり、ホイールの交換時に使用します。以下のような場合には絶対に使用しないでください。


- 他の車両で使用すること。
- 修理に使用すること。
- ボディ下で作業するために使用すること。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。
車両に損傷を与える危険性があります。



タイヤ空気圧監視システム 装備車

(パンクや空気圧不足などにより) タイヤの空気圧が基準

を下回ると、 警告灯がインストールメントパネル → 153 上に表示されます。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。



同じスペアタイヤを何年も収納したままの場合は、そのタイヤが現在でも安全に使用できるかどうかを整備工場で点検してもらってください。

他のタイヤよりも小さなサイズのスペアタイヤを装備した車両：

- 当該車両には絶対にスペアタイヤを取付けないでください。
- パンクしたタイヤはスペアタイヤよりも大きいため、スペアタイヤに交換すると、車体の地上高が減少します。
- スペアタイヤはできるだけ早くもとのサイズと同じタイヤに交換してください。
- 時的にこのようなスペアタイヤを履いている間は、スペアタイヤホイールのラベルに書かれた制限速度を超えないように走行してください。
- スペアタイヤを装着すると車両の操縦性に影響が出ます。急激な加速や減速は避け、コーナリング時はいつもより速度を抑えてください。

パンク、スペアタイヤ

パンクした場合

車両によっては、タイヤパンク応急修理キットまたは応急スペアタイヤが装備されています。

タイヤ

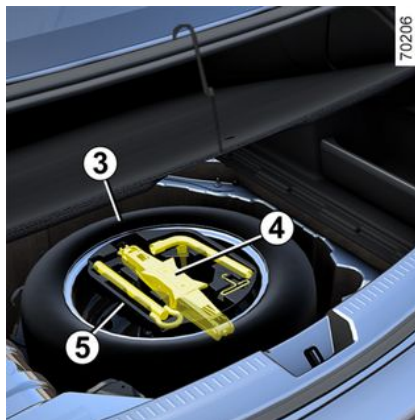
– スノータイヤを使用する必要がある場合は、スペアタイヤをリアアクスルに取付け、空気圧を確認します。

スペアタイヤ3



スペアタイヤはラゲッジルームにあります。

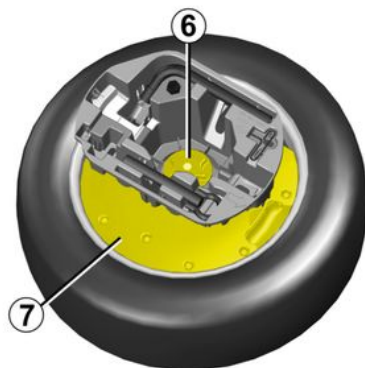
サブウーファー非装備車両



スペアタイヤは次の手順で取り出します：

- トランクリッド開きます。
- タブ 2（車両によってはハンドル）を用いてトランクフロアマット 1 を持ち上げます。
- ジャッキ 4 の下にあるセンター固定具 6 を緩めます。
- ツールキット 5 を取り外します。
- スペアタイヤを取り出します。

サブウーファー装備車両



i サブウーファ 7 を取り外し、同じ位置に再取付けおよび再接続します。慎重に扱ってください。そうしない場合、サブウーファの機能に支障をきたすことがあります。

スペアタイヤは次の手順で取り出します：

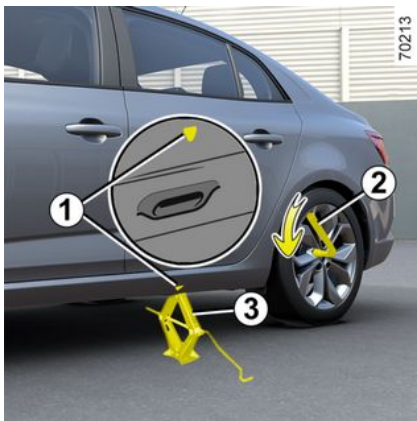
- トランクリッド開きます。
- タブ 2（車両によってはハンドル）を用いてトランクフロアマット 1 を持ち上げます。

タイヤ

- ジャッキ **4** の下にあるセンター固定具 **6** を緩めます。
- ツールキット **5** を取り外します。
- サブウーファ **7** の電源ケーブルを切断します。
- サブウーファを取り外します。
- スペアタイヤを取り出します。

i タイヤがパンクした場合、サブウーファを交換して再接続することは推奨されません。これによって、サブウーファが破損する場合があります。

タイヤの交換



ハザードランプを点灯してください。

交通から離れた、水平で滑らない硬い地面の上に車を停めます。

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを1速または後進（オートマチックトランスミッション装備車両の場合はP位置）にします。

すべての乗員を車から降ろし、乗員を車の往来のある場所から遠ざけます。



緊急用スペアホイールが車両の下にあるときは、車両を持ち上げる前に予備のホイールを取り外すことが不可欠です。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

ジャッキおよびホイールブレース装備車両

必要なら、ホイールキャップを外します。

ホイールボルトのロックを、ホイールレンチ **2** を使って解除します。そのときホイールレンチの上から力を加えられるように位置を選びます。

ジャッキ **3** を水平に置きます。その際には、**必ず**、交換するタイヤから最も近いジャッキアップポイント（矢印 **1** で示されています）がジャッキヘッドの真上に来るよう配置します。

ジャッキを手で回し、ジャッキ頭部を車体下のジャッキアップポイントに軽く当てます。

ホイールレンチを回してホイールを地面から離します。

ホイールボルトを外してホイールを取り外します。

スペアタイヤをセンターハブに取付けて回転させ、タイヤとハブの穴の位置を合わせます。

タイヤ


スペアタイヤにボルトが添付されている場合は、そのボルト以外は使用しないでください。タイヤがしっかりとハブに取り付けられていることを確認してボルトを締め、ジャッキを緩めま

す。タイヤを接地させてボルトをきつく締めます。なるべく早めにボルトの締め付けトルクとスペアタイヤの空気圧を点検してください。

注: 4 ドア仕様車両で、非常用スペアタイヤが車両の下にある場合、パンクしたタイヤはトランク内に格納します。

タイヤ空気圧監視システム装備車

(パンクや空気圧不足などにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、

 警告灯がインストルメントパネル → 153 上に表示されます。



盗難防止ボルト

盗難防止ボルトを使用している場合は、ホイールキャップを取り付けられなくなることがあるので、できるだけバルブに近い位置にボルトを取り付けてください。



タイヤがパンクしたら、できるだけ早く交換してください。

パンクしたタイヤは専門の技術者の点検を受け、修理可能なら修理してもらってください。



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れ

があるためです。**怪我の恐れを防止するため**、使用後はすべてのツールを正しくツールキットに固定して、所定の位置に格納するようにしてください。

スペアタイヤにボルトが添付されている場合は、そのボルト以外は使用しないでください。



安全上の理由により、メーカーが推奨しないジャッキの使用は固く禁じられています。

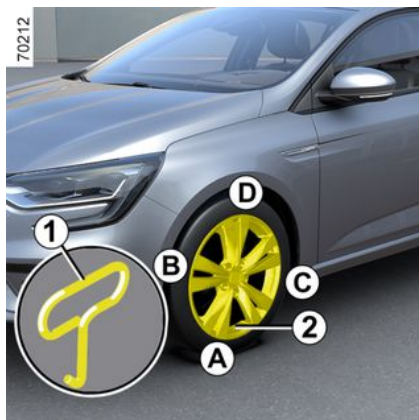
ジャッキはその車両専用となり、ホイールの交換時に使用します。以下のような場合には絶対に使用しないでください。

- 他の車両で使用すること。
- 修理に使用すること。
- ボディ下で作業するために使用すること。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。車両に損傷を与える危険性があります。

タイヤ

ホイールトリム、ホイールトリム - ホイール



バルブ **2** 付近にある凹部内のフックを接続（してメタルクリップを取り付ける）方法で、（ツールキット内にある）ハブキャップツール **1** を用いて取り外します。

取付ける場合には、バルブ **2** の位置と合わせます。バルブ **A** 側から、**B**、**C**、**D** の順に固定フックを完全に押し込みます。

注: 盗難防止ボルトを使用している場合、→ **304**。



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。**怪我の恐れを防止するため**、使用後はすべてのツールを正しくツールキットに固定して、所定の位置に格納するようにしてください。

車両故障時の対処の仕方

けん引: 故障車両

車両故障時の対処の仕方

けん引する前に、トランスミッションがニュートラルに入れ、ステアリングコラムのロックを解除し、パーキングブレーキを解除します。

オートマチックトランスミッション装備車両でシフトレバーをNポジションに入れることができない場合は、認定ディーラーにご相談ください。

ステアリングコラムのロック解除

イグニッションにキーを差し込むか、カードを携帯してエンジンスターボタンを約2秒間押します(車両によって異なります)。

シフトレバーをニュートラル(AT車では位置N)に入れます。

ステアリングコラムのロックが解除され、アクセサリ機能の電源がONになり、車両の各ライト(方向指示灯やブレーキランプなど)の使用が可能になります。夜間はさらに外部照明を点灯してください。

車種によって、けん引が終了したら、エンジン始動ボタンを2回押します(そうしないとバッテリーがあがるおそれがあります)。

必ずけん引に関する現行の規則を守ってください。けん引車両を運転してい

る場合は、車両のけん引可能重量を超えないでください→338。

オートマチックトランスミッション車のけん引

車両をバックプレートに乗せて運搬するか、前輪を持ち上げてけん引してください。

止むを得ない場合、被牽引車両のギアがニュートラルNあること、牽引距離が80 km以下であること、牽引速度が25 km/h以下であることを条件として、四輪全輪を路面に着けたまま被牽引車両を前進ギアのみで牽引することができます。



イグニッションスイッチからキーを外さないでください。またはけん引中に車両にカードを置いたままにしてください(車両によって異なります)。

ステアリングコラムロックの危険性。



70198

6

ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがP位置から動かない場合、レバーのロックは手動で解除できます。これを行うには、レバーベースのクリップを外してツール(丈夫な棒)をスロット1差し込むと同時に、ボタン2を押してレバーのロックを解除します。

できるだけ早くルノー正規サービス工場での点検をお受けください。



エンジンを停止すると、パワーステアリングやブレーキの作動はできません。

車両故障時の対処の仕方

けん引用リングの取り付け位置

必ずフロント 3 とリア 6 の牽引ポイントをお使いください。

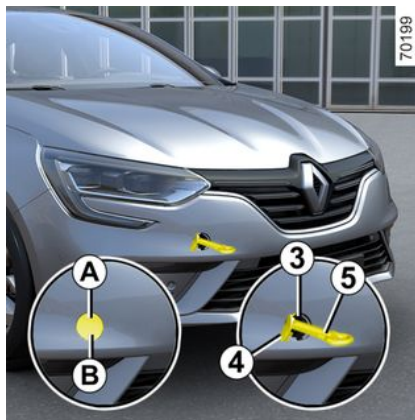
(ドライブシャフトや車両の他の部分を絶対に使用しないでください。)

けん引リングは、けん引以外の目的では絶対に使用しないでください。車体を持ち上げるために使用してはなりません。



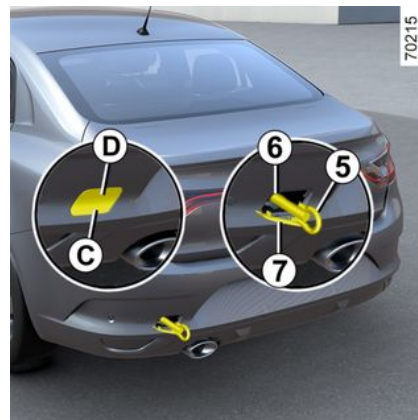
ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。

フロントけん引ポイント 3



ゾーン B を引いてフラップ 4 を開いた状態で、ゾーン A を押して圧力をかけ続けます。

後部けん引ポイント 6



ゾーン C を押して圧力をかけ続けると同時にゾーン D を引いてフラップ 7 を開けます。

牽引リング 5 を手でできる限りねじ込みます。

必ず牽引リング 5 → 300 を使用してください。



けん引リングが正しくボルトで固定されていることを確認します。

けん引対象物を失う恐れがあります。

車両故障時の対処の仕方



– 堅いけん引用のバーを使用してください。ロープやワイヤーの使用が許可されている国で、それらをけん引に使用する場合は、けん引される車のブレーキが機能していなければなりません。

– 走行に支障のある車両をけん引してはなりません。

– 急に加速したり急ブレーキをかけたりしないでください。そのような場合には車両が損傷するおそれがあります。

– どのような状況でも、速度は **50 km/h** 以下に留めてください。

バッテリー: 故障時の対処

車両故障時の対処の仕方

バッテリーを取扱うときの注意

– バッテリーを切り離すか再接続する場合は、その前に「電装品」（車内灯など）のスイッチを OFF にしてください。

– 充電の際には、充電器のスイッチを OFF にしてからバッテリーとの接続または切り離しを行ってください。

– 端子間での短絡の原因となり得るため、バッテリーの上には金属製のものを置かないでください。

– エンジン停止後、1分以上待ってからバッテリーの接続を外します。

– バッテリーを取り付けた後は、ターミナルが正しく接続されていることを確認します。

バッテリーチャージャーの接続

定格電圧が 12V のバッテリーに適合するチャージャーを使用してください。

エンジンが作動しているときにバッテリーの接続を外さないでください。**充電の際はバッテリーチャージャーに付属の取扱説明書の指示に従ってください。**



一部のバッテリーには、充電に関する特別な注意事項があります。指定サービス工場にご連絡ください。

火花が飛ばないように十分注意してください。火花はただちに爆発事故の発生につながります。バッテリーは風通しの良い場所で充電してください。

大ケガを負う危険があります。




エンジンルーム内の作業を始める前には、イグニッションを必ず切ってください → 125。



バッテリー液には希硫酸が含まれています。眼や皮膚に付かないように十分注意してバッテリーを取扱ってください。万一眼に入ったり皮膚に付いたりした場合には、多量の水で洗い流してください。必要に応じて病院で診察を受けてください。

（爆発の恐れがあるため） バッテリーには火炎、白熱体、火花などを近づけないでください。エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム

内の  警告灯により、通知されます。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

車両故障時の対処の仕方

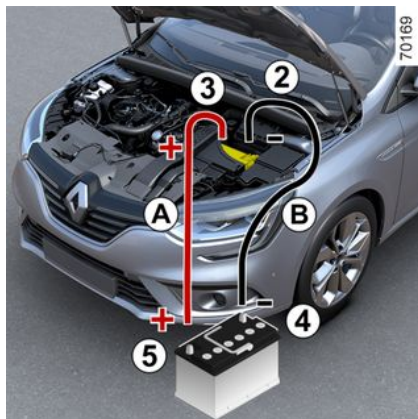
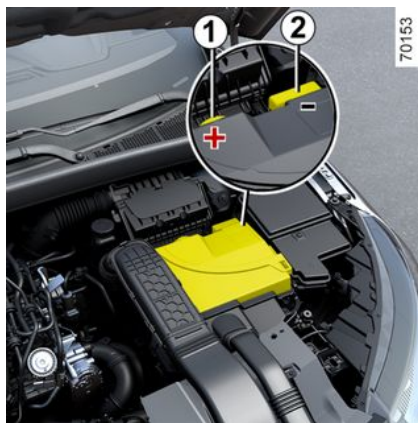
他車のバッテリーからのエンジン始動

バッテリーがあがり、エンジンを始動するために他の車両のバッテリーを使用しなければならない場合は、ルノー指定サービス工場での適切なブースターケーブル（セクションが重要です）をお求めになれます。また、ブースターケーブルをすでにお持ちの場合は、ブースターケーブルの状態が良好か確認してください。

2つのバッテリーは同一の公称電圧12Vでなければなりません。また、電流を供給するバッテリーは、少なくとも放電したバッテリーと同じ容量（アンペア/時間、Ah）でなければなりません。

救援車と救援を受ける車は、絶対に接触させないでください（プラスターミナルを接続したときにショートするおそれがあります）。放電したバッテリーが正しく配線されていることを確認します。救援を受ける車のイグニッションスイッチをOFFにします。

バッテリーの後方にあるボックス1の赤いカバーを持ち上げます。



プラスケーブルAを、ボックスカバー1の下にあるサポート3 (+) に取り

付け、次に、電力供給側バッテリーの端子5 (+) に取り付けます。

マイナスケーブルBを、電力供給側バッテリーの端子4 (-) に取り付け、次に、放電バッテリーの金属ケーブル2 (-) に取り付けます。

救援車のエンジンを始動させて中速で回転させます。

車両のエンジンがすぐに始動しない場合は、イグニッションスイッチを切り、数秒待ってから操作を繰り返してください。

エンジンを回転させた状態でケーブルAおよびBを逆の順序（2-4-5-3）で切り離します。



ケーブルAとBが接触しておらず、プラスケーブルAが、給電車両の金属部分に触れていないか確認します。ケガや車両故障の原因となります。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

エクステリアランプ: 電球の交換

ヘッドランプ

バルブ交換



接続が間違っていると電気機器（ハーネス、コンポーネント、特にオルタネーター）の損傷につながる

可能性があるため、電気系統の操作（または変更）は必ず指定サービス工場で行う必要があります。さらに、指定サービス工場には、これらのユニットを取り付けるために必要なすべての部品がそろっています。



ランプには圧力が掛かっていて、交換時に破裂するおそれがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

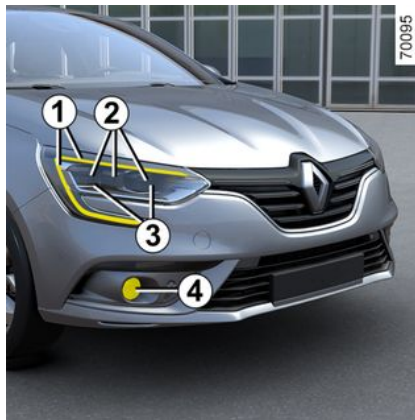


エンジンの近くで作業を行なう場合、エンジンが熱くなっていることがあります。さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルー

ム内の  警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

LEDヘッドランプ装備車



日中走行灯／側灯／方向指示灯 1
メーカーにお問い合わせください。

ハイビーム 2

メーカーにお問い合わせください。

ロービーム 3

メーカーにお問い合わせください。

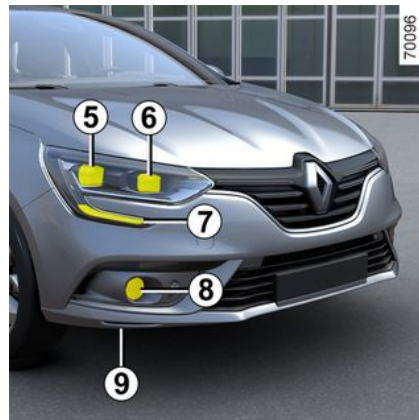
フロントフォグランプ 4

メーカーにお問い合わせください。

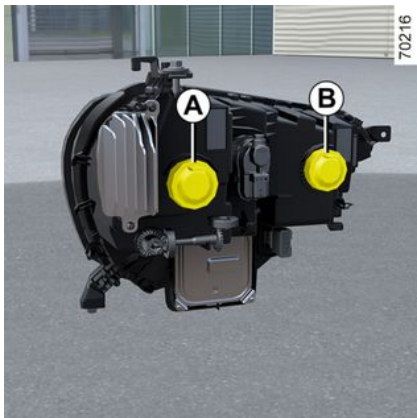
ランプの追加装備

お使いの車両にフォグランプを取り付ける場合は、認定ディーラにご相談ください。

ハロゲンヘッドランプ装備車



ヘッドライト、ランプ: 電球の交換



ハロゲンロービーム 6

電球を交換するには次の手順に従います。

- ボンネットを開けます。
- カバー **B** を取り外します。
- 電球ホルダ **11** を 4 分の 1 回転させます。
- バルブを取外します。

ハロゲンハイビーム 5

電球を交換するには次の手順に従います。

- ボンネットを開けます。
- カバー **A** を取り外します。
- 電球ホルダ **10** を引きます。
- バルブを取外します。

電球タイプ **5** および **6**: H7。

必ず U.V. 55W カットランプを使用して、ヘッドランプのプラスチックレンズの劣化を避けます。

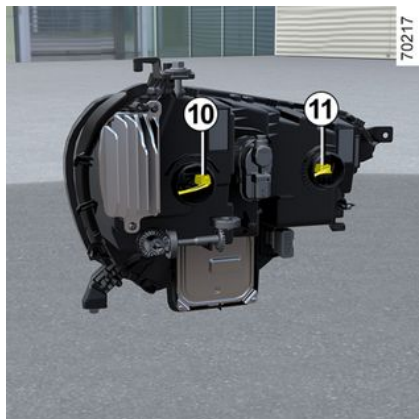
バルブのガラスに触れないでください。バルブはソケット部を持つようにしてください。

バルブを交換したら、カバーを元の位置にはめ込みます。

フロントフォグランプ 8

- 車両の下から電球ホルダにアクセスします。
- フラップ **9** のクリップを外します。
- 電球ホルダを 4 分の 1 回転させます。
- バルブを取外します。

バルブタイプ: H16。



日中走行灯/側灯/方向指示灯 7

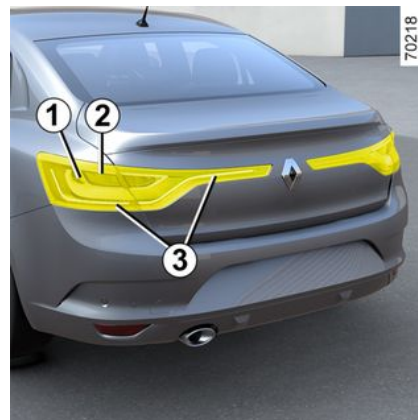
メーカーにお問い合わせください。

バルブを取り付けた後で、バルブがしっかり固定されているか確認してください。

i 国の定める法規に従って、または用心のため、予備のヒューズとバルブセットを指定サービス工場でお求め下さい。

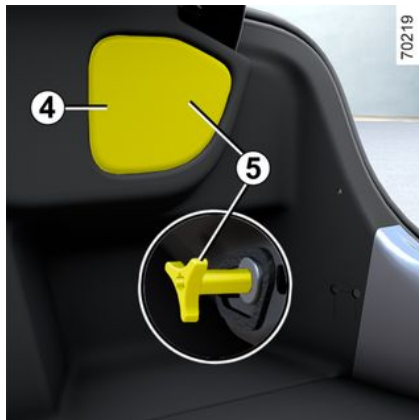
テールランプと表示灯

バルブ交換



ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

電球ホルダ 6 および 7 にアクセスします



テールゲートを開き、カバー 4 を外してねじ 5 にアクセスし、ねじを取り外します。

テールランプユニットを取り外します。

ブレーキランプ 1

電球ホルダ 6 を 4 分の 1 回転させて電球を取り出します。

バルブタイプ: P21W。

バルブホルダーをもう一度取付け、ユニットをロックするまで奥まで押し入れます。

ランプがしっかりロックされていることを確認します。

ねじ 5 を締め、カバー 4 を元の位置に戻します。

方向指示灯 2

電球ホルダ 7 を 4 分の 1 回転させて電球を取り出します。

バルブタイプ: PY21W。

サイドランプ 3

メーカーにお問い合わせください。

バックランプ



トランクから、ドライバーまたは同様の工具を使用して、テールゲート 8 インテリアトリム上のカバーにあるクリップを外します。



ランプには圧力が掛かっている、交換時に破裂するおそれがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換



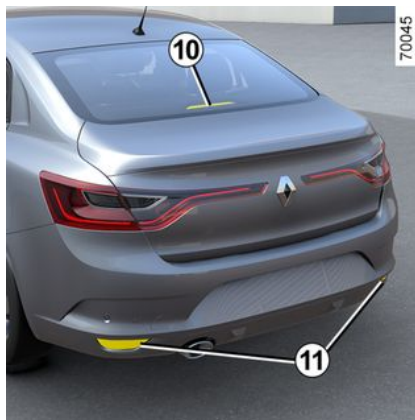
電球ホルダ **9** を4分の1回転させて電球を取り出します。

バルブタイプ: W16W。

取付け

取り付けは、取り外しの反対の手順で行います。ケーブルを傷つけないように注意してください。

ハイマウントストップランプ **10**



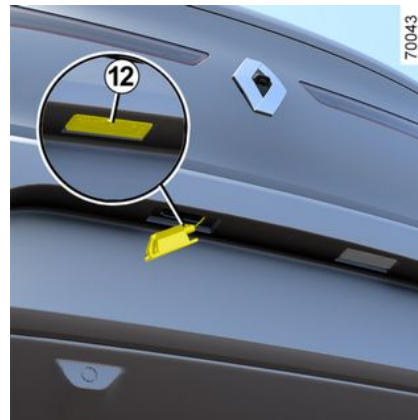
メーカーにお問い合わせください。

リアフォグランプ **11**

リアバンパの取外しが必要になるため、認定ディーラにご相談ください。

バルブタイプ: P21W。

汎用電球 **12** 仕様のナンバープレートランプ



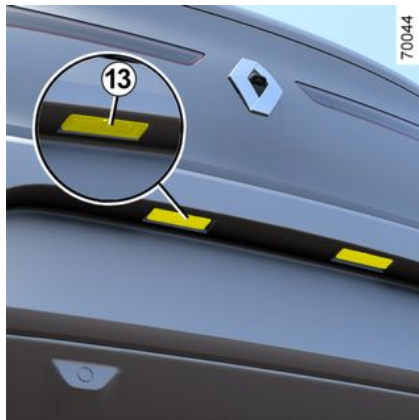
(車種によります)

- マイナスドライバーなどの工具を使用してランプ **12** のクリップを外します。
- ランプユニットのカバーを外してバルブを交換します。

バルブタイプ: W5W。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

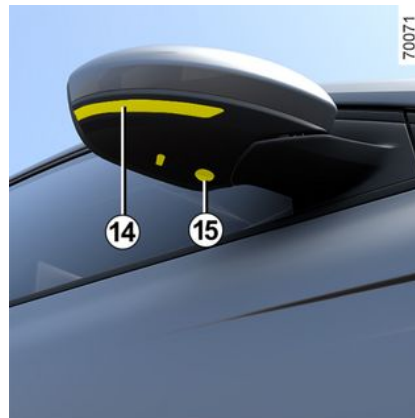
LED ナンバープレートランプ 13



(車種によります)

メーカーにお問い合わせください。

方向指示器灯 14、ウェルカムランプ 15



ウィングミラーの取外しが必要になるため、認定ディーラにご相談ください。



ランプには圧力が掛かっていて、交換時に破裂するおそれがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ルームランプ: バルブ交換

読書灯 1



メーカーにお問い合わせください。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

カーテシーランプ2



メーカーにお問い合わせください。

ムードランプ

正規サービス工場にご連絡ください。

グローブボックスランプ3



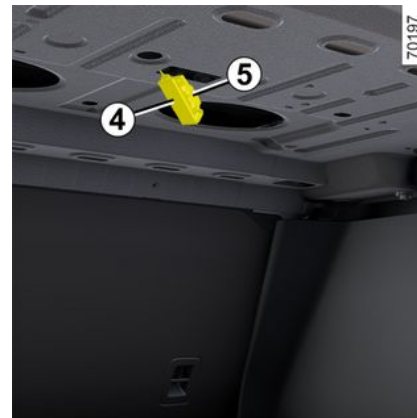
メーカーにお問い合わせください。



ランプには圧力が掛かっていて、交換時に破裂するおそれがあります。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ラゲッジルームランプ4



4 ドアモデル

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

マイナスイライバーなどを使用してタブを押し、ランプを外します。

コネクタを取外します。

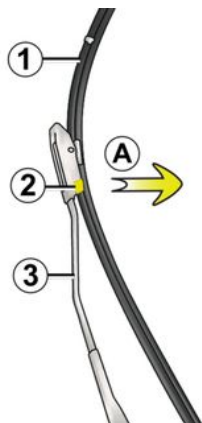
カバー **5** を取り外します。

バルブにアクセスします。

バルブタイプ: W5W。

ワイパーブレード: 交換

ウィンドウワイパーブレード 1 の交換



イグニッションスイッチ ON の状態からスイッチを OFF にし、フロントウィンドウワイパー制御レバーを一番下まで下げます。するとワイパーは、ボンネットから外れた位置で停止します。

ワイパーアーム 3 を持ち上げ、タブ 2 を (A のように) 引っ張り、ブレードを押し上げます。

取付け

ブレードを滑らせてアームに固定します。ブレードが確実に固定されたことを確認します。ワイパースイッチレバーを停止位置に戻します。

i ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- ワイパーブレード、フロントウィンドーおよびリアウィンドーを石鹸水で定期的に洗浄してください。
- フロントウィンドウまたはリアウィンドウが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。
- 長時間使用しない場合には、フロントウィンドウおよびリアウィンドウから引き離してください。



- 気温が低く、ワイパーが凍結している可能性があるときは注意してください。凍りついたワイパーを無理やりに作動しようとすると、ワイパーモーターが過熱し、傷む恐れがあります。

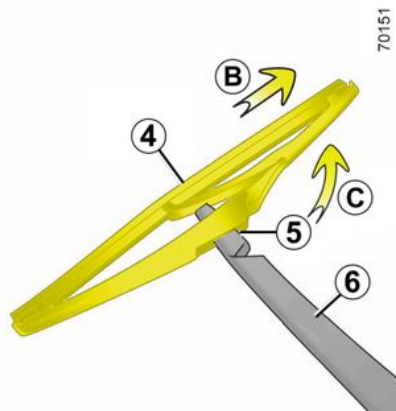
- ワイパーブレードの状態をこまめに点検してください。

機能が低下してきたらすぐに交換してください (1年に1度は交換してください)。

ブレードの交換中、ブレードが取外されているときは、アームがウィンドー上に落ちないように注意してください (ウィンドーが損傷するおそれがあります)。

ワイパーブレード: 交換

リアウィンドウワイパブレード 4



オフ位置にあるレバー（無効化）：

- ワイパーアーム **6** を持ち上げます。
- ワイパブレード **4** を抵抗点まで旋回させ（**C** のように動かし）ます。
- 車両によっては、タブ **5** を押し、ワイパブレードを引いて取り外し（**B** のように動かし）ます。

取付け

ワイパーブレードの取付けは、逆の手順で行います。ブレードが確実に固定されたことを確認します。



リアワイパーブレードを交換する前に、レバーが停止位置（作動解除）にあることを確認してください。

さい。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ヒューズ

ヒューズボックス



電装品が作動しない場合は、まずヒューズの状態を点検してください。フラップ **A** のクリップを外します。

i 現地の法令に従うため、または予防措置として次の対応を行ってください。
予備の電球およびヒューズを含む応急措置キットを認定ディーラから購入します。

ヒューズの位置は、フラップ **A** 背面のヒューズ配置ラベルに表示されていません。

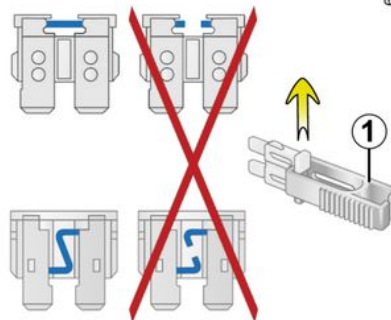
特定のヒューズの交換は、専門スタッフが行う必要があります。これらのヒューズはラベルには記載されていません。

ラベルに記載されているヒューズのみを交換してください。



該当ヒューズを確かめ、必要に応じて交換します。交換後のヒューズは、必ず元のヒューズと同じ定格のものにしてください。容量の大きなヒューズを付けると、装置の電力消費が異常に増えたときに配線などが過熱し、火災発生につながるおそれがあります。

クランプ 1



フラップ **A** の裏にあるプライヤ **1** を使用してヒューズを切り離します。

抜き取ったヒューズをリムーバーから取外すときは、ヒューズを横にスライドさせます。

ヒューズの空いた場所を使用しないようにしてください。

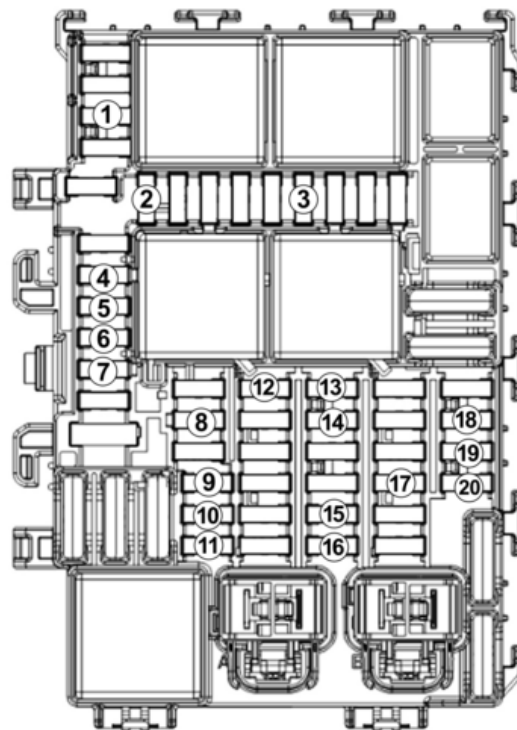
ヒューズ

ヒューズの配置

(ヒューズの有無は車両の装備レベルによって異なります)

ヒューズ

6



71381

ヒューズ

番号	該当
1	インストルメントパネル
2	エアコンディショナー操作パネル
3	ミラーコントロール
4	フロント運転席サイドウィンドウ
5	リアパワーウィンドー装着車の場合：
6	リアパワーウィンドー装着車の場合：
7	助手席サイドウィンドウウィンダ
8	ラゲッジルーム内アクセサリソケット
9	ホーン
10	連結ソケット
11	ドアミラーデフロスター
12	ブレーキランプ
13	マルチメディアアクセサリソケット、マルチメディア画面
14	ラジオ
15	インストルメントパネル
16	インストルメントパネルBCM
17	インストルメントパネルBCM
18	インストルメントパネルBCM
19	インストルメントパネルBCM
20	インストルメントパネルBCM

アクセサリの取付けと使用



電装品アクセサリーの後付け

電装品または電子機器を後付けする前に（特に送受信機の場合：周波数帯域、出力レベル、アンテナの位置など）、それらがお車に適合するか確認してください。ルノー指定 サービス工場にご連絡ください。アクセサリをソケットに接続する前に、ソケットで許可されている最大電力を超えないようにしてください

→ 262 → 270. 火災の恐れがあります。

車両の電気系統／電子回路を対象とする作業は、有資格専門スタッフに限り行えます。これを無視し、メーカー非承認の電装品／電子機器を誤った方法で接続する／取り付けると、次のような問題が生じる恐れがあります。

- 電装機器の損傷。
- 接続されている部品の損傷。
- 車両データの収集および使用。
- プライバシー侵害（個人データの改変、削除、または個人データへの不当アクセス）。
- サービス開始許可の取消し

重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。

将来に電装品を取り付けた場合は、該当するヒューズの定格と位置が通知されていることを確認してください。

ダイアグノシスソケットの使用

診断ソケットで電装品アクセサリーを使用すると、車両の電子装置に重大な障害が発生したり、プライバシーの侵害（個人データの改変、削除、または不当なアクセス）が生じたりする可能性があります。安全のため、電装品は、認定ディーラにご相談の上、メーカー認定のものをお使いください。重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。

アクセサリーの後付け

お車にアクセサリーを取付けたいときは、ルノー指定 サービス工場にご相談ください。車両の機能を良好に維持し、安全な走行を確保していただくために、メーカー車にはメーカー車専用のアクセサリーを装備することをお勧めします。メーカー車専用 アクセサリーは車両に適應するように作られており、メーカーが保証する唯一のアクセサリーパーツです。

盗難防止用ロッドをお使いの場合は、ブレーキペダルにのみ取り付けてください。

運転の妨げになるもの

運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分にはいけません。ペダルの動作を妨げる危険があります。

作動異常

下の表では、トラブルが発生したときの簡単な応急処理について説明しています。安全のためにできるだけ早くルノー指定サービス工場にご相談ください。

カードキーの使用	考えられる原因	対処方法
カードが作動せず、ドアが施錠/解錠しない。	カードキーの電池切れ	バッテリーを交換してください。お使いの ➔ 34 および ➔ 125 車両のロック/ロック解除や始動は可能です。
	カードと同じ周波数で作動する機器を使用する場合（携帯電話など）。	機器の使用を中止するか、内蔵キーを使用します ➔ 34。
	強い電磁波の影響内に車両がある車両のバッテリーがあがっている場合。	カードに内蔵されているキーを使用します ➔ 34。
	発進しました。	エンジンが作動中に、カードを使用してロック/ロック解除できない。イグニッションスイッチを OFF にします。
メッセージ「カードをSTARTボタンの近くに配置してください」が、インストルメントパネルに表示されます。	カードバッテリーが消耗している、またはカードが同期しない。	カードの電池残量を確認するか、カードを専用配置エリア ➔ 125 に置いて「START」ボタンを押します。
	カードの非同期化。	カードの内蔵キーをドアロック ➔ 34 に挿入する方法で運転席ドアのロックを解除し、カードを配置エリア ➔ 125 に置いて「START」ボタンを押す方法でカードを同期します。
リモコンの使用方法	考えられる原因	対処方法
リモコンが作動せず、ドアがロックまたはロック解除しない。	リモコンの電池切れ。	キーを使用します。
	リモコンと同一の周波数で作動する装置（携帯電話など）が使われている。	機器の使用を中止するか、キーを使用します。

作動異常

リモコンの使用状況	考えられる原因	対処方法
	強い電磁波の影響内に車両がある バッテリーあがり	バッテリーを交換してください。施錠、解錠、エンジンの始動は可能です (→ 34および → 125)。
	発進しました。	エンジンが作動中に、キーを使用してロック/ロック解除できない。イグニッションスイッチを OFF にします。
	リモコンの非同期化	ドアロックのキーを使用して運転席ドアのロックを解除し、エンジンを始動してリモコンを同期します。

エンジン始動に関する状況	考えられる原因	対処方法
エンジン始動してください	ケーブルの接続不良、切断、酸化。	再締付け、再接続または酸化の場合には清掃する。
メーターパネルの表示灯/警告灯が暗い、または点灯しない、スターターが作動しない。	バッテリーの放電または故障。	障害のあるバッテリーに別のバッテリーを接続する → 309か、必要に応じてバッテリーを交換します。ステアリングコラムがロックされているときは車を押さないでください
	回路に欠陥があります。	メーカーにお問い合わせください。
エンジンが始動しない	始動条件が満たされていない。	→ 125.
	カードが作動しない場合。	→ 125.
車両が停止しておりエンジンが冷えた状態で、エンジンのアイドリング速度が速い。	ガソリン仕様車の場合、これは必ずしも故障ではありません。これは、エンジン温度の上昇によって引き起こされる場合があります。	エンジンのアイドリング速度は、約 1 分後には低下するはずですが、そうでない場合は、別の故障が原因かもしれません。正規サービス工場にご連絡ください。
エンジンが停止しない。	カードが探知されません。	→ 125.

作動異常

エンジンを始動してください	考えられる原因	対処方法
	電装システムの故障	エンジンスタートボタンを、素早く5回押してください。
ステアリングコラムのロックが解除できない	ステアリングホイールのロック 回路に欠陥があります。	エンジン始動ボタンを押しながら（車両によっては、イグニッションキーを使いながら）➔125ステアリングを動かします。 メーカーにお問い合わせください。

走行中	考えられる原因	対処方法
異常な振動がある	タイヤ空気圧が不適切、バランス不調、タイヤの損傷	タイヤ空気圧を点検し、空気圧が正常ならばルノー指定サービス工場にて点検をお受けください。
エグゾーストパイプから白煙が出る。	ディーゼル仕様車の場合、これは故障となります。パティキュレートフィルター再生による煙が発生する必要があります。	➔142.
エンジンルームから発煙	ショートまたは冷却回路漏れ。	車を止め、イグニッションスイッチをOFFにして車から離れてください。指定サービス工場にご連絡ください。
油圧警告灯が点灯 旋回時または制動時。	エンジンオイルレベルが低すぎる	エンジンオイルを追加します ➔282。
消灯が遅い、または加速時に点灯したままになる。	油圧不足	車を止めて、指定サービス工場にご連絡ください。

作動異常

走行中	考えられる原因	対処方法
ステアリングが重い	パワーステアリングシステムのオーバーヒート。 電動アシストモータの故障。 アシストシステムの故障。	低速度で慎重に走行し、ハンドルに必要以上の力をかけないように運転します。メーカーにお問い合わせください。
- エンジンのオーバーヒート。水温計の針が警告ゾーンにあり、警告灯 STOP が点灯します。	電動冷却ファンの故障	車を止め、エンジンを停止して、ルノー指定サービス工場にご連絡ください。
	冷却水漏れ	クーラントリザーバを点検します。液体が含まれているはずです。入っていない場合には、なるべく早くルノー正規サービス工場にご連絡ください。
クーラントリザーブタンク内の沸騰。	シリンダーヘッドガスケットの破損。	エンジンを止める 正規サービス工場にご連絡ください。



ラジエータ:冷却水が大幅に不足している場合、エンジンが非常に熱い間は絶対に冷たい液体を補充しないでください。車両の点検整備などで冷却水を一部でも抜いた場合には、必ず規定濃度に薄めた新しい冷却水を補充します。メーカー指定以外の製品は、絶対に使用しないようお願いいたします。

電装品	考えられる原因	対処方法
ワイパーが作動しない	ワイパーブレードの固着 電気回路に障害があります。	ブレードを慎重にガラスからはがします。 メーカーにお問い合わせください。

作動異常

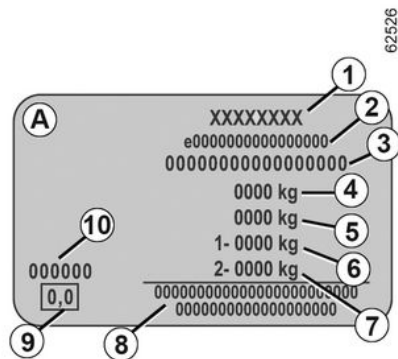
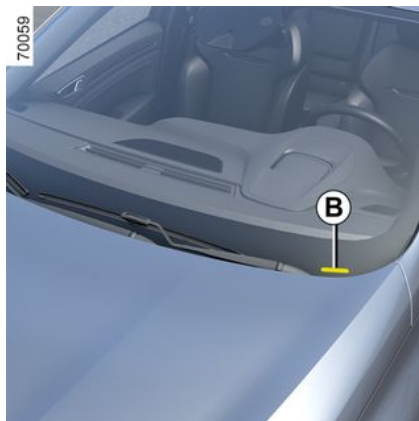
電装品	考えられる原因	対処方法
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換するか、ヒューズの交換を依頼します → 320
ワイパーが停止しない。	電動スイッチの故障	メーカーにお問い合わせください。
方向指示灯の点滅速度が通常より速い	バルブ切れ	→ 311.
方向指示灯が点灯しません。	電気回路またはスイッチに障害があります。	メーカーにお問い合わせください。
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換するか、ヒューズの交換を依頼します → 320
ヘッドランプが点灯または消灯しない。	電気回路またはスイッチに障害があります。	メーカーにお問い合わせください。
	損傷ヒューズ	ヒューズを交換するか、ヒューズの交換を依頼します → 320

6

電装品	考えられる原因	対処方法
ランプとヘッドランプの内部の結露。	結露は温度と湿度の変化によって生じる自然現象なので故障ではありません。 この結露は、照明を点灯すれば徐々に消えます。	
前方シートベルト未着用の表示ランプが実際の装着状態を反映していない。	何かがフロアとシートの上に挟まって、センサーの働きを阻害しています。	前方座席の下には何もおかないでください。

車両に関する情報

ビークルプレート



メーカープレートに刻印された情報が、あなたの注文した車両の仕様と同じであることを確認してください。

これらの情報の有無と設置場所は、車種によって異なります。

メーカープレートA

1. メーカーの名称
2. EC識別番号、またはホモロゲーション番号
3. 識別番号
車両によっては、標示 B 上にもこの情報がありません。
4. MMTA (最大許容全備重量)。
5. MTR (連結総重量: 積載量が満量の車両にトレーラが連結された状態での重量)。

6. MMTAフロントアクスルにおける (最大許容軸荷重)。

7. リアアクスルにおける MMTA。

8. パートナーシップまたは追加登録に限りません。

9. ディーゼルエンジン排出ガス

車両により、この情報は、メーカー設置のプレートではなく、エンジン排出ガス不透明度仕様ラベル上にあります → 142。

10. カラーデータ (カラーコード)

緊急サービスに関する技術情報



緊急時に対応する作業員は、タブレットまたはスマートフォンを使用してラベル A の QR コードを読み取ることに

車両に関する情報

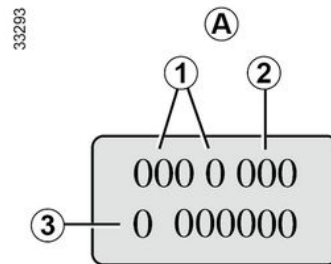
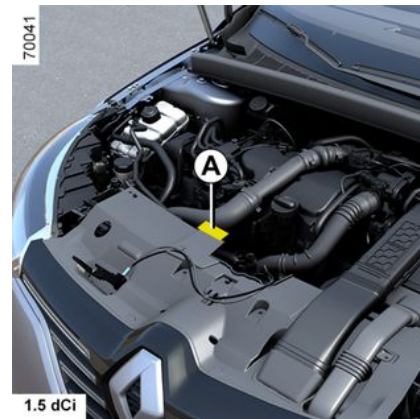
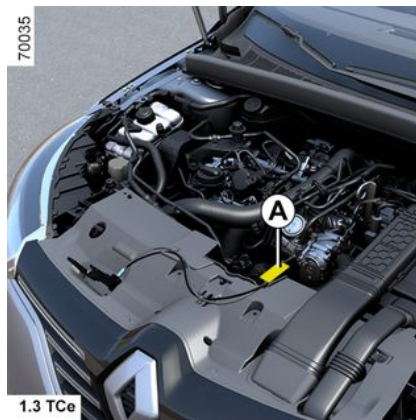
り、事故時の車両に対処するために役立つ技術情報をすぐに入手できます。

常にラベルAがフロントウィンドウとリアウィンドウに、見えるように貼られている必要があります。

改変または損傷がある場合、この情報を入手できない恐れがあります。



エンジン識別、エンジン仕様



お問い合わせやご注文の際には、ゾーンAにあるエンジン識別情報をお知らせください。





車両に関する情報

(エンジンタイプによる刻印位置)

1. エンジン形式。
2. エンジン番号。
3. エンジンシリアル番号。

車両に関する情報

エンジン諸元

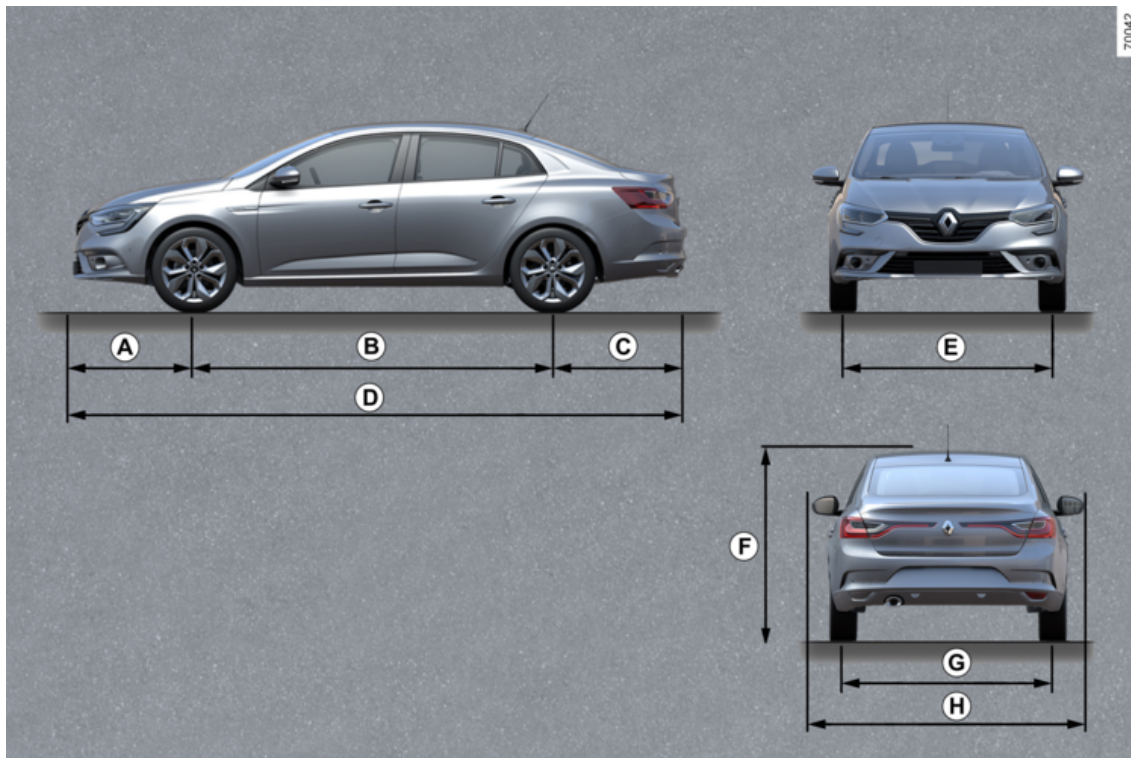
モデル	1.3 TCe	1.6 16V	1.5 dCi
エンジンタイプ (エンジンプレートに表示されています)	H5H Turbo	H4M	K9K
総排気量 (cc)	1333	1598	1461
使用燃料 オクタン価	ガソリン車 燃料フィルターフラップに貼付されているラベルに示されているオクタン価と一致する無鉛ガソリンを使用することが不可欠です → 117。		ディーゼル燃料 フューエルフラップのラベルに使用可能燃料が表示されています。
欧州規格に適合し、欧州で販売された車両のエンジンに互換性がある燃料タイプ (いずれの場合でも、ルノー正規ディーラーにお問い合わせください)。		容量あたり5%以内のエタノールを含む、標準EN 228準拠の無鉛ガソリン。	 容量あたりの脂肪酸メチルエステル含有量が7%までの、規格EN 590 適合ディーゼル燃料。
		容量あたり10%以内のエタノールを含む、標準EN 228準拠の無鉛ガソリン。	 容量あたりの脂肪酸メチルエステル含有量が10%までの、規格EN 16734 適合ディーゼル燃料。

車両に関する情報

モデル	1.3 TCe	1.6 16V	1.5 dCi
			<div data-bbox="994 157 1064 228" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">XTL</div> <p>容量あたりの脂肪酸メチルエステル含有量が7%までの、規格 EN 15940 適合パラフィンディーゼル燃料。</p>
<p>点火プラグ</p>	<p>エンジンに適合したプラグ以外は使用しないでください。</p> <p>点火プラグのタイプはエンジンルーム内のラベルに表示されています。不明の場合は指定サービス工場にお問い合わせください。</p> <p>不適切な点火プラグを使用すると、エンジンを損傷する恐れがあります。</p>	-	

車両に関する情報

車両寸法 (単位:m)



車両に関する情報

	長さ
<i>A</i>	0,921
<i>B</i>	2,711
<i>C</i>	0,998
<i>D</i>	4,630
<i>E</i>	1.577~1.583
<i>F</i>	1,443 (空車時)
<i>G</i>	1.583~1.587
<i>H</i>	2,058

車両に関する情報

重量 (kg)

表示された重量はオプションの取付部品を含まないベース車両の重量です。重量は車両の装備に応じて変わります正規代理店にお問い合わせください。	
最大許容全備重量 (MMAC) 最大許容軸荷重 (MMTA) 連結総重量 (MTR)	メーカープレートに記載されている重量 → 330
ブレーキ装備被牽引車両の場合の牽引重量 *	計算式: MTR - MMAC
ブレーキ非装備被牽引車両の場合の牽引重量 *	655 kg
許容牽引装置荷重 *	75 kg
ルーフ最大積載重量	→ 279

* けん引重量 (トレーラー、ボートなど)

MTR - MMAC の計算結果がゼロの場合や、メーカー設置のプレートに表示されている MTR がゼロ (または表示されていない) の場合、牽引は禁じられています。

– それぞれの国、地方の道路交通法などの法規が定める最大けん引重量に従ってください。トレーラー連結装置の取付けは、指定サービス工場におまかせください。

– 連結車の場合、**連結総重量 (車両+トレーラー) は絶対に超えてはいけません。**ただし以下は許容されます:

– リアアクスルにおける MMTA の超過が 15% までの場合。

– MMAC の超過が 10% または 100 kg (のどちらか) までの場合。

いずれかに該当する場合は、走行時の最高速度を 100 km/h 以内とし、タイヤ空気圧を 0.2bar 上げる必要があります。

– エンジンの出力や登坂能力は、標高の高い地域に行くほど低下します。標高が 1000 m 増加するごとに、最大積載量を 10% ずつ減らして調整してください。

部品および修理

ルノーの純正部品は非常に厳密に仕様書に基づいて製造され、特殊なテストを受けています。したがって純正部品は、新車に装着されている商品と同等またはそれ以上の品質水準を保っています。

メーカーの純正部品を正しく装着することにより、お車の性能を長く維持することができます。またルノー指定サービス工場
で実施された純正部品を使用しての修理には保証規定が適用されます。

整備証明

VIN:

日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

7

整備証明

VIN:

日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

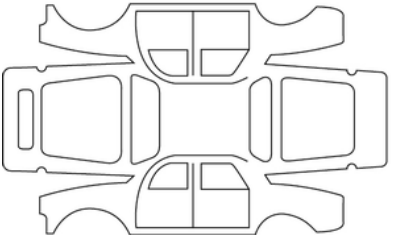
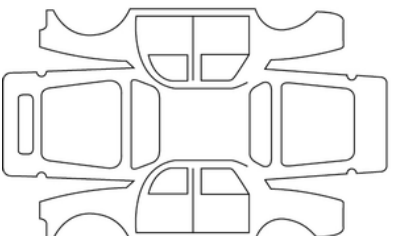
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付:	Km:	請求書 No.:	備考
作業タイプ: 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	スタンプ		
防錆点検: OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

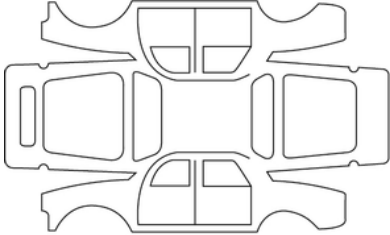
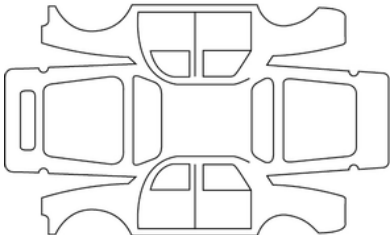
修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

7

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

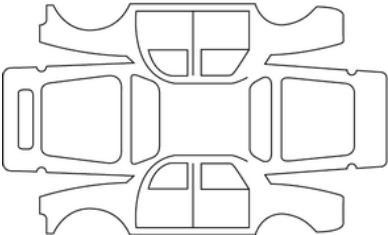
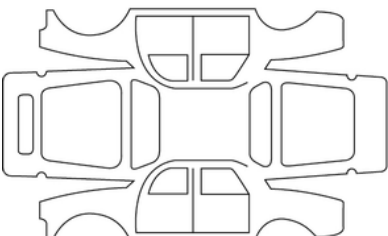
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

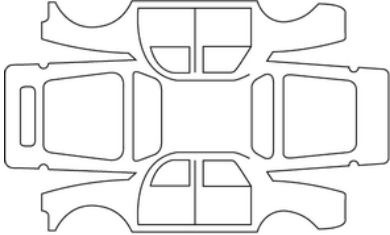
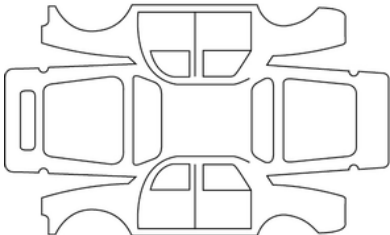
修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

7

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

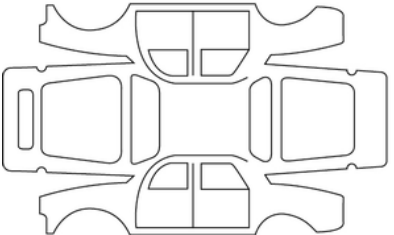
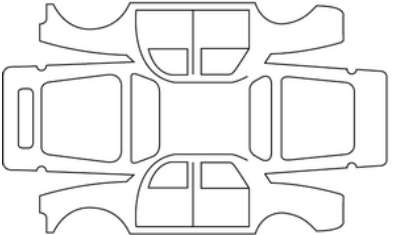
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

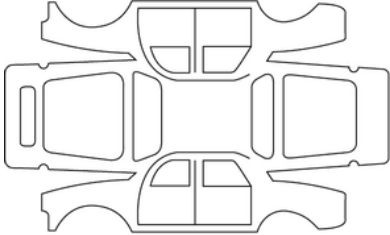
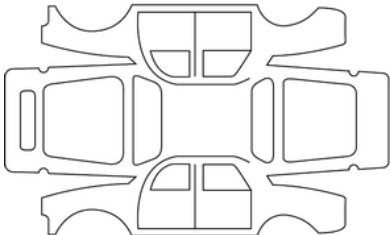
修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

7

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

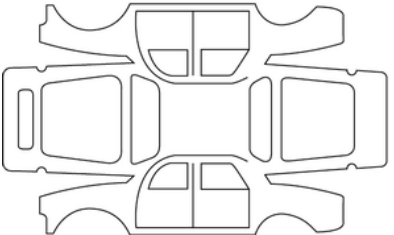
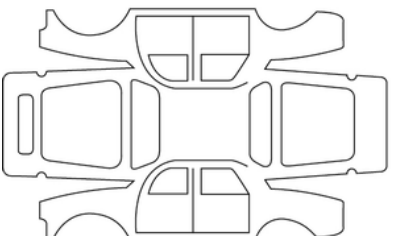
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

7

索引

記号・数字

「ハンズフリー」カード: バッテリー、 [26](#)、 [26](#)

A

ABS、 [159](#)

AdBlue、 [120](#)

Airbag: 助手席エアバッグ無効化、 [76](#)

Airbag: 助手席エアバッグ有効化、 [76](#)

Airbags: チャイルドセーフティー、 [76](#)

E

ECO ドライブ、 [148](#)

ECOモード、 [148](#)

ESC: エレクトロニックスタビリティプログラム、 [159](#)

I

Isofix、 [72](#)

M

My Safety、 [162](#)

R

RENAULT カードの使用、 [26](#)

S

SCR: 選択的触媒還元、 [120](#)

ア

アクセサリ、 [126](#)

アクセサリ電源、 [270](#)、 [270](#)

アシストパーキング、 [224](#)、 [232](#)

アンチロックブレーキシステム: ABS、 [159](#)

アンロック、 [20](#)、 [22](#)、 [34](#)

イ

イグニッションスイッチ、 [125](#)、 [136](#)

インジケータ、 [110](#)、 [311](#)

インジケータ: 方向インジケータ、 [110](#)

インストルメントパネル、 [82](#)、 [90](#)、 [94](#)、 [128](#)、 [136](#)、 [148](#)

インストルメントパネル警告灯、 [82](#)、 [90](#)、 [120](#)、 [128](#)、 [136](#)、 [142](#)、 [148](#)

インストルメントパネル上のメッセージ、 [82](#)、 [128](#)、 [136](#)、 [142](#)

ウ

ウィンドウウォッシャー、 [111](#)、 [115](#)

ウォッシャー／ワイパー、 [115](#)

エ

エアコン: 情報や用法アドバイス、 [258](#)

エアコンディショナー、 [246](#)、 [247](#)、 [248](#)、 [248](#)、 [248](#)、 [252](#)、 [252](#)、 [252](#)、 [255](#)、 [255](#)、 [258](#)、 [258](#)

エアバッグ、 [54](#)、 [54](#)、 [59](#)、 [59](#)、 [68](#)、 [72](#)、 [76](#)、 [76](#)

エアバッグ膨張式クッション、 [54](#)

エコドライブ、 [148](#)

索引

エマージェンシーブレーキアシスト、 187
エレクトロニックスタビリティプログラム:ESC、 159
エンジンオイル、 282、 283
エンジンオイルグレード、 283
エンジンオイルの交換、 283
エンジンオイルレベル:、 282、 282、 283
エンジンオイルレベルゲージ、 282
エンジンオイル容量、 283
エンジンの始動、 125、 125、 125、 125、 126、 126、 128
エンジンの停止、 125、 125、 126、 136
エンジンルームへのアクセス、 281
エンジンをスタンバイにする、 128
エンジン始動 / 停止ボタン、 126

オ

オートマチックトランスミッション (用法)、 133
オートマチックトランスミッションシフトレバー、 133
オート保留、 140
オンボードコンピューター、 82、 82
お子様、 61、 68、 72、 76
お子様 (安全確保)、 264、 266
お子様の運搬、 61、 68、 72
お手入れ: インテリアトリム、 292
お手入れ: フィルター、 285
お手入れ: 機械のお手入れ、 281、 282、 283、 288

カ

カーゴネット、 278、 278

カーテシーランプ、 268、 315
カードキー: スペアカードキー、 20
カードキー: ハンズフリー、 20
カードキー: ハンズフリーモードでエンジン始動不可、 20
カードキー: 開口部のロック / ロック解除、 20
カードキー: 電池、 26
カードキー: 用法、 20、 22
カード電池、 26
ガソリン車特記事項、 144

ギ

ギアチェンジ、 133、 133、 148
キー、 28、 29、 30
キー / リモコン、 28
キー / 電波式リモコン: 用法、 28、 29
キー / 無線リモコン電池、 30
キーの電池交換、 26、 30
キャタライザー、 142、 144

ク

クルーズコントロール、 205
クルーズコントロール-スピードリミッター、 202、 205
グローブボックス、 272
グローブボックスランプ、 268

け

けん引、 307

索引

コ

コントロール警告灯、 [82](#)、 [90](#)

サ

サイドプロテクションシステム、 [59](#)

サンバイザー、 [269](#)

サンルーフ、 [266](#)

サンルーフの開／閉、 [266](#)、 [266](#)

シ

シートベルト、 [49](#)、 [54](#)、 [68](#)、 [72](#)

シートベルトプリテンショナー、 [54](#)、 [54](#)

シートベルト補助拘束装置、 [54](#)、 [59](#)、 [59](#)

シフトコントロール、 [133](#)

シフトレバー、 [133](#)

ジャッキ、 [300](#)、 [304](#)

ス

ステアリングの調整、 [102](#)

ストップアンドスタート、 [117](#)、 [128](#)、 [148](#)

ストップアンドスタート機能、 [128](#)、 [136](#)、 [148](#)

スピードリミッター、 [202](#)

スペアキー、 [20](#)

スペアタイヤ、 [302](#)、 [302](#)

スポットライト、 [268](#)、 [315](#)

セ

セントラルドアロック、 [20](#)、 [22](#)、 [26](#)、 [28](#)、 [30](#)、 [34](#)、 [36](#)

タ

タイヤ、 [294](#)、 [294](#)、 [296](#)

タイヤのパンク、 [302](#)

タイヤの交換、 [304](#)

タイヤ規定空気圧、 [296](#)、 [296](#)、 [300](#)、 [302](#)

タイヤ空気圧モニターシステム、 [296](#)

タイヤ空気圧モニターシステム警告、 [153](#)

タイヤ空気注入、 [296](#)、 [300](#)

タイヤ空気注入キット、 [300](#)、 [302](#)

チ

チャイルドシート、 [61](#)、 [66](#)、 [68](#)、 [72](#)

チャイルドシートの取付け、 [66](#)

チャイルドシート拘束システム、 [61](#)、 [68](#)、 [72](#)

チャイルドシート拘束装置、 [61](#)、 [61](#)、 [68](#)、 [68](#)、 [72](#)、 [72](#)

ツ

ツール、 [300](#)

ツールキット、 [300](#)

デ

ディーゼル車の特記事項、 [142](#)

ディーゼル車特記事項、 [142](#)

ディスプレイ、 [90](#)、 [90](#)

索引

デイトタイムランニングランプ、 [20](#)、 [105](#)
デミスタ／デフロスタ: リアウィンドウ、 [252](#)
デミスタ／デフロスタ: リアビューミラー、 [252](#)

ド

ドア、 [33](#)、 [33](#)、 [36](#)、 [36](#)
ドア / ラゲッジルームドア、 [20](#)、 [22](#)、 [26](#)、 [29](#)、 [34](#)、 [36](#)
ドア / ルームミラー、 [103](#)、 [103](#)
ドアのデッドロック、 [26](#)、 [30](#)
ドアロックリモコンの電池、 [30](#)
ドアをロックする、 [20](#)、 [22](#)、 [26](#)、 [29](#)、 [33](#)、 [34](#)、 [36](#)
ドア開放、 [33](#)、 [33](#)、 [34](#)
ドア閉鎖、 [20](#)、 [22](#)、 [33](#)、 [33](#)、 [34](#)
ドライバー警戒警告、 [195](#)
ドライビングのヒント、 [148](#)、 [148](#)
ドライビングポジション、 [80](#)
ドライビングポジションの調節、 [41](#)、 [43](#)、 [49](#)
トラクションコントロール、 [159](#)
トラクションコントロールシステム:A.S.R.、 [159](#)
トランク、 [20](#)、 [37](#)、 [37](#)、 [276](#)、 [278](#)、 [278](#)
トランクライト、 [268](#)
トランクライトバルブ交換、 [315](#)
トリップコンピューター、 [94](#)、 [163](#)、 [167](#)、 [178](#)、 [183](#)、 [187](#)、
[195](#)、 [198](#)、 [202](#)、 [205](#)、 [210](#)、 [224](#)、 [232](#)、 [237](#)、 [244](#)

ナ

ナビゲーション、 [262](#)
ナビゲーションシステム、 [262](#)

ナビゲーションシの表示画面、 [262](#)
ナビゲーション画面、 [262](#)

ハ

ハザードランプ、 [110](#)
バッグフック、 [276](#)
バッテリー、 [26](#)
バッテリー：、 [288](#)、 [309](#)
バッテリー：故障修理、 [309](#)
バッテリーのお手入れ、 [288](#)
バッテリーの交換、 [288](#)
バッテリー故障時の対処、 [309](#)
バニティミラー、 [269](#)、 [315](#)
バルブの交換、 [311](#)、 [315](#)
バルブ交換、 [311](#)、 [315](#)
パワーウィンドウ、 [264](#)、 [264](#)
バンク、 [300](#)、 [300](#)、 [302](#)、 [302](#)、 [304](#)
バンク: スペアタイヤ、 [302](#)
ハンズフリー、 [37](#)
ハンズフリーカード、 [22](#)
ハンズフリー電話の内蔵スイッチ、 [262](#)
パーキングアシスト、 [94](#)、 [224](#)、 [224](#)、 [232](#)
パーキングアシスト: アシストパーキング、 [224](#)、 [232](#)
パーキングアシスト警告、 [237](#)
パーキングブレーキ、 [136](#)
パーキングブレーキ故障、 [136](#)、 [136](#)

索引

ヒ

ヒーター、 246、 248、 252、 255、 258
ヒーター付きフロントウィンドウ、 248、 252、 255
ヒューズ、 320、 320
ヒルスタートアシスト、 159

フ

フィルタ: パーティキュレートフィルタ、 142
フィルター: オイル、 283
ブラインド、 サンバイザー、 269
ブレーキ、 140
フロントウィンドウ、 248、 252、 255
フロントウィンドウデフロスター／デミスター、 255
フロントウィンドウデミスター、 248
フロントウィンドウのデフロスタ／デミスタ、 248、 252
フロントシート、 40
フロントシートのヘッドレスト、 40
フロントシートの調整、 41、 43、 44
フロントシートベルトプリテンショナー、 54
フロントシートベルト補助拘束装置、 54
フロントシート調整、 41、 43、 44
フロントワイパーブレードの交換、 318
フロント助手席エアバッグの作動、 72、 76
フロント助手席エアバッグの作動解除、 72

ヘ

ヘッドランプ、 311、 311

ヘッドランプバルブ交換、 311
ヘッドレスト、 46

ホ

ホイール (安全機能) 、 294
ホイールキャップレンチ、 300
ホイールレンチ、 300、 304
ホイール交換のための車両持ち上げ、 304
ホーン、 110
ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯、 110、 110
ボンネット、 281
ボンネット開／閉、 281

マ

マップランプ、 268
マルチセンス、 244
マルチメディア (機器) 、 262
マルチメディア画面、 178、 224、 244、 248
マルチメディア装備、 97、 262、 262

モ

モバイルフロア、 276

ラ

ライター、 270、 270
ライト: サイドランプ、 311
ライト: ハイビームヘッドライト、 311

索引

ライト: フォグランプ、 [105](#)、 [311](#)

ライト: ロービームヘッドライト、 [311](#)

ラゲッジルーム (荷室)、 [20](#)、 [28](#)、 [37](#)、 [37](#)

ラゲッジルームへの収納、 [276](#)

ラジオ、 [262](#)

ランプ: ハザード警告灯、 [110](#)

ランプ: 外部、 [105](#)、 [110](#)

ランプ: 方向指示灯、 [110](#)、 [311](#)

ランプ類、 [105](#)、 [110](#)

リ

リアウィンドウデフロスター、 [248](#)

リアウィンドウデミスター、 [248](#)

リアウィンドウのデフロスタ/デミスタ、 [252](#)、 [255](#)

リアシートのヘッドレスト、 [46](#)

リアシートの機能、 [47](#)

リアシートの取り扱い方法、 [47](#)

リアシートベルト補助拘束装置、 [59](#)、 [59](#)

リアのトーコントロール、 [159](#)

リバース (後退) にシフトするとき、 [133](#)、 [133](#)、 [237](#)

リモートコントロール、 [22](#)

リモコン/キー: 電池、 [30](#)

リモコンの電池、 [30](#)

ル

ルーフキャリア、 [279](#)、 [280](#)

ルーフバーラック、 [280](#)

ルームランプ、 [268](#)、 [268](#)

ルームランプ: バルブ交換、 [315](#)、 [315](#)

レ

レベル:、 [281](#)、 [285](#)、 [285](#)

レベル: エンジンオイル、 [283](#)

ロ

ロック、 [49](#)

ロックリモコン、 [28](#)、 [29](#)

ワ

ワイパー、 [111](#)、 [111](#)、 [111](#)、 [115](#)、 [115](#)

ワイパー/ウォッシャー、 [111](#)

ワイパーブレード、 [115](#)、 [318](#)、 [318](#)

ワイパーブレード: 交換、 [318](#)

安

安全車間距離、 [183](#)

運

運転支援、 [159](#)、 [163](#)、 [167](#)、 [178](#)、 [183](#)、 [187](#)、 [198](#)、 [202](#)、 [205](#)

、 [210](#)、 [224](#)、 [232](#)、 [237](#)、 [244](#)

運転支援アダプティブクルーズコントロール、 [210](#)

運転席の設定、 [49](#)、 [102](#)

運搬物カーゴネット、 [278](#)

索引

横

横滑り防止機能、 [159](#)

温

温度調節、 [248](#)、[252](#)、[255](#)、[258](#)

灰

灰皿、 [270](#)、[270](#)

開

開／閉: ドア、 [22](#)

開／閉: ボンネット、 [281](#)

開口部、 [33](#)、[36](#)

開口部／ドアコントロール、 [22](#)

開閉部のロック、ロック解除: ドア、 [34](#)

外

外気温度、 [97](#)

外気品質、 [260](#)

慣

慣らし運転、 [124](#)

換

換気、 [247](#)、[247](#)、[248](#)、[252](#)、[255](#)、[258](#)

換気装置、 [246](#)、[247](#)

給

給油、 [117](#)

緊

緊急ブレーキ、 [159](#)、[187](#)

緊急時ブレーキアシスト、 [159](#)

警

警告ブザー、 [110](#)

警告灯、 [178](#)

牽

牽引: 車両故障時の対処、 [307](#)

牽引リング、 [300](#)、[307](#)

固

固定リング、 [276](#)、[278](#)

故

故障修理: バッテリー、 [309](#)

故障修理: 車両牽引、 [307](#)

後

後進レーダー、 [224](#)、[237](#)

後席、 [46](#)

索引

交

交換バルブ、 [311](#)、 [315](#)

構

構成メニュー、 [94](#)

構成メニューの設定、 [94](#)

作

作動、 [133](#)

作動異常、 [82](#)、 [126](#)、 [142](#)、 [142](#)、 [144](#)、 [144](#)、 [159](#)、 [159](#)

作動不良: カードキーの電池、 [20](#)

使

使用時の注意、 [111](#)

子

子供を乗車させるとき、 [61](#)、 [61](#)、 [68](#)、 [72](#)、 [76](#)、 [264](#)、 [266](#)

死

死角: 警告、 [178](#)

死角の警告、 [178](#)

試

試薬 (タンク) 、 [120](#)

試薬タンク、 [120](#)

試薬タンクキャップ、 [120](#)

試薬タンク容量、 [120](#)、 [120](#)

試薬充填、 [120](#)

試薬等級、 [120](#)

時

時計、 [97](#)、 [97](#)

車

車線維持: 支援、 [167](#)

車線維持機能、 [167](#)

車線離脱警報、 [163](#)、 [167](#)

車速感応式オートドアロック、 [36](#)

車内への乗り込み、 [22](#)

車両カスタマイズ設定、 [94](#)

車両のイグニッションスイッチを ON にする、 [125](#)

車両の検出、 [187](#)、 [237](#)

車両故障時の対処の仕方、 [307](#)

車両設定カスタマイズ、 [94](#)

車両調整のパーソナリゼーションメニュー、 [82](#)、 [94](#)

取

取付け部品、 [272](#)

収

収納スペース／取付け部品: 車内、 [272](#)

助

助手席エアバッグの無効化、 [76](#)

索引

助手席エアバッグ作動解除、 [76](#)

消

消臭、 [260](#)

消費電力、 [90](#)

照

照明: 車内、 [315](#)

省

省燃料、 [148](#)

乗

乗員安全確保: 助手席airbag、 [76](#)

制

制御、 [202](#)、 [205](#)、 [210](#)

清

清掃: 車内、 [292](#)

積

積載フック、 [276](#)、 [278](#)

設

設定、 [94](#)

側

側面衝突保護補助拘束装置、 [59](#)

速

速度超過警告、 [198](#)、 [202](#)

大

大型収納、 [272](#)、 [276](#)

地

地球にやさしい車づくり、 [146](#)

注

注意、 [110](#)

適

適応クルーズコントロール、 [210](#)

適切な車間距離アラート、 [183](#)

添

添加剤（試薬）、 [120](#)

点

点検ツール、 [82](#)、 [90](#)、 [97](#)

点検整備、 [147](#)

索引

電

電池（リモコン）、[30](#)、[30](#)

電動パーキングブレーキ、[136](#)、[136](#)、[140](#)

電話、[262](#)

灯

灯火類、[105](#)、[110](#)

灯火類: インストルメントパネル、[105](#)

灯火類: バルブ交換、[311](#)

道

道路標識の検出: 速度超過警告、[198](#)

内

内装のお手入れ、[292](#)

燃

燃費、[148](#)、[148](#)

燃料タンクキャップ、[117](#)

燃料タンク容量、[117](#)、[117](#)

燃料の品質について、[117](#)

燃料プライミング、[117](#)、[142](#)

燃料レベル、[117](#)

燃料消費量の低減に役立つヒント、[148](#)

排

排出ガスコントロールデバイス、[147](#)、[147](#)

発

発進する、[124](#)、[125](#)、[126](#)、[133](#)、[136](#)、[140](#)、[142](#)、[144](#)、[148](#)、[159](#)、[163](#)、[167](#)、[178](#)、[183](#)、[187](#)、[202](#)、[205](#)、[210](#)、[224](#)、[232](#)、[237](#)、[244](#)

非

非常用スペアタイヤのパンク、[302](#)

部

部品および修理部品、[339](#)

歩

歩行者検出、[187](#)

補

補助拘束装置、[54](#)



7799001382

